1．引間松葉遺跡Ⅲ区の概要

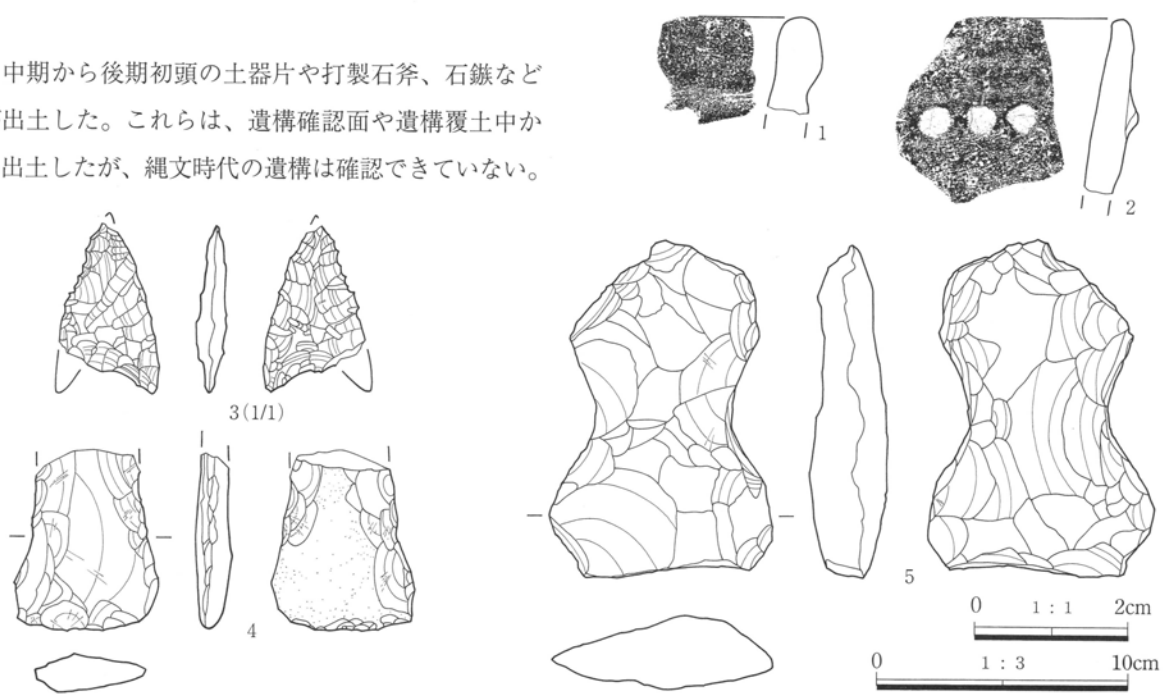
現県道足門前橋線沿いの調査区であったため、上面は削平を受けている箇所もあり、塚田村東Ⅳ遺跡のような複数にわたる面調査は行えなかった。やはり奈良・平安時代が主体であり、住居跡27軒などを検出した。時期は6世紀後半から11世紀に至り幅広い。しかし、国分寺創立時期に関わる8世紀中葉から9世紀前半の住居跡は少なく、その前後の時期が多い。

また、近代の土坑1基を除くと中世・近世と明瞭に確認できた遺構は検出されていない。上面には削平の影響があると考えられる。

2．引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物

（1）縄文時代の遺物（第177図、遺物PL.61）

中期から後期初頭の土器片や打製石斧、石鏃などが出土した。これらは、遺構確認面や遺構覆土中から出土したが、縄文時代の遺構は確認できていない。



第177図　縄文時代出土遺物

縄文時代遺物　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第177図1 PL. 61	縄文土器 深鉢	1住覆土 口破片	口 － 底 － 厚 1.8	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 明赤褐	肥厚する口縁部	加曽利E３式
第177図2 PL. 61	縄文土器 深鉢	3溝覆土 口破片	口 － 底 － 厚 1.4	胎 粗砂粒やや多 白色・赤色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁下に連続する押圧隆帯が巡る	称名寺式

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第177図3 PL. 61	石器 石鏃	70土坑覆土 欠損あり	(2.2)	(1.3)	0.4	チャート	凹基無茎の石鏃、先端部と左側の基部は欠損している
第177図4 PL. 61	石器 打製石斧	70土坑覆土 欠損あり	(7.0)	5.6	1.5	硬質泥流	撥形か、裏側に自然面を残す。基部は欠損
第177図5 PL. 61	石器 打製石斧	64土坑覆土 刃部欠損	(13.3)	(8.7)	2.9	砂岩	両側面から抉りがはいる。自然面を一部に残し、刃部は欠損している

（２）　竪穴住居

１号住居跡（第178・179図、遺構PL.55、遺物PL.61）

位置：Fb～Fd－45～46

長軸方位：N－75°－E

規模・形状：本住居跡南東部は試掘による影響を受けているため、一部明らかにできなかったところもある。3.3m×2.62mの隅丸長方形を呈する。床面積は5.94m²で、壁の高さは0.3mである。

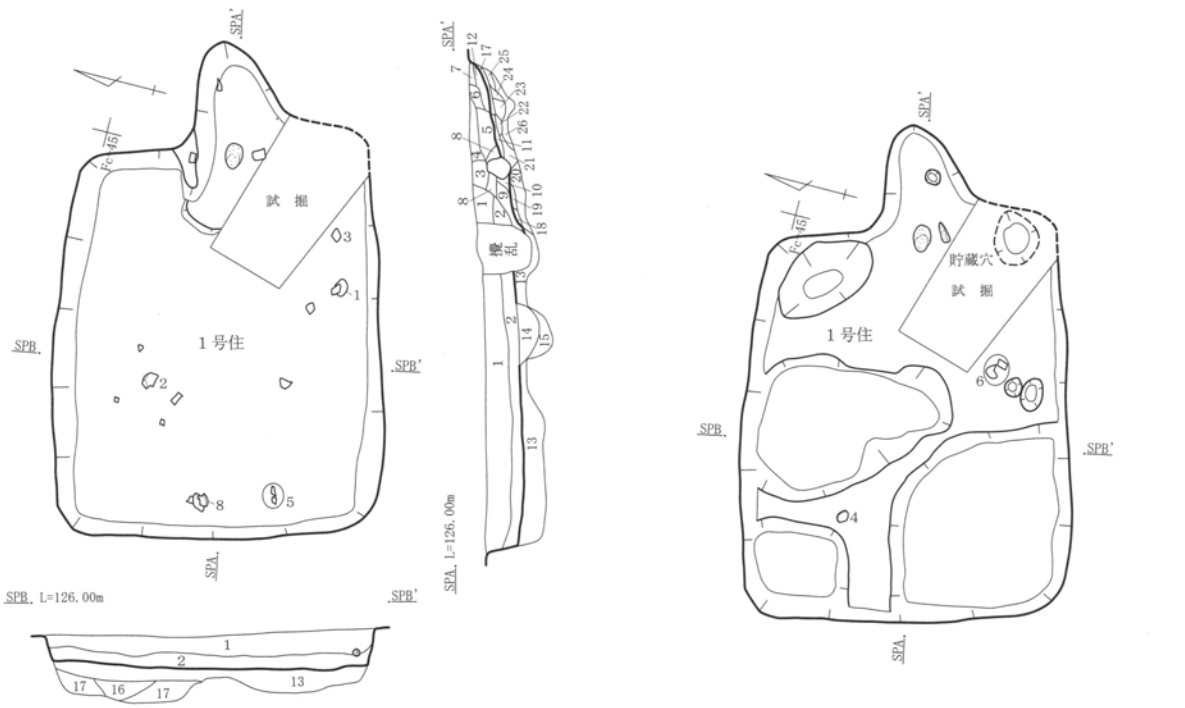
カマド：東壁中央よりわずかに南側に構築されていた。燃焼部の幅は不明で、張り出しは壁から1.24mであった。火床から支脚として使われた可能性がある礫が出土している。

内部施設：壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵穴は試掘坑の下から検出した。残存している大きさ0.44m×0.36mで、深度0.09mであった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器坏（№１）、土師器小型甕（№８）は床面直上より出土した。土師器坏（№４、６）は掘り方土からの出土であった。

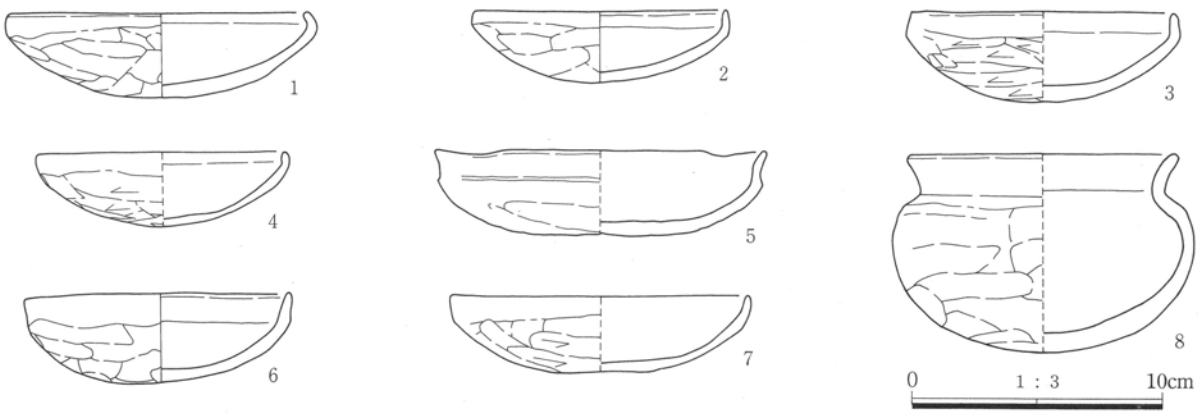
その他：出土している土師器坏や甕より、本住居跡の時期は８世紀前葉と判断される。



１号住居跡
１．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒少含
２．暗褐色土　As－C・ロームブロック・焼土粒少含
３．暗褐色土　ロームブロック多含、締まり強
４．暗褐色土　焼土粒やや多、As－C・ロームブロック少含
５．暗褐色土　As－C・焼土粒やや多含
６．暗褐色土　As－C・焼土粒少含
７．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒少含
８．暗褐色土　焼土粒・灰少含、粘性弱
９．暗褐色土　焼土粒やや多、ロームブロック少含
10．暗褐色土　焼土粒・灰やや多、ロームブロック少含
11．暗褐色土　灰やや多、焼土粒少含、粘性弱
12．暗褐色土　灰・焼土粒やや多含、粘性弱
13．暗褐色土　ロームブロックやや多含、床土、締まり強
14．暗褐色土　ロームブロック少含、締まり弱
15．暗褐色土　ロームブロックやや多含
16．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含
17．暗褐色土　ロームブロック多含
18．暗褐色土　ロームブロック多、焼土粒・灰やや多含
19．暗褐色土　焼土粒・灰多含、締まり弱
20．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多含
21．暗褐色土　焼土粒・ローム粒・灰・炭化物少含
22．暗褐色土　焼土粒・As－C・ローム粒少含
23．暗褐色土　焼土粒・灰やや多、As－C・ローム少含、粘性弱
24．暗褐色土　焼土粒・As－C少含
25．暗褐色土　焼土粒やや多含
26．暗褐色土　焼土粒・As－C・ローム粒少含

0　1:60　1m

第178図　１号住居跡



第179図　1号住居跡出土遺物

1号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第179図1 PL. 61	土師器 坏	床直上 ほぼ完	口 (11.9) 底 － 高 3.4	胎 細砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部強く内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第179図2 PL. 61	土師器 坏	覆土 口～底7/8	口 10.2 底 － 高 2.9	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第179図3 PL. 61	土師器 坏	覆土 口～底1/3	口 (10.3) 底 － 高 (3.6)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい黄褐	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第179図4 PL. 61	土師器 坏	掘り方 口～底1/2	口 (10.0) 底 － 高 3.0	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部やや内湾 外面：口縁部横ナデ、底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第179図5 PL. 61	土師器 坏	覆土 口～底1/5	口 (13.0) 底 － 高 3.3	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部外反する 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第179図6 PL. 61	土師器 坏	掘り方 口～底1/2	口 10.6 底 － 高 3.6	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい橙	口縁部弱く外反する 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第179図7 PL. 61	土師器 坏	覆土 口～底1/8	口 (12.0) 底 － 高 3.0	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 明赤褐	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第179図8 PL. 61	土師器 小型甕	床直上 口～底2/3	口 (10.7) 底 － 高 7.8	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	

2号住居跡（第180図、遺構PL.55、遺物PL.61）

位置：Fc～Fe－44～46

長軸方位：N－7°－E

規模・形状：本住居跡の北東部は、攪乱による影響を床面まで受けているところがある。2.85m×2.70mの隅丸正方形に近いが、北壁が長く延びており、台形を呈する。床面積は6.47㎡で、壁の高さは0.24mである。北西角には、本住居跡より古い倒木痕があり、掘り方の様相は明らかにできなかった。

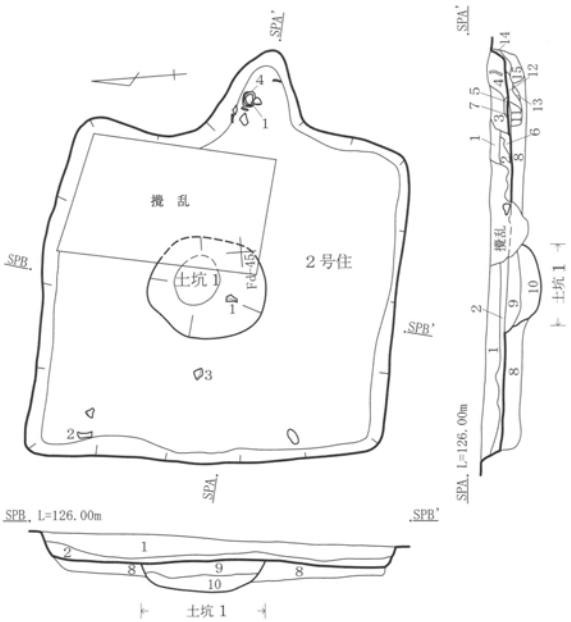
カマド：東壁のほぼ中央に検出された。燃焼部の幅は0.8m、張り出しは0.8mであった。

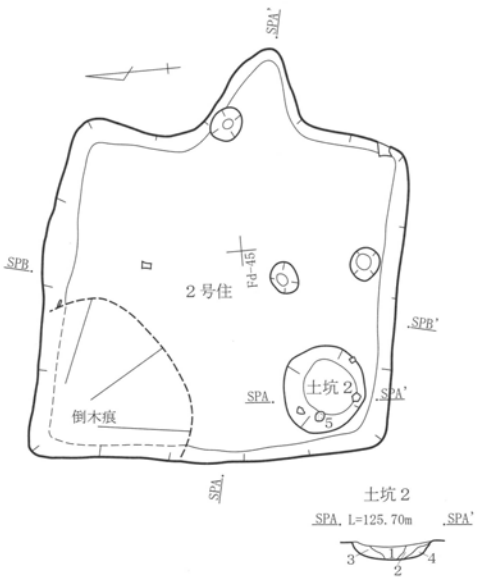
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。本住居跡中央部やや北寄りに床面から掘り込みがある土坑を1基検出した（土坑1）。また、南西角近くで、床下に土坑状の落ち込みを検出した（土坑2）。土坑1は大きさ0.93m×0.74mで深度0.24m、土坑2は0.7m×0.66mで、深度0.15mであった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（№1）はカマド火床から土坑1にかけて、須恵器埦（№4）は火床より出土した。薦編石（№5）は掘り方土からの出土である。

その他：出土した土師器甕より、本住居跡の時期は9世紀第3四半期と判断される。

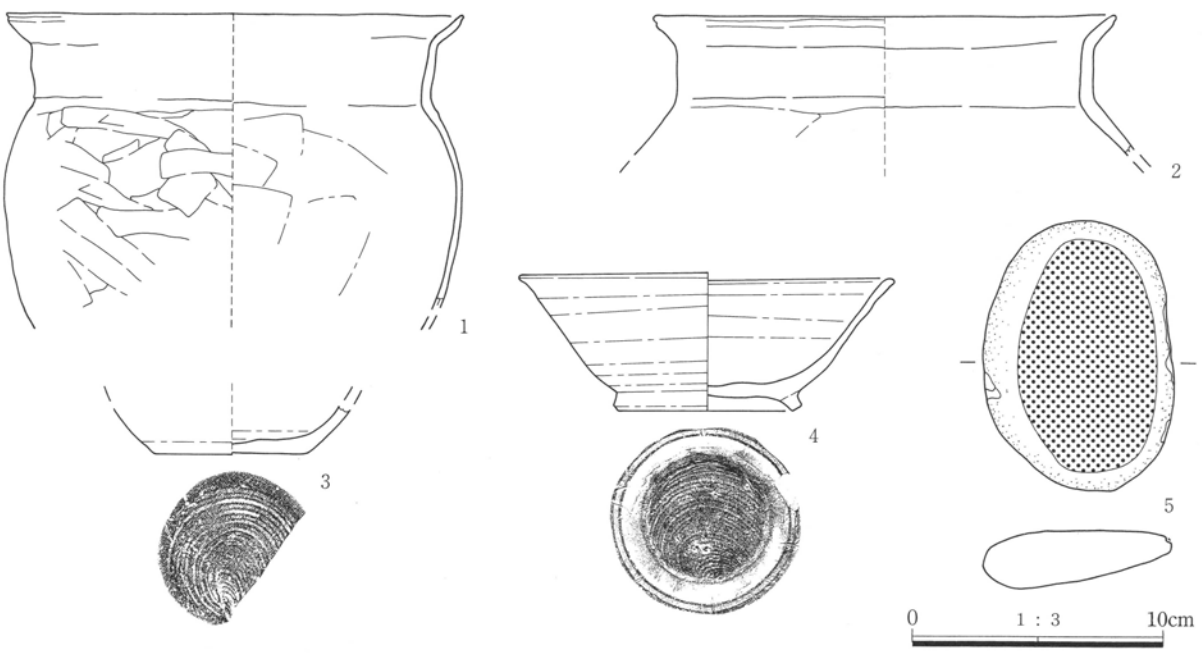




２号住居跡
1．暗褐色土　As－Ｃやや多、焼土粒・砂質ブロック少含
2．暗褐色土　１層と同様だがAs－Ｃ少含
3．暗褐色土　As－Ｃ・焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
4．暗褐色土　焼土粒やや多、ロームブロック・炭化物少含
5．暗褐色土　ロームブロック多、焼土粒少含、締まり強
6．暗褐色土　焼土粒やや多、As－Ｃ少含
7．暗褐色土　焼土粒・灰多含、粘性弱
8．暗褐色土　As－Ｃ・ロームブロック・焼土粒少含、床土、締まり強
9．暗褐色土　As－Ｃ・ロームブロック少含
10．暗褐色土　ロームブロック多含
11．暗褐色土　焼土粒少、灰多含、粘性弱
12．暗褐色土　焼土粒・灰やや多含、粘性弱
13．暗褐色土　焼土粒・灰少含、粘性弱
14．暗褐色土　焼土粒・As－Ｃ少含、粘性弱
15．暗褐色土　ロームブロック少含

土坑２
1．暗褐色土　ロームブロック多、焼土粒少含
2．暗褐色土　ロームブロック少含
3．暗褐色土　焼土粒・炭化物多、ロームブロック少含
4．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含

0　1:60　1m



第180図　２号住居跡、出土遺物

2号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第180図1 PL. 61	土師器 甕	カマド・土坑1 口～体1/8	口　(18.0) 底　－ 高　(12.3)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい褐	外面：口縁部横ナデ、口唇部1条の沈線が巡る、体部ヘラ削り　内面：ヘラナデ	
第180図2 PL. 61	土師器 甕	覆土 口～体上1/6	口　(18.4) 底　－ 高　(5.8)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　赤褐	外面：口縁部横ナデ、口唇部1条の沈線が巡る、体部ヘラ削り　内面：横ヘラナデ	
第180図3 PL. 61	須恵器 坏	覆土 体～底2/3	口　－ 底　(6.0) 高　(1.9)	胎　細砂粒やや多　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰黄褐	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第180図4 PL. 61	須恵器 埦	カマド ほぼ完	口　14.8 底　7.4 高　5.5	胎　φ3mm小礫　粗砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤成形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第180図5 PL. 61	石製品 鷹編石か	土坑2 ほぼ完	10.6	7.5	2.3	粗粒輝石安山岩	平坦面は擦られている

3号住居跡（第181・182図、遺構PL.55、遺物PL.61・62）

位置：Fd～Fe－43～45

東壁方位：N－23°－E

規模・形状：本住居跡は、調査区域外にまで広がることや、他の遺構によって切られているため、ごくわずかしか残存せず、全容は伺えない。検出部で南北1.8m×東西1.0mで、隅丸方形状であろう。壁の高さは0.15mである。

カマド：検出されていない。

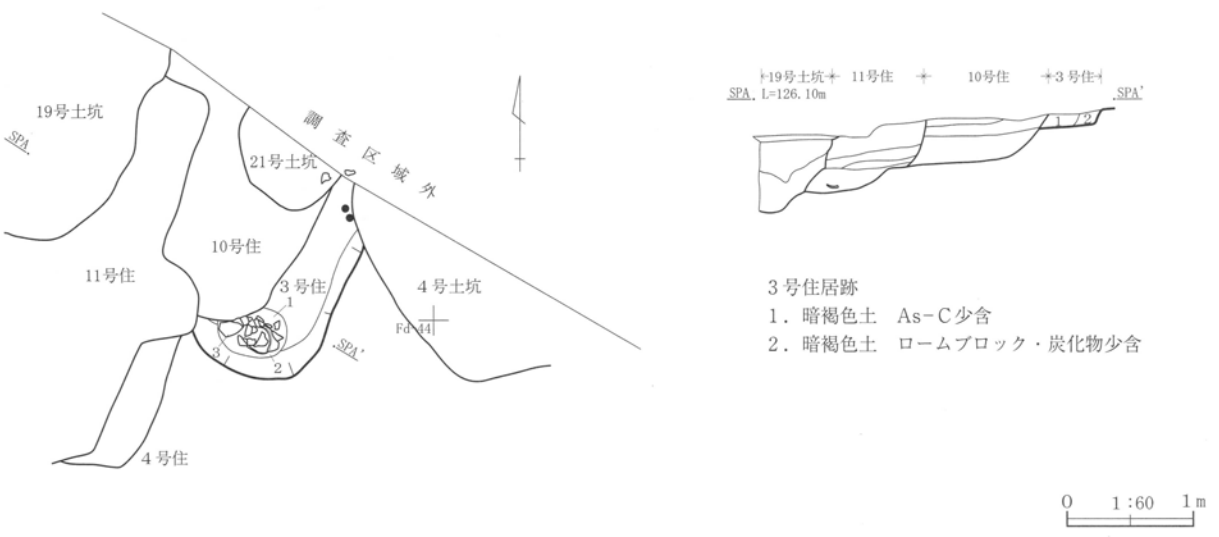
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：わずかしか検出していないが、残存部では締まりはあまり強くない。

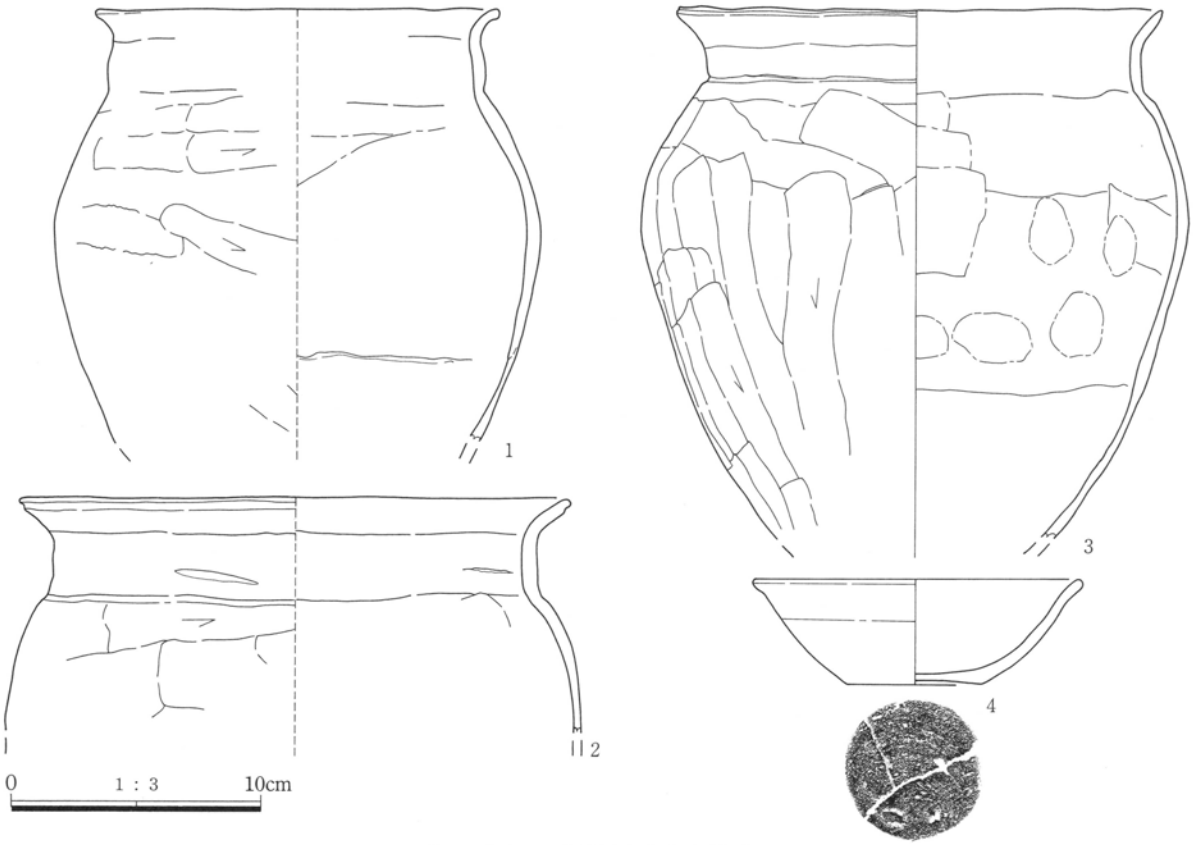
出土遺物：南東角の床面直上より土師器甕（№1、2、3）がまとまって出土した。

重複遺構：本住居跡は東壁南部と南東角付近の一部を除いたほとんどで重複している。西側は北から順に、21号土坑、10号住居跡、11号住居跡と重複し、東壁北側は4号土坑と重複する。新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土した土師器甕から、本住居跡の時期は9世紀第3四半期と判断される。



第181図　3号住居跡



第182図　３号住居跡出土遺物

３号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第182図１ PL. 61	土師器 甕	床直上 口～体1/8	口　(16.0) 底　－ 高　(19.0)	胎　細砂粒少　白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ　体部ヘラ削り　内面：横ナデ、体部に輪積痕残る	
第182図２ PL. 61	土師器 甕	床直上 口～体上1/4	口　(21.6) 底　－ 高　(9.1)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい褐	外面：口縁部横ナデ、口唇部に１条の沈線が巡る、体部ヘラ削り　内面：ヘラナデ	
第182図３ PL. 62	土師器 甕	床直上 口～体2/3	口　19.2 底　－ 高　(21.0)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい褐	外面：口縁部横ナデ・口唇部に１条の沈線が巡る、体部ヘラ削り　内面：ヘラナデ	
第182図４ PL. 61	須恵器 坏	覆土 体～底3/4	口　13.0 底　5.2 高　4.2	胎　細砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形（右回転）口縁部外反する　底部：回転糸切り	細かく割れた状態で出土

４号住居跡（第183図、遺構PL.55、遺物PL.61）

位置：Fd～Fe－44～45

長軸方位：N－16°30′－E

規模・形状：本住居跡のほとんどは11号住居跡によりきられているため、様相は明らかでない。検出部で、南北1.1m×東西0.4m、壁の高さは0.27mである。

カマド：検出されていない。

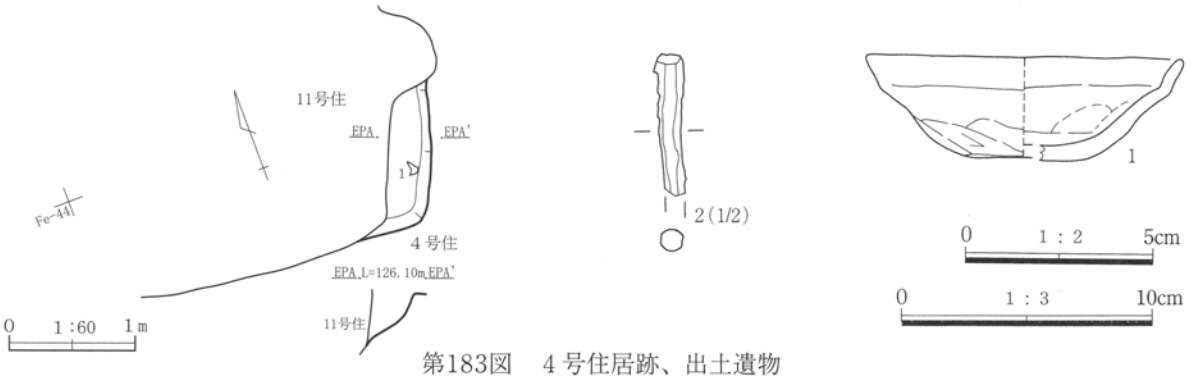
内部施設：不明

出土遺物：土師器坏（№１）は床面直上からの出土である。

床面：わずかしか検出していないが、残存部では締まりはあまり強くない。

重複遺構：本住居跡は、東壁南部から南東角付近を除いたほとんどで、11号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土した土師器坏から９世紀前半と判断される。



第183図　4号住居跡、出土遺物

4号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第183図1 PL. 61	土師器 坏	床直上 口～底1/5	口　(12.4) 底　(4.8) 高　4.0	胎　砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　褐	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ、指頭圧痕	

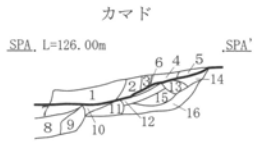
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第183図2 PL. 61	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(3.8)	0.8	0.6	3	腐食激しく形状は不明瞭

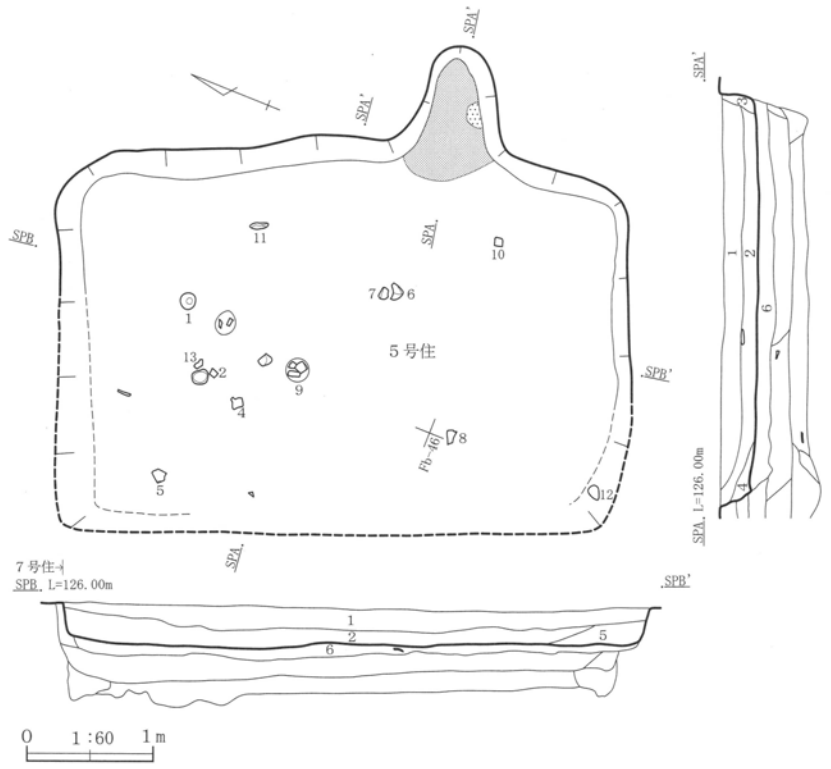
5号住居跡（第184・185図、遺構PL.55、遺物PL.61・62）

位置：Fa～Fc－45～47

長軸方位：N－22°－W

規模・形状：本住居跡は重複が激しく、不明瞭なところもある。規模は4.55m×3.15mで、隅丸長方形を呈すると考えられる。床面積は不明だが、11m²を超えるだろう。壁の高さは0.3mである。





カマド

1．暗褐色土　As－C・焼土粒・ロームブロックやや多含
2．暗褐色土　As－C・焼土粒・ロームブロック少含
3．暗褐色土　As－C・焼土粒・灰少含
4．暗褐色土　灰やや多、As－C・焼土粒少含
5．暗褐色土　焼土粒・灰・炭化物やや多含
6．暗褐色土　灰多、焼土粒少含
7．暗褐色土　ローム粒・As－C・焼土粒・炭化物少含、締まり強
8．暗褐色土　ロームブロック少含
9．暗褐色土　ロームブロック多、焼土粒少含
10．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
11．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒少含
12．暗褐色土　灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含
13．暗褐色土　灰・焼土粒やや多含
14．暗褐色土　灰やや多、焼土粒少含
15．暗褐色土　灰・焼土粒・ロームブロック少含
16．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含

第184図　5号住居跡

カマド：東壁中央より南側に構築されていた。燃焼部の幅は0.9m、張り出しは壁から0.95mであった。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

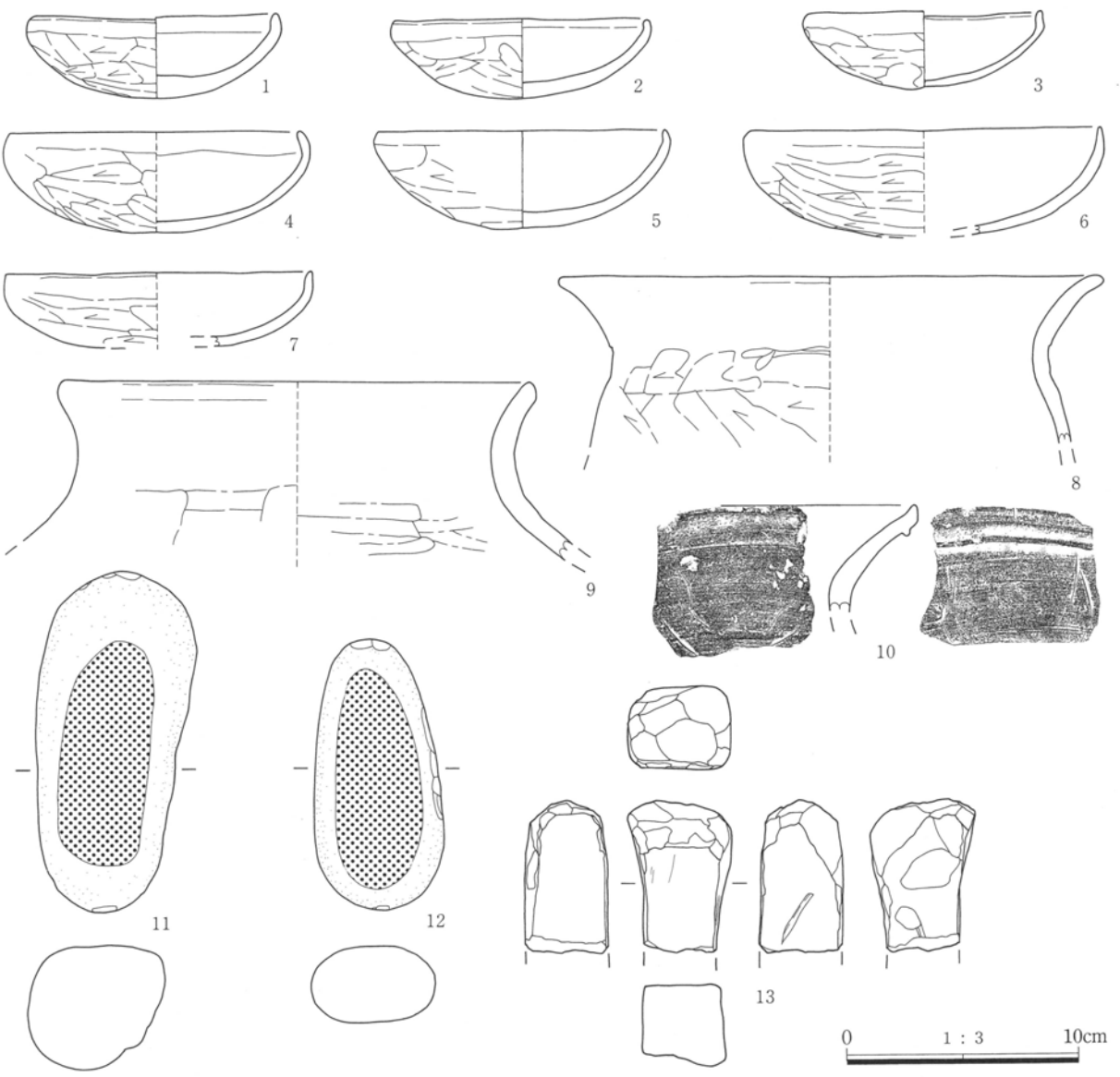
床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器坏（№１、２）は床面直上から出土した。土師器坏（№４、５、６、７）、土師器甕（№８）、須恵器甕（№10）、砥石（№13）は床下の土層からの出土で、掘り方土か土坑に相当するだろう。

重複遺構：本住居跡の西側で６号住居跡と、下面で７号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

５号住居跡
１．暗褐色土　As－Cやや多、炭化物・焼土粒少含
２．暗褐色土　As－C・焼土粒少含
３．暗褐色土　暗褐粘質土ブロック・As－C少含
４．暗褐色土　As－C・炭化物・焼土粒少含
５．暗褐色土　As－C・焼土粒・ロームブロック少含
６．暗褐色土　ローム粒・As－C・焼土粒少含、床土、締まり強

その他：後述する６、７号住居跡と位置が重なり、時期も近いことから、建て替えなどの関連が伺える。出土した土師器坏、甕から７世紀末～８世紀初頭と判断される。



第185図　５号住居跡出土遺物

5号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第185図1 PL. 61	土師器 坏	床直上 ほぼ完	口 10.6 底 － 高 3.6	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第185図2 PL. 61	土師器 坏	床直上 口～底3/4	口 11.0 底 － 高 3.5	胎 φ4mm小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第185図3 PL. 61	土師器 坏	覆土 口～底7/8	口 10.1 底 － 高 3.3	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい橙	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第185図4 PL. 62	土師器 坏	掘り方か 口～底1/3	口 (12.5) 底 － 高 4.2	胎 細砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 明赤褐	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第185図5 PL. 62	土師器 坏	掘り方か 口～底7/8	口 12.4 底 － 高 4.2	胎 φ4mm小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第185図6 PL. 62	土師器 坏	掘り方か 口～底1/3	口 (15.3) 底 － 高 (4.6)	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部やや内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第185図7 PL. 62	土師器 坏	掘り方か 口～底1/6	口 (13.2) 底 － 高 (3.2)	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部やや内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第185図8 PL. 62	土師器 甕	掘り方か 口～底1/6	口 (23.4) 底 － 高 (7.2)	胎 粗砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 明赤褐	外面：口縁部横ナデ、ヘラ痕残る、体部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第185図9 PL. 62	土師器 甕	覆土 口～体上1/8	口 (20.4) 底 － 高 (7.5)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい褐	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：横ヘラナデ	
第185図10 PL. 62	須恵器 甕	掘り方か 口破片	口 － 底 － 高 －	胎 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	口縁部は折り返し 内外面横ナデ	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第185図11 PL. 62	石製品 薦編石か	床直上 ほぼ完	14.5	6.6	5.3	粗粒輝石安山岩	先端部に敲打痕、平坦面は擦られている
第185図12 PL. 62	石製品 薦編石か	床直上 ほぼ完	11.5	5.5	3.3	ひん岩	側縁部に敲打痕、平坦面は擦られている
第185図13 PL. 62	石製品 砥石	掘り方か 欠損あり	(6.5)	4.4	3.5	砥沢石	先端部を除き、4面が使用面 溝状の切り込みが入る

6号住居跡（第186図、遺構PL.55、遺物PL.62・63）

位置：Fb～Fc－45～47

西壁方位：N－12°－W

規模・形状：本住居跡は重複により、全容は明らかにできなかった。規模は検出部で南北4.8m×東西2.6mあり、形状は方形が想定される。壁の高さは0.3mである。

カマド：西壁の北寄りに構築されていた。燃焼部の幅は0.54m、張り出しは壁から0.74mであった。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

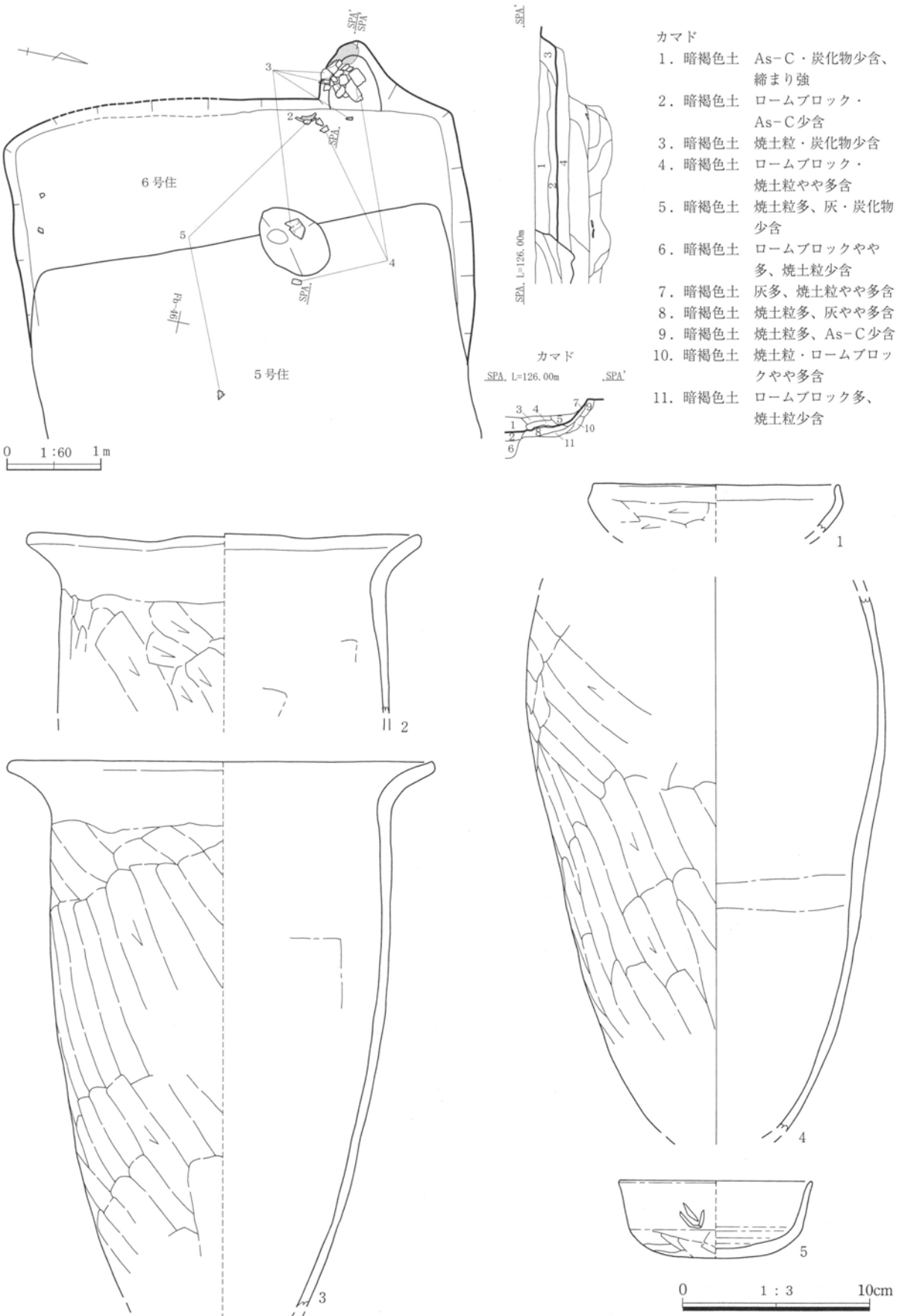
床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（№2）は床面直上から出土した。須恵器坏（№5）は床面から掘り方土にかけて出土した。カマドから床面や掘り方土にかけて、土師器甕（№3、4）が出土した。

重複遺構：本住居跡の東側で5号住居跡と、下面で7号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡は5号住居跡より古く、7号住居跡より新しいと判断される。

その他：重複により、住居跡の範囲や出土遺物の帰属には不明瞭な点もある。出土遺物や重複関係より、本住居跡の時期は7世紀末と考える。

6号住居跡
1．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒少含、締まり弱
2．暗褐色土　As－C・焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
3．暗褐色土　As－C・焼土粒・やや多含
4．暗褐色土　As－C少含、床土、締まり強



第186図　６号住居跡、出土遺物

6号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第186図 1 PL. 62	土師器 坏	覆土 口～体1/8	口 (13.0) 底 － 高 (3.9)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい赤褐	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第186図 2 PL. 62	土師器 甕	床面上 口～体上1/4	口 (20.6) 底 － 高 (9.7)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：ナデ	
第186図 3 PL. 63	土師器 甕	カマド 口～体1/3	口 (22.7) 底 － 高 (28.7)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第186図 4 PL. 63	土師器 甕	カマド 体7/8	口 － 底 － 高 (28.0)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい橙	外面：ヘラ削り 内面：横ヘラナデ	
第186図 5 PL. 62	須恵器 坏	掘り方 口～底1/2	口 (10.2) 底 － 高 4.1	胎 細砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 外面：体部下～底部ヘラ削り、体部に工具痕	

7号住居跡（第187～189図、遺構PL.55、遺物PL.62・63）

位置：Fa～Fc－45～47

長軸方位：N－73°－E

規模・形状：本住居跡は5・6号住居跡の下にあるため、上面を中心として不明瞭なところもある。残存部で4.33m×4.25mあり、ほぼ隅丸正方形を呈する。床面積は検出部で17.2m²、壁の高さは0.55mである。

カマド：西壁中央より南に構築されていた。袖などは6号住居跡によって切り取られている可能性がある。検出部で燃焼部の幅は0.75m、張り出しは壁から1.2mであった。

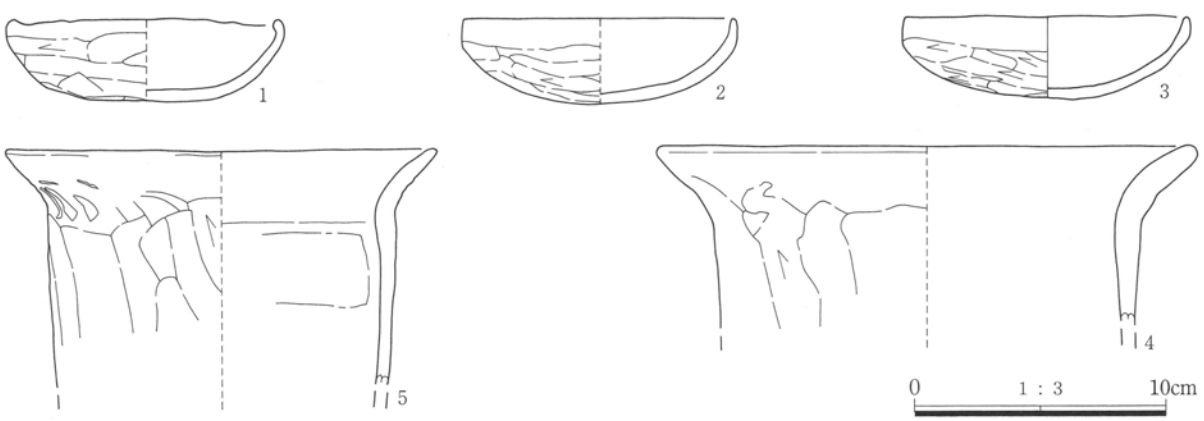
内部施設：壁溝が住居を1周するように掘られていた。貯蔵穴は南西角にあり、0.74m×0.57m、深度は0.25mであった。ピットは検出できなかった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

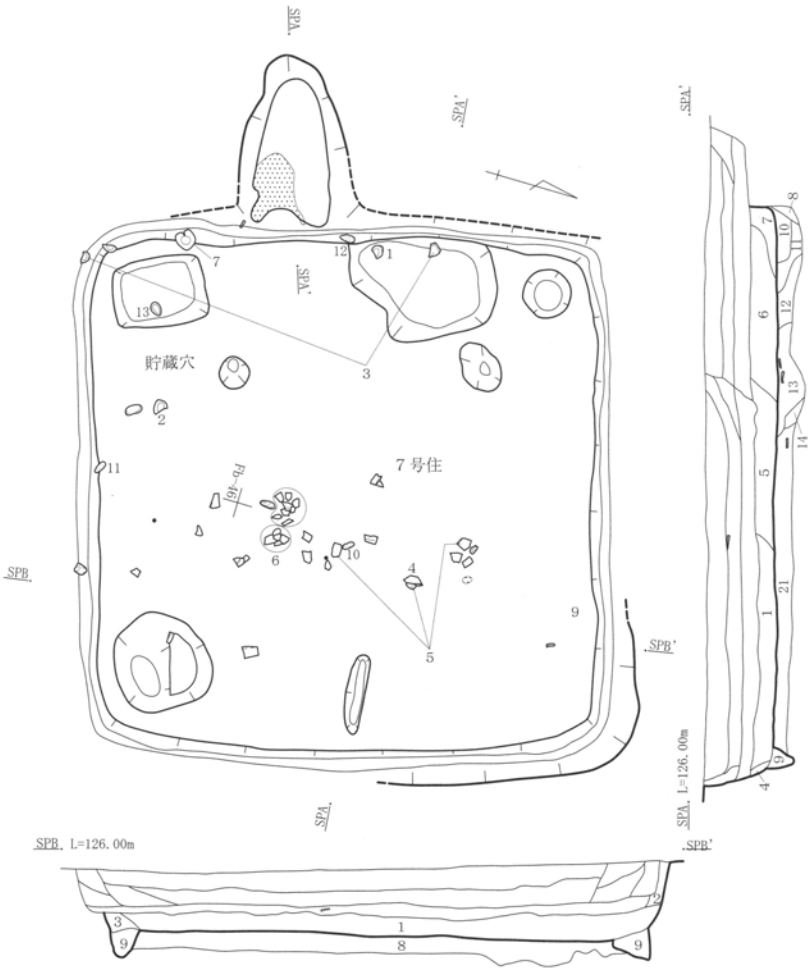
出土遺物：土師器坏（№1、2）、土師器甕（№6）、土師器小型甕（№7）、砥石（№10）、薦編石（№11、12）は床面直上からの出土であった。また、貯蔵穴からの出土には薦編石（№13）があった。

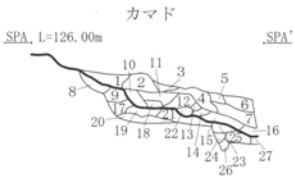
重複遺構：本住居跡の上面には5・6号住居跡が存在する。新旧関係は、遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡がもっとも古いと判断される。

その他：5・6・7号住居跡は位置がほぼ重なり、時期も近接している。出土遺物には、それぞれの住居跡のものが混入している可能性がある。しかし、これらの遺物の中でもっとも古い時期に属するのは、7世紀後葉である。本住居跡はこの住居跡群の中でもっとも古いと考えられることから、その時期は7世紀後葉と考えたい。



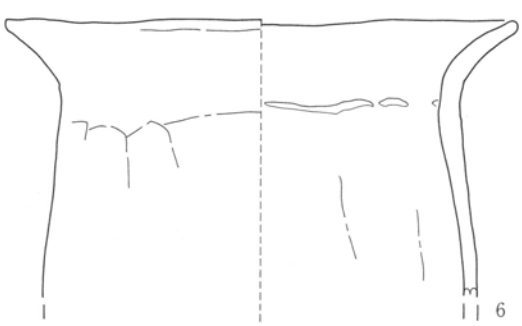
第187図　7号住居跡出土遺物（1）

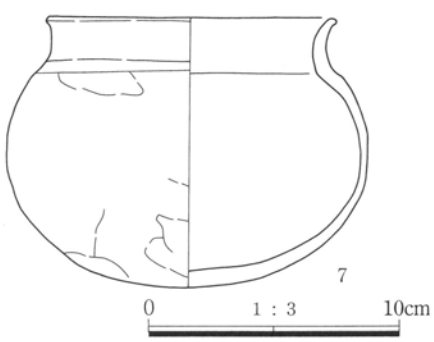




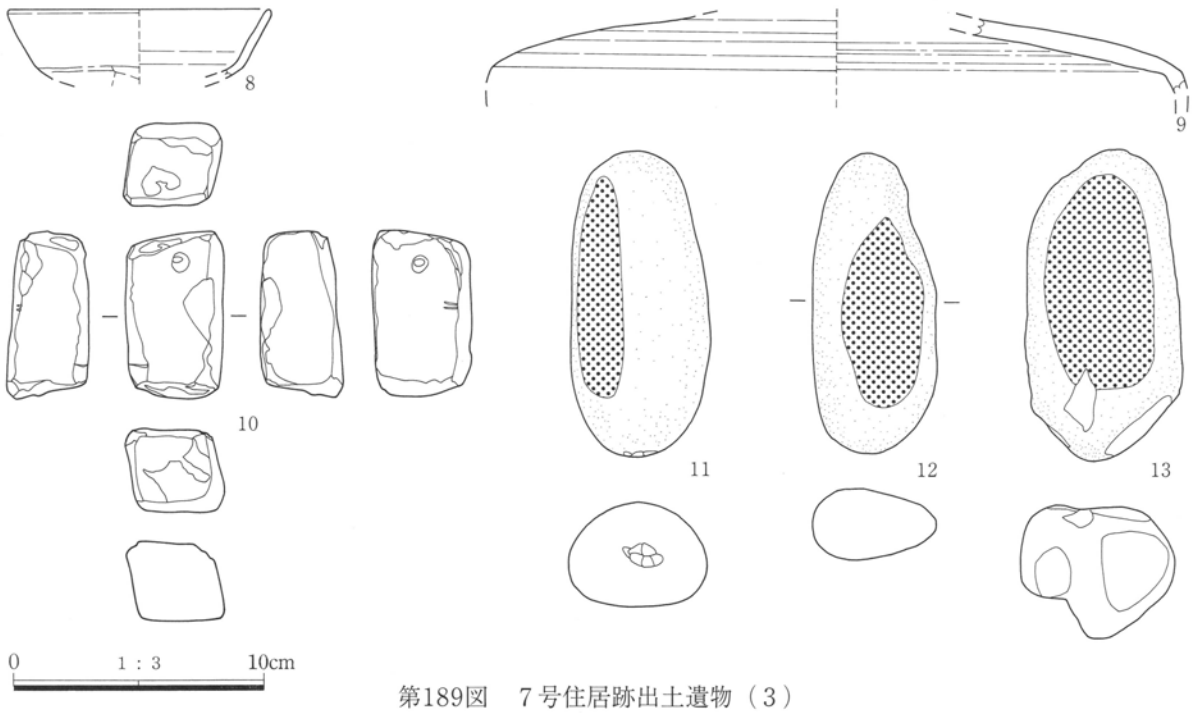
カマド
1．暗褐色土　ローム粒・焼土粒少含
2．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多含
3．暗褐色土　焼土粒・灰やや多含
4．暗褐色土　灰・焼土粒多含、粘性弱
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
6．暗褐色土　ローム粒・焼土粒少含
7．暗褐色土　ロームブロックやや多含
8．暗褐色土　焼土粒少含
9．暗褐色土　焼土粒・As-C少含
10．暗褐色土　焼土粒やや多含
11．暗褐色土　焼土粒多、灰少含
12．暗褐色土　ローム粒・焼土粒多含
13．暗赤褐色土　焼土塊主体、粘性弱
14．暗赤褐色土　焼土塊主体、灰やや多含、粘性弱
15．暗褐色土　焼土粒・灰やや多含
16．暗褐色土　灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含、締まり強
17．暗褐色土　ロームブロックやや多含
18．暗褐色土　灰・焼土粒・ロームブロックやや多含、締まり弱
19．暗褐色土　焼土粒やや多、灰少含
20．暗褐色土　灰・焼土粒少、ロームブロック多含
21．暗褐色土　灰多、焼土粒やや多含、粘性弱
22．暗赤褐色土　焼土塊主体、灰多含、粘性弱
23．暗褐色土　灰・焼土粒多、ロームブロックやや多含
24．暗褐色土　灰・焼土粒少、ロームブロックやや多含
25．暗褐色土　ロームブロック多、焼土粒少含
26．暗褐色土　ロームブロック多含
27．暗褐色土　ロームブロックやや多含

７号住居跡
1．暗褐色土　ロームブロック少含
2．暗褐色土　暗褐粘質土ブロック少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含
4．暗褐色土　暗褐粘質土ブロック多含、締まり強
5．暗褐色土　As-C・ローム粒・炭化物少含
6．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C少含
7．暗褐色土　ロームブロック・As-C少含
8．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C・焼土粒少含、床土、締まり強
9．暗褐色土　ロームブロック多含
10．暗褐色土　As-C・ローム粒・焼土粒少含
11．暗褐色土　ロームブロックやや多含
12．暗褐色土　ロームブロック・As-Cやや多含
13．暗褐色土　As-Cやや多、ロームブロック・焼土粒少含
14．暗褐色土　ロームブロック多含





第188図　７号住居跡、出土遺物（２）



第189図　7号住居跡出土遺物（3）

7号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第187図1 PL. 62	土師器 坏	床直上 口～底1/2	口　(10.6) 底　－ 高　3.2	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　明赤褐	口縁部内湾　外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第187図2 PL. 62	土師器 坏	床直上 口～底1/2	口　(10.9) 底　－ 高　3.4	胎　砂粒少　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	口縁部直立　外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第187図3 PL. 62	土師器 坏	覆土 ほぼ完	口　11.2 底　－ 高　3.2	胎　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	口縁部直立　外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第187図4 PL. 62	土師器 甕	覆土 口～体上2/5	口　(21.4) 底　－ 高　(7.1)	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り　内面：ナデ	
第187図5 PL. 62	土師器 甕	覆土 口～体上3/7	口　(17.2) 底　－ 高　(9.3)	胎　粗砂粒やや多　黒色・白色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄褐	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り　内面：横ヘラナデ	
第188図6 PL. 63	土師器 甕	床直上 口～体上1/4	口　(20.2) 底　－ 高　(10.9)	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、ヘラ削り　内面：ナデ、輪積痕残る	
第188図7 PL. 63	土師器 小型甕	床直上 口～底4/5	口　11.4 底　－ 高　10.7	胎　砂粒少　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：ナデ	
第189図8 PL. 62	須恵器 坏	覆土 口～体1/6	口　(10.5) 底　－ 高　(2.8)	胎　細砂粒少　黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　にぶい黄橙	轆轤整形　外面：体部下ヘラ削り	
第189図9 PL. 63	須恵器 平瓶か	覆土 体1/5	口　－ 底　－ 高　(2.9)	胎　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　外面：体部回転ヘラ削り	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第189図10 PL. 63	石製品 砥石	床直上 ほぼ完	6.5	3.9	3.2	砥沢石	穿孔がある、手持ち砥石先端部を除き、4面が使用面　溝状の切り込みが入る
第189図11 PL. 63	石製品 薦編石か	床直上 完形	12.0	5.5	4.2	凝灰質砂岩	先端部に敲打痕、平坦面の一部は擦られている
第189図12 PL. 63	石製品 薦編石か	床直上 完形	11.8	5.9	2.8	粗粒輝石安山岩	平坦面は擦られている
第189図13 PL. 63	石製品 薦編石か	貯蔵穴 ほぼ完	12.3	6.1	5.3	粗粒輝石安山岩	平坦面と側面の一部は擦られている

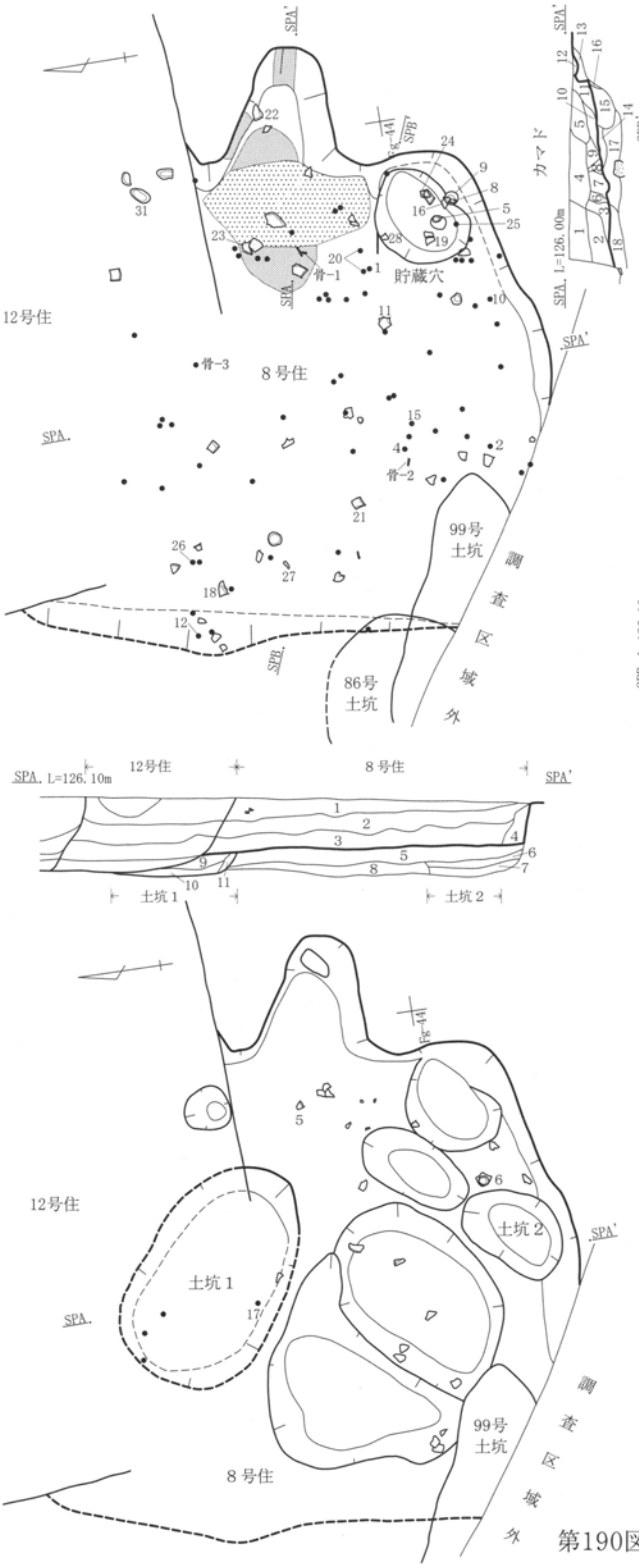
８号住居跡（第190～192図、遺構PL.55、遺物PL.63・64）

位置：Ff～Fh－43～45

長軸方位：N－80°－W

規模・形状：本住居跡は、南西角付近が調査区域外にあり、北部や西部には重複する遺構があるため、全容は明らかにできなかった。検出部で4.13m×4.0mの隅丸方形と考えられるが、西壁が長く延びて台形上になる可能性がある。床面積は不明で、壁の高さは0.4mである。

カマド：東壁に構築されていた。燃焼部の幅は0.75m、煙道部の先端まで含めて張り出しは、壁から1.07mであった。



カマド

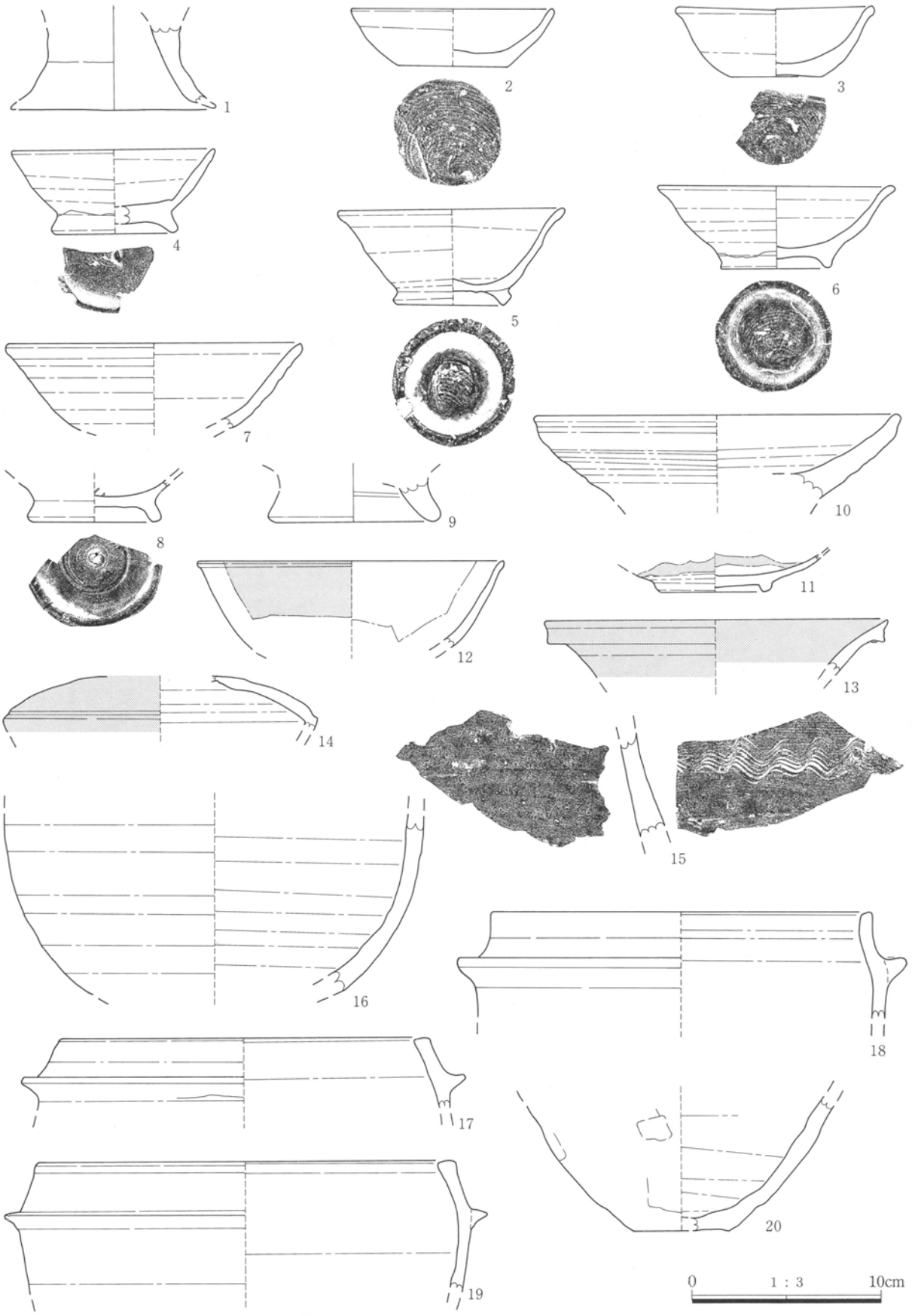
1．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒少含
2．暗褐色土　As－C・焼土粒少含
3．暗褐色土　As－C・灰・焼土粒少含
4．暗褐色土　As－C・焼土粒少含
5．暗褐色土　As－C・灰･焼土粒･ローム粒少含
6．暗褐色土　灰多、焼土粒・As－C少含、締まり弱
7．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・As－C少含
8．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含
9．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・As－C・炭化物少含
10．暗褐色土　ロームブロック・As－C少含
11．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・As－C・炭化物少含
12．暗褐色土　焼土粒少含、粘性強
13．暗褐色土　焼土粒やや多含、粘性強
14．暗褐色土　灰やや多、焼土粒・As－C少含、締まり・粘性弱
15．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
16．暗褐色土　焼土粒やや多含
17．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多、炭化物少含
18．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含

８号住居跡

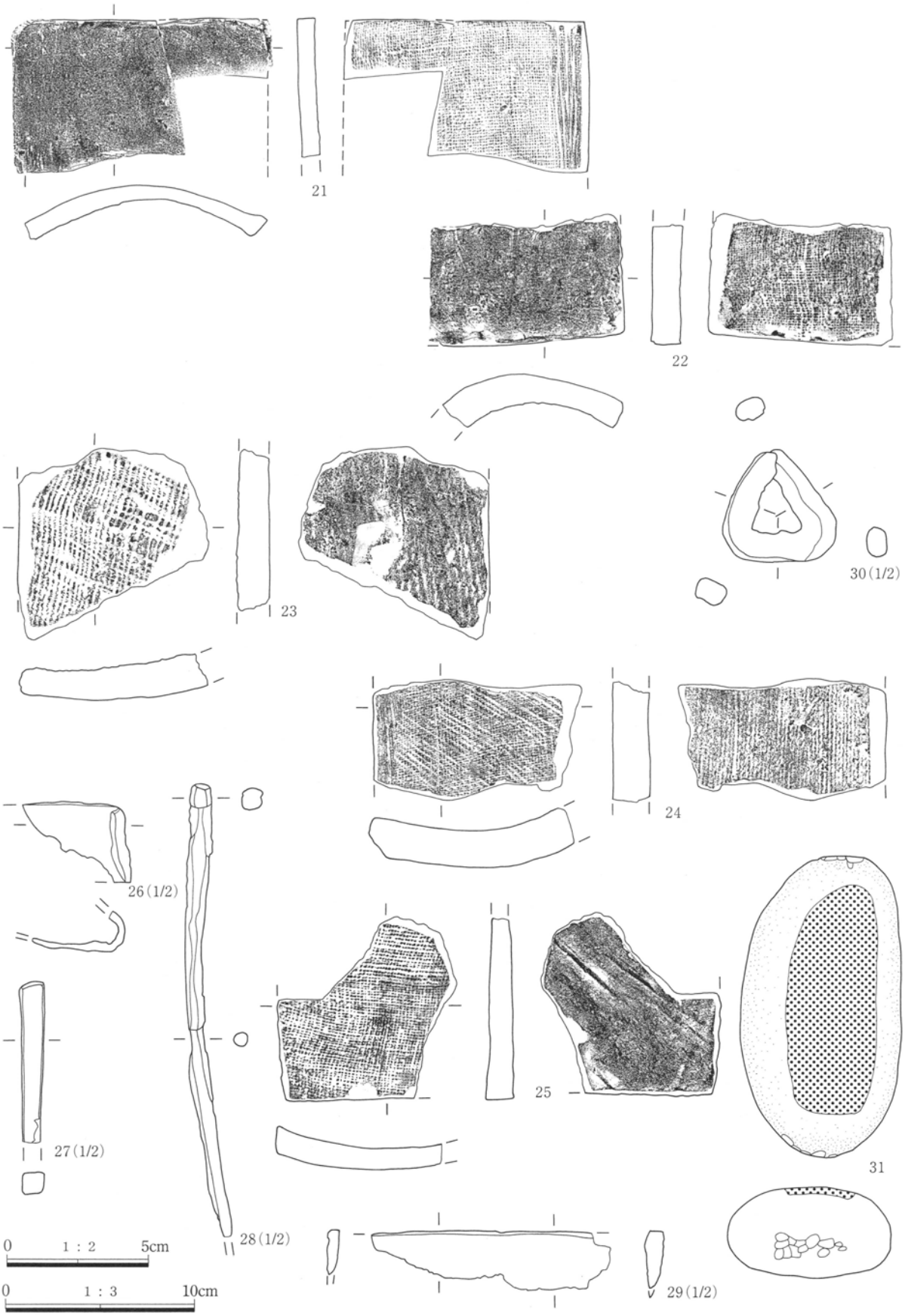
1．暗褐色土　焼土粒・As－C少含
2．暗褐色土　炭化物・ロームブロック少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含
4．暗褐色土　ロームブロック・暗褐粘質土ブロックやや多含
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・As－C少含、床土、締まり強
6．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含、締まり弱
7．暗褐色土　灰・焼土粒・ロームブロックやや多含
8．暗褐色土　灰・焼土粒少、ロームブロックやや多含
9．暗褐色土　炭化物・焼土粒・As－C少含
10．暗褐色土　ローム粒・焼土粒少、As－C極少含
11．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
12．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
13．暗褐色土　ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒極少含
14．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含、締まり強
15．暗褐色土　ロームブロック多含
16．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
17．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
18．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化物・灰少含
19．暗褐色土　灰やや多、ロームブロック・焼土粒少含

0　1:60　1m

第190図　８号住居跡



第191図　8号住居跡出土遺物（1）



第192図　８号住居跡出土遺物（２）

内部施設：壁溝、ピットは検出できなかった。貯蔵穴は0.28m×0.57mで、深度0.21mであった。

床面：残存部の床は平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：重複が激しいためか、覆土からも遺物の量は多い。土師器台付き甕（№1）、須恵器羽釜（№20）、薦編石（№31）、鉄製鎌（№26）、鉄釘（№27）は床面直上より出土した。須恵器埦（№6）は掘り方土から、須恵器埦（№5）は掘り方土と貯蔵穴から、須恵器埦（№8）、須恵器壺（№16）、須恵器羽釜（№19）、瓦（№24）は貯蔵穴から出土した。カマド火床からは、瓦（№22、23）が出土した。

重複遺構：本住居跡南西部で99号土坑と、北部で12号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。西部では9・13号住居跡と重複し、平面と埋土の状況から本住居跡が新しいと判断される。

その他：重複遺構が多く、他の遺構の遺物が含まれている可能性がある。貯蔵穴出土の遺物の様相から、本住居跡の時期は10世紀前葉と判断される。

8号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第191図1 PL. 63	土師器 台付き甕	床直上 脚5/6	口 － 底 － 高 (4.1)	胎 粗砂粒やや多 黒色・白色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい橙	内外面横ナデ	
第191図2 PL. 63	須恵器 坏	覆土 口～底 底 完 他1/2	口 (10.8) 底 5.8 高 3.1	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 やや軟 色 橙	轆轤整形（右回転） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第191図3 PL. 63	須恵器 坏	覆土 口～底1/3	口 (10.4) 底 (4.8) 高 3.6	胎 砂粒やや多 白色・赤色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰黄	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第191図4 PL. 63	須恵器 埦	覆土 口～体1/4	口 (10.6) 底 (6.6) 高 4.4	胎 粗砂粒少 白色・黒色・赤色鉱物 焼 還元焔 良好 色 にぶい黄褐	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	内外面口縁部に油煙付着
第191図5 PL. 64	須恵器 埦	掘り方・貯穴 口～底 底 完 他1/2	口 (12.0) 底 6.2 高 5.1	胎 砂粒やや多 白色・赤色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰黄	轆轤整形（右回転） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第191図6 PL. 64	須恵器 埦	掘り方 口～底 底 完 他1/2	口 12.4 底 5.8 高 4.3	胎 φ7mm小礫 粗砂粒やや多 白･赤･黒色鉱物 焼 酸化焔 やや軟 色 にぶい黄橙	轆轤整形（右回転） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第191図7 PL. 64	須恵器 埦	土坑1 口～体1/6	口 (15.4) 底 － 高 (4.0)	胎 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 黄灰	轆轤整形（右回転） 口縁部弱く外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第191図8 PL. 64	須恵器 埦	貯蔵穴 体下～底2/5	口 － 底 (7.0) 高 (2.2)	胎 砂粒やや多 白色・赤色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台 内面：内黒、縦方向のミガキあり	
第191図9 PL. 64	須恵器 埦	覆土 高台完	口 － 底 9.0 高 (2.3)	胎 砂粒抄 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰	轆轤整形 厚みがあり、やや高めの高台	
第191図10 PL. 64	須恵器 高坏もしくは高盤か	覆土 口～体1/6	口 (19.2) 底 － 高 (4.4)	胎 砂粒抄 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形	
第191図11 PL. 64	灰釉陶器 皿	覆土 体下～底 底完 他1/4	口 － 底 5.8 高 (2.5)	胎 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形（右回転） 内外面体部まで施釉、刷毛塗り	虎渓山1号窯式期
第191図12 PL. 64	灰釉陶器 埦	覆土 口～体1/6	口 (16.2) 底 － 高 (4.6)	胎 φ3mm小礫 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面施釉 漬け掛け	大原2号窯式期
第191図13 PL. 64	灰釉陶器 長頸壺	覆土 口～頸1/8	口 (18.0) 底 － 高 (3.0)	胎 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面施釉	
第191図14 PL. 64	灰釉陶器 平瓶か	覆土 体1/3	口 － 底 － 高 (2.8)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形 外面：施釉、刷毛塗りか	黒笹90号窯式期
第191図15 PL. 64	須恵器 甕	覆土 体破片	口 － 底 － 高 －	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 暗灰	外面：波状文 内面：横ナデ	
第191図16 PL. 64	須恵器 壺	貯蔵穴 体1/5	口 － 底 － 高 (9.9)	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形	

第191図17 PL. 64	須恵器 羽釜	土坑１ 口～体上1/8	口　(19.4) 底　－ 高　(3.7)	胎　砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形	
第191図18 PL. 64	須恵器 羽釜	覆土 口～体1/4	口　(20.0) 底　－ 高　(5.5)	胎　φ3㎜小礫 砂粒少 白色・赤色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　灰	轆轤整形	
第191図19 PL. 64	須恵器 羽釜	貯蔵穴 口～体1/8	口　(22.0) 底　－ 高　(7.0)	胎　φ10㎜　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　灰黄褐	轆轤整形	
第191図20 PL. 64	須恵器 羽釜	床直上 体下～底1/3	口　－ 底　(5.0) 高　(7.0)	胎　φ8㎜小礫　粗砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	外面：体部ヘラ削り　内面：ナデ	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第192図21 PL. 64	熨斗	覆土 破片	胎　並 焼　並 色　橙	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　横撫 型	1 割込	非陶土質・藤岡窯　9世紀前～中葉
第192図22 PL. 64	丸瓦	カマド 破片	胎　並 焼　並 色　褐灰	製　2枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　横撫 型	1	非陶土質・藤岡窯　9世紀前～中葉
第192図23 PL. 64	平瓦	カマド 破片	胎　並 焼　並 色　にぶい橙	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄消 型	－	吉井窯か観音山窯　8世紀後葉～9世紀前葉
第192図24 PL. 64	平瓦	貯蔵穴 破片	胎　並 焼　密 色　褐灰	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　細縄絡 型	3	観音山窯　8世紀後葉～9世紀前葉
第192図25 PL. 64	平瓦	掘り方・貯蔵穴 破片	胎　並 焼　並 色　褐灰	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　太大平行 型	1	非陶土質・藤岡窯　9世紀前～中葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第192図26 PL. 64	鉄製品 鎌	覆土 欠損あり	(3.9)	(2.8)	0.3	4	基部を折り曲げる鎌。刃部はほとんど欠損している
第192図27 PL. 64	鉄製品 棒状品	床直上 欠損あり	(5.6)	0.75	0.75	11	頭部の折り曲げなどは見られないが、角釘状の棒状品
第192図28 PL. 64	鉄製品 棒状品	覆土 先端部欠損	(15.8)	0.7	0.7	20	断面円形の長い棒状品。中央部はやや細くなっている
第192図29 PL. 64	鉄製品 刀子	覆土 欠損あり	(8.3)	2.0	0.6	12	やや肉厚。刃部と基部は欠損している
第192図30 PL. 65	鉄製品 環状鉄製品	土坑２覆土 完形	3.9	1.1	8	18	断面長方形の棒状品を２箇所折り曲げて、三角形の鎖状にしてある

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第192図31 PL. 65	石製品 薦編石か	床直上 ほぼ完	15.7	8.5	4.8	粗粒輝石安山岩	両先端部に敲打痕、平坦面は擦られている

９号住居跡（第193～195図、遺構PL.55、遺物PL.65・66）

位置：Fg～Fi－43～44

長軸方位：N－18°－E

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることと、重複遺構により、全容は明らかにできなかった。検出部で4.28m×3.42mの隅丸長方形に近いが、台形状を呈する。床面積は不明で、壁の高さは0.28mである。

カマド：東壁の南側に構築されていた。燃焼部の幅は不明で、張り出しは壁から0.6m検出した。袖は明らかでないが、瓦が出土していることから、構築材として瓦を使用していると考えられる。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。しかし、本住居跡からは多数の土坑が検出されている。これらがすべて同一時期に存在し、本住居跡と関連をもっていたとは考えられないが、床面から確認できることや出土遺物の時期が同じと考えられることから、本住居跡に関連するものと判断した。

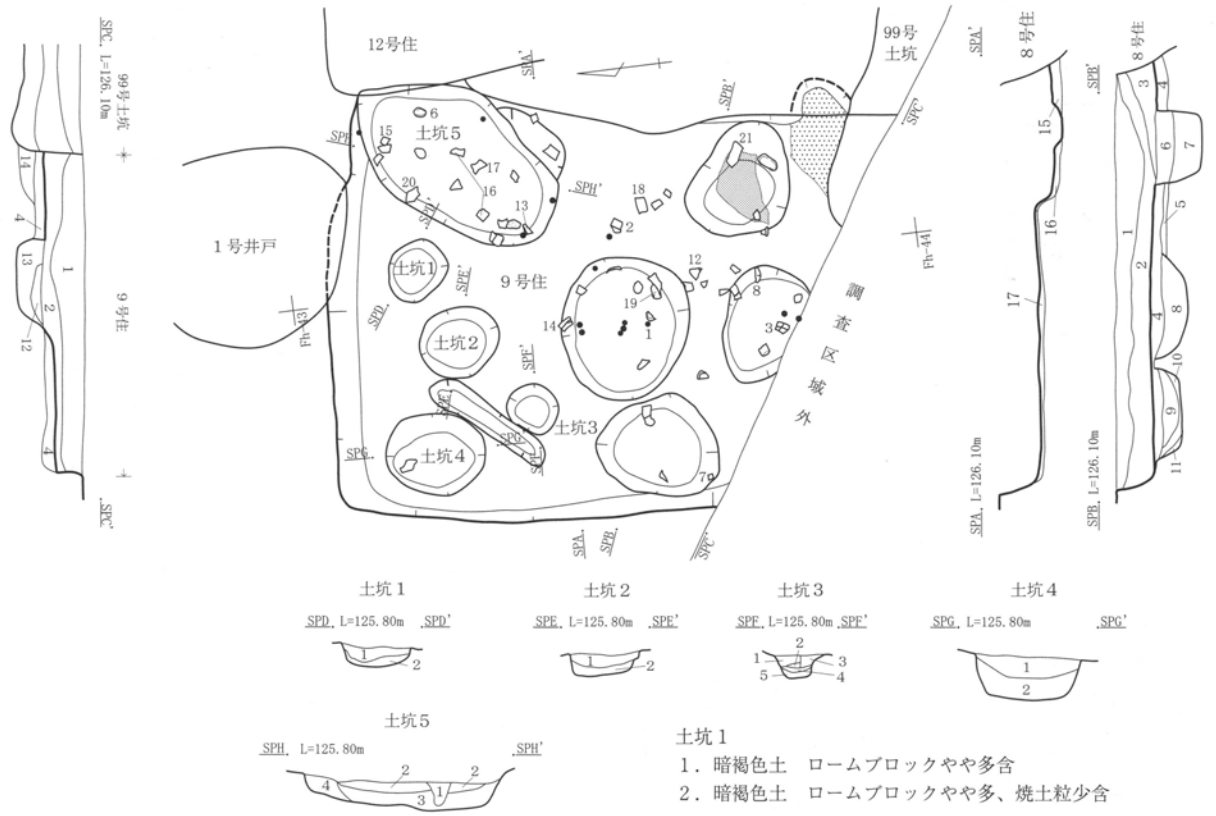
床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器坏（№２）、須恵器埦（№３）、灰釉陶器埦（№８）は床面直上からの出土である。土

師器坏（№1）、灰釉陶器埦（№7）、緑釉陶器Ⅲ（№10）、瓦（№19）は堀り方土からの出土である。土坑5からは、須恵器埦（№6）、須恵器羽釜（№15）、須恵器甕（№16、17）が出土した。

重複遺構：本住居跡の東側で8・12・17号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、8・12号住居跡よりは古く、17号住居跡よりは新しいと判断される。また、南東部で99号土坑と、北部で1号井戸と重複し、本住居跡が古いと判断される。

その他：重複が激しく、遺構や遺物が入り乱れていることから、時期判断は困難である。しかし、床面出土の灰釉陶器や羽釜から、本住居跡の時期は9世紀末から10世紀前葉と考えたい。



土坑1
1．暗褐色土　ロームブロックやや多含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含

土坑2
1．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含

土坑3
1．暗褐色土　As-Cやや多、ロームブロック少含
2．暗褐色土　As-C・ロームブロック少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含
5．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含

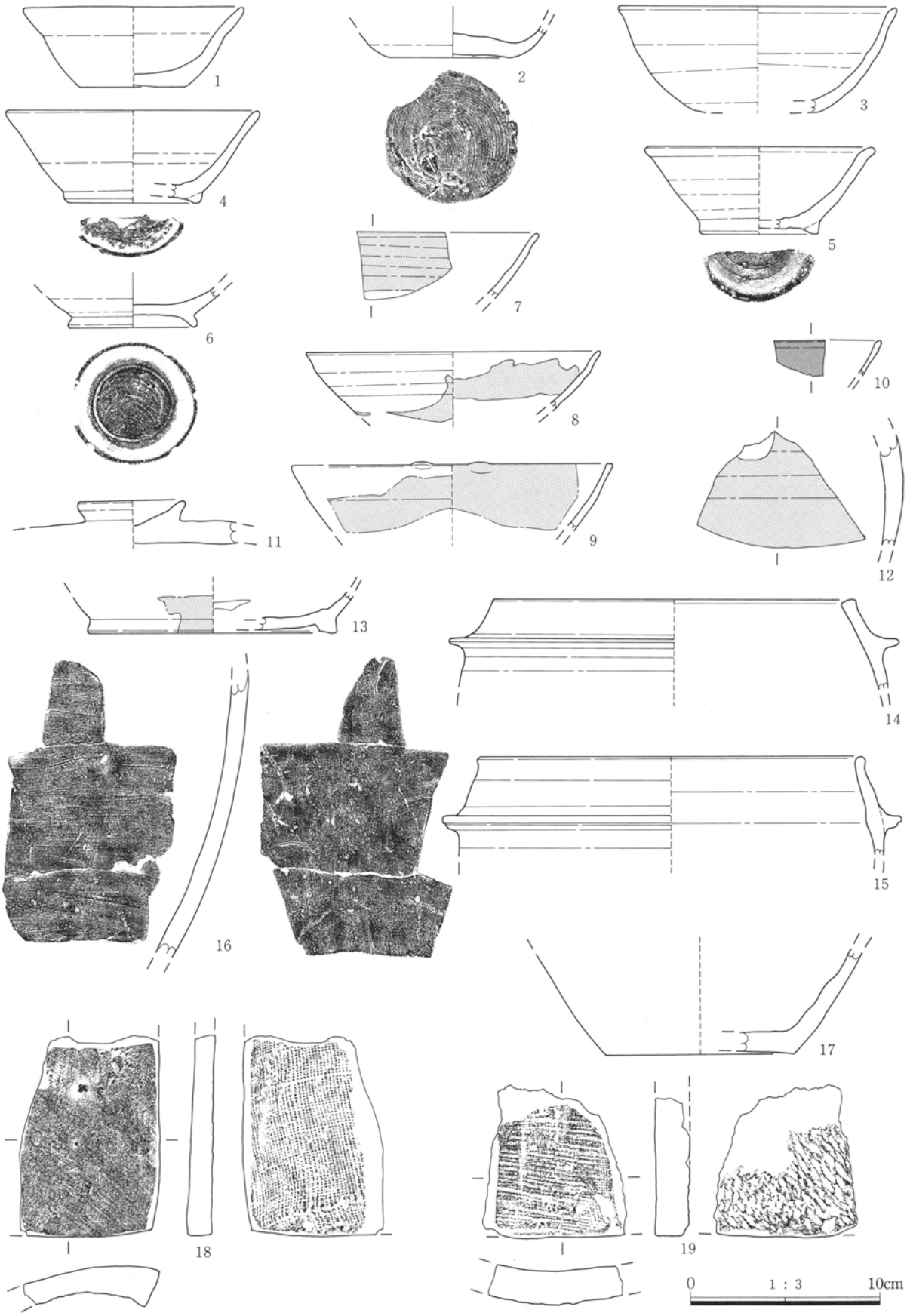
土坑4
1．暗褐色土　As-Cやや多、ロームブロック少含
2．暗褐色土　As-C・ロームブロック少含

土坑5
1．暗褐色土　As-Cやや多、焼土粒少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C少含
3．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多、As-C少含
4．暗褐色土　As-C・ロームブロック・焼土粒やや多含

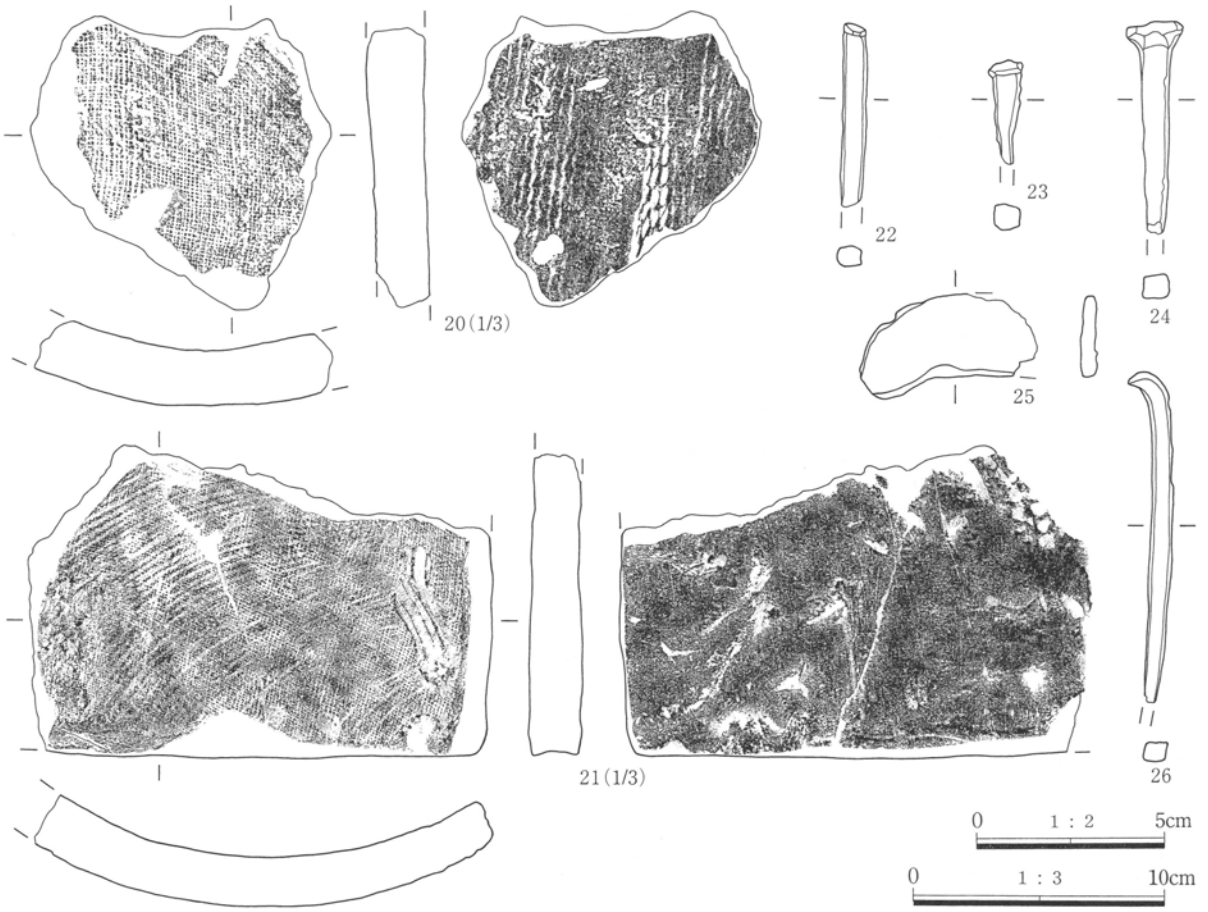
9号住居跡
1．暗褐色土　As-Cやや多、焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
2．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック・炭化物・As-C少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含、床土、締まり強
5．暗褐色土　ロームブロック多含
6．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック・As-C少含
7．暗褐色土　ロームブロックやや多含
8．暗褐色土　焼土粒やや多、炭化物・ロームブロック少含
9．暗褐色土　焼土粒やや多、炭化物少含
10．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含
11．暗褐色土　ロームブロックやや多含
12．暗褐色土　ロームブロック・炭化物・焼土粒少含
13．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
14．暗褐色土　As-C多、焼土粒・ロームブロック極少含
15．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多含
16．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含
17．暗褐色土　ロームブロックやや多含、締まり強

0　1:60　1m

第193図　9号住居跡



第194図　９号住居跡出土遺物（１）



第195図　9号住居跡出土遺物（2）

9号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第194図1 PL. 65	土師器 坏	堀り方 口～底1/4	口 (11.6) 底 (5.6) 高 (4.2)	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 明赤褐	体部上半から外反する 外面：口縁部横ナデ、体部～底部調整不明瞭	
第194図2 PL. 65	須恵器 坏	床直上 体～底4/5	口 － 底 6.3 高 (1.7)	胎 φ2mm小礫 粗砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第194図3 PL. 65	須恵器 埦	床直上 口～体1/3	口 (14.6) 底 － 高 (5.6)	胎 φ5mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰白	轆轤整形 口縁部弱く外反	
第194図4 PL. 65	須恵器 埦	覆土 口～底1/6	口 (13.3) 底 (7.0) 高 4.9	胎 φ9mm小礫 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形（右回転か） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第194図5 PL. 65	須恵器 埦	堀り方 口～底1/3	口 (12.0) 底 (7.0) 高 4.6	胎 φ4mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転か） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第194図6 PL. 65	須恵器 埦	土坑5 体～底3/4	口 － 底 6.8 高 (2.1)	胎 φ4mm小礫 細砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転か） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第194図7 PL. 65	灰釉陶器 埦	堀り方 口破片	口 － 高 － 口 (15.4)	胎 φ3mm小礫 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面施釉、漬け掛け	大原2号窯式期
第194図8 PL. 65	灰釉陶器 埦	床直上 口～体1/5	底 － 底 － 高 (3.5)	胎 φ5mm小礫 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面施釉、刷毛塗りか	被熱か、大原2号窯式期
第194図9 PL. 65	灰釉陶器 輪花埦	覆土 口～体1/6	口 (17.0) 底 － 高 (3.5)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 口唇部一部指押しされる 内外面施釉、刷毛塗りか	被熱か、大原2号窯式期

第194図10 PL. 65	緑釉陶器 皿	堀り方 口破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形　内外面施釉、刷毛塗り	猿投窯
第194図11 PL. 65	須恵器 蓋	覆土 摘～天井　摘ほぼ完　他1/5	口　－ 摘　－ 高　(2.2)	胎　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形	
第194図12 PL. 65	灰釉陶器 長頸壺	覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　φ2mm小礫　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面施釉、刷毛塗りか	
第194図13 PL. 65	灰釉陶器 長頸壺	覆土 底1/8	口　－ 底　(13.1) 高　(2.1)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面：釉が垂れる 内面：底部に釉が溜まる、ヘラ痕あり	
第194図14 PL. 65	須恵器 羽釜	覆土 口～体上1/8	口　(19.0) 底　－ 高　(4.6)	胎　φ6mm小礫　粗砂粒少　白・赤・黒鉱物 焼　酸化焔　良好 色　明赤褐	轆轤整形	
第194図15 PL. 65	須恵器 羽釜	土坑５ 口～体上1/8	口　(20.0) 底　－ 高　(6.1)	胎　φ6mm小礫　粗砂粒少　白・赤・黒鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄褐	轆轤整形	
第194図16 PL. 65	須恵器 甕	土坑５ 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　φ5mm小礫　砂粒やや多　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形 外面：ヘラ削り　内面：横ヘラナデ	
第194図17 PL. 65	須恵器 甕	土坑５ 体下～底1/5	口　－ 底　(9.8) 高　(5.3)	胎　砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　明赤褐	外面：ヘラ削り　内面：ナデ	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第194図18 PL. 65	丸瓦	床直上 破片	胎　並 焼　並 色　灰褐	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	1	藤岡窯　９世紀前～中葉
第194図19 PL. 65	平瓦	掘り方 小破片	胎　並 焼　並 色　浅黄	製 桶　△ 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄絡 型	－	秋間窯　８世紀後葉～９世紀初
第195図20 PL. 65	平瓦	土坑５ 破片	胎　並 焼　密 色　灰白	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄絡消 型	－	秋間窯　８世紀後葉～９世紀初
第195図21 PL. 66	平瓦	床直上 破片	胎　並 焼　並 色　にぶい黄橙	製 桶　○ 一	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　?	轆　× 叩　部分格子 型	4	笠懸窯　８世紀後葉～９世紀前葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第195図22 PL. 65	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(4.9)	0.7	0.6	4	頭部折り曲げの角釘
第195図23 PL. 65	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(2.7)	0.7	0.7	2	頭部折り曲げの角釘
第195図24 PL. 65	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(5.6)	1.5	0.7	11	頭部折り曲げの角釘
第195図25 PL. 65	鉄製品 鎌か	覆土 欠損あり	(4.7)	(2.2)	0.5	6	鎌の刃部か。緩やかな弧をもつ
第195図26 PL. 65	鉄製品 釘	土坑１覆土 先端部欠損	(8.8)	0.5	0.5	8	頭部折り曲げの角釘

10号住居跡（第196図、遺構PL.55、遺物PL.66）

位置：Fd～Fe－43～44

東壁方位：N－27°－E

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることと、重複遺構により、全容は明らかでない。検出部での計測で、南北1.75m×東西1.7mで、形状や床面積は不明である。壁の高さは0.44mである。

カマド：検出されていない。

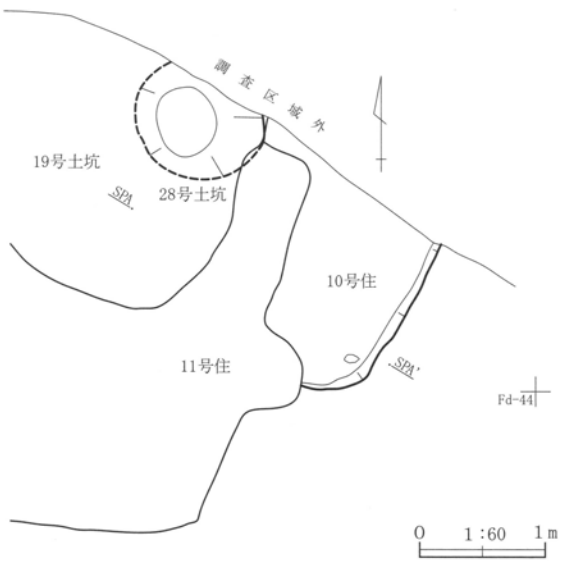
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

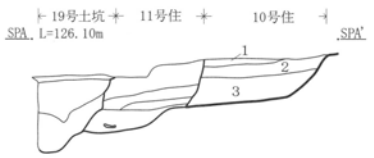
床面：平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：須恵器坏（№１）は掘り方土からの出土である。

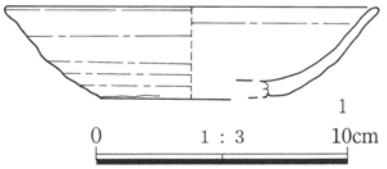
重複遺構：本住居跡の西側には11号住居跡と19号土坑が存在し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、東側で３号住居跡と21号土坑と重複するが、本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土した遺物は少ないが、重複関係も踏まえると、本住居跡の時期は９世紀後葉と判断される。





10号住居跡
1．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒少含
2．暗褐色土　As−C・ロームブロック・焼土粒少含
3．暗褐色土　As−Cやや多、ロームブロック・焼土粒少含



第196図　10号住居跡、出土遺物

10号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第196図１ PL. 66	須恵器 坏	堀り方 口～底1/8	口　(14.6) 底　(7.8) 高　(3.6)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	轆轤整形　底部切り離し技法不明	

11号住居跡（第197～199図、遺構PL.55、遺物PL.66～67）

位置：Fd～Ff−43～45

長軸方位：N−5°−E

規模・形状：本住居跡は重複により全容は明らかでない。3.45m×3.26mの隅丸長方形に近いが、北壁は長く延びると考えられ、台形状を呈する。床面積は不明で、壁の高さは0.46mである。

カマド：燃焼部の幅は0.75mで、張り出しは壁から0.63mであった。袖の構築材には礫と瓦が使われていた。

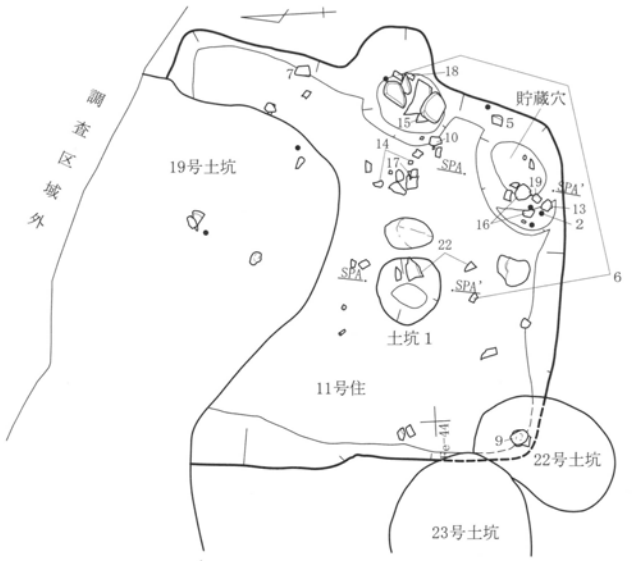
内部施設：南東角に貯蔵穴があり、規模は0.9m×0.46mで、深度は0.21mであった。また、中央より西よりの床下には土坑状の落ち込みがあり、規模は1.14m×0.87mで、深度0.12mであった。壁溝やピットは検出できなかった。

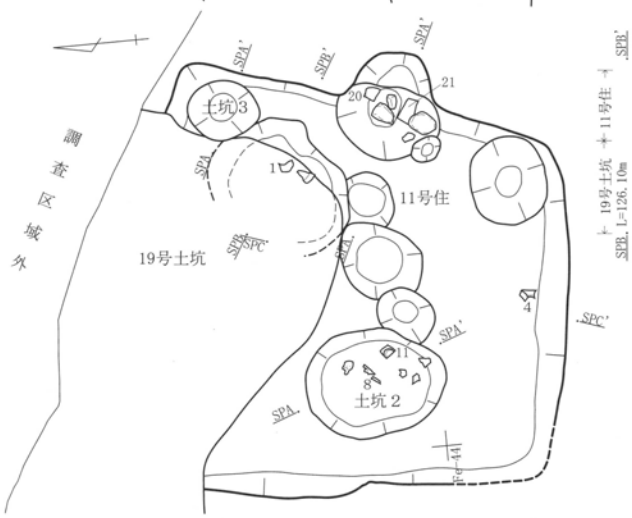
床面：平坦で、床は固く締まっていた。

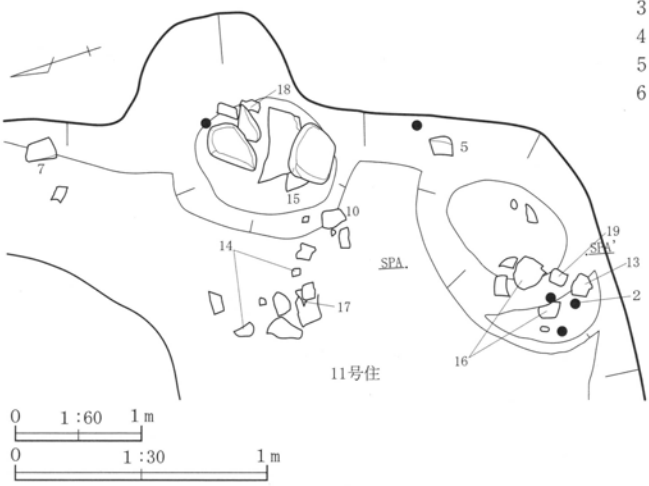
出土遺物：出土遺物の量は多い。重複が多いためか、時期幅は広く、他遺構の遺物が入り込んでいる可能性がある。須恵器坏（№９）は床面直上から出土した。須恵器坏（№６）は床面直上からカマドにかけての出土であった。掘り方土からは、土師器坏（№１）、土師器甕（№４）、須恵器埦（№12）があった。貯蔵穴からは、土師器坏（№２）、須恵器埦（№13）、須恵器壺（№16）、瓦（№19）があった。カマドからは、須恵器埦（№15）、緑釉陶器手坏瓶（№18）、瓦（№20、21）が火床で出土した。

重複遺構：本住居跡の北東角を除く北部で19号土坑と、南西角で22・23号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、東壁では４・10号住居跡と重複するが、本住居跡が新しい。

その他：出土した遺物には時期幅があり、他遺構の遺物が混入していると考えられる。しかし、貯蔵穴や掘り方土からの遺物と、重複関係より、本住居跡の時期は９世紀後葉と判断される。



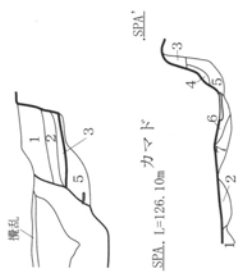




貯蔵穴
1．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含、締まり弱
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含

土坑１
1．暗褐色土　As－C・焼土粒少含、締まりやや強
2．暗褐色土　白褐ブロック・焼土粒やや多含、締まりやや強
3．暗褐色土　暗褐ブロックやや多含、締まりやや強

土坑２
1．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック・As－C少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含

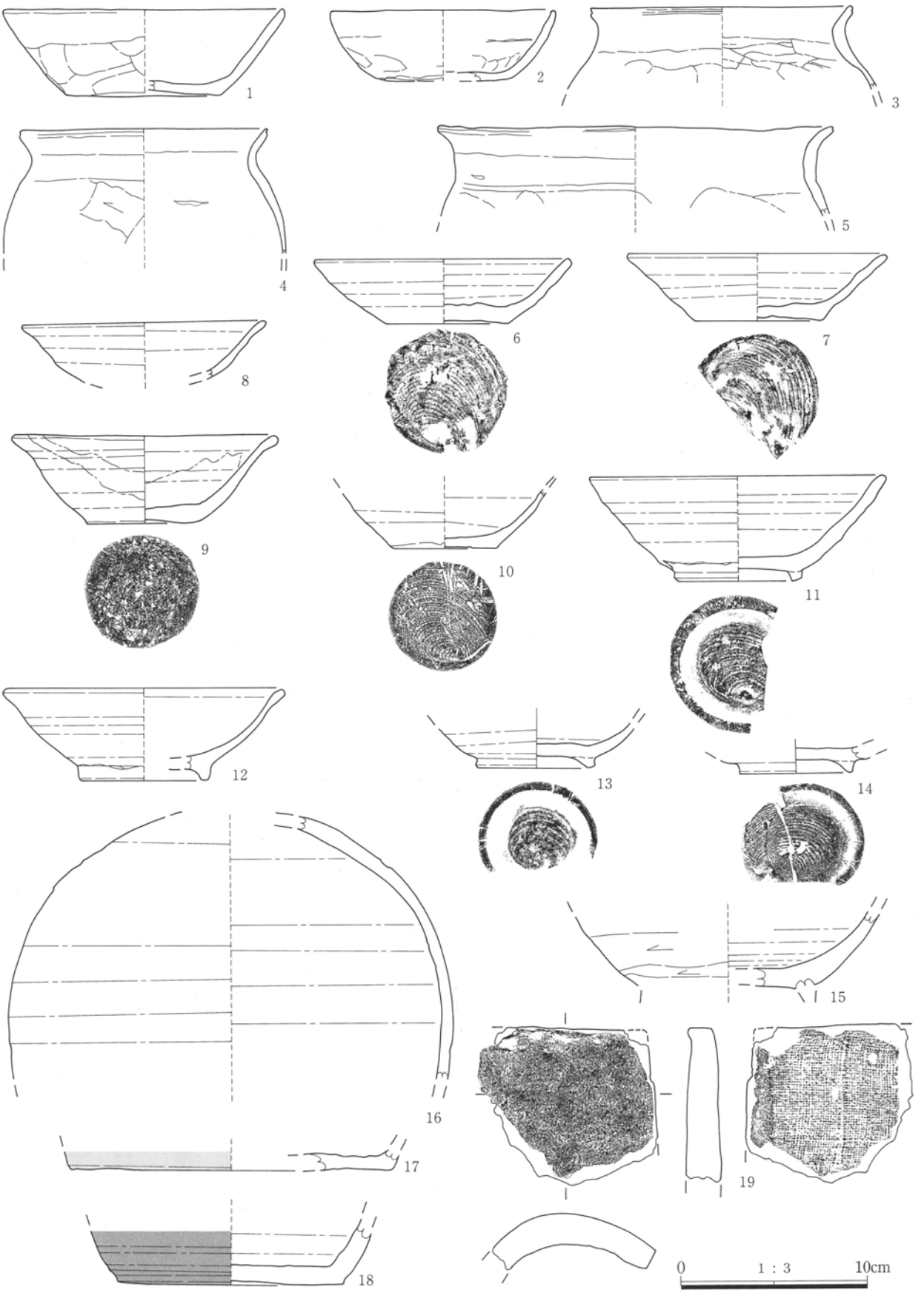


土坑３
1．暗褐色土　ロームブロック多含、締まり弱
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含

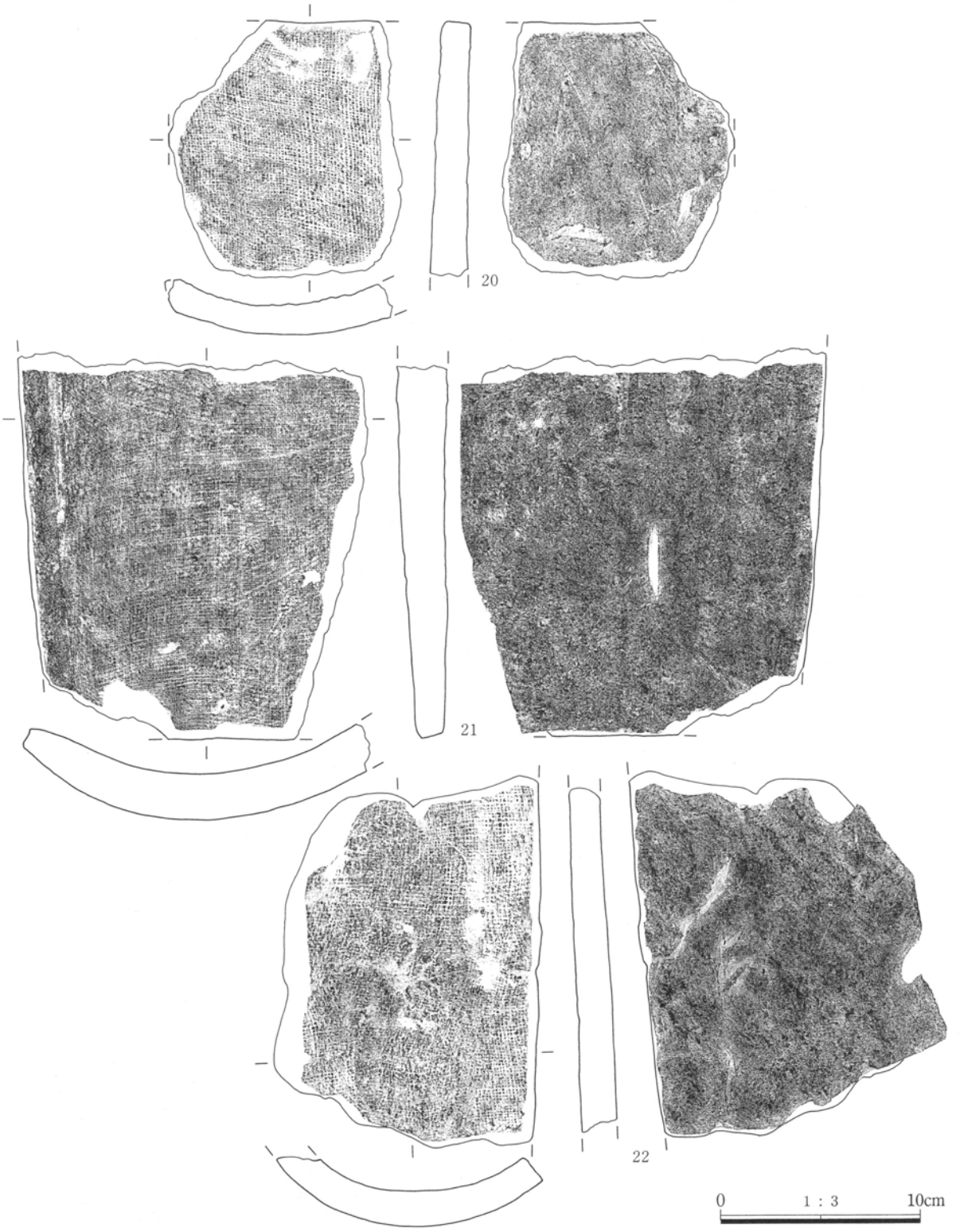
カマド
1．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多含
2．暗褐色土　焼土粒多、ロームブロック少含
3．暗褐色土　As－Cやや多、ロームブロック・焼土粒少含
4．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒少含、締まり弱
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
6．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒少含
7．暗褐色土　焼土粒やや多、ロームブロック少含

11号住居跡
1．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　As－C・焼土粒・炭化物少含
3．暗褐色土　As－C・ロームブロック・焼土粒少含
4．暗褐色土　暗褐粘質土ブロック・ロームブロックやや多含
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含、床土、締まり強
6．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多含

第197図　11号住居跡



第198図　11号住居跡出土遺物（1）



第199図　11号住居跡出土遺物（２）

11号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第198図１ PL. 66	土師器 坏	掘り方 口～底1/3	口　(15.0) 底　(8.2) 高　(4.6)	胎　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：横ナデ	

第198図 2 PL. 66	土師器 坏	貯蔵穴 口～底1/4	口 (12.0) 底 － 高 3.8	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部～体部ヘラ削り 内面：ナデ、指頭圧痕、輪積み痕	
第198図 3 PL. 66	土師器 甕	覆土 口～体上1/6	口 (13.9) 底 － 高 (4.5)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい褐	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	内面炭化物付着
第198図 4 PL. 66	土師器 甕	覆土 口～体上1/6	口 (13.2) 底 － 高 (6.7)	胎 砂粒やや多 黒色・白色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい橙	外面：口縁部横ナデ、１条の沈線が巡る、体部ヘラ削り 内面：ナデ、輪積み痕	
第198図 5 PL. 66	土師器 甕	覆土 口～体1/3	口 (21.0) 底 － 高 (4.5)	胎 φ3㎜小礫 砂粒少 白色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、ヘラ削り 内面：横ヘラナデ	
第198図 6 PL. 66	須恵器 坏	床直上 口～底 底完 他1/2	口 (13.8) 底 6.5 高 3.5	胎 φ3㎜小礫 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第198図 7 PL. 66	須恵器 坏	覆土 口～底1/4	口 (13.8) 底 (6.8) 高 3.6	胎 φ6㎜小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第198図 8 PL. 66	須恵器 坏	土坑２ 口～体1/5	口 (13.0) 底 － 高 (3.4)	胎 φ5㎜小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 明褐灰	轆轤整形 口縁部外反	
第198図 9 PL. 66	須恵器 坏	床直上 ほぼ完	口 14.2 底 5.8 高 4.8	胎 φ5㎜小礫 粗砂粒少 白・赤・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい赤褐	轆轤整形 底部：切り離し技法不明	内外面炭化物付着
第198図10 PL. 66	須恵器 坏	覆土 体～底 底完 他1/3	口 － 底 5.6 高 (3.1)	胎 φ7㎜小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや不良 色 黄灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第198図11 PL. 66	須恵器 塊	土坑２ 口～底1/4	口 (15.7) 底 (6.7) 高 5.6	胎 φ4㎜小礫 粗砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第198図12 PL. 66	須恵器 塊	掘り方 口～体1/4	口 (15.0) 底 (7.0) 高 5.0	胎 細砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第198図13 PL. 66	須恵器 塊	貯蔵穴 体下～底3/4	口 － 底 6.4 高 (2.3)	胎 φ6㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰黄	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第198図14 PL. 66	須恵器 塊	覆土 体下～底 底ほぼ完 他1/2	口 － 底 6.0 高 (1.3)	胎 φ3㎜小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 暗灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第198図15 PL. 66	須恵器 塊か	カマド 体下～底1/3 高台欠損	口 － 底 － 高 (4.0)	胎 砂粒抄 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台 外面：ヘラ削り	
第198図16 PL. 66	須恵器 壺	貯蔵穴 体1/6	口 － 底 － 高 (14.0)	胎 φ5㎜小礫 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形	
第198図17 PL. 66	灰釉陶器 鉢か	覆土 底1/8	口 － 底 (17.0) 高 (1.1)	胎 φ2㎜小礫 緻密 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 外面：体部施釉	
第198図18 PL. 66	緑釉陶器 手坏瓶	カマド 体下～底1/4	口 － 底 (12.1) 高 (3.6)	胎 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形 底部：回転糸切り後、ヘラナデ調整 外面：体部～底部施釉 内面：底部に釉	猿投窯

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第198図19 PL. 66	丸瓦	貯蔵穴 破片	胎 硬 焼 並 色 黄灰	製 ２枚 桶 一 なし	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 ○ 叩 横撫 型	2	笠懸窯、２次被熱 ８世紀後葉～９世紀前葉
第199図20 PL. 67	平瓦	カマド 破片	胎 硬 焼 並 色 黄灰	製 桶 ○ 一	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 素文 型	－	吉井窯 ８世紀後葉～９世紀前葉
第199図21 PL. 67	平瓦	カマド 破片	胎 並 焼 並 色 暗灰黄	製 桶 ○ 一	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ○	轆 × 叩 素文 型	3	吉井窯 ８世紀後葉～９世紀前葉
第199図22 PL. 67	平瓦	覆土 破片	胎 並 焼 密 色 にぶい褐	製 桶 ○ 一	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ?	轆 × 叩 素文 型	1	吉井窯 ９世紀前葉

12号住居跡（第200・201図、遺構PL.55、遺物PL.67）

位置：Ff～Fh－43～44

北壁軸方位：N－82°－E

規模・形状：本住居跡の周囲には他の遺構が多くあり、全容は明らかでない。検出部で東西4.25m×南北3.1mあり、隅丸長方形を呈すると考えられる。床面積は不明であり、壁の高さは0.54mである。

カマド：検出されていないが、瓦が出土しているので、構築材には瓦が使用されていた可能性がある。

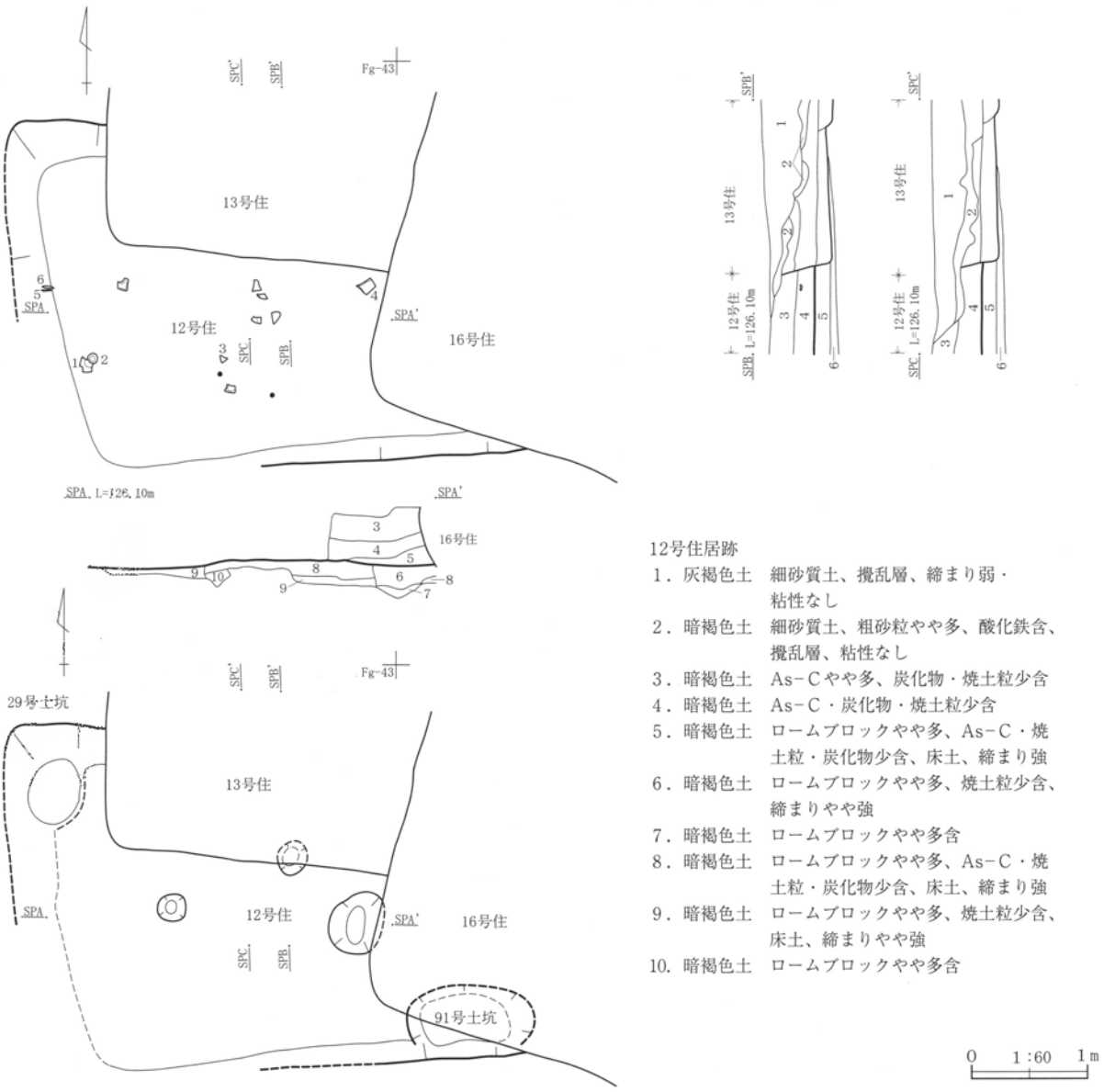
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：一部しか残存していないが、平坦で、固く締まっていた。

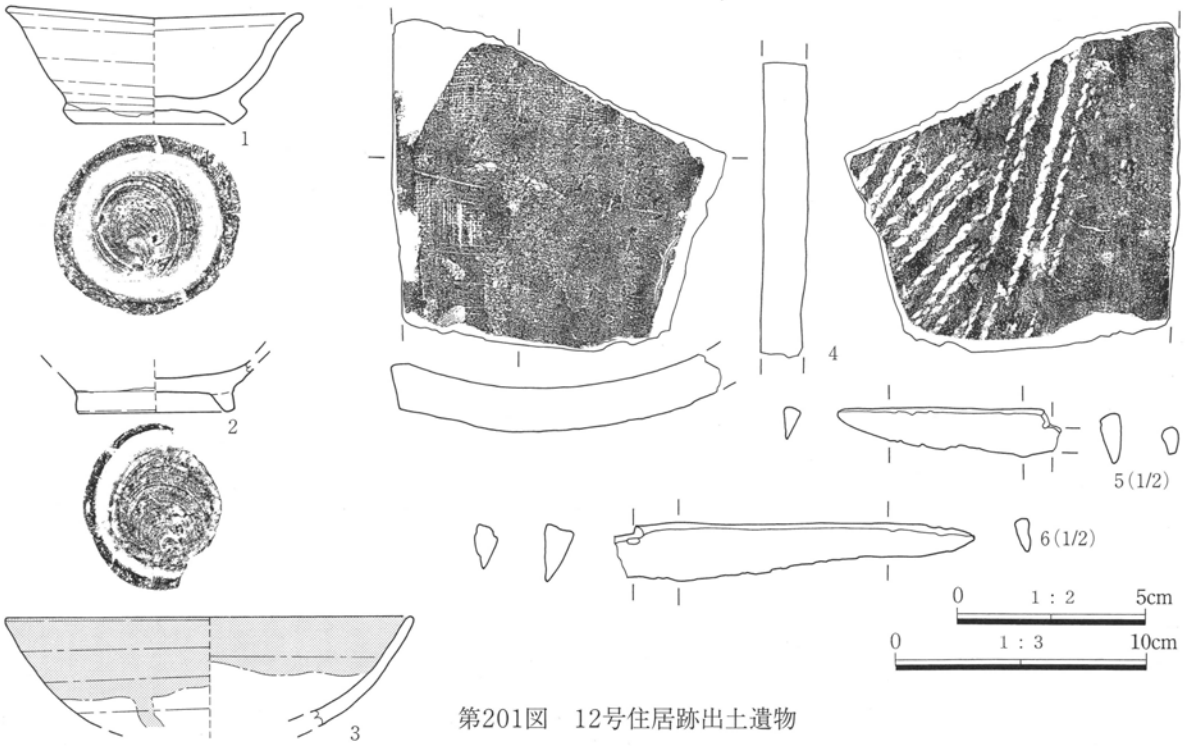
出土遺物：瓦（№４）は床面直上からの出土である。須恵器埦（№１、２）、灰釉陶器埦（№４）は掘り方土からの出土である。

重複遺構：本住居跡の北側で13号住居跡と、東側で16号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南側で８号住居跡と、南西部で９・16号住居跡と重複するが、平面と断面の状況から本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土遺物の傾向と重複遺構より、本住居跡の時期は10世紀中葉と判断される。



第200図　12号住居跡



第201図　12号住居跡出土遺物

12号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第201図 1 PL. 67	須恵器 埦	掘り方 口～底　底 完　他1/2	口　(11.8) 底　6.2 高　4.6	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　やや軟 色　黄灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第201図 2 PL. 67	須恵器 埦	掘り方 体～底　ほぼ 底完　他1/2	口　－ 底　6.2 高　(2.1)	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第201図 3 PL. 67	灰釉陶器 埦	掘り方 口～体1/5	口　(16.0) 底　－ 高　(4.3)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰黄	轆轤整形　内外面体部上半施釉、漬け掛け	大原２号窯式期

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第201図 4 PL. 67	平瓦	床直上 破片	胎　並 焼　密 色　にぶい橙	製 桶　不明 一　不明	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　○ 乾　×	轆　× 叩　縄単部分 型	2	笠懸窯　８世紀中葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第201図 5 PL. 67	鉄製品 刀子	床直上 欠損あり	(5.8)	(1.3)	0.5	5	やや小型の刀子
第201図 6 ―――	鉄製品 刀子	床直上 基部欠損	(9.5)	1.6	0.8	10	肉厚だが幅狭で、長めの刀子

13a・b号住居跡（第202・203図、遺構PL.55、遺物PL.67・68）

位置：Ff～Fh－42～44

西壁方位：N－8°－W

規模・形状：本住居跡も重複が激しく、さらに攪乱が上面に存在していたため、明らかでない点もある。また、調査最終時に壁溝が２つに分かれることから、２軒が重複したものであることが判明した。壁溝がより東に延びるものを13ａ号住居跡とし、短いものを13ｂ号住居跡とする。検出部で13ａ号は東西3.98ｍで、13ｂ号は東西2.94ｍであった。西壁は共通の可能性があり、3.03ｍを検出した。形状は隅丸長方形を呈するだろう。壁の高さは0.41ｍである。

カマド：検出されていない。

内部施設：13ａ号は北東角を除く北壁から西壁にかけて、13ｂ号は東壁北部から北壁・西壁にかけて壁

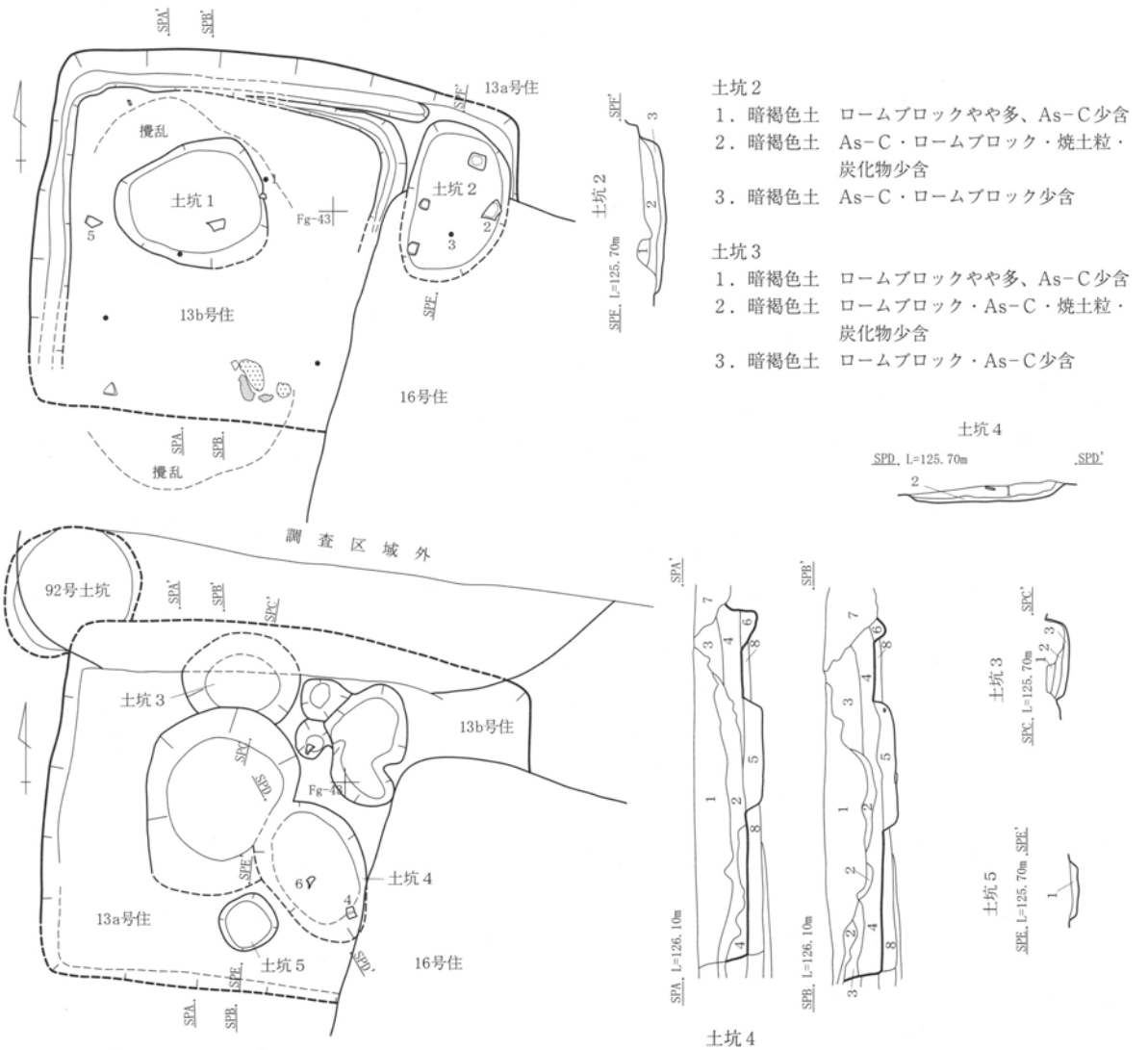
溝が巡る。北壁で２軒の壁溝が重なる。貯蔵穴やピットは検出されていないが、土坑が５基検出された。北東角の土坑２は13ａ号に属するであろうが、他の土坑の帰属はどちらになるのか、明らかでない。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：瓦（№５）は床面直上より出土した。須恵器鉢（№２）、須恵器羽釜（№３）は土坑２から、須恵器羽釜（№４）は土坑４の出土である。

重複遺構：本住居跡の北東角を除く東側で16号住居跡と重複し新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南側で12号住居跡と、北西角で92号土坑と重複するが､本住居跡が新しい。

その他：出土遺物と重複関係より、本住居跡の時期は10世紀後半と判断される。



土坑２
１．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－Ｃ少含
２．暗褐色土　As－Ｃ・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
３．暗褐色土　As－Ｃ・ロームブロック少含

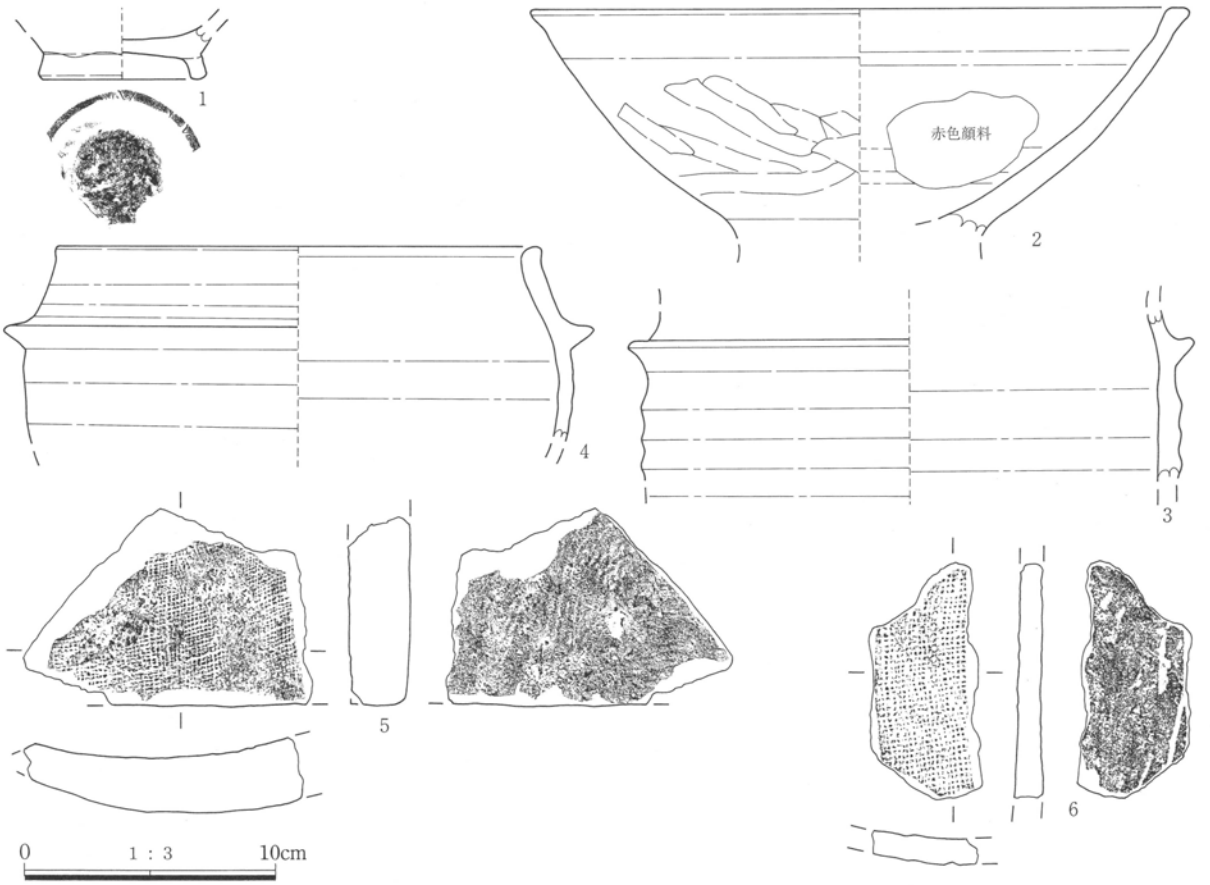
土坑３
１．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－Ｃ少含
２．暗褐色土　ロームブロック・As－Ｃ・焼土粒・炭化物少含
３．暗褐色土　ロームブロック・As－Ｃ少含

13ａ･ｂ号住居跡
１．灰褐色土　細砂質土、撹乱層、締まり弱・粘性なし
２．暗褐色土　細砂質土、粗砂粒やや多、酸化鉄粒子含、撹乱層、粘性なし
３．暗褐色土　As－Ｃやや多、炭化物・焼土粒少含
４．暗褐色土　As－Ｃ・ローム粒・焼土粒少含
５．暗褐色土　As－Ｃ・炭化物・ロームブロック・焼土粒少含
６．暗褐色土　ロームブロックやや多含、締まり弱
７．灰褐色土　砂質土、撹乱層、締まり弱
８．暗褐色土　ロームブロックやや多含、床土、締まりやや強

土坑４
１．暗褐色土　焼土塊多、ロームブロックやや多含、締まり・粘性弱
２．暗褐色土　焼土塊・ロームブロックやや多含、締まり・粘性弱

土坑５
１．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化物少含

第202図　13ａ・ｂ号住居跡



第203図　13号ａ・ｂ住居跡出土遺物

13号a・b住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第203図 1 PL. 67	須恵器 埦	覆土 体～底1/2	口　－ 底　(6.6) 高　(2.1)	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第203図 2 PL. 67	須恵器 鉢	土坑 2 口～体1/5	口　(26.0) 底　－ 高　(9.0)	胎　φ3㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　浅黄	轆轤整形（右回転）　外面：体部ヘラ削り	内面赤色顔料付着
第203図 3 PL. 67	須恵器 羽釜	土坑 2 体1/4	口　－ 底　－ 高　(6.7)	胎　φ4㎜小礫　粗砂粒多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　灰白	轆轤整形	
第203図 4 PL. 68	須恵器 羽釜	土坑 4 口～体上1/8	口　(19.2) 底　－ 高　(7.7)	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	轆轤整形	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第203図 5 PL. 68	平瓦	床直上 破片	胎　並 焼　密 色　灰黄	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄絡消 型	－	吉井窯　9世紀前葉
第203図 6 PL. 68	平瓦	土坑 4 小破片	胎　並 焼　粗 色　灰黄	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	－	非陶土質　9世紀中葉、薄作

14号住居跡（第204～206図、遺構PL.56、遺物PL.68・69）

位置：Ep～Eq－48～50

東壁方位：N－3°－E

規模・形状：他遺構との重複により不明瞭な点もあるが、検出部で3.52m×2.85mあり、南壁がやや長く、隅丸台形を呈する。床面積は7.71㎡、壁の高さは0.62mである。

カマド：東壁中央よりやや南よりに構築されていた。燃焼部の幅は0.65m、張り出しは壁から0.98mであった。礫が出土しているものの、瓦が多くカマドから出土しており、構築材には瓦が主体的に使用されていたと判断できる。

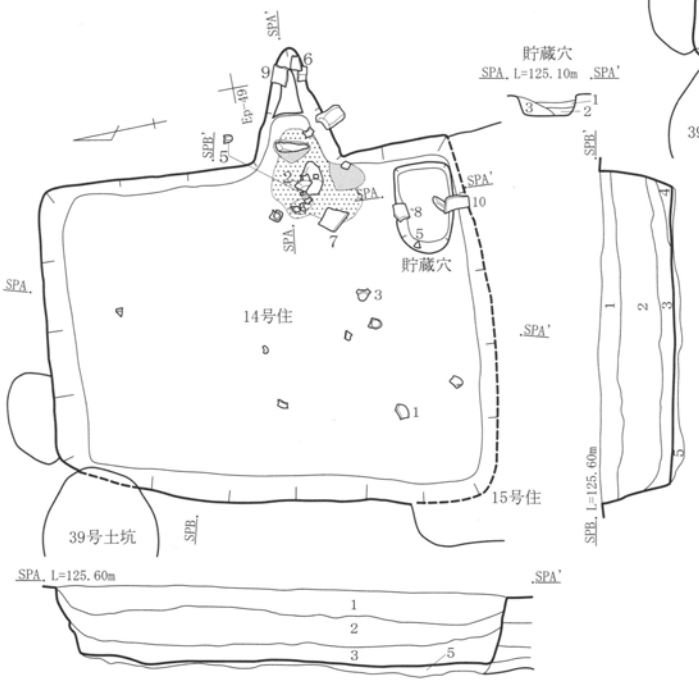
内部施設：壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵穴は南東角にあり、規模は0.72m×0.46m、深度0.1mであった。

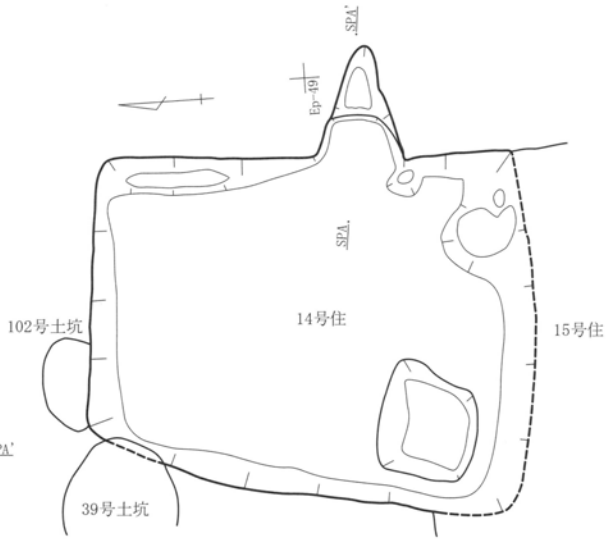
床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器埦（№１）は床面直上からの出土である。カマドでは、須恵器埦（№２）、瓦（№７）が火床から、瓦（№６、８）が煙道部から出土した。また、貯蔵穴からは灰釉陶器（№５）、瓦（№８）が出土した。

重複遺構：本住居跡の南側で15号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。また、北西角で39号土坑と重複するが、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土した須恵器坏などの様相より、本住居跡の時期は10世紀中葉と判断する。

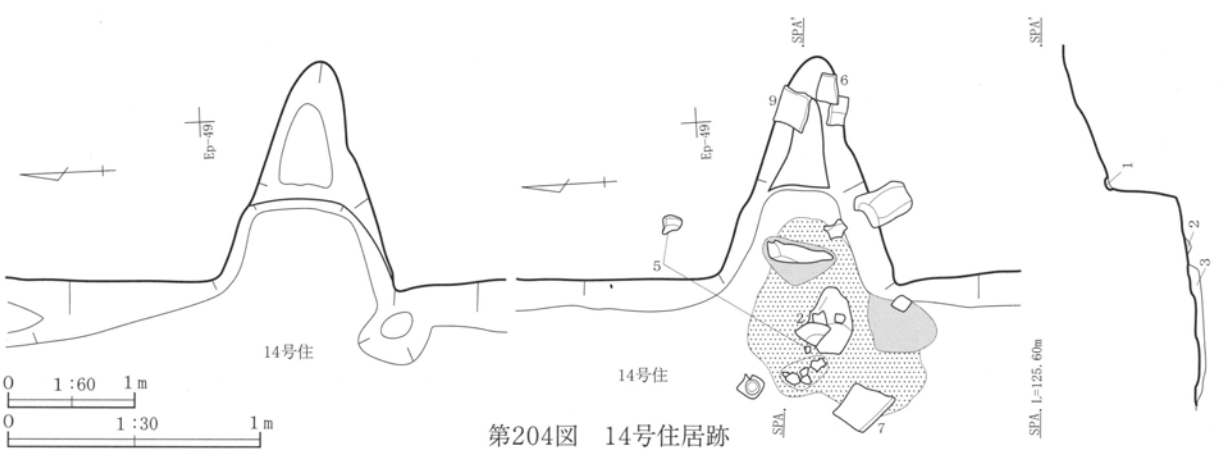




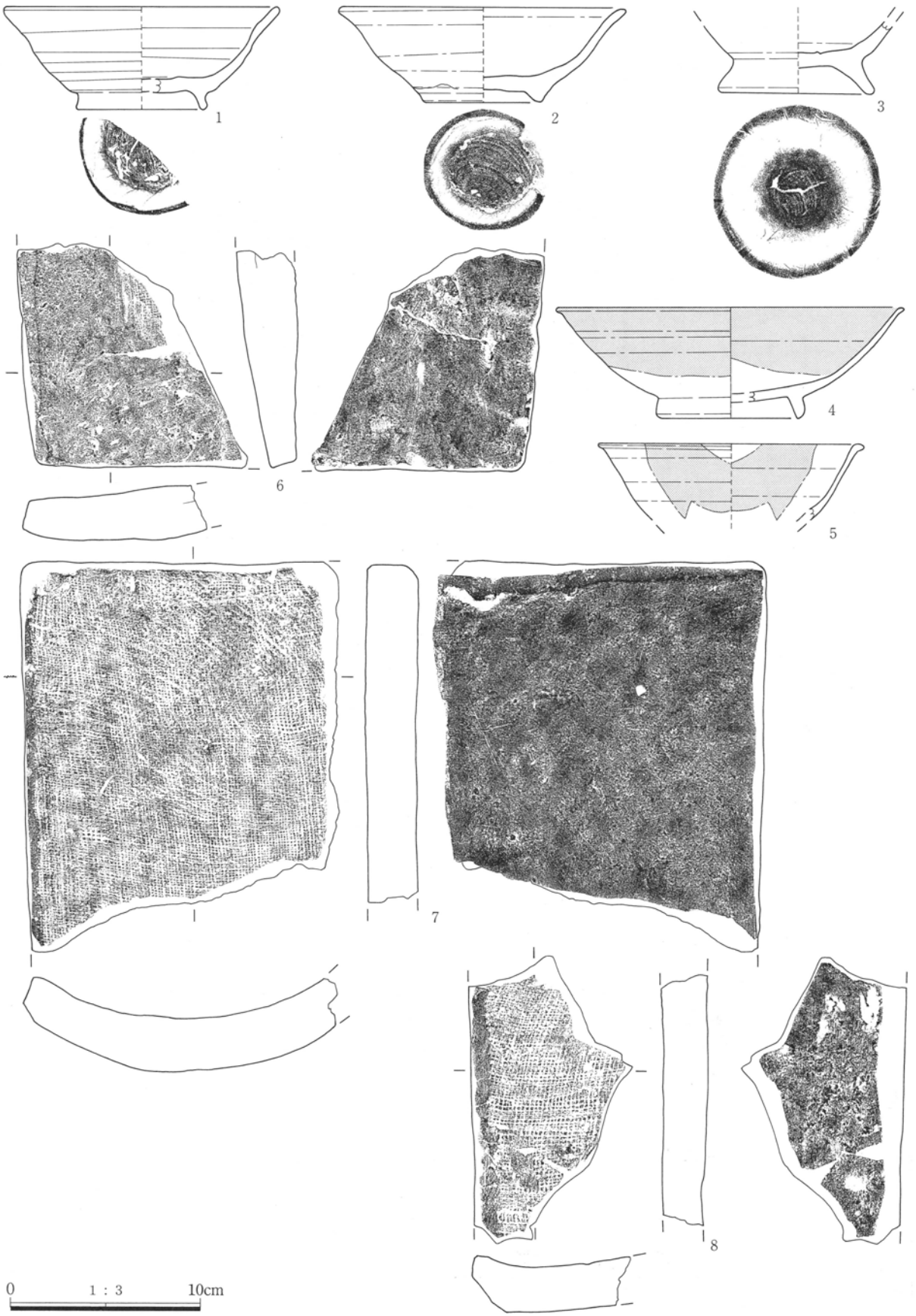
貯蔵穴
1．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含
3．暗褐色土　ロームブロック多含

14号住居跡
1．暗褐色土　As-C・ローム粒少含
2．暗褐色土　As-C・ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含
4．暗褐色土　ロームブロック少含
5．暗褐色土　ロームブロックやや多含、床土、締まり強

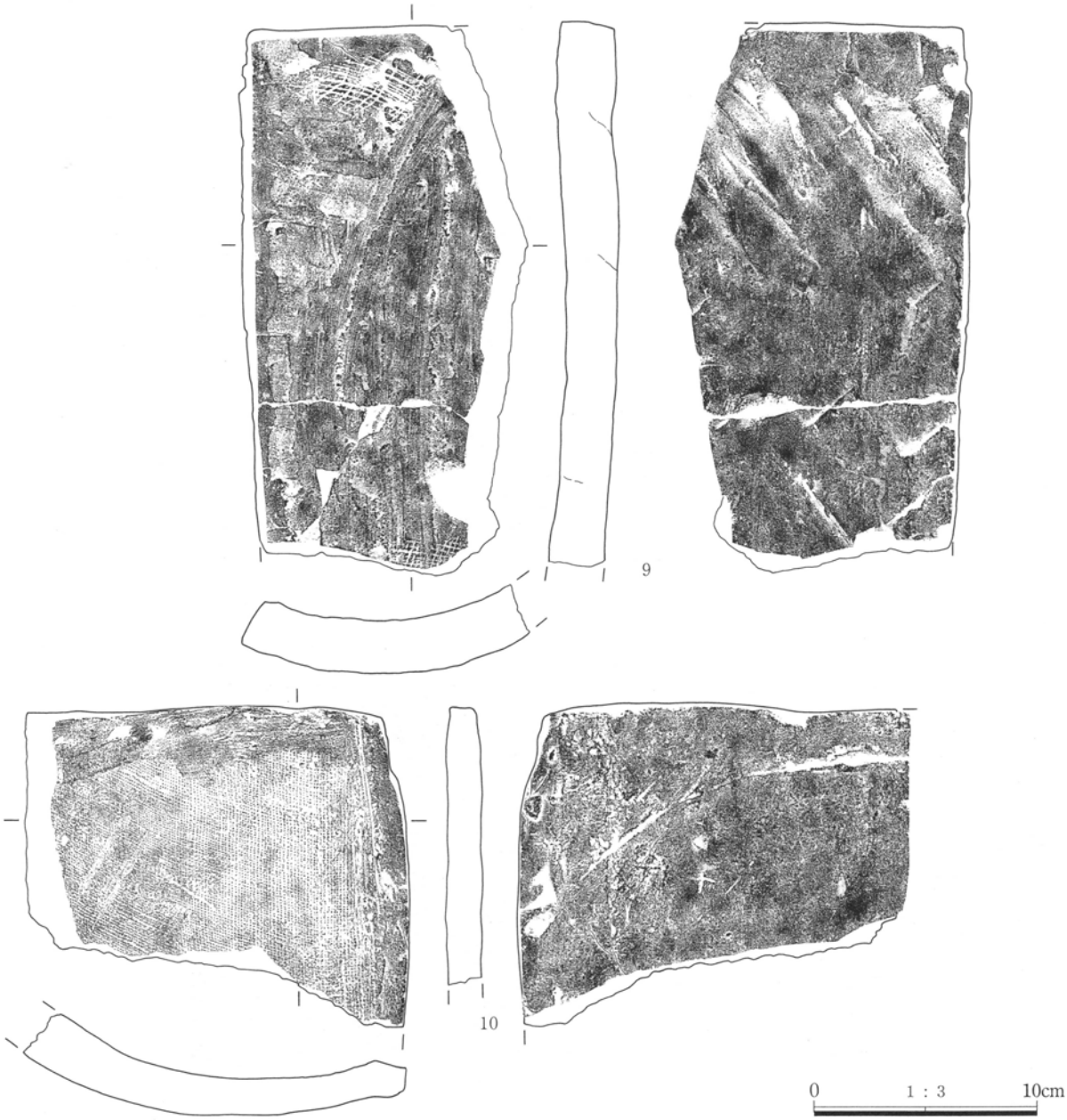
カマド
1．暗赤褐色土　硬化した焼土塊、締まり強・粘性なし
2．黒褐色土　炭化物・灰が主体、締まり強・粘性弱
3．暗褐色土　炭化物・灰が主体、焼土粒少含、締まり強・粘性弱



第204図　14号住居跡



第205図　14号住居跡出土遺物（1）



第206図　14号住居跡出土遺物（２）

14号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第205図１ PL. 68	須恵器 塊	床直上 口～底1/3	口　(14.4) 底　(6.8) 高　5.4	胎　φ5㎜小礫　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第205図２ PL. 68	須恵器 塊	カマド 口～底1/4	口　(15.2) 底　(6.2) 高　(5.1)	胎　砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　やや軟 色　浅黄	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第205図３ PL. 68	須恵器 足高高台塊	覆土 体～底　底完　他1/4	口　－ 底　8.1 高　(3.8)	胎　粗砂粒やや多　白色・赤色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第205図４ PL. 68	灰釉陶器 塊	カマド覆土・住外 口～底2/3	口　18.1 底　7.8 高　5.8	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰黄	轆轤整形　内外面体部施釉、刷毛塗り	光ヶ丘１号窯式期
第205図５ PL. 68	灰釉陶器 塊	貯蔵穴 口～体1/8	口　(13.8) 底　－ 高　(4.0)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　内外面体部施釉、刷毛塗り	光ヶ丘１号窯式期

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第205図 6 PL. 68	平瓦	カマド 破片	胎 並 焼 並 色 にぶい橙	製 桶 不明 一 不明	表 × 裏 × 接 ○	合 × 擦 部分 乾 ×	轆 △ 叩 素文 型	3	笠懸窯　8世紀中葉
第205図 7 PL. 68	平瓦	カマド 破片	胎 硬 焼 密 色 灰	製 桶 ○ 一 一枚	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 横撫 型	2	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初
第205図 8 PL. 68	平瓦	貯蔵穴 破片	胎 締 焼 密 色 灰	製 桶 なし 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 素文 型	3	観音山窯　8世紀後葉～9世紀初
第206図 9 PL. 68	平瓦	カマド 破片	胎 硬 焼 密 色 灰	製 桶 不明 一 あり	表 × 裏 × 接 粘土帯か	合 × 擦 ○ 乾 ×	轆 × 叩 素文 型 タテ撫	3	秋間窯　8世紀後葉～9世紀初
第206図10 PL. 69	平瓦	覆土 破片	胎 並 焼 並 色 にぶい橙	製 桶 なし 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ○瓦端	轆 × 叩 素文 型	2	笠懸窯か吉井窯　8世紀後葉～9世紀前葉

15号住居跡（第207～209図、遺構PL.56、遺物PL.69）

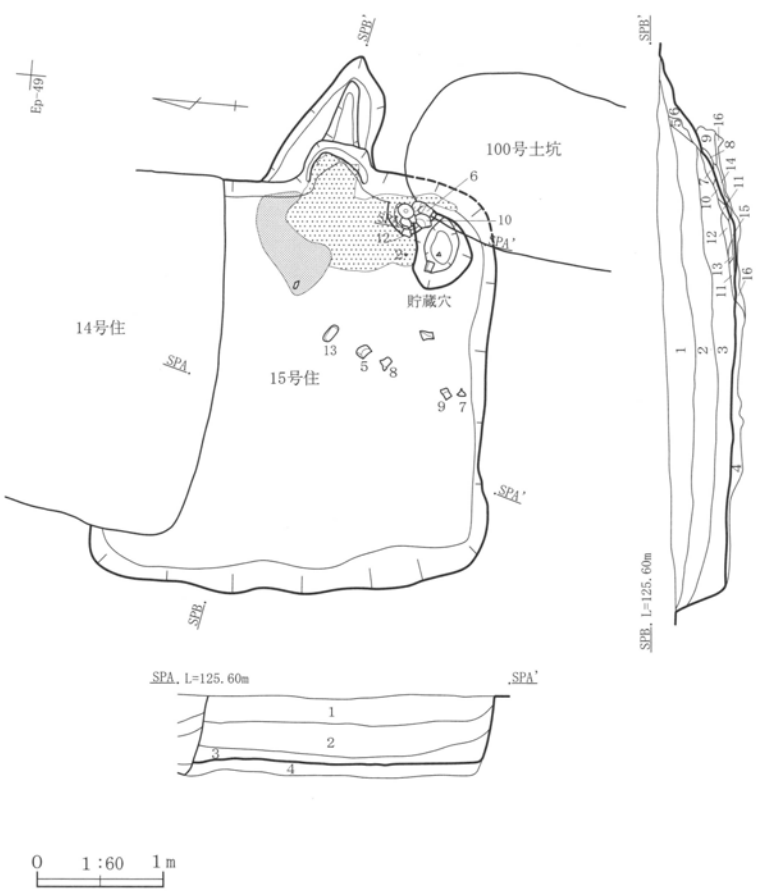
位置：Ep～Eq－49～50

北壁方位：N－87°－E

規模・形状：重複により、一部明らかにできなかった。検出部で3.27m×3.16m、面積は不明である。壁の高さは0.55mである。

カマド：東壁中央よりやや南側で検出した。燃焼部の幅は0.52m、壁からの張り出しは1.12mであった。瓦は貯蔵穴より出土しているが、袖の構築材として使われた可能性がある。

内部施設：壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵



貯蔵穴
1．暗褐色土　ロームブロックやや多含
2．暗褐色土　ロームブロック多含
3．暗褐色土　ロームブロック少含、締まり弱
4．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C少含、締まり強

15号住居跡
1．暗褐色土　ロームブロック・As－Cやや多含
2．暗褐色土　ロームブロック多、As－Cやや多含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C少含、床土、締まり強
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
6．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多含
7．暗褐色土　焼土粒・灰やや多含、粘性弱
8．暗褐色土　灰・炭化物・焼土粒やや多含、粘性弱
9．暗褐色土　灰・炭化物、焼土粒少含、粘性弱
10．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多含
11．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒少含
12．暗褐色土　As－C・ロームブロック・焼土粒少含
13．暗褐色土　焼土粒やや多、ロームブロック・炭化物少含、粘性弱
14．暗褐色土　炭化物・灰主体、締まり強・粘性弱
15．暗褐色土　炭化物・灰多、焼土粒やや多含、締まり強・粘性弱
16．暗褐色土　ロームブロック主体、焼土粒少含

第207図　15号住居跡

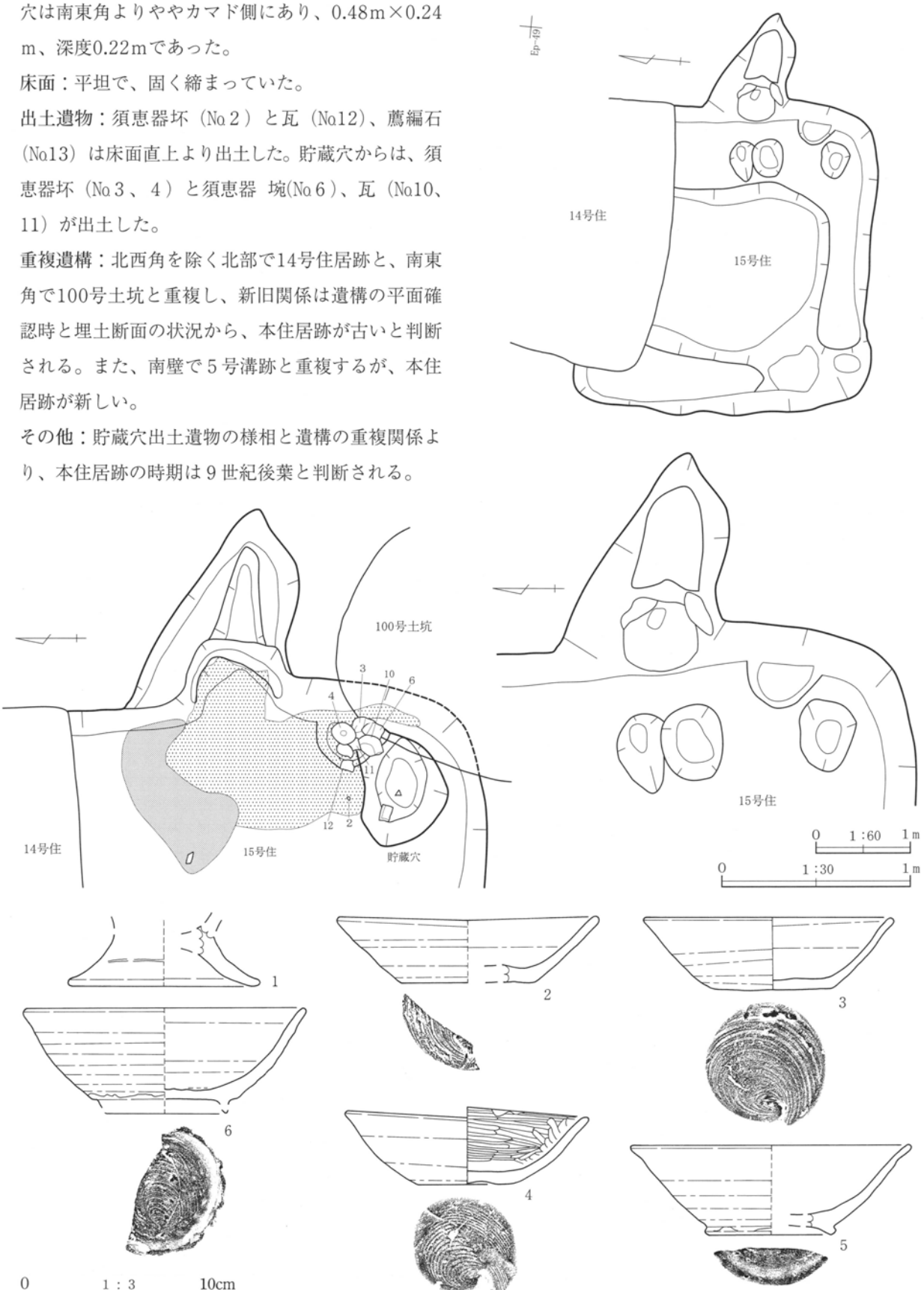
穴は南東角よりややカマド側にあり、0.48m×0.24m、深度0.22mであった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

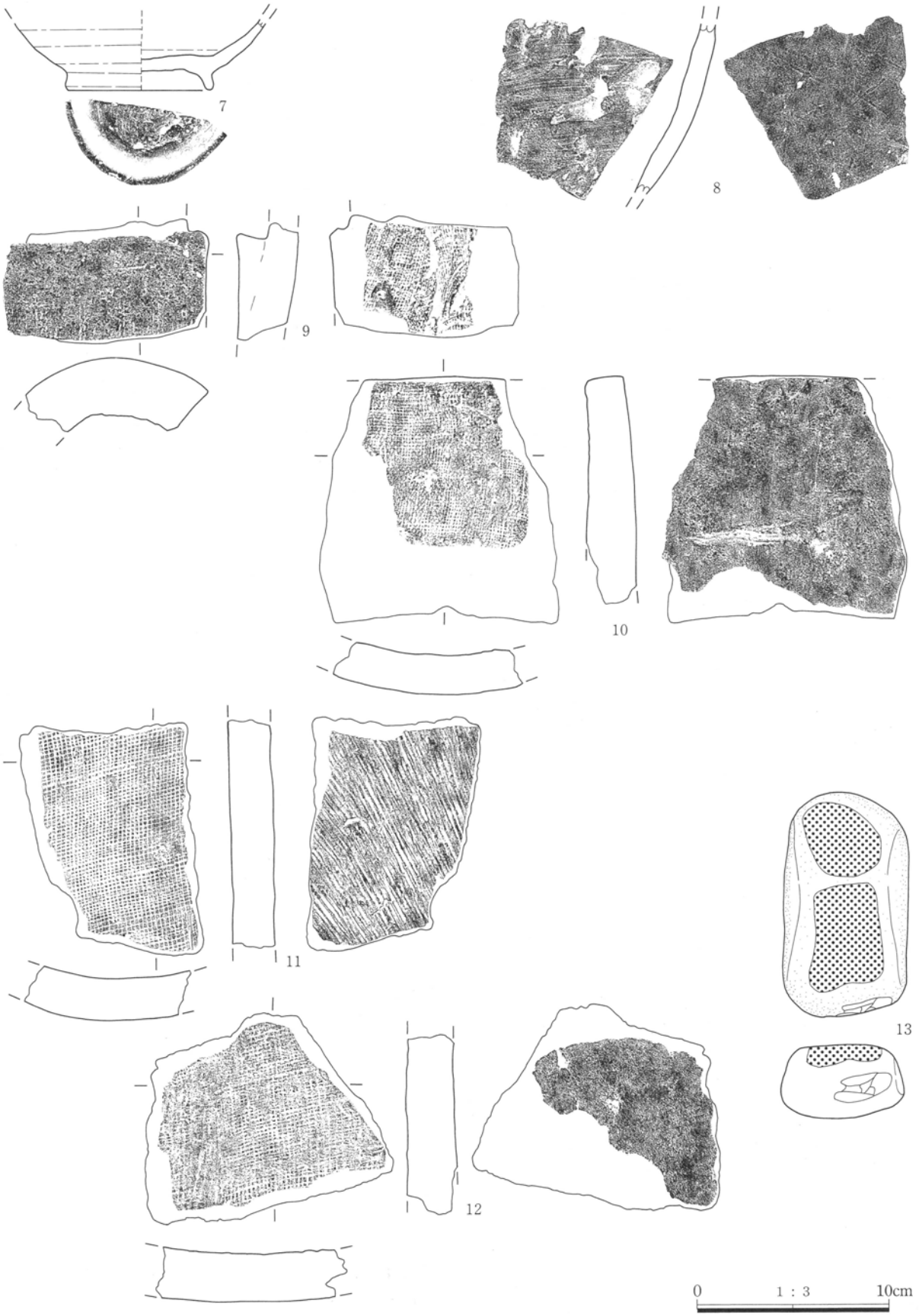
出土遺物：須恵器坏（№２）と瓦（№12）、薦編石（№13）は床面直上より出土した。貯蔵穴からは、須恵器坏（№３、４）と須恵器 埦(№６)、瓦（№10、11）が出土した。

重複遺構：北西角を除く北部で14号住居跡と、南東角で100号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南壁で５号溝跡と重複するが、本住居跡が新しい。

その他：貯蔵穴出土遺物の様相と遺構の重複関係より、本住居跡の時期は９世紀後葉と判断される。



第208図　15号住居跡掘り方、カマド、出土遺物（１）



第209図　15号住居跡出土遺物（2）

15号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第208図 1 PL. 69	土師器 甕	覆土 脚1/4	口　－ 底　(10.2) 高　(3.2)	胎　砂粒やや多　赤色・白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　明赤褐	内外面ナデ	
第208図 2 PL. 69	須恵器 坏	床直上 口～底1/5	口　(13.9) 底　(7.0) 高　3.5	胎　砂粒少　黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第208図 3 PL. 69	須恵器 坏	貯蔵穴 口～底3/4	口　13.2 底　6.0 高　4.0	胎　砂粒少　黒色・白色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	轆轤整形（右回転）　口縁部弱く外反　底部：回転糸切り	内面：口縁部炭化物付着
第208図 4 PL. 69	須恵器 坏	貯蔵穴 ほぼ完	口　12.8 底　5.1 高　4.1	胎　砂粒やや多　白色・赤色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り　内面：黒色、縦横方向のミガキ	内外面口縁部炭化物付着
第208図 5 PL. 69	須恵器 埦	覆土 口～底1/6	口　(14.8) 底　(6.9) 高　4.7	胎　粗砂粒やや多　白色・赤色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第208図 6 PL. 69	須恵器 埦	貯蔵穴 口～底1/2 高台欠損	口　(15.0) 底　－ 高　(5.3)	胎　φ4㎜小礫 粗砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　口縁部外反　底部：回転糸切り後、付け高台	
第209図 7 PL. 69	須恵器 埦	覆土 体～底2/5	口　－ 底　(7.6) 高　(3.6)	胎　φ3㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　底部：切り離し技法不明、付け高台	
第209図 8 PL. 69	須恵器 甕	覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　φ5㎜小礫　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	外面：並行叩き目　内面：横ナデ	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第209図 9 PL. 69	丸瓦 有段	覆土 破片	胎　硬 焼　並 色　灰白	製　2枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　○ 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　縄絡消 型	2	笠懸窯　8世紀後葉
第209図10 PL. 69	平瓦	貯蔵穴 破片	胎　並 焼　並 色　灰	製 桶　○ 一　一枚	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　タテ撫 型	－	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初
第209図11 PL. 69	平瓦	貯蔵穴 破片	胎　締 焼　密 色　暗灰	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　平行 型	－	観音山窯か吉井窯　8世紀後葉～9世紀前葉
第209図12 PL. 69	平瓦	床直上 破片	胎　軟 焼　並 色　橙	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	－	吉井窯　9世紀前葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第209図13 PL. 69	石製品 薦編石か	床直上 ほぼ完	11.6	6.4	3.9	ひん岩	先端部に敲打痕、平坦面は擦られている

16号住居跡（第210・211図、遺構PL.55、遺物PL.69・70）

位置：Ff～Fg－43～44

長軸方位：N－13°30′－E

規模・形状：重複により、一部不明瞭なところもある。検出部で3.50m×3.32m、面積は推定9.28m²で、壁の高さは0.5mである。

カマド：東壁の南角近くで検出した。燃焼部の幅は0.3m、壁からの張り出しは1.24mであった。両脇の袖には礫が残されており構築材として使われていたことがわかる。また、瓦も出土していることから、同様に使用されたと考えられる。

内部施設：壁溝や貯蔵穴は検出できなかった。ピットらしきものが南西角にあり、規模は0.59m×0.52mで、深度0.6mであった。また、床下の中央部西よりには土坑状の落ち込みが２基検出された。

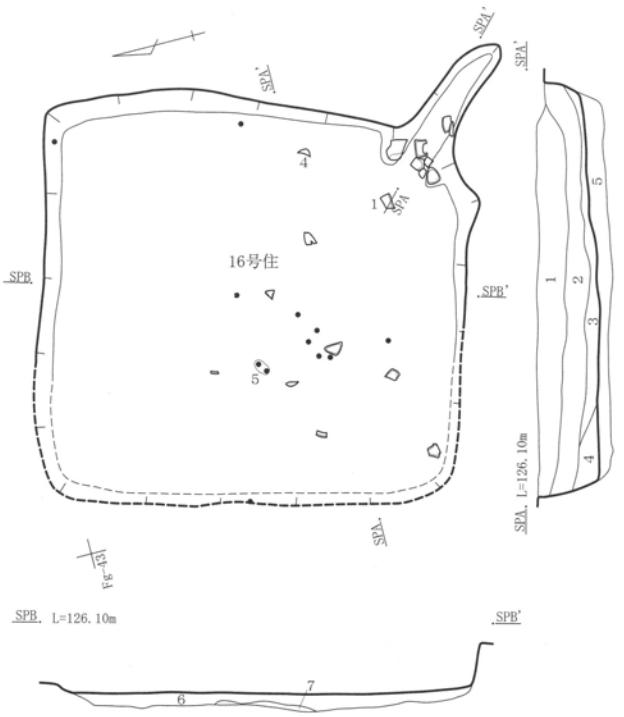
床面：平坦で、固く締まっていた。

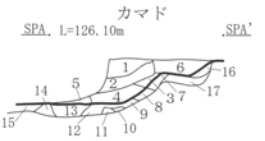
出土遺物：瓦（№６）は掘り方土からの出土で、カマドの袖からは須恵器Ⅲ（№２）、同じく火床から土師器甕（№１）、薦編石（№８）が出土した。須恵器坏（№３）はピットからの出土であった。

重複遺構：西壁付近で13号住居跡と、西壁から南壁にかけて12号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しい

と判断される。

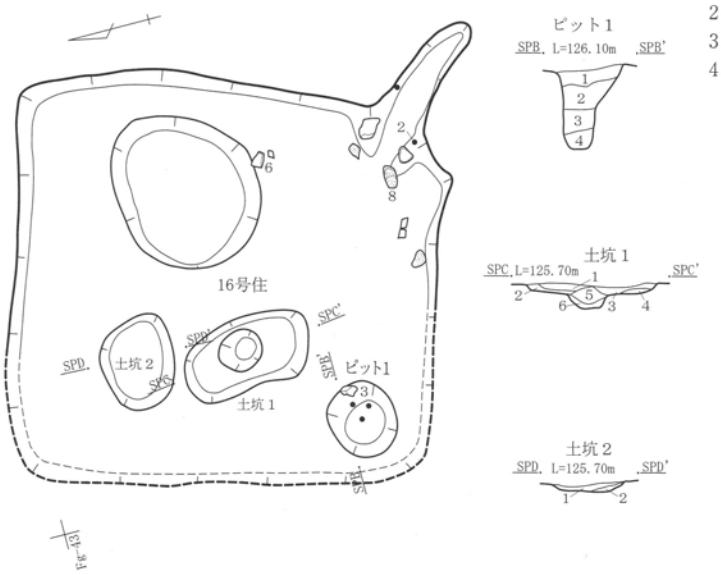
その他：出土した須恵器皿や土師器甕より、本住居跡の時期は11世紀中葉と判断される。





カマド
1．暗褐色土　As−C・焼土粒少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・灰少含、締まり弱
3．暗褐色土　焼土粒やや多、As−C・ロームブロック少含
4．暗褐色土　ロームブロック多、灰・炭化物少含
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
6．暗褐色土　As−Cやや多、炭化物少含
7．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多含
8．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・As−C少含
9．暗褐色土　灰やや多、ロームブロック・焼土粒・As−C少含
10．暗褐色土　ロームブロック多含
11．暗褐色土　ロームブロックやや多含
12．暗褐色土　焼土粒やや多、ロームブロック少含
13．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多含
14．暗褐色土　焼土粒多、ロームブロックやや多含
15．暗褐色土　As−Cやや多、ロームブロック少含
16．暗褐色土　As−C・焼土粒少含
17．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒やや多含

16号住居跡
1．暗褐色土　As−Cやや多、ローム粒・炭化物・焼土粒少含
2．暗褐色土　As−C・ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒少含
3．暗褐色土　As−C・ロームブロック少含、粘性やや強
4．暗褐色土　As−Cやや多、ロームブロック・炭化物・焼土粒少含
5．暗褐色土　As−C・ロームブロック少含、床土、締まり強
6．暗褐色土　As−C・ローム粒・焼土粒少含
7．暗褐色土　ロームブロック多含



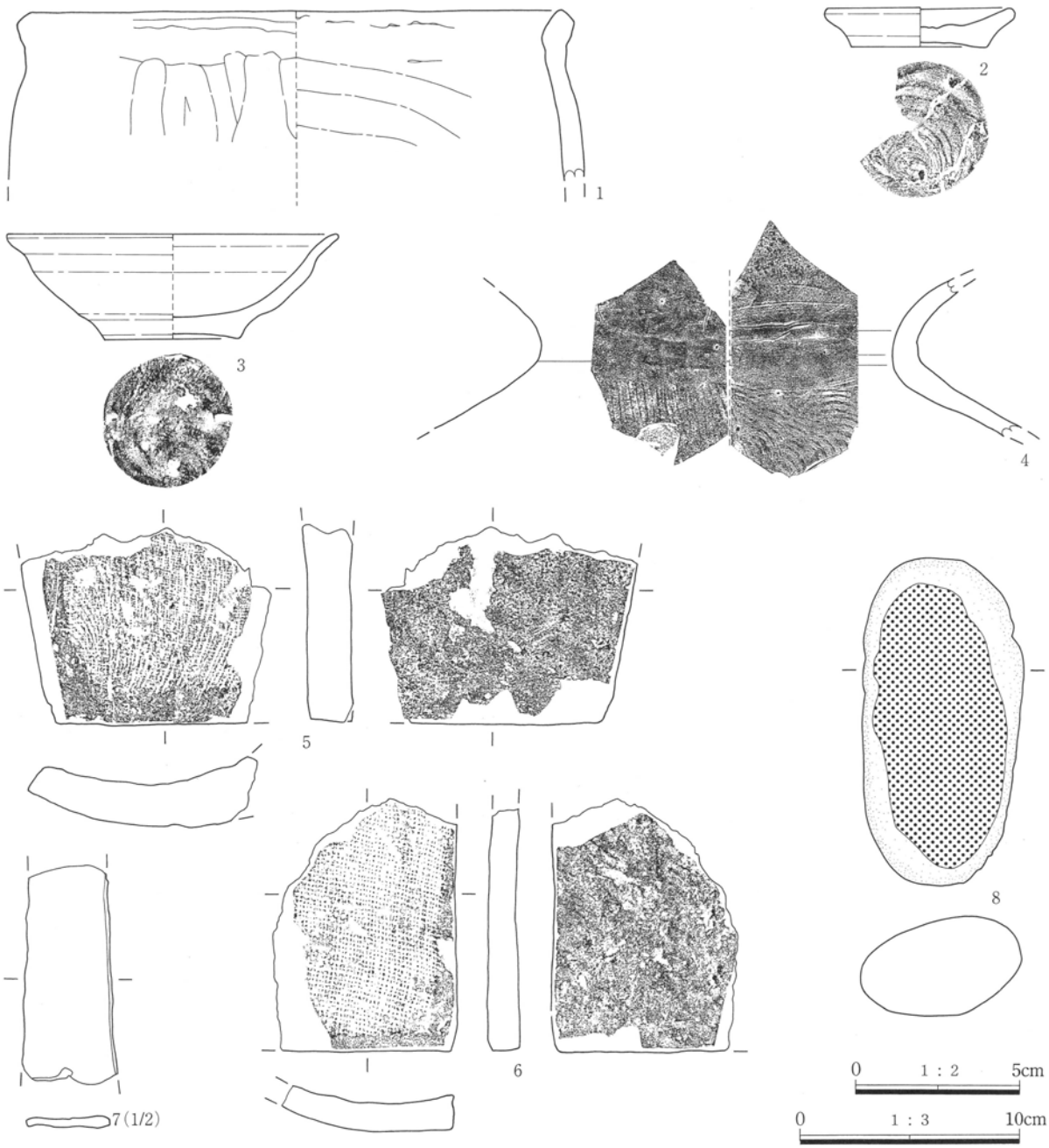
ピット1
1．暗褐色土　ロームブロックやや多、As−C少含
2．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒少含
3．暗褐色土　ロームブロック・As−C少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含、締まり弱

土坑1
1．暗褐色土　焼土粒・炭化物・As−C・ロームブロック少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多、As−C少含
3．暗褐色土　焼土粒多、ロームブロック少含
4．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多含
5．暗褐色土　ロームブロック多含、焼土粒・炭化物少含
6．暗褐色土　ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒少含

土坑2
1．暗褐色土　As−C・焼土粒少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含

0　1:60　1m

第210図　16号住居跡



第211図　16号住居跡出土遺物

16号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第211図１ PL. 69	土師器 甕	カマド 口～体上1/8	口　(25.2) 底　－ 高　(7.7)	胎　φ8㎜小礫 粗砂粒やや多 白・黒・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい褐	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り　内面：横ヘラナデ、輪積み痕残る	
第211図２ PL. 69	須恵器 皿	カマド 口～底3/4	口　8.6 底　6.2 高　1.8	胎　粗砂粒多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第211図３ PL. 70	須恵器 坏	ピット１ 口～底　底 完　他2/5	口　(15.0) 底　8.2 高　4.7	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第211図４ PL. 70	須恵器 甕	覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　(7.2)	胎　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　暗灰	外面：肩部に自然釉付着　内面：青海波文	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第211図5 PL. 70	平瓦	覆土 破片	胎　硬 焼　密 色　暗青灰	製　不明 桶 一　あり	表　× 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	3	吉井窯　9世紀前葉
第211図6 PL. 70	平瓦	掘り方 破片	胎　軟 焼　並 色　にぶい黄橙	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	2	藤岡窯・非陶土質　9世紀中葉、薄作

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第211図7 PL. 70	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(6.5)	2.1	0.3	9	扁平で薄い板状品

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第211図8 PL. 70	石製品 薦編石か	カマド 欠損あり	19.7	7.3	4.5	かんらん岩	平坦面は擦られている　薦編石を袖石に転用したか

17号住居跡（第212図、遺構PL.55、遺物PL.70）

位置：Fg～Fh－43～44

西壁方位：N－13°－E

規模・形状：本住居跡は重複により、ほとんど失われているため、不明瞭なところが多い。重複している他の住居跡の下からカマドなどが確認できたに過ぎない。規模や形状は不明である。

カマド：西壁で検出した。残存部で、燃焼部の幅は0.75m、壁からの張り出しは0.64mであった。

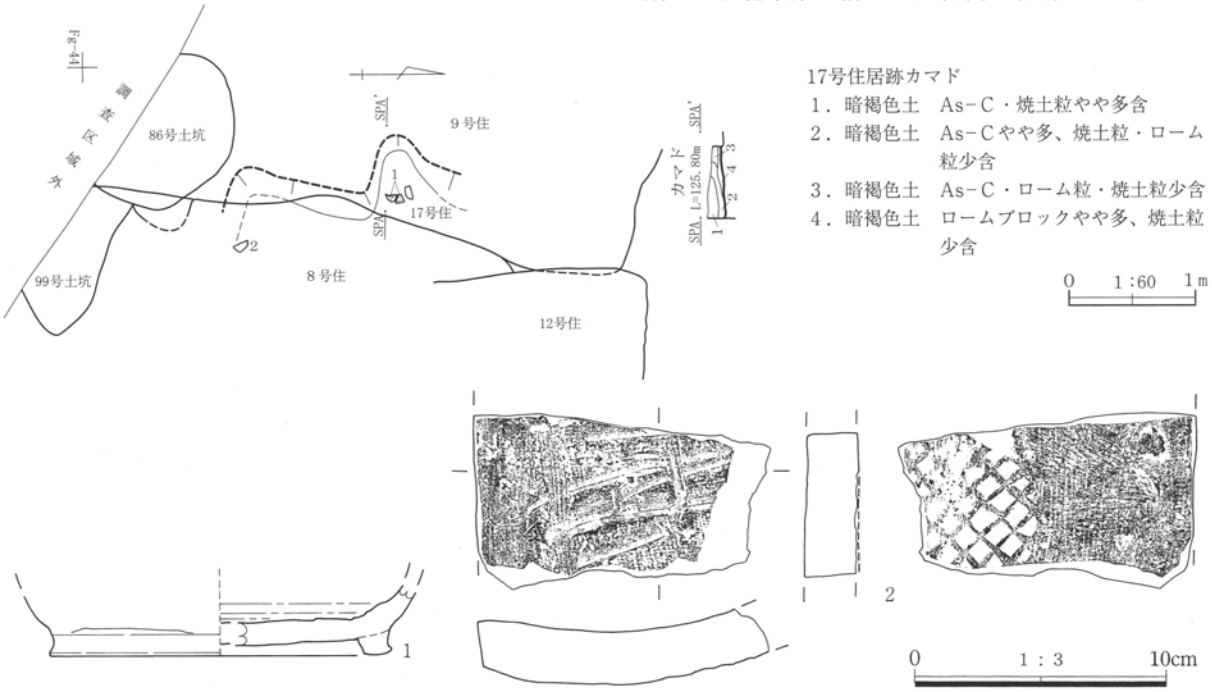
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：ほとんど残存していない。

出土遺物：図示した須恵器壺（№1）や瓦（№2）は、カマドの火床下より出土した。

重複遺構：カマドを含む西壁付近で9号住居跡と、それより東側では8・12号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土遺物は少なく、時期判断は困難である。重複遺構や出土した瓦から考えると、本住居跡の時期は9世紀末葉以前で9世紀代と判断される。



第212図　17号住居跡、出土遺物

17号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第212図１ PL. 70	須恵器 壺	カマド 底1/4	口　－ 底　(13.5) 高　(2.8)	胎　φ3㎜小礫　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：ナデ	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第212図２ PL. 70	平瓦	堀り方 破片	胎　硬 焼　密 色　灰	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩型　部分格子	3	笠懸窯　８世紀後葉～９世紀初

18号住居跡（第213・214図、遺構PL.56、遺物PL.70）

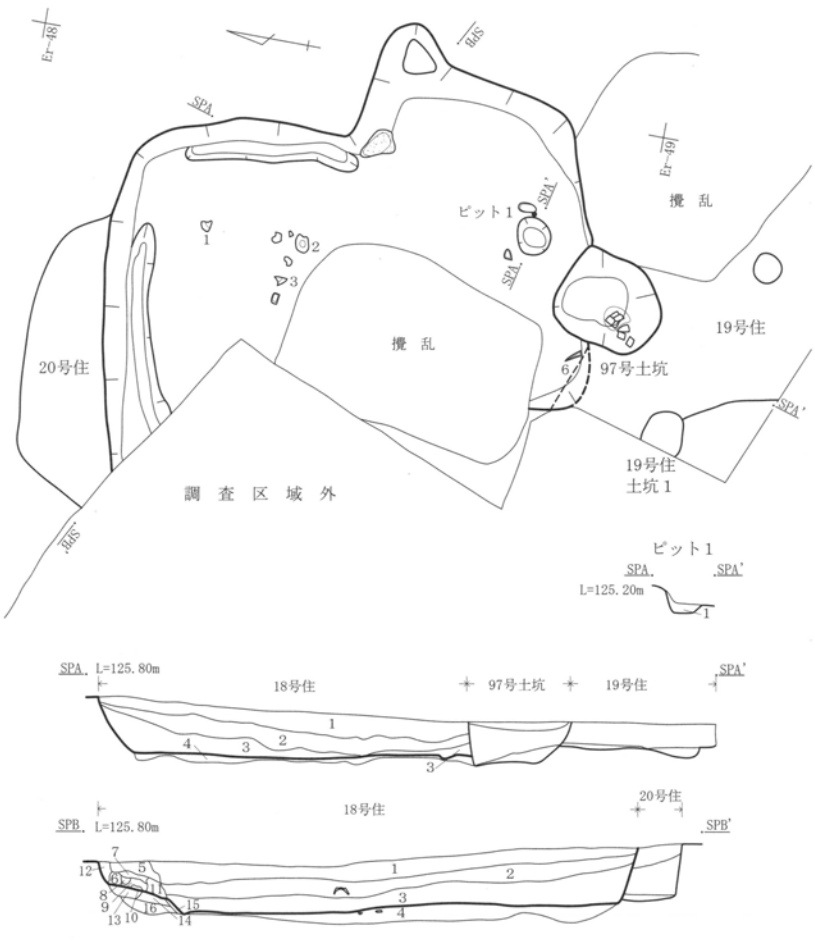
位置：Er～Es－48～49

長軸方位：N－11°－W

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることや攪乱により、一部不明瞭なところもある。検出部で3.88m×2.8m、隅丸長方形に近い形状であろうが、東壁南半が突き出たり、北壁が長く延びるなどやや崩れた形状で検出した。面積は不明で、壁の高さは0.49mである。

カマド：東壁の中央よりやや南で検出した。燃焼部の幅は0.65m、壁からの張り出しは0.8mであった。北側の袖には礫が残されており構築材として使われていたことがわかる。また、出土遺物には瓦も含まれていることから、同様に使用された可能性がある。

内部施設：東壁下北半と、北東角を除く北壁下で、



18号住居跡
1．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒・炭化物・ローム粒少含
2．暗褐色土　As－C・焼土粒・炭化物・ローム粒少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C・焼土粒少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含、床土、締まり強
5．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒少含
6．暗褐色土　焼土粒多、As－C粒少含
7．暗褐色土　焼土粒・As－Cやや多含
8．暗褐色土　焼土粒・As－C少含、床土、締まり強
9．暗褐色土　焼土粒・ロームブロックやや多、As－C少含、床土、締まり強
10．暗褐色土　焼土粒少含
11．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・As－C少含
12．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック・As－C少含
13．暗褐色土　灰やや多、焼土粒少含
14．暗褐色土　灰やや多、焼土粒少含
15．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック多含
16．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含

ピット１
1．暗褐色土　ロームブロックやや多含

0　1:60　1m

第213図　18号住居跡

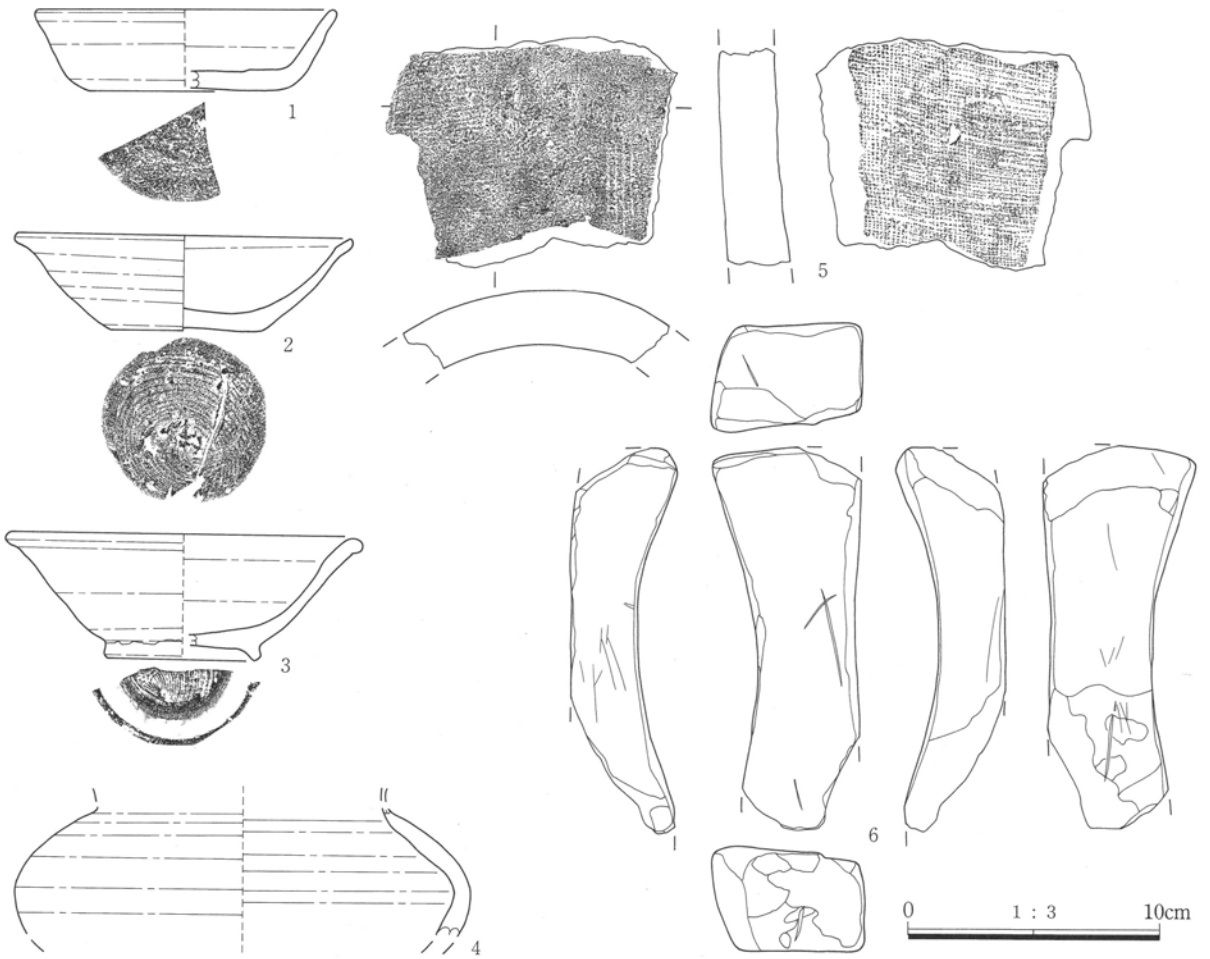
壁溝を検出した。また、ピットと土坑状の落ち込みを１基検出した。貯蔵穴は検出できなかった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器埦（№３）、瓦（№５）、砥石（№６）は床面直上からの出土であった。

重複遺構：北壁付近で20号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。また、南壁付近で19号住居跡と97号土坑と重複するが、平面と埋土の状況から本住居跡が古いと判断される。

その他：出土遺物には古い時期のものも混じるが、床面出土の須恵器埦や瓦が出土していることから、本住居跡の時期は９世紀後葉と判断される。



第214図　18号住居跡出土遺物

18号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第214図１ PL. 70	須恵器 坏	覆土 口～底1/6	口　(12.0) 底　(7.8) 高　3.2	胎　細砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　底部：切り離し技法不明、その後ヘラナデ	
第214図２ PL. 70	須恵器 坏	覆土 口～底3/4	口　13.5 底　6.0 高　3.8	胎　φ3㎜小礫　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　口縁部外反　底部：回転糸切り	内外面　口縁部に炭化物付着
第214図３ PL. 70	須恵器 埦	床直上 口～底2/5	口　(14.2) 底　(6.2) 高　5.0	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　口縁部外反　底部：回転糸切り後、付け高台	
第214図４ PL. 70	須恵器 壺	覆土 体1/8	口　－ 底　－ 高　(5.0)	胎　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形　外面：部分的に自然釉付着	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第214図５ PL. 70	丸瓦	床直上 破片	胎　並 焼　並 色　灰	製　２枚 桶 一　なし	表　× 裏　？ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	－	観音山窯か笠懸窯　８世紀後葉～９世紀前葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第214図６ PL. 70	石製品 砥石	床直上 両端部欠損	(15.2)	5.9	2.6	砥沢石	欠損部を除く、ほぼ全面が使用面　溝状の切り込みが入る

19号住居跡（第215・216図、遺構PL.56、遺物PL.70）

位置：Er～Es－49～50

東壁方位：N－13°－E

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることや攪乱により、不明瞭なところが多い。規模や形状、面積は不明で、壁の高さは0.28mである。

カマド：東壁で検出した。攪乱により燃焼部の幅は不明で、壁からの張り出しは1.27m以上であろう。南側の袖には瓦が残されており構築材として使われていたことがわかる。

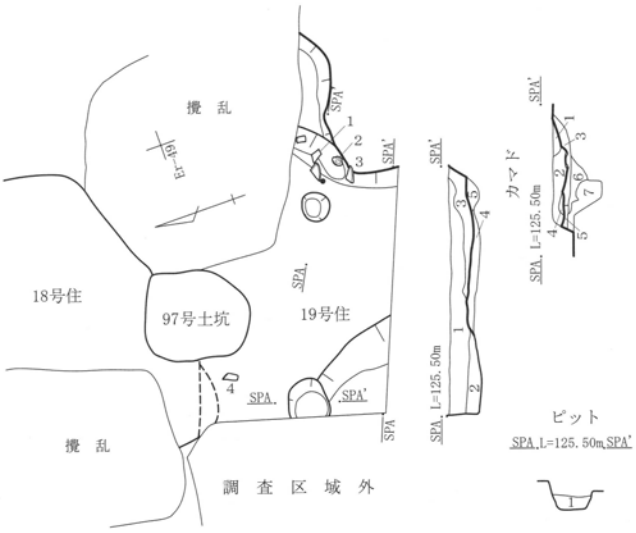
内部施設：壁溝や貯蔵穴は検出できなかった。また、検出部西端ではピットと土坑状の落ち込みが１基検出された。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（№１）はカマドの火床から、灰釉陶器長頸壺（№２）、瓦（№３）はカマドの袖から出土した。

重複遺構：北壁で18号住居跡と97号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡は18号住居跡より新しく、97号土坑より古いと判断される。

その他：出土した土師器甕より、本住居跡の時期は10世紀中葉と判断される。

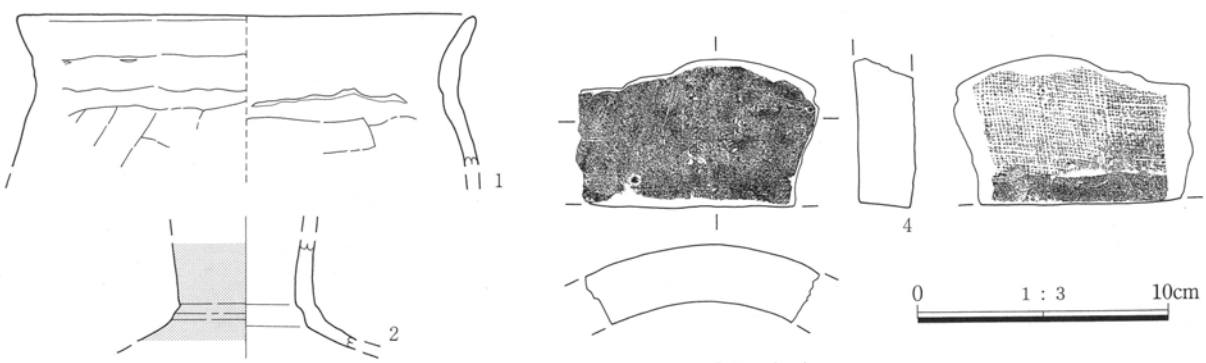


19号住居跡
1．暗褐色土　As-C・ロームブロック・炭化物少含
2．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
3．暗褐色土　灰やや多、ロームブロック少含
4．暗褐色土　ロームブロック少含、床土、締まり強
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含

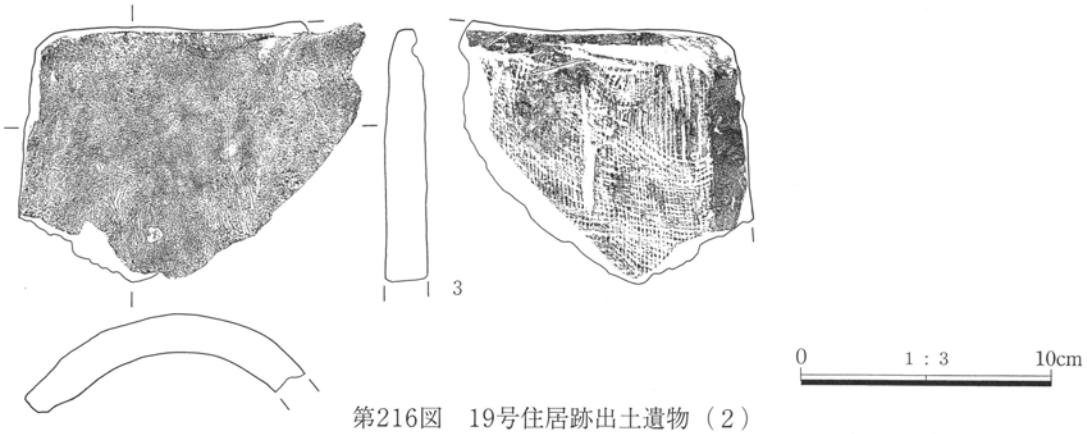
カマド
1．暗褐色土　焼土粒・灰少含
2．暗褐色土　灰やや多、ロームブロック・焼土粒少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
5．暗褐色土　灰多、炭化物・焼土粒少含、粘性弱
6．暗褐色土　灰・焼土粒・ロームブロックやや多含
7．暗褐色土　炭化物・ロームブロックやや多、焼土粒少含、締まり・粘性弱

ピット１
1．暗褐色土　ロームブロックやや多含

0　1:60　1m



第215図　19号住居跡、出土遺物（１）



第216図　19号住居跡出土遺物（2）

19号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第215図 1 PL. 70	土師器 甕	カマド 口～体上1/5	口　(18.2) 底　－ 高　(6.0)	胎　粗砂粒少　黒色・赤色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　明赤褐	外面：口縁部横ナデ、輪積み痕、体部ヘラ削り　内面：横ヘラナデ、輪積み痕	
第215図 2 PL. 70	灰釉陶器 長頸壺	カマド 頸下ほぼ完	口　－ 底　－ 高　(4.2)	胎　φ3㎜小礫　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面：残存部全体施釉	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第216図 3 PL. 70	丸瓦	カマド 破片	胎　並 焼　並 色　にぶい橙	製　不明 桶 一　あり	表　× 裏　○ 接　×	合　△ 擦　× 乾　×	轆　△ 叩　縄消 型	3	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初
第215図 4 PL. 70	丸瓦	覆土 小破片	胎　締 焼　並 色　灰	製　2枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	－	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初

20号住居跡（第217図、遺構PL.56）

位置：Er～Es－48～49

北壁方位：N－88°－E

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることや、大半が重複遺構により失われているため、詳細は明らかにできなかった。規模や形状、面積は不明で、壁の高さは0.40mである。

カマド：検出されていない。

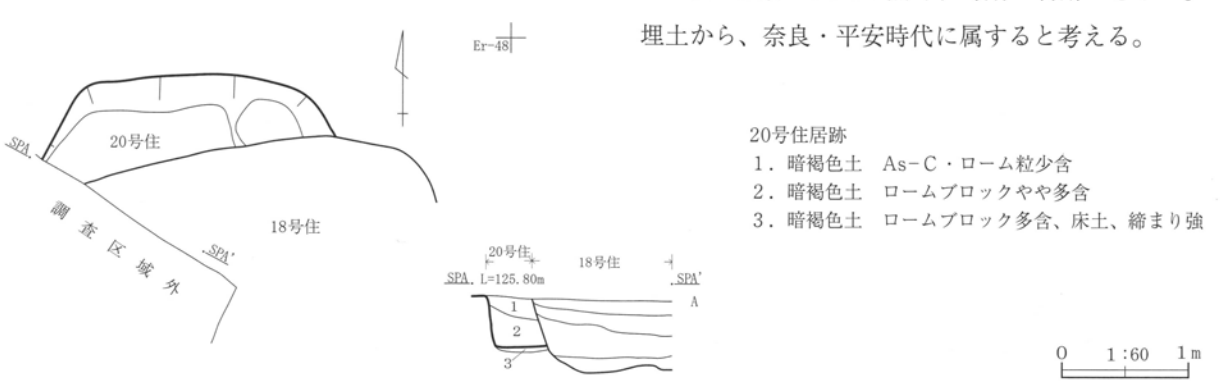
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：残存部では平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：出土していない。

重複遺構：北壁付近を除く大半で18号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：遺物の出土が無く、時期は判断できない。埋土から、奈良・平安時代に属すると考える。



20号住居跡
1．暗褐色土　As-C・ローム粒少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含
3．暗褐色土　ロームブロック多含、床土、締まり強

第217図　20号住居跡

21号住居跡（第218図、遺構PL.56、遺物PL.71）

位置：Fj～Fl－39～40

南壁方位：N－81°－E

規模・形状：本住居跡は半分以上が調査区域外にまで広がるため、一部不明瞭なところもある。検出部で東西3.05m×南北2.07m、隅丸方形を呈すると考えられる。面積は3.86m²検出し、壁の高さは0.15mである。

カマド：東壁の南東角近くに構築されていた。ほとんどが調査区域外に広がるため、一部を検出したに過ぎない。壁からの張り出しは0.21mだけ検出した。

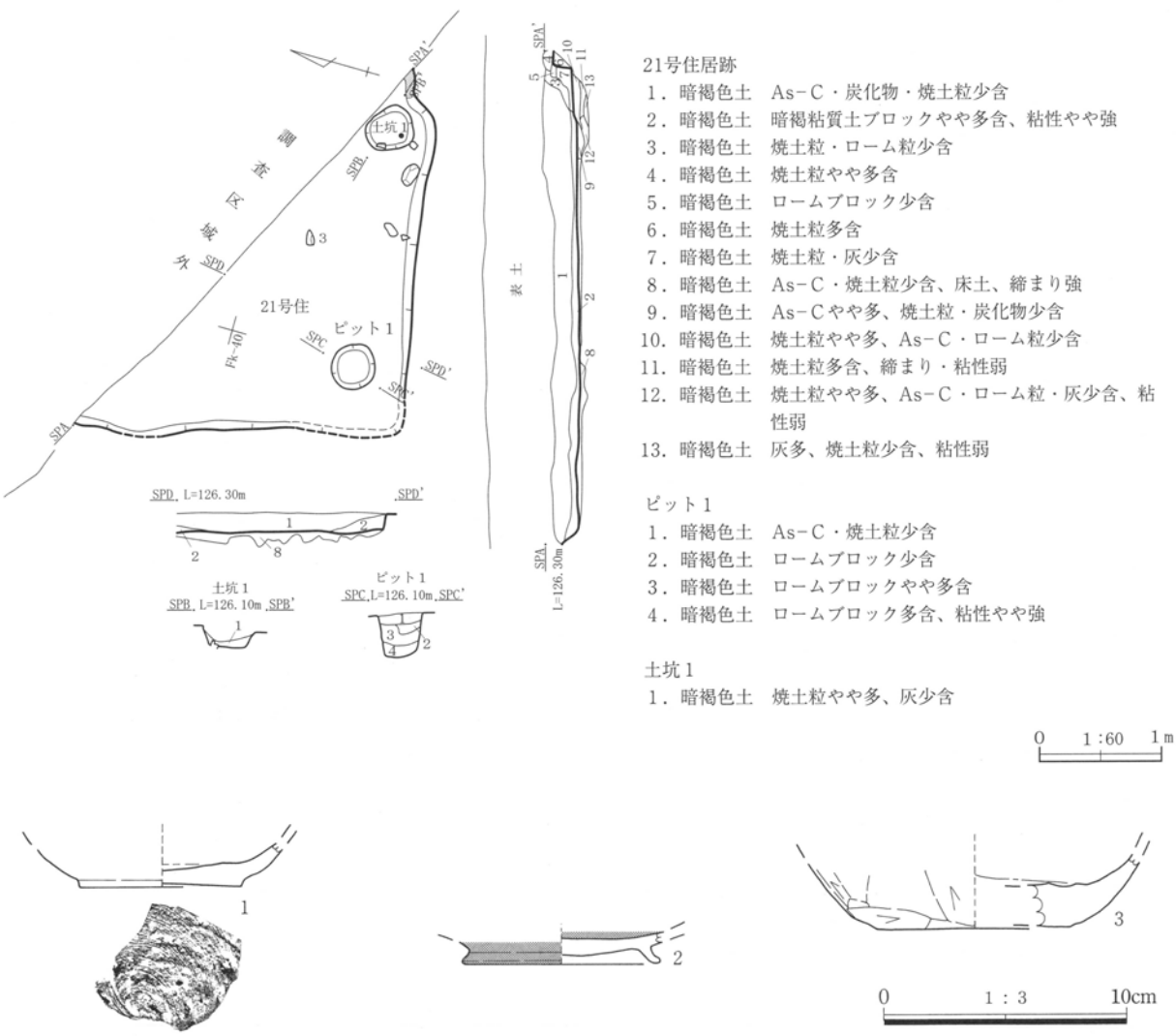
内部施設：壁溝は検出できなかった。貯蔵穴は南東角にあり、規模は0.39m×0.33m、深度0.2mであった。ピットは南西角で１基検出し、0.4m×3.6m、深度は0.36mであった。

床面：平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：須恵器羽釜？（№３）は床面直上からの出土であった。貯蔵穴からは、須恵器坏（№２）が出土した。

重複遺構：南西角で22・24号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他：貯蔵穴出土の須恵器坏は古い時期のものと考えられるが、他に出土した須恵器羽釜？から、本住居跡の時期は10世紀後半と判断される。



第218図　21号住居跡、出土遺物

21号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第218図 1 PL. 71	須恵器 坏	貯蔵穴覆土 体下～底1/4	口　－ 底　(6.6) 高　(1.7)	胎　砂粒少　黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰黄	轆轤整形（右回転）　口縁部外反　底部：回転糸切り	
第218図 2 PL. 71	緑釉陶器 皿	覆土 体～底1/6	口　－ 底　(8.0) 高　(1.3)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰黄	轆轤整形　底部も含めて、残存部内外面施釉	猿投窯
第218図 3 PL. 71	須恵器 羽釜か甕	床直上 体下～底1/3	口　－ 底　(8.0) 高　(3.0)	胎　φ4mm小礫　粗砂粒多　白・黒・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	轆轤整形か　外面：体部ヘラ削り	

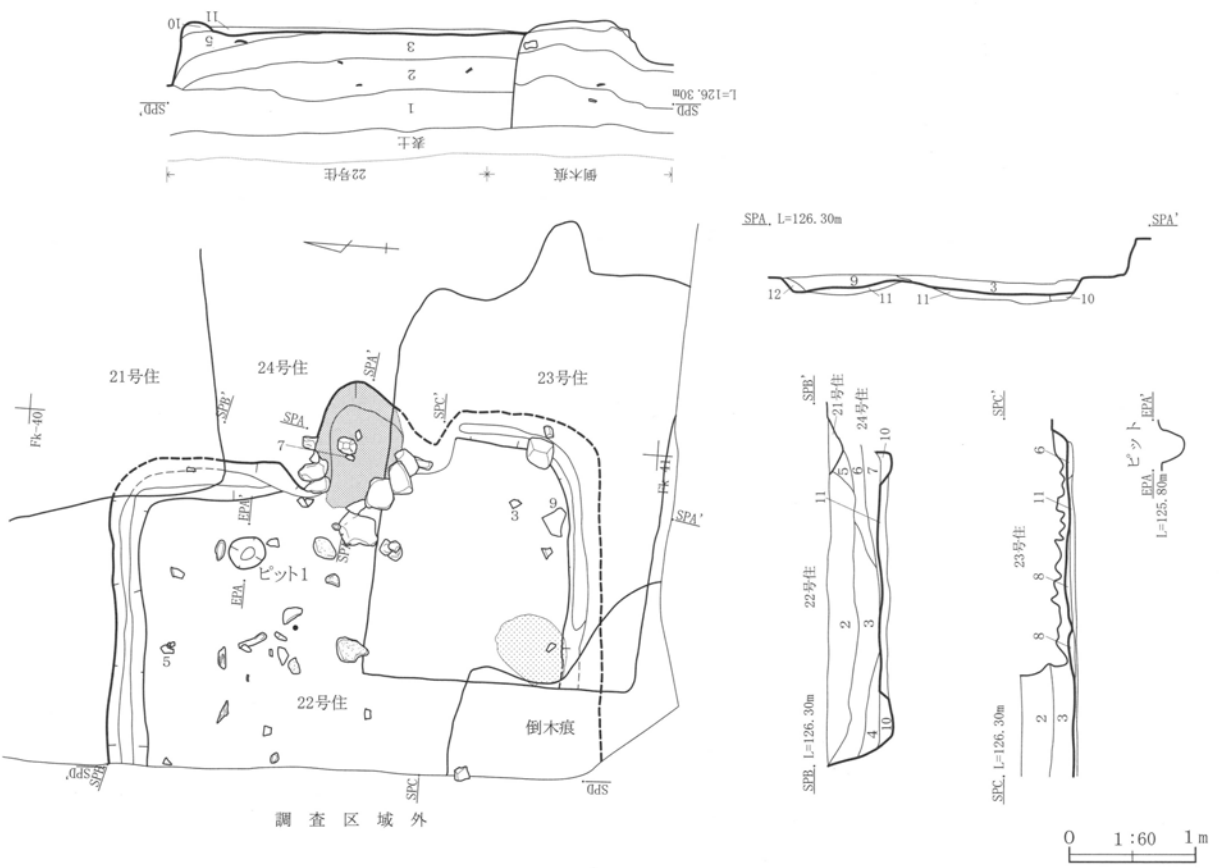
22号住居跡（第219～222図、遺構PL.56、遺物PL.71）

位置：Fj～Fl－40～41

東壁方位：N－12°－W

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がることや重複遺構などにより、一部不明瞭なところもある。検出部で南北3.95m×東西2.35m、隅丸方形に近い形状であろうが、東壁南半がやや突き出ている。面積は検出部で8.14㎡、壁の高さは0.45mである。

カマド：東壁のほぼ中央で検出した。燃焼部の幅は



22号住居跡

1．暗褐色土　As－B・As－C少含、締まり・粘性弱
2．暗褐色土　As－Cやや多、炭化物・焼土粒少含
3．暗褐色土　As－C・炭化物・焼土粒・ローム粒少含
4．暗褐色土　As－C・焼土粒・ローム粒極少含
5．暗褐色土　As－C・焼土粒やや多含
6．暗褐色土　As－C・焼土粒・ローム粒少含
7．暗褐色土　As－C・ロームブロック・焼土粒少含
8．暗褐色土　焼土粒少含
9．暗褐色土　焼土粒やや多、ロームブロック少含
10．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒少含
11．暗褐色土　As－C・焼土粒・ロームブロックやや多含、床土、締まり強
12．暗赤褐色土　焼土粒多含、締まりやや強・粘性弱

第219図　22号住居跡

0.92m、壁からの張り出しは0.85mであった。袖には礫が残されており構築材として使われていたことがわかる。

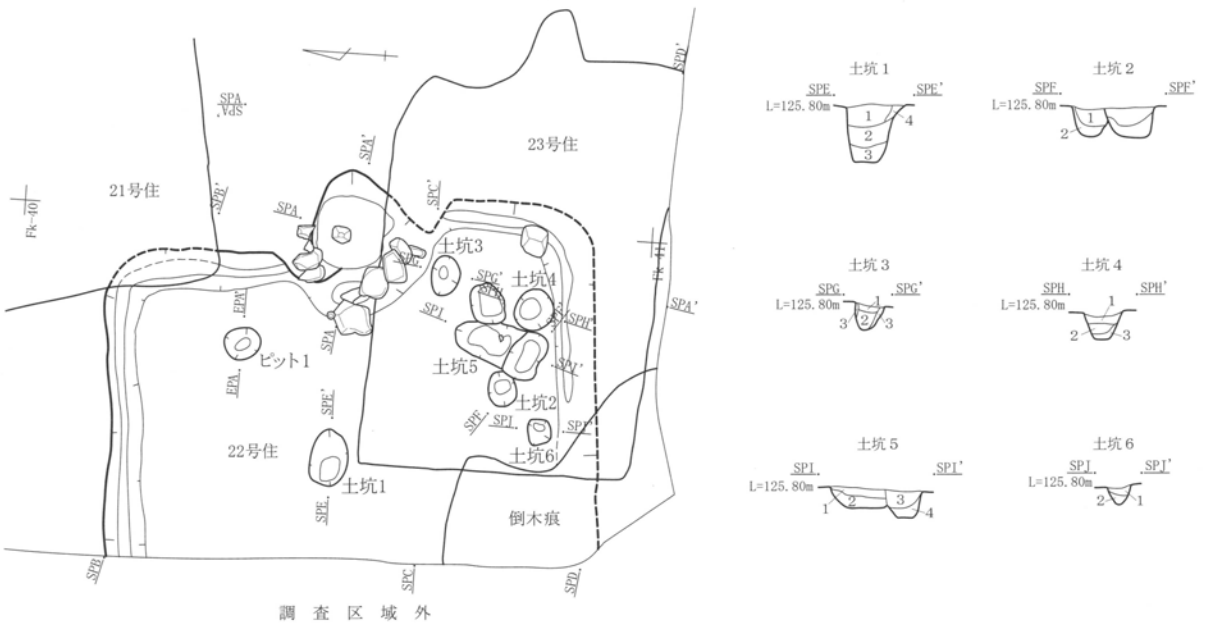
内部施設：カマドを除く北壁、東壁、南壁東側下で、壁溝を検出した。ピットらしき坑が北東角のやや南よりで１基検出された。0.28m×0.24mで深度0.2mであった。他に８基、掘り方面でピット状の落ち込みを検出した。貯蔵穴は検出できなかった。

床面：やや凹凸があり、固く締まっていた。

出土遺物：土師器坏（№５）、須恵器甕（№９）は床面直上からの出土であった。土師器甕（№７）はカマドの火床から出土した。

重複遺構：北東角で21号住居跡と、南東部で23号住居跡と、南西部で倒木痕と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、東壁中央付近で24号住居跡と重複するが、平面と埋土の状況から本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土遺物には覆土からのものが多いが、床面やカマド出土の土師器坏・甕より、本住居跡の時期は８世紀中葉と判断される。



土坑１
１．暗褐色土　As－C・炭化物・焼土粒・ロームブロック少含
２．暗褐色土　炭化物・As－C・ロームブロック少含、締まり強
３．暗褐色土　ロームブロックやや多含、粘性やや強
４．暗褐色土　ロームブロック多含、粘性やや強

土坑２
１．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C・焼土粒・炭化物少含
２．暗褐色土　ロームブロック・炭化物少含

土坑３
１．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含
２．暗褐色土　ロームブロック・As－C・焼土粒少含
３．暗褐色土　ロームブロック少含

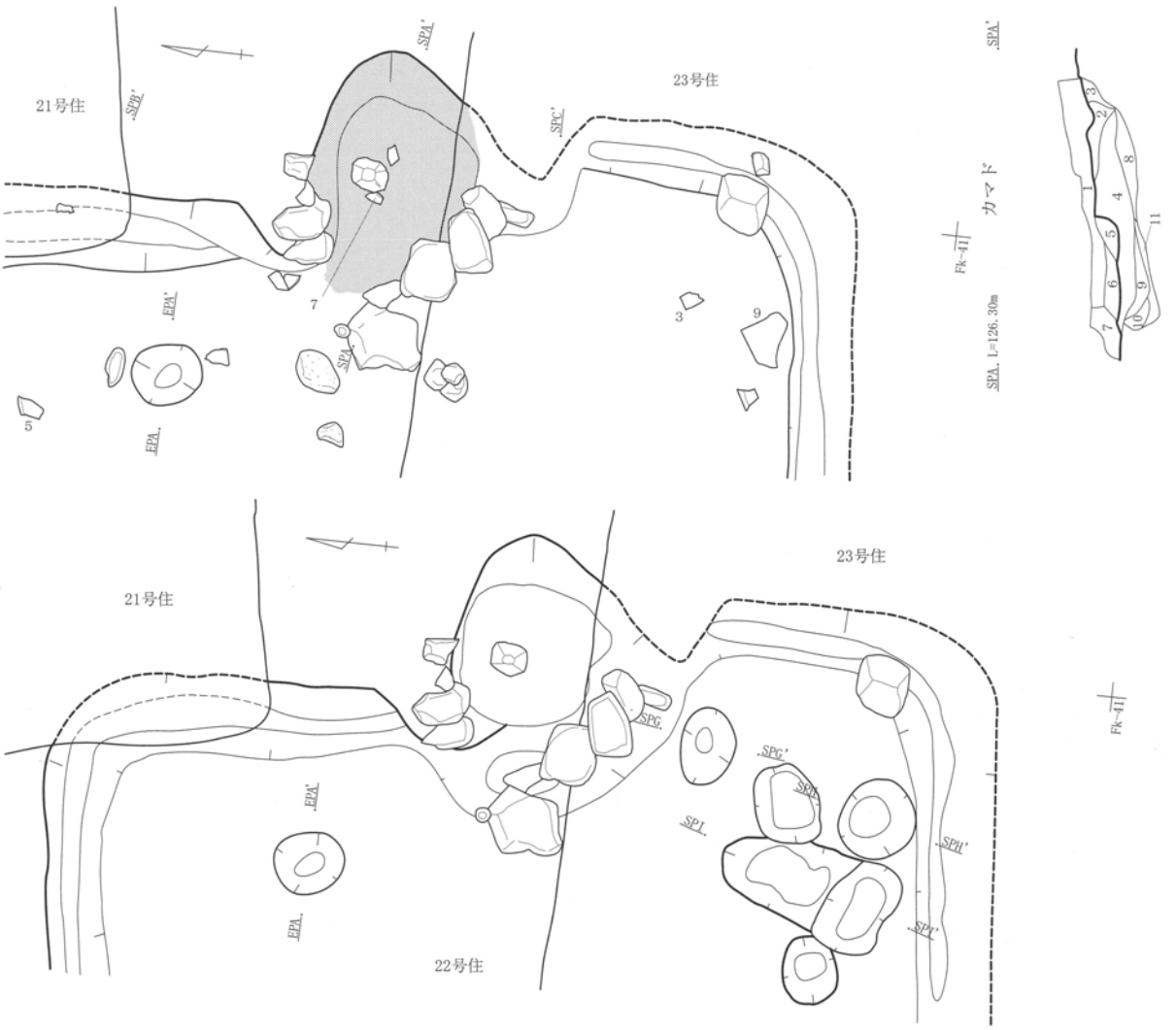
土坑４
１．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック・As－C少含
２．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
３．暗褐色土　ロームブロック少含

土坑５
１．暗褐色土　焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
２．暗褐色土　ロームブロックやや多含
３．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C・焼土粒・炭化物少含
４．暗褐色土　ロームブロック・炭化物少含

土坑６
１．暗褐色土　炭化物・ロームブロック・As－C少含
２．暗褐色土　炭化物・ロームブロック少含

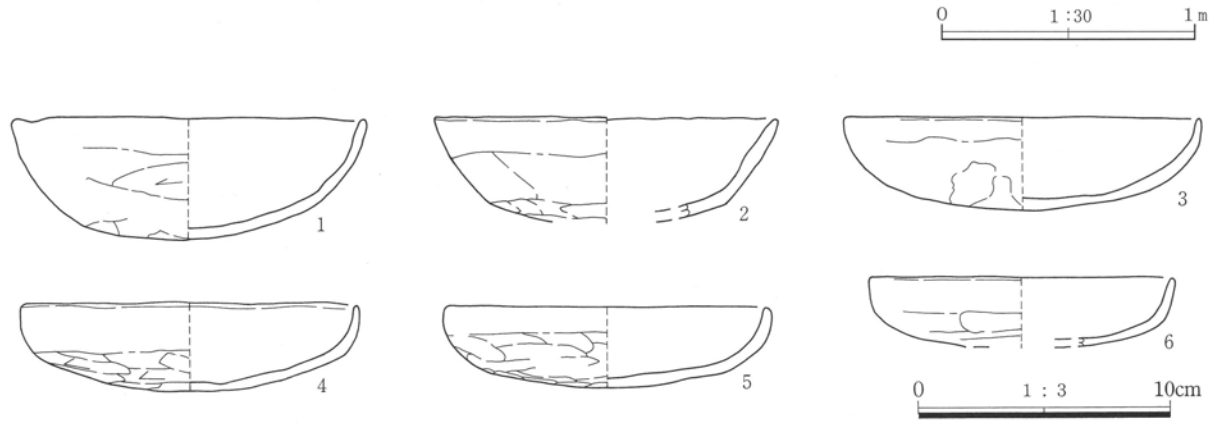
0　1:60　1m

第242図　22号住居跡掘り方

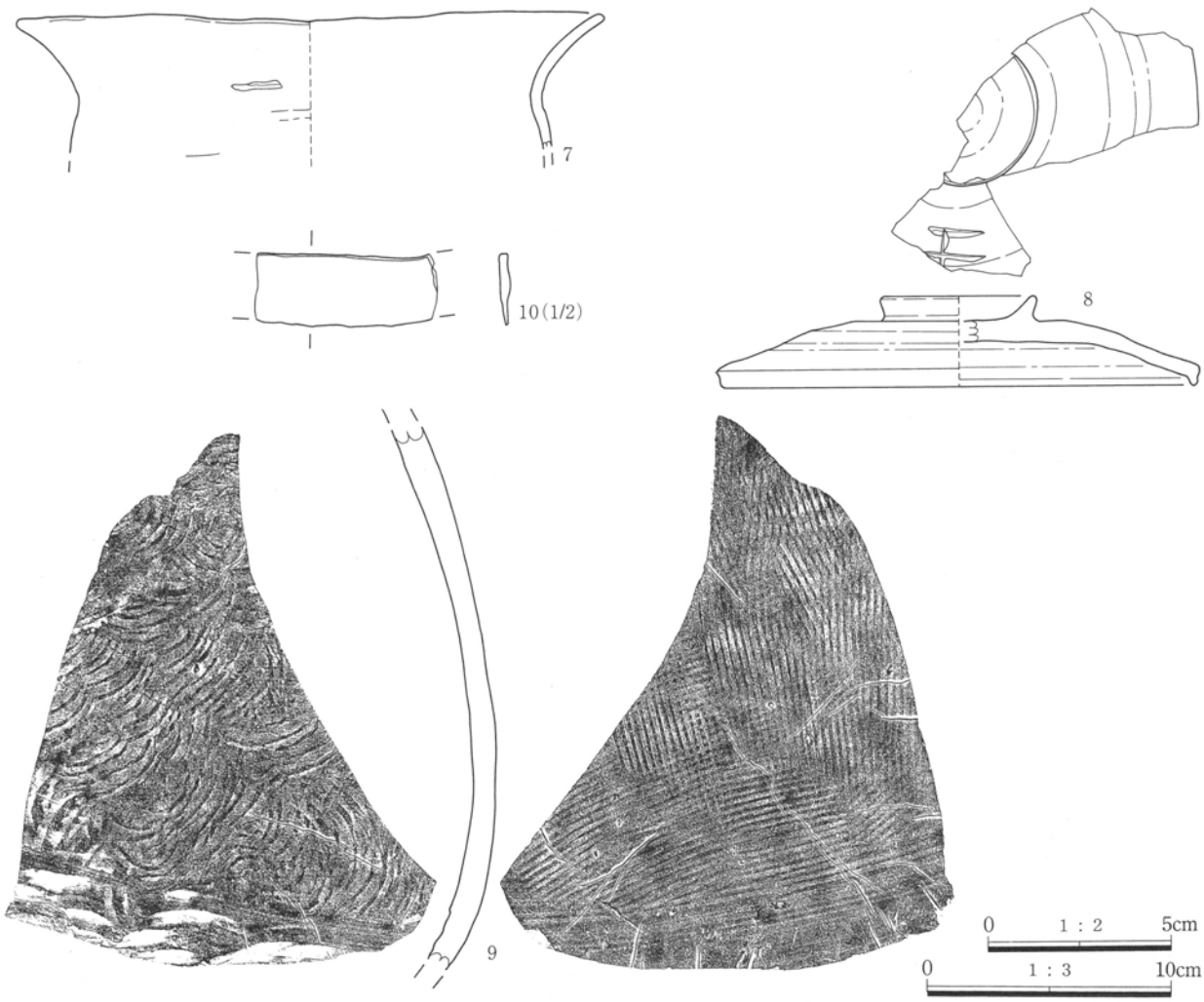


カマド

1．暗褐色土　As−C・焼土粒・炭化物・ローム粒少含
2．暗褐色土　焼土粒やや多、As−C・灰少含、締まり・粘性弱
3．暗褐色土　焼土粒・灰・As−C少含
4．暗褐色土　焼土粒やや多、ロームブロック少含
5．暗褐色土　焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
6．暗褐色土　焼土粒・As−C・ローム粒少含
7．暗褐色土　砂岩やや多、焼土粒少含
8．暗褐色土　焼土粒・灰やや多、ロームブロック少含、粘性弱
9．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック・灰少含
10．暗褐色土　焼土粒・As−C・ロームブロック少含
11．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含、粘性弱



第221図　22号住居跡カマド、出土遺物（1）



第222図　22号住居跡出土遺物（２）

22号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第221図１ PL. 71	土師器 坏	覆土 口～底1/4	口　(14.0) 底　－ 高　4.9	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：ナデ	
第221図２ PL. 71	土師器 坏	覆土 口～底1/4	口　(13.6) 底　－ 高　(4.0)	胎　φ4mm小礫 砂粒少 赤色・白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：ナデ	
第221図３ PL. 71	土師器 坏	覆土 口～底1/8	口　(14.0) 底　－ 高　3.7	胎　砂粒やや多　黒色・白色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	口縁部直立　外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第221図４ PL. 71	土師器 坏	覆土 口～底1/2	口　(13.3) 底　－ 高　3.5	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	口縁部直立　外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第221図５ PL. 71	土師器 坏	床直上 口～底1/4	口　(12.8) 底　－ 高　3.2	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	口縁部直立　外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第221図６ PL. 71	土師器 坏	土坑5覆土 口～底1/6	口　(12.0) 底　－ 高　(2.8)	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	口縁部弱く直立　外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：ナデ	
第222図７ PL. 71	土師器 甕	カマド 口～体上1/5	口　(24.0) 底　－ 高　(5.6)	胎　砂粒多　白色・黒色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、ヘラ痕残る、体部ヘラ削り　内面：横ナデ	
第222図８ PL. 71	須恵器 蓋	覆土 摘～口1/6	口　(19.3) 摘　(6.2) 高　3.7	胎　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　外面：天井部上半回転ヘラ削り、刻書あり	

第222図 9 PL. 71	須恵器 甕	床直上 口破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　暗黄灰	外面：平行叩き目　内面：青海波文	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第222図10 PL. 71	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(4.9)	1.9	0.2	6	扁平で薄い板状品。鎌の刃部か

23号住居跡（第223・224図、遺構PL.56、遺物PL.71）

位置：Fj～Fl－40～41

東壁方位：N－1°－W

規模・形状：本住居跡は、重複遺構や調査区域外にまで広がることにより、一部明らかにできなかった。検出部で、推定南北3.32m×東西2.25mある。東壁南半は突き出ており、西半分の形状は不明瞭なところがあるが、隅丸長方形に近い形になると考えられる。面積は検出部で5.89m²、壁の高さは0.31mである。

カマド：東壁のほぼ中央で検出した。燃焼部の幅は0.82m、壁からの張り出しは0.56mであった。カマド付近からは瓦が出土しており、袖の構築材として使われていたようである。

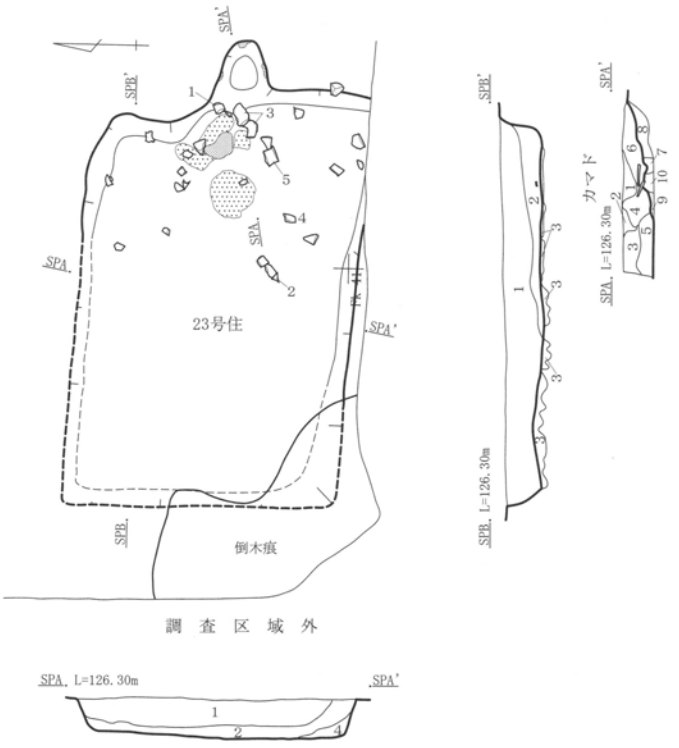
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：ほぼ平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：須恵器埦（№2）は床面直上からの出土であった。須恵器足高高台埦(№1)、瓦(№3、5)はカマドの袖から出土した。

重複遺構：本住居跡の西側は22号住居跡と、東壁では25号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。また、南西角では倒木痕と重複し、本住居跡が古い。

その他：出土した須恵器より、本住居跡の時期は10世紀後半と判断される。

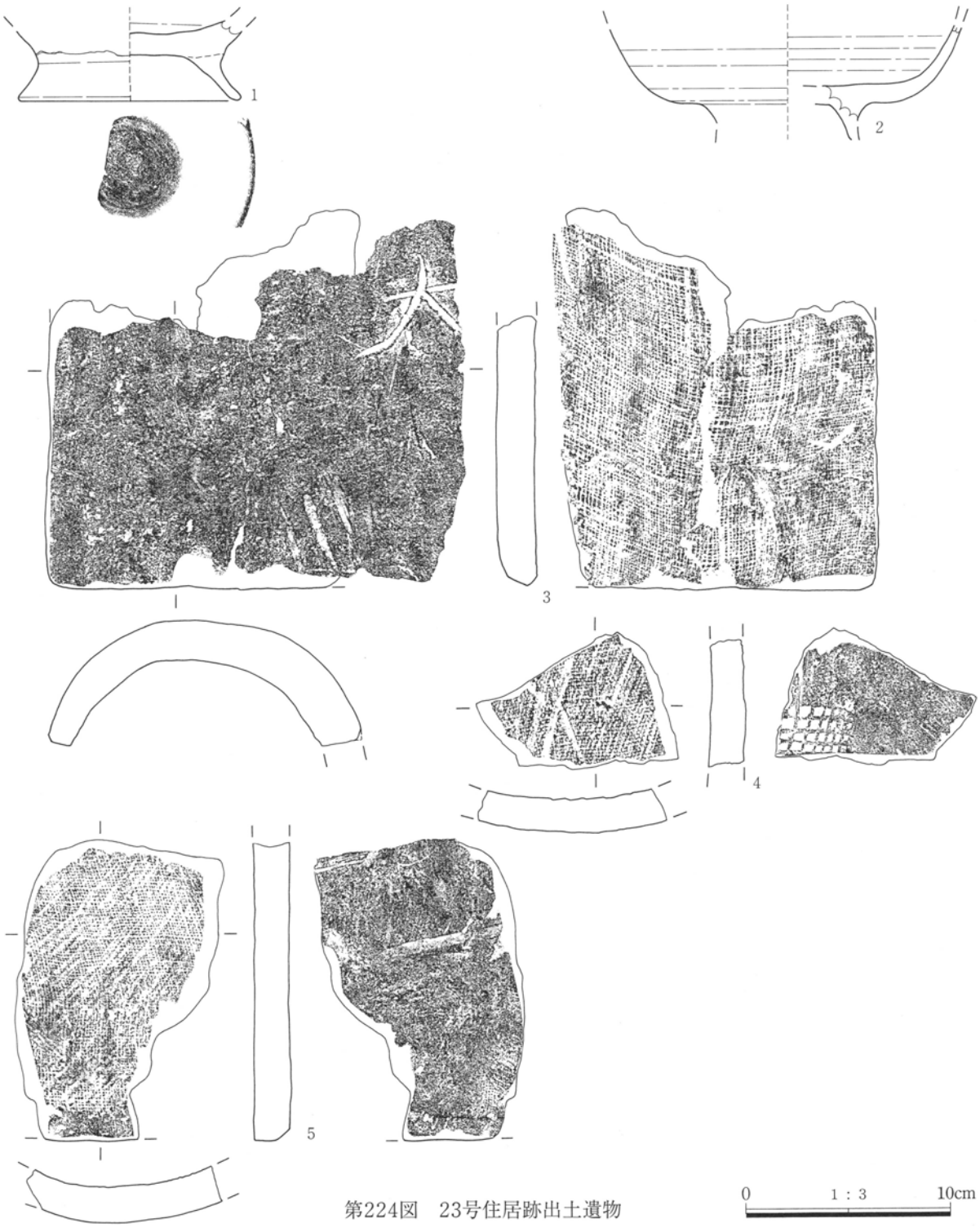


23号住居跡
1．暗褐色土　As-C・焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　As-C・焼土粒・炭化物・ローム粒少含
3．暗褐色土　As-C・焼土粒少含、床土、締まりやや強
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含

カマド
1．暗褐色土　As-C・ロームブロック・焼土粒少含
2．暗褐色土　As-C・焼土粒少含
3．暗褐色土　As-C少含
4．暗褐色土　焼土粒やや多含
5．暗褐色土　焼土粒・炭化物・As-C少含
6．暗褐色土　焼土粒やや多、As-C・灰少含
7．暗褐色土　ロームブロックやや多、灰・焼土粒少含
8．暗褐色土　暗褐粘質土ブロックやや多、焼土粒少含
9．暗褐色土　灰・炭化物多、焼土粒少含、粘性弱
10．暗褐色土　焼土粒多、灰・炭化物少含

0　1:60　1m

第223図　23号住居跡



第224図　23号住居跡出土遺物

23号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第224図１ PL. 71	須恵器 足高高台 埦	カマド 底1/4	口　－ 底　(10.8) 高　(3.9)	胎　φ3㎜小礫 砂粒やや多 黒・赤・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	轆轤整形　底部：切り離し技法不明、その後付け高台	
第224図２ PL. 71	須恵器 埦	床直上 口～底2/5	口　－ 底　－ 高　(4.7)	胎　φ4㎜小礫 細砂粒少 白・赤・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形　底部：切り離し技法不明、その後付け高台	足高高台埦か

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第224図 3 PL. 71	丸瓦	カマド 破片	胎 締 焼 密 色 黄灰	製 2枚 桶 寄木か 一 なし	表 × 裏 × 接 ○直	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 素文 型	3	吉井窯 9世紀前葉、ヘラ文字「大」
第224図 4 PL. 71	平瓦	覆土 破片	胎 硬 焼 密 色 にぶい赤褐	製 桶 なし 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 部分細格子 型	－	笠懸窯 8世紀後葉～9世紀初
第224図 5 PL. 71	平瓦	カマド 破片	胎 並 焼 並 色 にぶい黄	製 桶 △ 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 素文 型	－	笠懸窯 8世紀後葉～9世紀初

24号住居跡（第225図、遺構PL.56、遺物PL.72）

位置：Fj～Fl－40～41

東壁方位：N－5°－W

規模・形状：本住居跡は、重複遺構によって大半が切られており、不明なところが多い。検出部で南北1.75m×東西0.8m、隅丸方形になる可能性が考えられる。面積は不明で、壁の高さは0.28mである。

カマド：東壁で検出した。燃焼部の幅は不明で壁からの張り出しは0.55mであった。

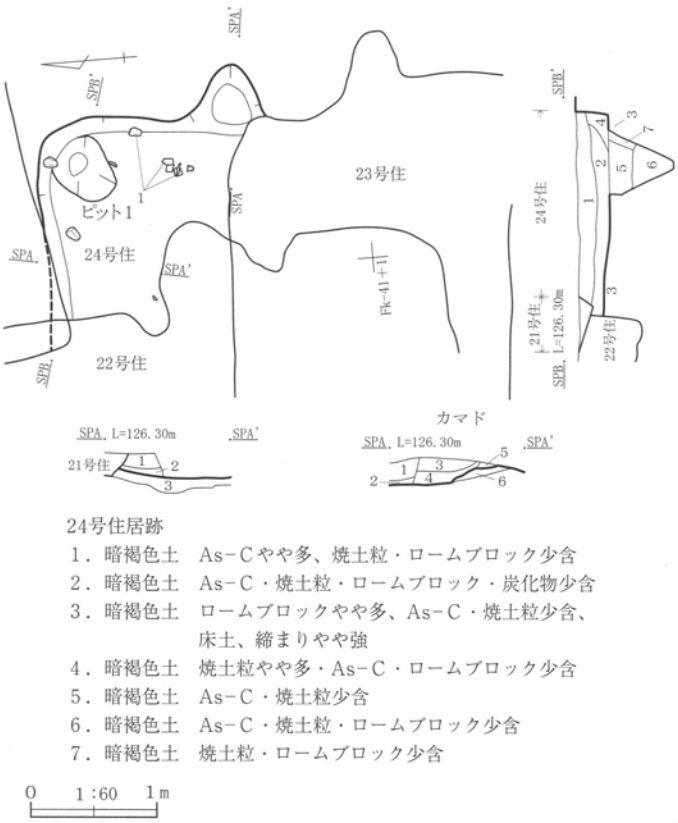
内部施設：壁溝や貯蔵穴は検出できなかった。ピットは北東角で検出し、規模は0.53m×0.44mで、深度0.44mであった。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（№1）はカマド近くの床面直上から出土した。

重複遺構：本住居跡は北壁で21号住居跡と、西部で22号住居跡と、南部で23号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

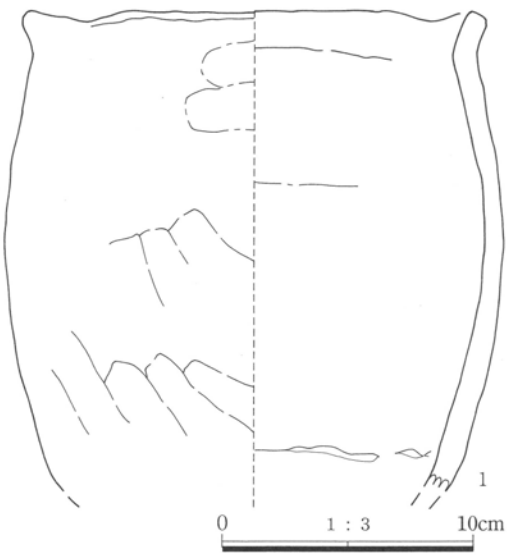
その他：出土遺物は少ないが、土師器甕より6世紀後半～7世紀初頭と判断される。



24号住居跡
1．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒・ロームブロック少含
2．暗褐色土　As－C・焼土粒・ロームブロック・炭化物少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C・焼土粒少含、床土、締まりやや強
4．暗褐色土　焼土粒やや多・As－C・ロームブロック少含
5．暗褐色土　As－C・焼土粒少含
6．暗褐色土　As－C・焼土粒・ロームブロック少含
7．暗褐色土　焼土粒・ロームブロック少含

0　1:60　1m

カマド
1．暗褐色土　As－C・焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　As－C・焼土粒・炭化物・ローム粒少含
3．暗褐色土　As－C・焼土粒少含
4．暗褐色土　暗褐粘質土ブロックやや多含
5．暗褐色土　As－C・ローム粒・焼土粒少含
6．暗褐色土　焼土粒やや多、As－C・ロームブロック少含



第225図　24号住居跡、出土遺物

24号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第225図１ PL. 72	土師器 甕	床直上 口～体1/6	口　(18.2) 底　－ 高　(19.0)	胎　粗砂粒多　白色・赤色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄褐	外面：口縁部ナデ、指頭圧痕状の凹み、体部ヘラ削り　内面：ナデ、輪積み痕	

25号住居跡（第226・227図、遺構PL.57、遺物PL.71・72）

位置：Fj～Fk－40～42

北壁方位：N－80°－E

規模・形状：本住居跡は、重複遺構や調査区域外にまで広がることなどにより、不明なところが多い。検出部で東西2.9m×南北1.5m、形状や面積は不明で、壁の高さは0.3mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

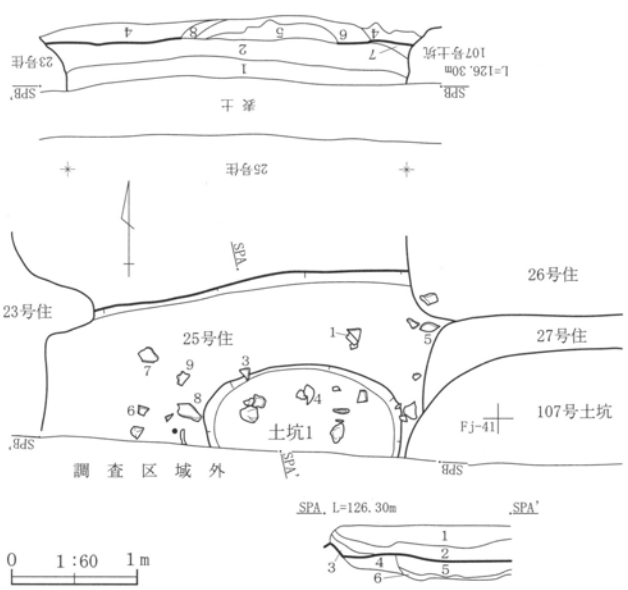
調査区域外にまで広がるが、中央部で土坑が１基検出された。規模は1.58m×0.68m以上、深度0.11mであった。

床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

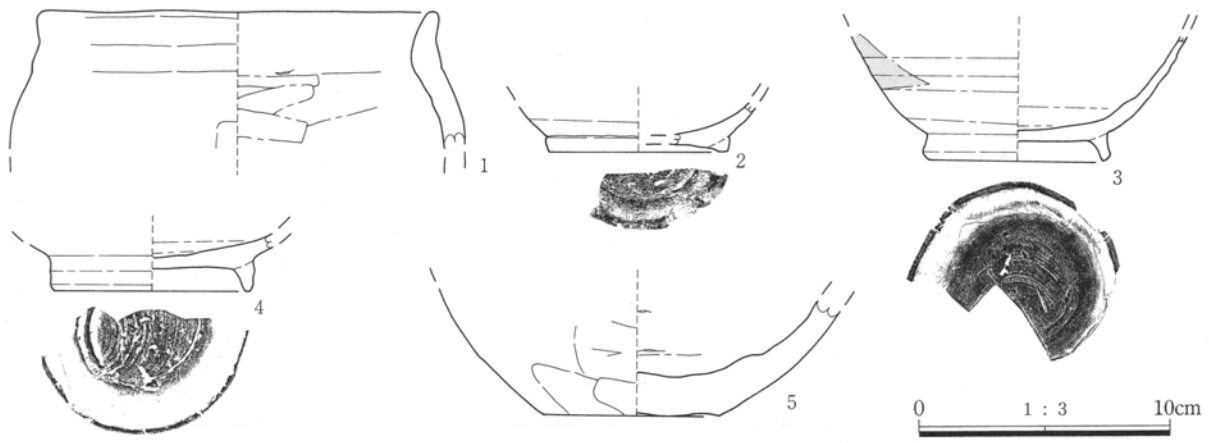
出土遺物：灰釉陶器埦（№３）、須恵器甕（№６）は床面直上からの出土であった。須恵器埦（№２）、灰釉陶器埦（№４）は土坑１から出土した。

重複遺構：本住居跡の西側は23号住居跡と、東側で26・27号住居跡と107号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

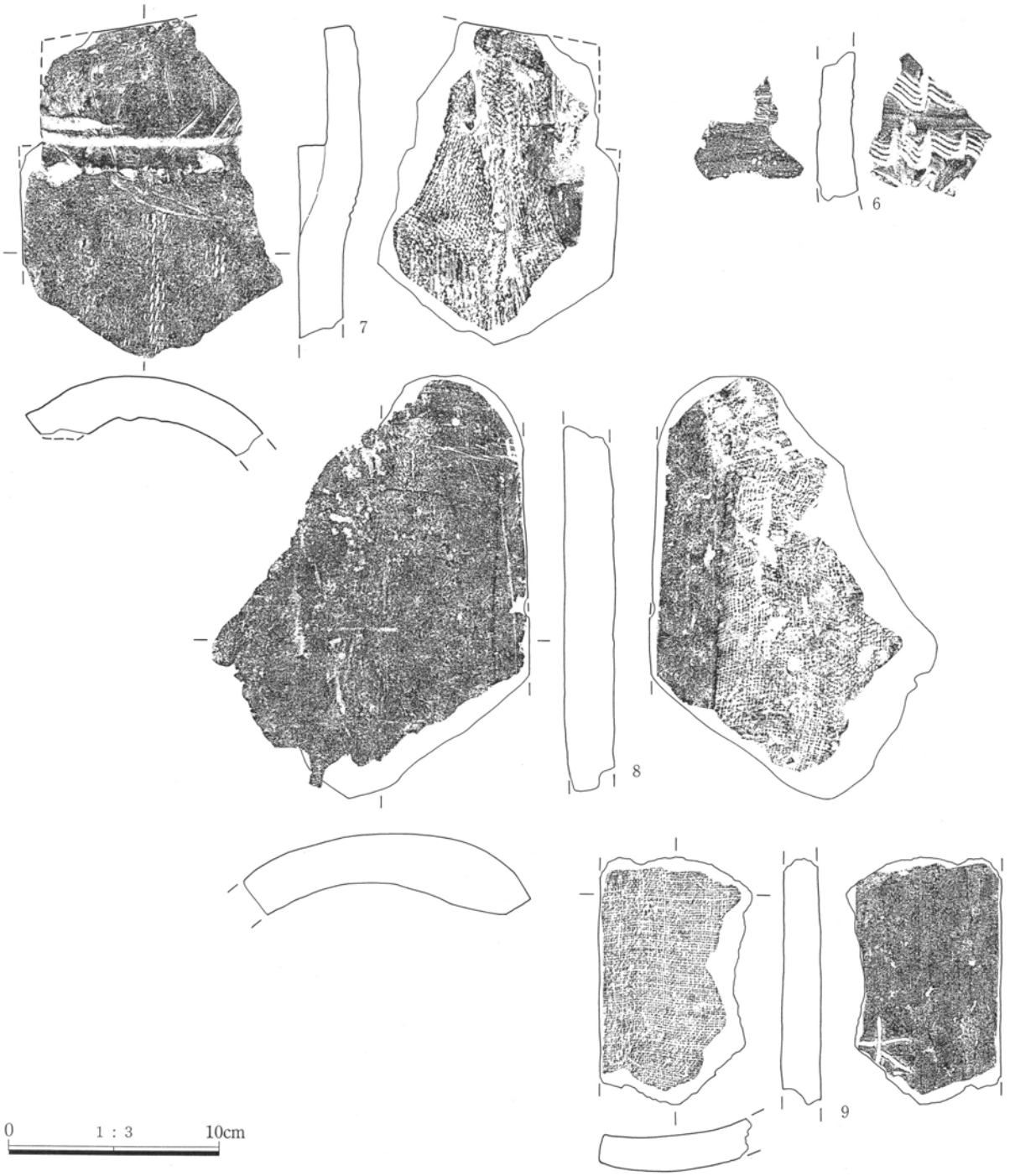
その他：出土した遺物は覆土からのものが多かった。床面出土の灰釉陶器埦と重複関係より、本住居跡の時期は10世紀前半と考える。



25号住居跡
1．暗褐色土　As－C・焼土粒少含
2．暗褐色土　灰・焼土粒・As－C少含
3．暗褐色土　暗褐粘質土ブロックやや多、As－C少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C少含、床土、締まり強
5．暗褐色土　ロームブロック・炭化物・焼土粒少含
6．暗褐色土　ロームブロックやや多含
7．暗褐色土　As－C・ローム粒・焼土粒少含、締まり弱
8．暗褐色土　ローム粒やや多、As－C・焼土粒少含、締まりやや強



第226図　25号住居跡、出土遺物（１）



第227図　25号住居跡出土遺物（2）

25号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第226図 1 PL. 71	土師器 甕	覆土 口～体1/6	口　(15.8) 底　－ 高　(5.4)	胎　φ6㎜小礫 粗砂粒やや多 赤・白・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部ナデ、体部ヘラ削り　内面：横ヘラナデ	
第226図 2 PL. 72	須恵器 埦	土坑 1 体～底1/4	口　－ 底　(7.0) 高　(1.9)	胎　粗砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　還元焔　やや軟 色　灰白	轆轤整形　底部：切り離し技法不明、その後付け高台	
第226図 3 PL. 72	灰釉陶器 埦	床直上 体～底　底1/2　他1/6	口　－ 底　(7.4) 高　(5.0)	胎　φ4㎜小礫　緻密　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面：体部施釉、漬け掛け	大原２号窯式期

第226図４ PL. 72	灰釉陶器 埦	土坑１ 底1/2	口　－ 底　8.0 高　(2.3)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形	大原２号窯式期
第226図５ PL. 72	須恵器 羽釜か甕	覆土 体下～底1/3	口　－ 底　(7.0) 高　(4.6)	胎　φ3㎜小礫　砂粒やや多　白・黒・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄褐	轆轤整形か　外面：体部ヘラ削り　内面：ヘラナデ	
第227図６ PL. 72	須恵器 甕	床直上 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　φ3㎜小礫　砂粒少　黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	外面：波状文	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第227図７ PL. 72	丸瓦 有段	覆土 破片	胎　並 焼　密 色　にぶい褐	製　２枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　○ 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　縄絡消 型	2	藤岡窯　８世紀中葉
第227図８ PL. 72	丸瓦	覆土 破片	胎　並 焼　並 色　にぶい黄	製　２枚 桶 一　なし	表　× 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型　○	3	藤岡窯・非陶土質　８世紀中葉
第227図９ PL. 72	平瓦	覆土 破片	胎　並 焼　並 色　橙	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　タテ撫 型	1	吉井窯・非陶土質　９世紀前葉　ヘラ文字「大□」

26号住居跡（第228・229図、遺構PL.57、遺物PL.72）

位置：Fj～Fl－40～41

長軸方位：N－90°

規模・形状：本住居跡は、調査区域外にまで広がるため、全容は明らかでない。検出部で、2.45m×2.22m、隅丸長方形になると考えられる。面積は不明で、壁の高さは0.2mである。

カマド：東壁中央付近で検出した。燃焼部の幅は不明で、壁からの張り出しは、検出部で0.7mであった。袖には礫があり、構築材として使われていたといえる。

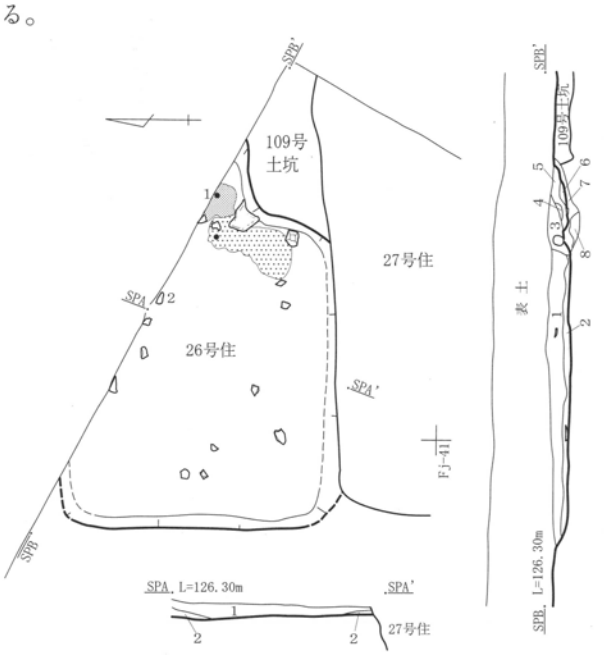
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（№２）は床面直上から出土した。またカマドからは、土師器甕（№１）が火床で出土した。

重複遺構：本住居跡は南壁で27号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南西角で25号住居跡と、東壁で109号土坑と重複するが、本住居跡が新しい。

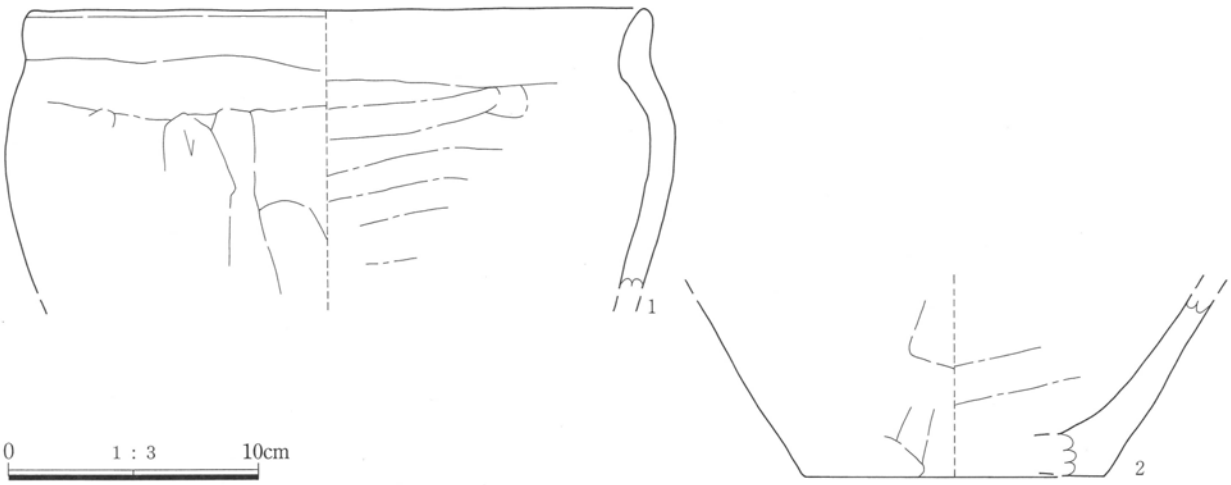
その他：出土遺物は少ないが、土師器甕より10世紀後半と判断される。



26号住居跡
1．暗褐色土　As-Cやや多、焼土粒少含
2．暗褐色土　暗褐粘質土ブロックやや多含
3．暗褐色土　As-Cやや多、ローム粒・焼土粒少含
4．暗褐色土　焼土粒多含
5．暗褐色土　焼土粒多含、灰少含、粘性弱
6．暗褐色土　焼土粒・灰・炭化物・ローム粒少含
7．暗褐色土　灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含、粘性弱
8．暗褐色土　ロームブロック少含

0　1:60　1m

第228図　26号住居跡



第229図　26号住居跡出土遺物

26号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第229図1 PL. 72	土師器 甕	カマド 口～体1/6	口　(24.4) 底　－ 高　(11.1)	胎　φ4mm小礫 粗砂粒やや多 赤・白・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部ナデ、体部ヘラ削り　内面：横ヘラナデ	
第229図2 PL. 72	土師器 甕	床直上 体下～底1/6	口　－ 底　(11.8) 高　(7.2)	胎　φ5mm小礫 粗砂粒やや多 赤・白・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　明赤褐	外面：体部ヘラ削り　内面：ヘラナデ	

27号住居跡（第230・231図、遺構PL.57、遺物PL.72・73）

位置：Fi～Fk－40～42

北壁方位：N－85°－E

規模・形状：本住居跡は、重複遺構や調査区域外にまで広がることなどにより、不明なところが多い。検出部で東西3.45m×南北1.05m、形状や面積は不明で、壁の高さは0.35mである。

カマド：検出されていない。

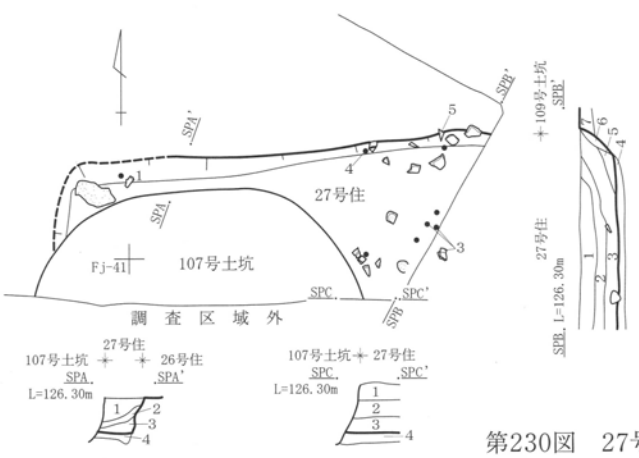
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：土師器甕（№1）は床面直上からの出土であった。床面から掘り方土にかけては須恵器椀（№3）が、壁に張り付くようにして須恵器羽釜（№4）が出土した。

重複遺構：本住居跡の中央西よりを中心として、107号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、西壁で25住居跡と、北壁で26号住居跡・109号土坑と重複するが、本住居跡が新しい。

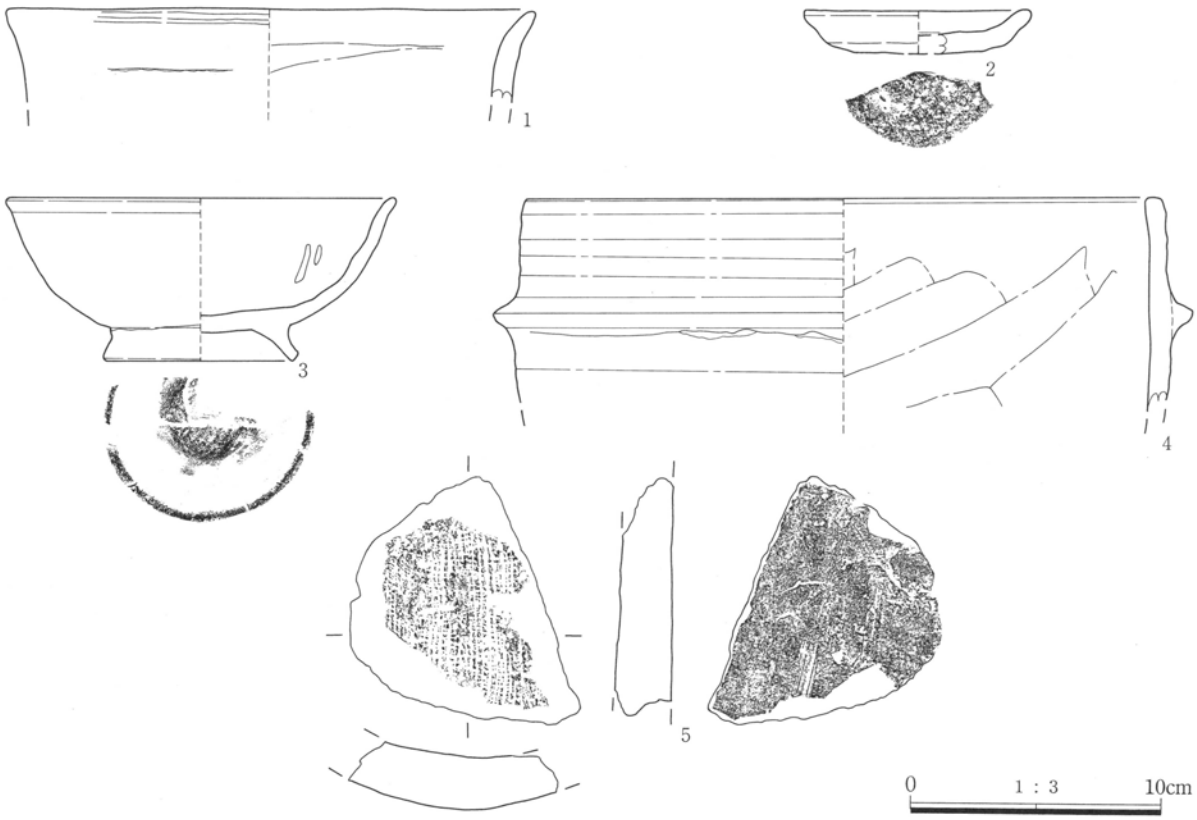
その他：出土した須恵器椀・羽釜より、本住居跡の時期は11世紀前半と考える。



27号住居跡
1．暗褐色土　As－C・ローム粒少含、粘性強
2．暗褐色土　As－C・ローム粒・焼土粒少含
3．暗褐色土　ローム粒・As－C・焼土粒・炭化物少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含、床土、締まり強・粘性やや強
5．暗褐色土　As－C・ローム粒少含
6．暗褐色土　As－C・ロームブロック少含、締まり弱
7．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒・炭化物少含

0　1：60　1m

第230図　27号住居跡



第231図　27号住居跡出土遺物

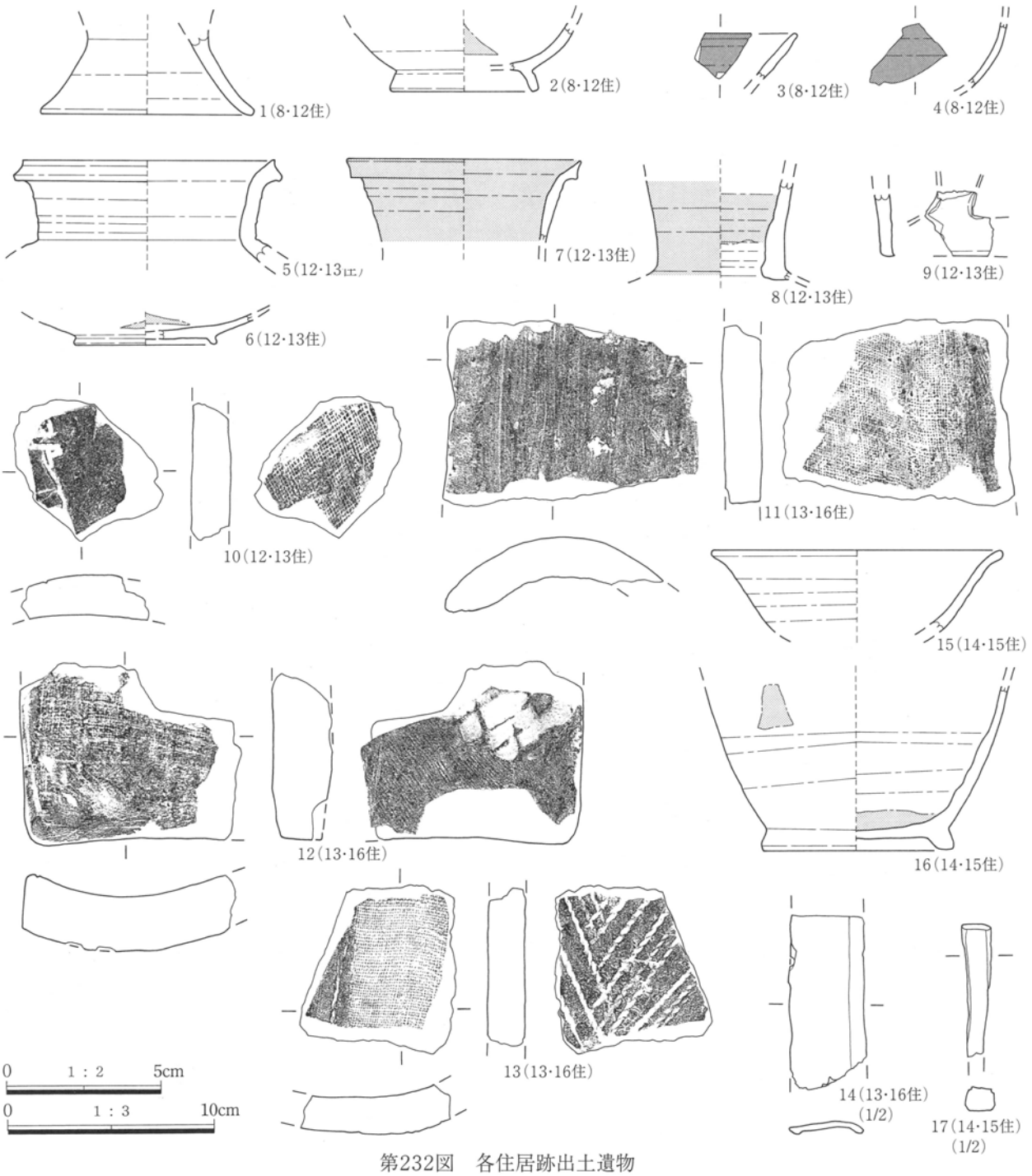
27号住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第231図 1 PL. 72	土師器 甕	床直上 口1/8	口　(21.0) 底　－ 高　(3.7)	胎　砂粒やや多　白色・黒色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	外面：口縁部横ナデ、輪積み痕　内面：横ヘラナデ	
第231図 2 PL. 72	須恵器 皿	覆土 口～底1/4	口　(9.0) 底　(5.0) 高　(1.7)	胎　砂粒やや多　赤色・黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	轆轤整形　底部：切り離し技法不明	
第231図 3 PL. 72	須恵器 埦	床直上・掘り方 口～底1/4	口　(15.4) 底　(7.8) 高　6.4	胎　砂粒やや多　黒色・白色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄褐	轆轤整形　底部：切り離し技法不明、その後付け高台　内面：内黒、縦方向のミガキ	
第231図 4 PL. 72	須恵器 羽釜	壁 口～体上1/8	口　(25.1) 底　－ 高　(8.3)	胎　φ4㎜小礫　粗砂粒少　白・赤・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形　内面：ヘラナデ	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第231図 5 PL. 73	平瓦	覆土 小破片	胎　並 焼　並 色　にぶい黄褐	製 桶　不明 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　横撫 型	－	吉井窯か藤岡窯　８世紀後葉～９世紀前葉

各住居跡出土の遺物（遺物PL.72・73）

ここでは、各住居跡の覆土から出土した遺物で、個別の住居跡に帰属させることができなかったものを掲載した。特に8・12・13・16号住居跡は、重複が激しく、調査時は覆土出土の遺物がどの住居跡に属するのか、判別できなかったものもある。これらの遺物は、各住居跡の時期から考えて、10世紀代に属すると考えられる。また、14・15号住居跡も隣接する住居跡で、一部の遺物が帰属させられなかった。これらの遺物の時期は9世紀後半から10世紀中葉に属すると考えられる。



第232図　各住居跡出土遺物

各住居跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第232図１ PL. 72	須恵器 足高高台埦	8･12住覆土 脚1/3	口　－ 底　(10.2) 高　(4.1)	胎　砂粒少　白色・赤色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形	
第232図２ PL. 72	灰釉陶器 埦	8･12住覆土 体～底1/8	口　－ 底　(7.2) 高　(3.3)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰黄	轆轤整形（右回転）　内面：体部施釉、漬け掛け	大原２号窯式期
第232図３ PL. 72	緑釉陶器 埦	8･12住覆土 口破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　細砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形　内外面施釉	猿投窯
第232図４ PL. 72	緑釉陶器 埦	8･12住覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形　内外面施釉	猿投窯
第232図５ PL. 72	須恵器 短頸壺	12･13住覆土 口～頸1/8	口　(12.0) 底　－ 高　(5.4)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形　内面：口縁部から頸部に自然釉	
第232図６ PL. 72	灰釉陶器 皿	12･13住覆土 口～底1/4	口　－ 底　(6.9) 高　(1.5)	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　内外面体部に施釉	大原２号窯式期
第232図７ PL. 73	灰釉陶器 長頸壺	12･13住覆土 口～頸1/6	口　(11.2) 底　－ 高　(4.0)	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　内外面施釉	
第232図８ PL. 73	灰釉陶器 壺	12･13住覆土 頸1/3	口　－ 底　－ 高　(4.8)	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形　外面：残存部全体施釉	
第232図９ PL. 73	須恵器 円面硯か	12･13住覆土 脚破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　粗砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	内面：頸部上半施釉　内外面ナデ、透かし彫り入る	形の異なる透かし彫りの一部が残存
第232図15 PL. 73	須恵器 埦	14･15住覆土 口～体1/6	口　(14.0) 底　－ 高　(4.0)	胎　φ2㎜小礫 砂粒やや多 白・赤・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	轆轤整形	
第232図16 PL. 73	灰釉陶器 長頸壺	14･15住覆土 体～底1/5	口　－ 底　(9.1) 高　(8.0)	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面：体部上半施釉　内面：底部に釉付着	

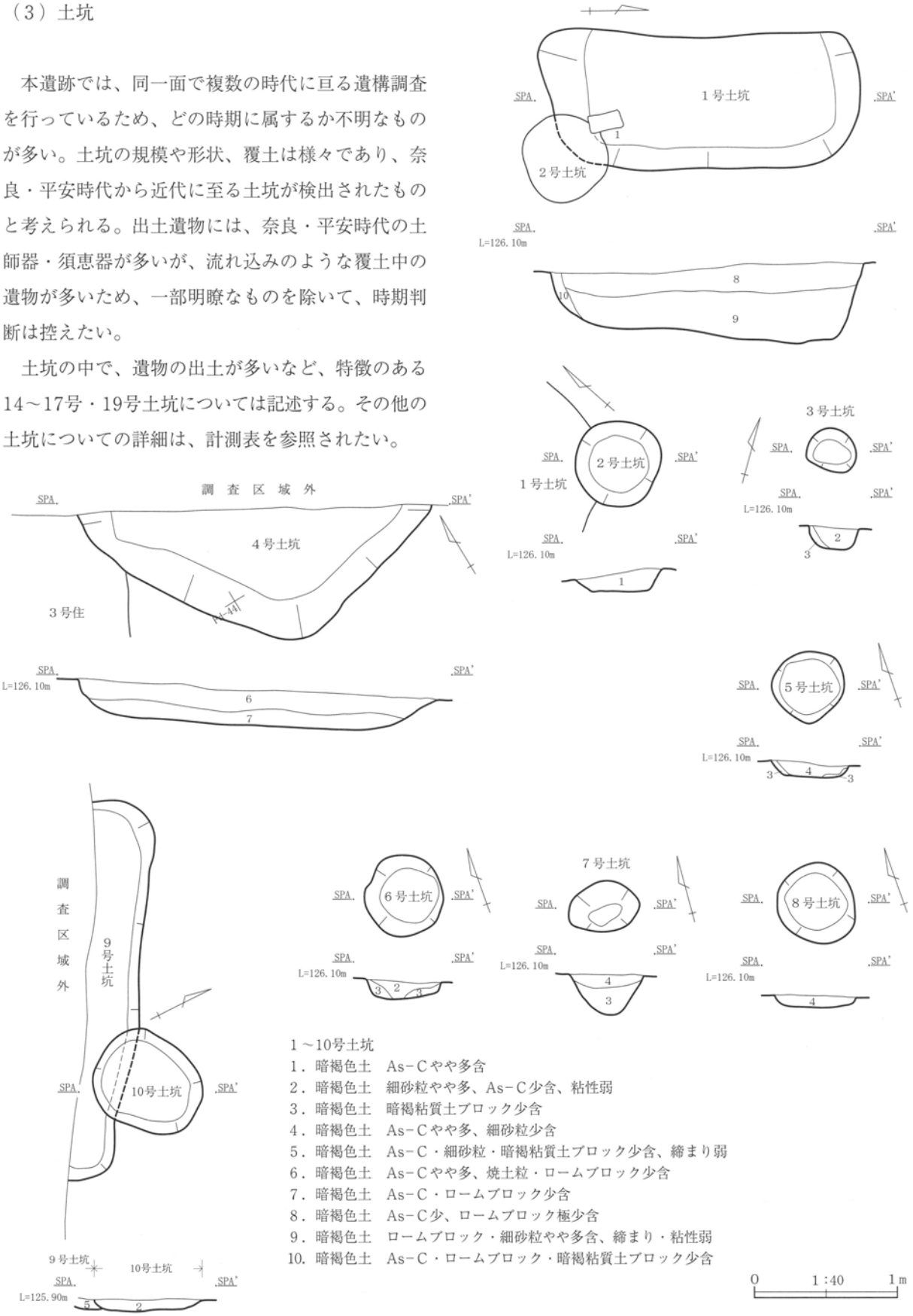
挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第232図10 PL. 73	丸瓦	12･13住覆土 小破片	胎　並 焼　並 色　褐	製　不明 桶 一　不明	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	－	吉井窯　９世紀前葉　ヘラ文字「□部(カ)□」
第232図11 PL. 73	丸瓦	13･16住覆土 破片	胎　並 焼　密 色　にぶい褐	製　△ 桶 一　なし	表　× 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　タテ篦 型	3	笠懸窯　８世紀中葉
第232図12 PL. 73	平瓦	13･16住覆土 破片	胎　並 焼　密 色　橙	製 桶　△ 一　あり	表　○ 裏　○ 接　×	合　× 擦　○ 乾　×	轆　× 叩　格子部分 型	3	笠懸窯　８世紀中葉
第232図13 PL. 73	平瓦	13･16住覆土 小破片	胎　並 焼　密 色　橙	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　部分 乾　×	轆　× 叩　縄単粗 型	－	笠懸窯　８世紀中葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第232図14 PL. 73	鉄製品 板状品	13･16住覆土 欠損あり	(5.5)	2.3	0.2	4	扁平で薄い板状品。両端が湾曲する
第232図17 PL. 73	鉄製品 棒状品	14･15住覆土 先端部欠損	(4.3)	0.9	0.7	7	頭部の折り曲げは見られないが、角釘か

（3）土坑

本遺跡では、同一面で複数の時代に亘る遺構調査を行っているため、どの時期に属するか不明なものが多い。土坑の規模や形状、覆土は様々であり、奈良・平安時代から近代に至る土坑が検出されたものと考えられる。出土遺物には、奈良・平安時代の土師器・須恵器が多いが、流れ込みのような覆土中の遺物が多いため、一部明瞭なものを除いて、時期判断は控えたい。

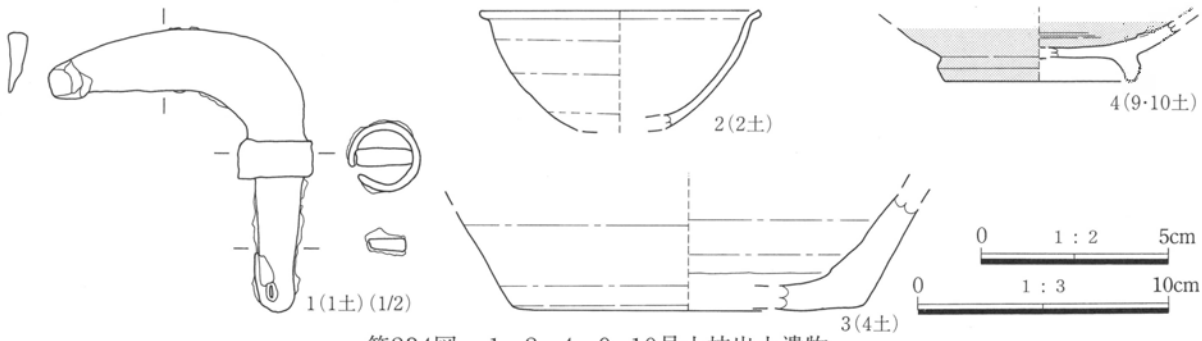
土坑の中で、遺物の出土が多いなど、特徴のある14～17号・19号土坑については記述する。その他の土坑についての詳細は、計測表を参照されたい。



1～10号土坑
1．暗褐色土　As－Cやや多含
2．暗褐色土　細砂粒やや多、As－C少含、粘性弱
3．暗褐色土　暗褐粘質土ブロック少含
4．暗褐色土　As－Cやや多、細砂粒少含
5．暗褐色土　As－C・細砂粒・暗褐粘質土ブロック少含、締まり弱
6．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒・ロームブロック少含
7．暗褐色土　As－C・ロームブロック少含
8．暗褐色土　As－C少、ロームブロック極少含
9．暗褐色土　ロームブロック・細砂粒やや多含、締まり・粘性弱
10．暗褐色土　As－C・ロームブロック・暗褐粘質土ブロック少含

0　1:40　1m

第233図　1～10号土坑

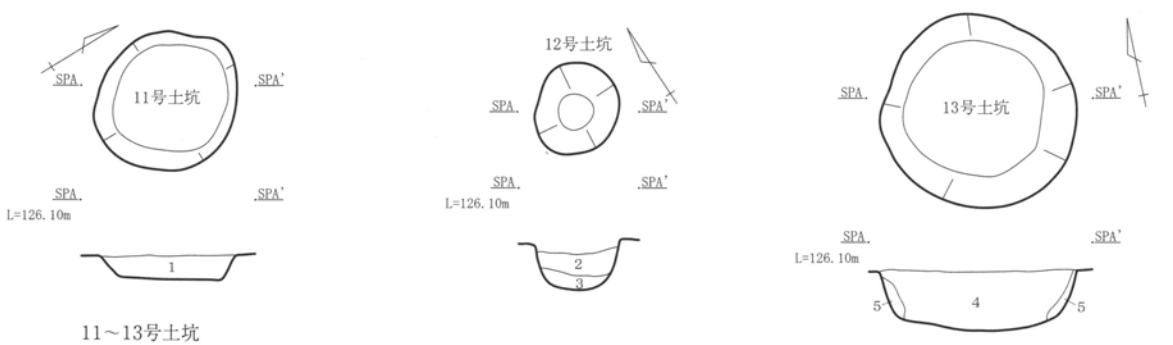


第234図　1・2・4・9・10号土坑出土遺物

1・2・4・9・10号土坑　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第234図 2 PL. 73	須恵器 埦	2土坑覆土 口～体1/8	口　(11.0) 底　－ 高　(4.9)	胎　砂粒少　白色・赤色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	轆轤整形　口縁部外反	
第234図 3 PL. 73	須恵器 甕	4土坑覆土 体下～底1/8	口　－ 底　(14.0) 高　(4.6)	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	内外面横ナデ	
第234図 4 PL. 73	灰釉陶器 埦	9・10土坑 覆土 体～底1/6	口　－ 底　(7.4) 高　(2.4)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面：底部まで施釉　内面：底部まで施釉、底部に環状の目痕	光ヶ丘１号窯式期

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第234図 1 PL. 73	鉄製品 鎌	1土坑覆土 ほぼ完	7.4	7.0	0.4	26	刃部先端は曲げられているが、装着部まで残る。また、柄の木質部の痕跡が残る



11～13号土坑
1．暗褐色土　As-C・細砂粒やや多、焼土粒少含、粘性弱
2．暗褐色土　砂質土主体、暗褐粘質土ブロックやや多含、粘性なし
3．暗褐色土　砂質土ブロック少含
4．暗灰褐色土　粗砂質土、As-C少含、粘性なし
5．暗褐色土　4層と同様の砂質土、暗褐粘質土ブロックやや多含、粘性なし

第235図　11～13号土坑

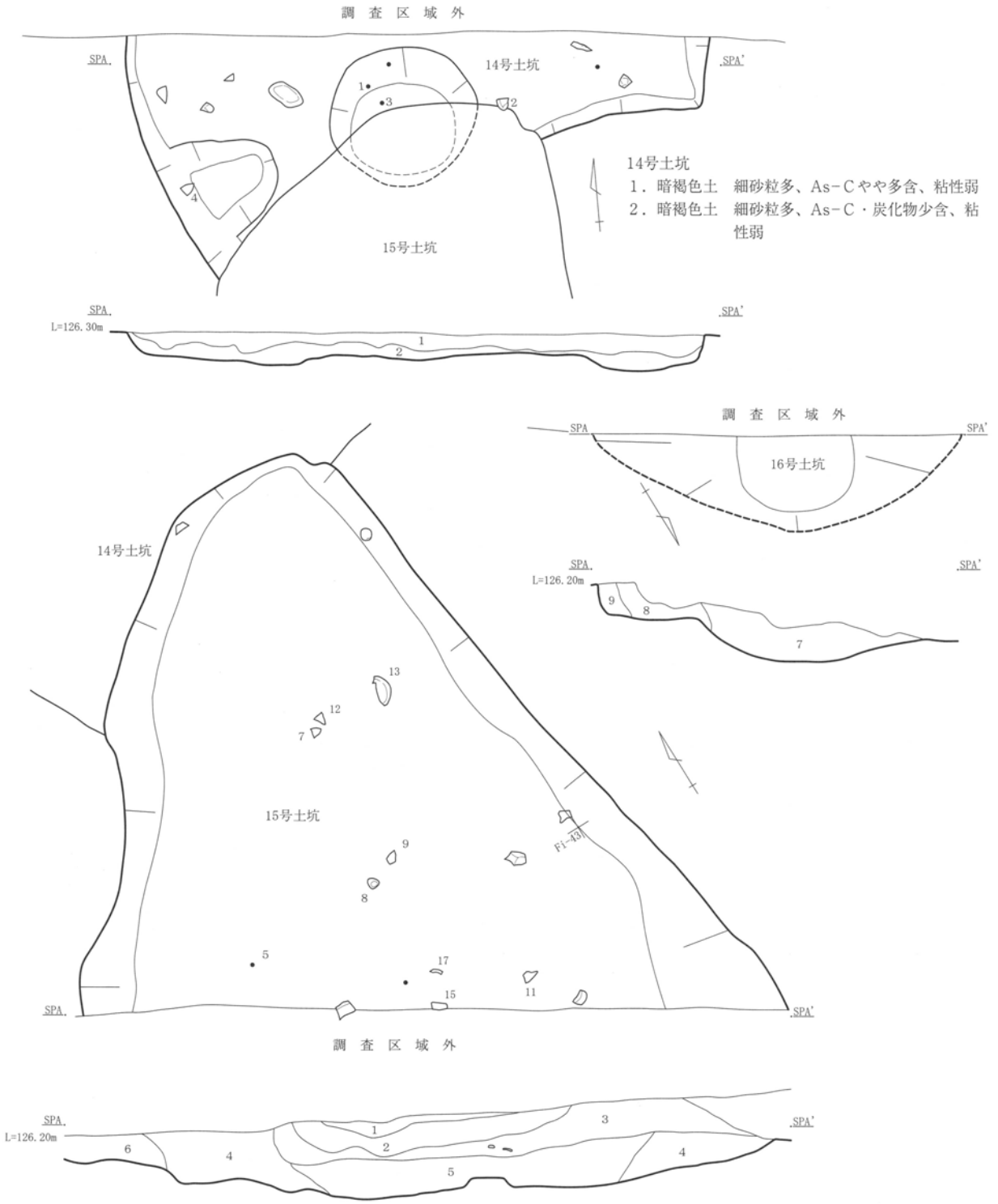
14～16号土坑（第236・237図、遺構PL.58、遺物PL.73・74）

位置：Fh～Fj－42～44

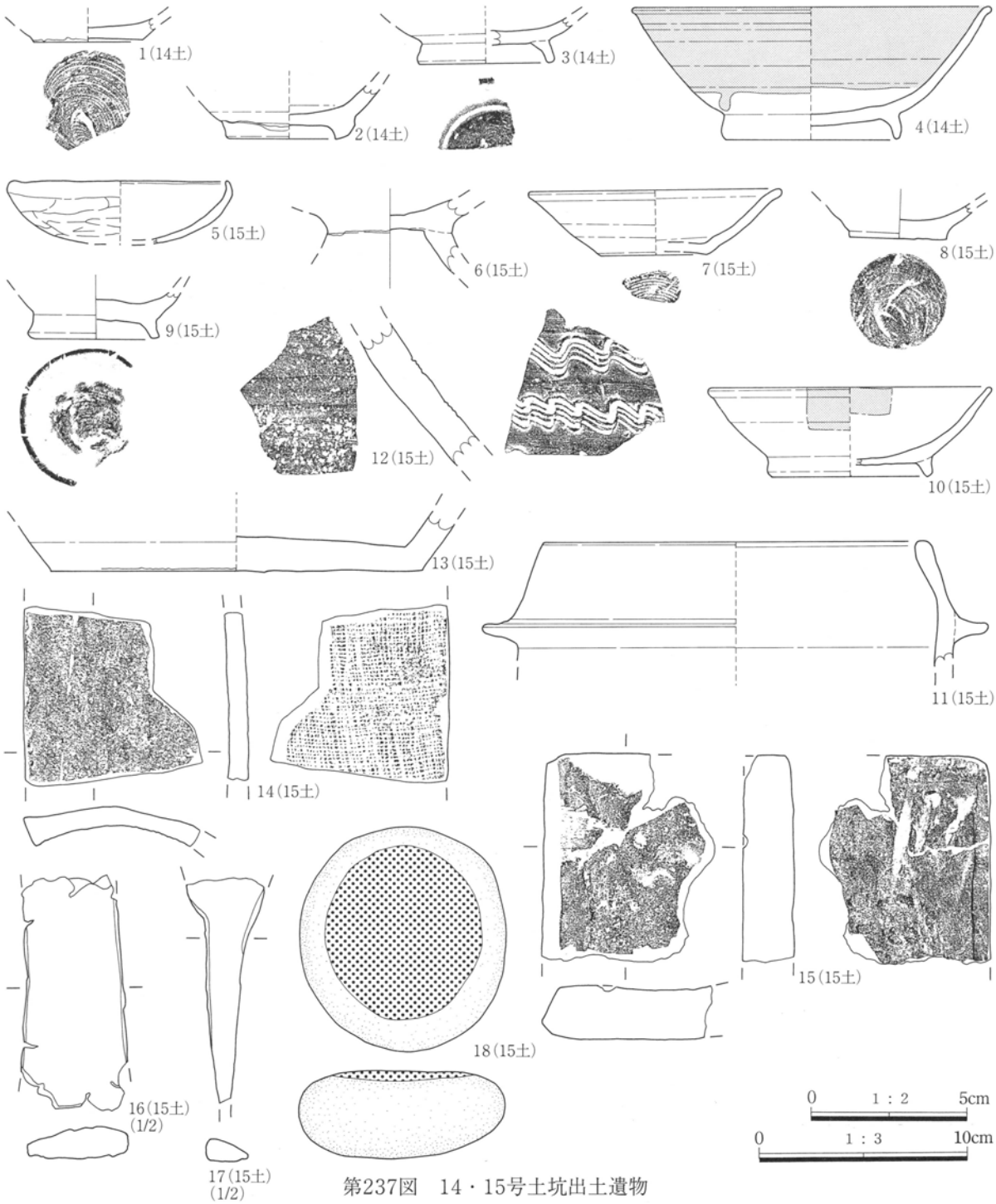
概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。掘り込みの浅い土坑が何基も重なっている状態であった。その中で主要なものについて記載する。形状は14・15号土坑が不整形で、16号土坑が楕円形になる可能性がある。遺物が全体的に広がっており、廃棄坑のような性格であった可能性が考えられる。

重複遺構：遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、15号土坑がもっとも新しく、14・16号土坑がそれよりも古い。

その他：出土遺物には時期幅があり、８～10世紀代のものが含まれる。これらの土坑は10世紀には埋没していた可能性がある。



第236図　14～16号土坑



第237図　14・15号土坑出土遺物

14号土坑　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第237図１ PL. 73	須恵器 坏	覆土 体下～底1/4	口　－ 底　(5.2) 高　(1.1)	胎　細砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　褐灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第237図２ PL. 73	須恵器 埦	覆土 体～底　底完　他1/5	口　－ 底　6.2 高　(2.6)	胎　粗砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　還元焔　やや軟 色　灰白	轆轤整形　底部：回転糸切り後、付け高台	
第237図３ PL. 73	須恵器 埦	覆土 体～底1/5	口　－ 底　(6.5) 高　(2.1)	胎　砂粒少　白色・黒色・赤色鉱物 焼　還元焔　良好 色　にぶい橙	轆轤整形　底部：切り離し技法不明、その後付け高台　内面：黒色、ミガキ見えず	内黒埦

第237図 4 PL. 73	灰釉陶器 埦	底面 口～底1/4	口 (17.1) 底 (8.6) 高 6.3	胎 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面体部施釉、刷毛塗り	光ヶ丘1号窯式期

15号土坑 遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第237図 5 PL. 73	土師器 坏	底面 口～底1/4	口 (10.8) 底 － 高 (3.1)	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	口縁部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第237図 6 PL. 73	土師器 台付甕	覆土 底4/5	口 － 底 － 高 (3.7)	胎 砂粒多 黒色・白色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	内外面ナデ	
第237図 7 PL. 73	須恵器 坏	覆土 口～底1/5	口 (12.0) 底 (5.0) 高 3.1	胎 φ4㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 褐灰	轆轤整形（右回転） 口縁部やや外反 底部：回転糸切り	
第237図 8 PL. 73	須恵器 坏	覆土 体下～底完	口 － 底 4.6 高 (1.8)	胎 細砂粒やや多 黒色・白色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第237図 9 PL. 73	須恵器 埦	覆土 体～底2/3	口 － 底 6.0 高 (3.1)	胎 φ3㎜小礫 粗砂粒少 白・赤・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	轆轤整形 底部：回転糸切り後、付け高台	
第237図10 PL. 73	灰釉陶器 埦	覆土 底1/8	口 (13.5) 底 (7.2) 高 4.3	胎 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面体部施釉、刷毛塗り	光ヶ丘1号窯式期
第237図11 PL. 73	須恵器 羽釜	覆土 口～体上1/8	口 (18.3) 底 － 高 (6.0)	胎 粗砂粒やや多 白色・赤色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 黄褐	轆轤整形	
第237図12 PL. 74	須恵器 甕	覆土 体破片	口 － 底 － 高 －	胎 φ6㎜小礫 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	外面：横ナデ、波状文 内面：横ナデ	
第237図13 PL. 74	須恵器 甕	覆土 底1/2	口 － 底 (17.8) 高 (2.3)	胎 φ3㎜小礫 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	内外面横ナデ	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第237図14 PL. 74	丸瓦	覆土 小破片	胎 硬 焼 粗 色 灰白	製 なし 桶 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 素文 型	1	非陶土質 9世紀中葉、薄作
第237図15 PL. 74	平瓦	底面 小破片	胎 締 焼 粗 色 暗灰	製 桶 なし 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 ○ 乾 △棒	轆 × 叩 素文 型	3	笠懸窯 8世紀後葉～9世紀初

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第237図16 PL. 74	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(7.4)	3.1	1.0	43	厚みのある板状品
第237図17 PL. 74	鉄製品 ヘラ状品	底面 欠損あり	(7.1)	(2.9)	0.7	12	先端部はやや薄く広がる。工具か

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第237図18 PL.74	石製品 薦編石か	覆土 ほぼ完形	10.7	9.8	4.2	粗粒輝石安山岩	平坦面は擦られている

17号土坑（第238図、遺物PL.74）

位置：Fh～Fi－43～44

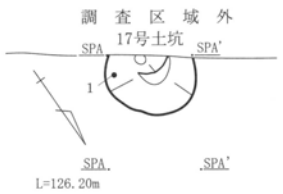
長軸方位：不明

概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。円形に近い楕円形を呈すると考えられるが、小さな掘り込みで、深度も深くない。覆土は、炭化物やロームブロックを含む土で埋められていた。遺物の量は少ないが、銭貨（№1）が出土した。この銭貨は、土坑の東壁下半に張り付くような状態で出土した。

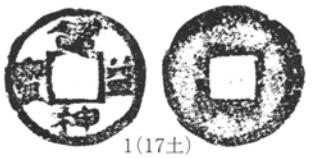
重複遺構：本土坑の西部で16号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が古いと判断される。

その他：出土した銭貨のみで時期判別はできないが、遺物と重複遺構より、本土坑の時期は9世紀後半

（859年）以降と判断される。

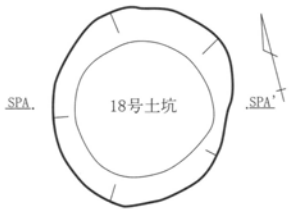


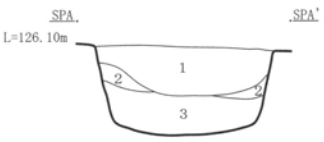
17号土坑
1．暗褐色土　ロームブロック・As－C少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含
3．暗褐色土　炭化物・ローム粒・焼土粒少含
4．暗褐色土　炭化物・ロームブロック・焼土粒少含



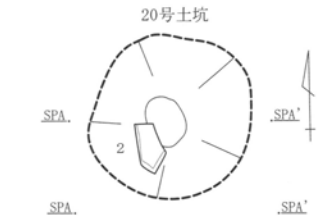
17号土坑　遺物観察表

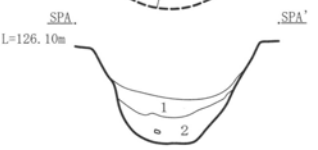
挿図番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考
第238図１ PL. 74	底面 ほぼ完	饒益神寶	859	一部錆により判読しにくい



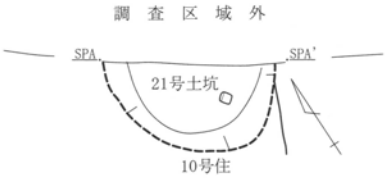


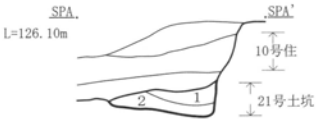
18号土坑
1．暗褐色土　As－Cやや多、ローム粒・焼土粒少含
2．暗褐色土　ロームブロック少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含





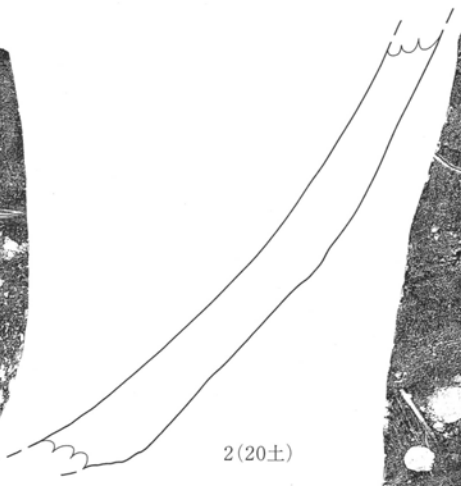
20号土坑
1．暗褐色土　As－C・炭化物極少含
2．暗褐色土　白褐ブロック少含

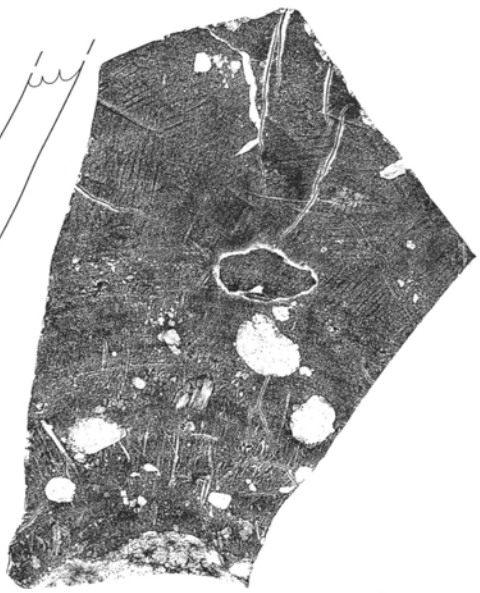




21号土坑
1．暗褐色土　焼土粒少含、締まり弱
2．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒少含

0　1：40　1m





0　1：3　10cm

第238図　17・18・20・21号土坑、出土遺物

20号土坑　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第238図２ PL. 74	須恵器 甕	覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　φ3㎜小礫 細砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	外面：平行叩き目　内面：ナデ	

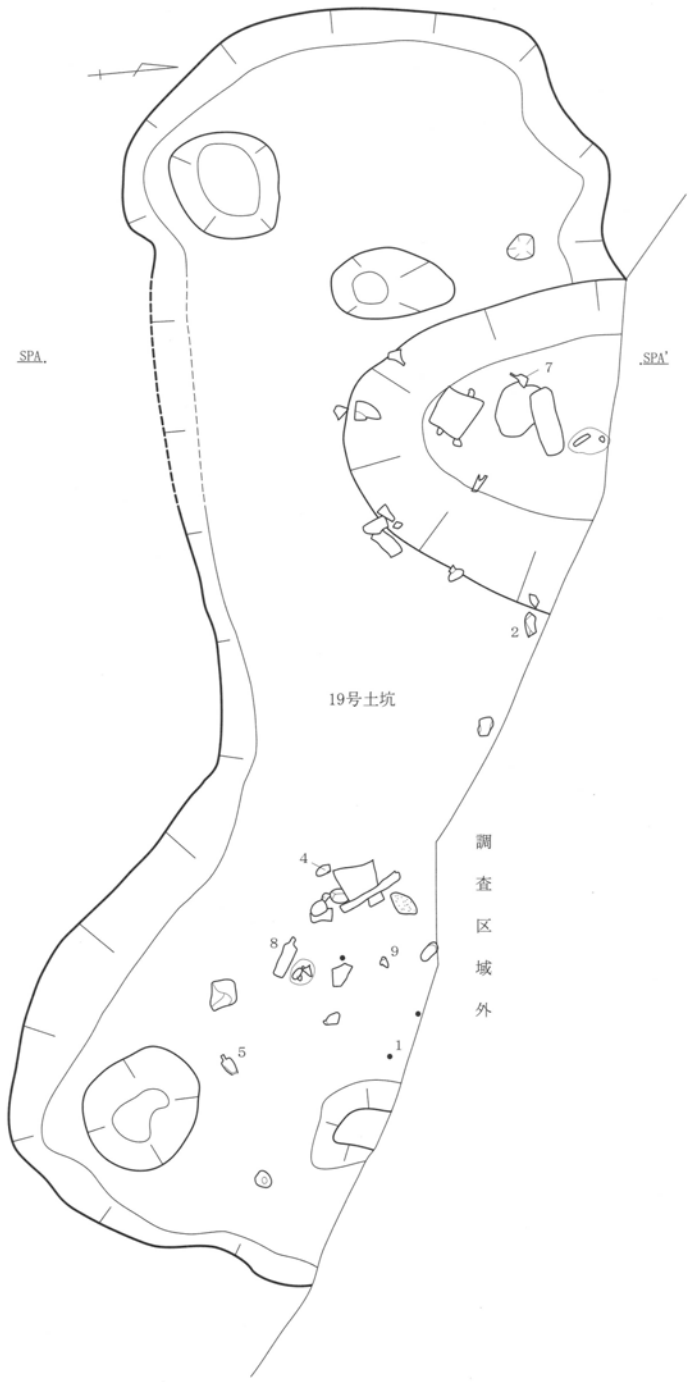
19号土坑（第239･240図、遺構PL.58、遺物PL.74）

位置：Fe～Ff－43～44

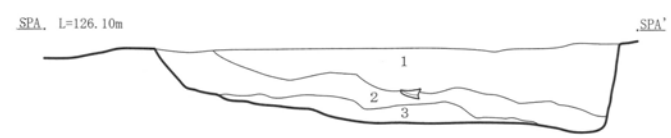
概要：本土坑は調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。形状や掘り込みは不定形である。遺物は、土師器・須恵器や瓦など、奈良・平安時代のものから近代以降に至るまで幅が広い。大半は近代以降の遺物である。廃棄等の性格をもった土坑であろう。

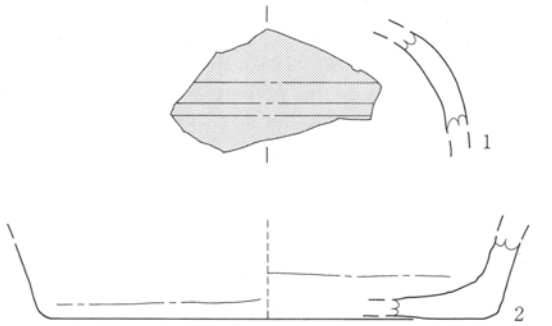
重複遺構：本土坑は東部で10・11号住居跡と28号土坑、南部で60号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が新しい。

その他：出土したガラス製品などから、本土坑の時期は近代以降と考えられる。



19号土坑
1．褐色土　白色軽石・砂質土多含、粘性弱
2．暗褐色土　白色軽石・ロームブロック少含、粘性弱
3．褐色土　砂質土、As－C少含、粘性なし

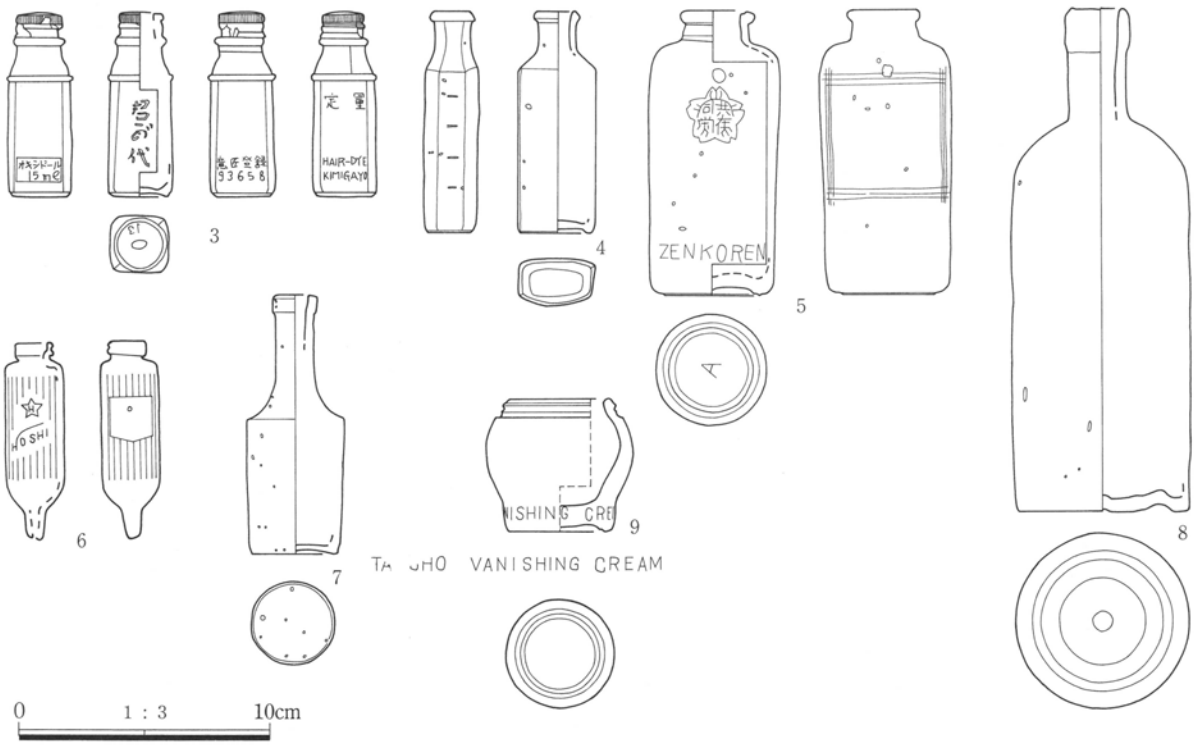




0　1：40　1m

0　1：3　10cm

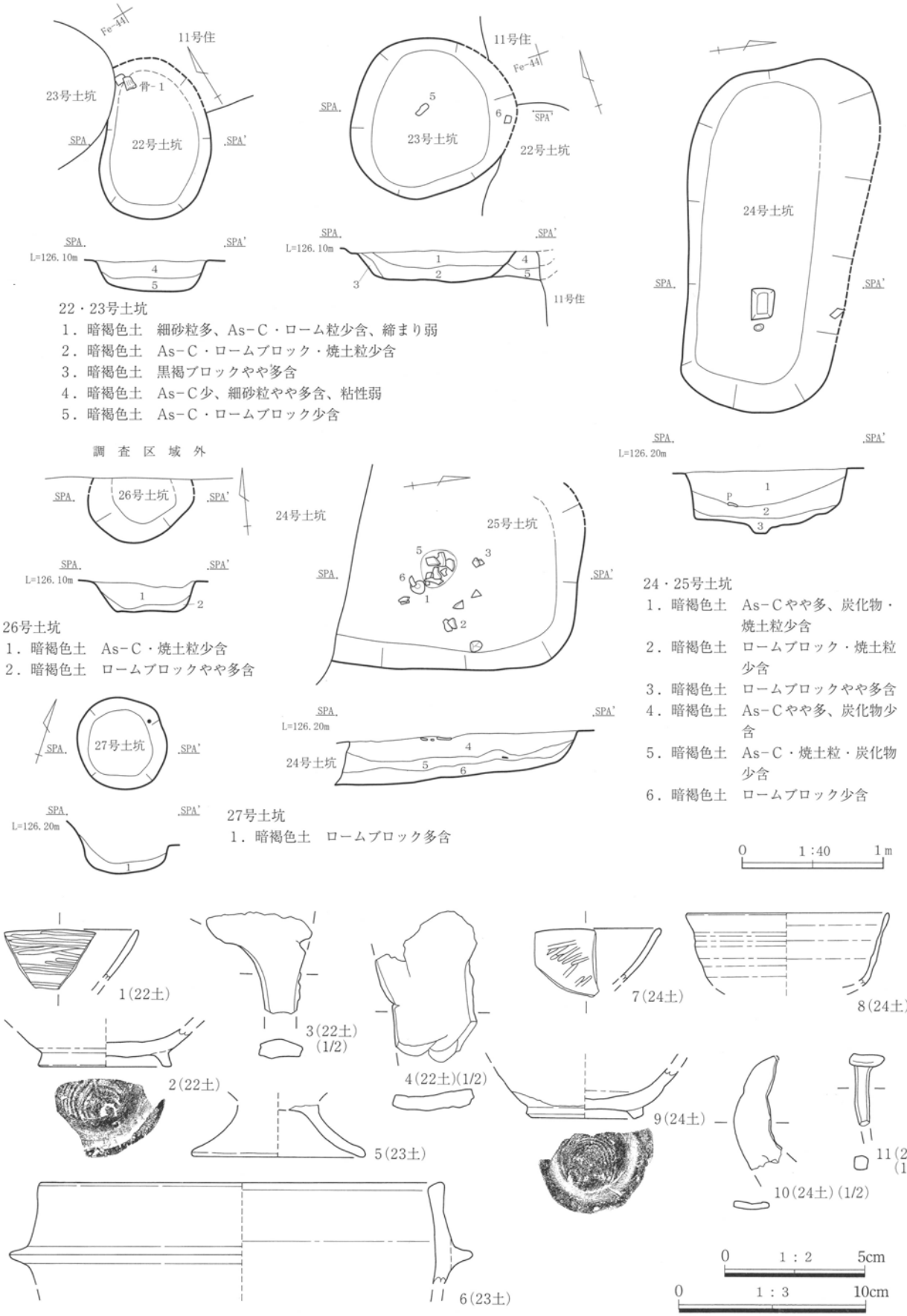
第239図　19号土坑、出土遺物（1）



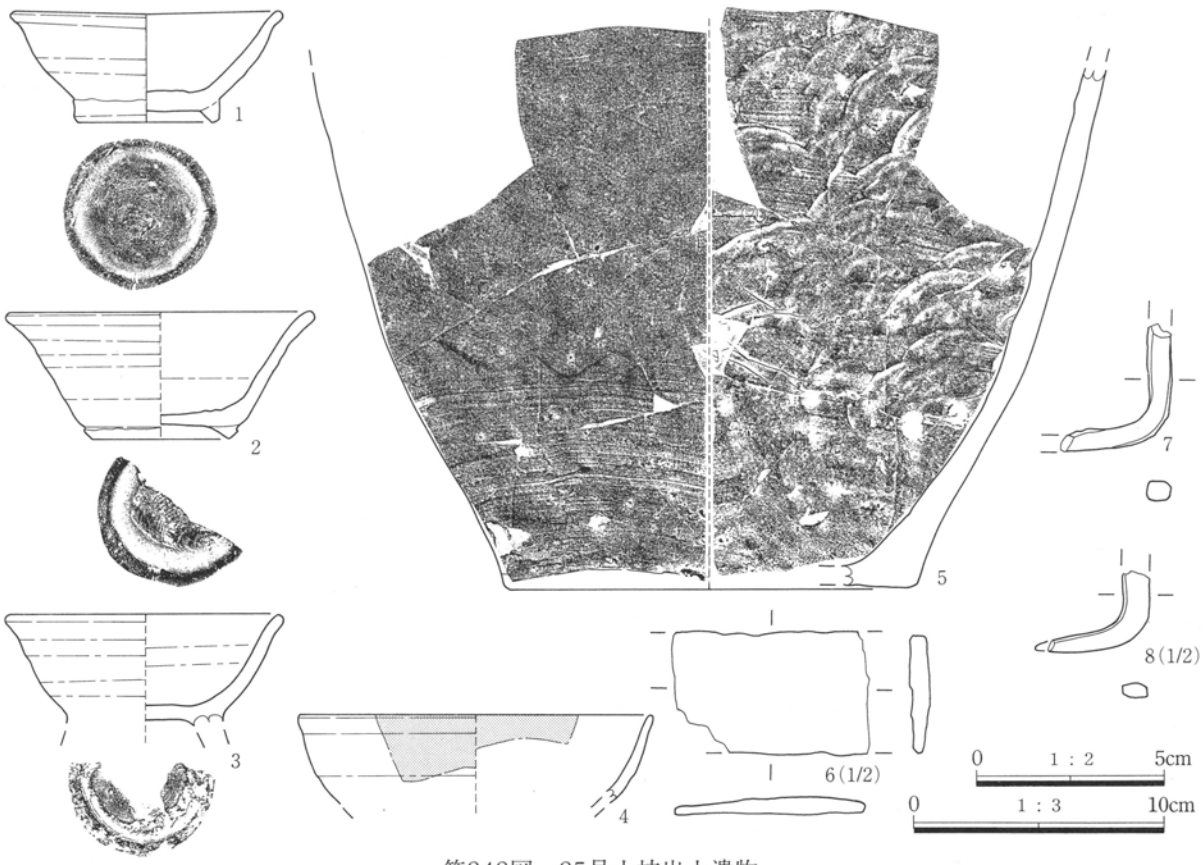
第240図　19号住居跡出土遺物（２）

19号土坑　遺物観察表坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第239図１ PL. 74	灰釉陶器 瓶類	覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　細砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面施釉	
第239図２ PL. 74	須恵器 甕	覆土 底1/5	口　－ 底　(18.0) 高　(3.1)	胎　φ5㎜小礫　砂粒やや多　白･赤･黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　にぶい黄褐	内外面横ナデ	
第240図３ PL. 74	ガラス 染毛剤	覆土 ほぼ完	口　1.8 底　2.5 高　(3.7)	胎　－ 焼　－ 色　－	蓋一部残存、茶色の化粧品容器	「君が代」の銘
第240図４ PL. 74	ガラス 薬品	覆土 完形	口　1.8 底　3.0 高　3.7	胎　－ 焼　－ 色　－	側面に12㎜間隔の目盛り、気泡が目立つ	
第240図５ PL. 74	ガラス 薬品	覆土 完形	口　2.9 底　4.2 高　11.2	胎　－ 焼　－ 色　－	表面に「共存洞栄」の陽刻、裏面に成分等を表示か、底面は「A」の陽刻	「ZENKOREN」の銘
第240図６ PL. 74	ガラス 目薬	覆土 完形	口　1.5 先　0.7 高　7.8	胎　－ 焼　－ 色　－	一端はゴム栓で留めたか、片面に「HOSI」、もう一面に成分等を表示か	星製薬
第240図７ PL. 74	ガラス 化粧品か	覆土 完形	口　1.8 底　3.5 高　10.2	胎　－ 焼　－ 色　－	化粧品容器か、無色透明	
第240図８ PL. 74	ガラス 薬品か	覆土 完形	口　2.5 底　7.0 高　19.9	胎　－ 焼　－ 色　－	薬品関係か、淡い緑色	
第240図９ PL. 74	ガラス 化粧品	覆土 口～底　底 完、他1/3	口　(4.0) 底　4.0 高　5.3	胎　－ 焼　－ 色　－	化粧品容器、白色	



第241図　22～27号土坑、22～24号土坑出土遺物



第242図　25号土坑出土遺物

22号土坑　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第241図 1 PL. 75	須恵器 埦	覆土 口破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　細砂粒少　白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	轆轤整形　内面：横方向のミガキ	内黒埦
第241図 2 PL. 75	須恵器 埦	覆土 体下～底1/4	口　－ 底　(7.1) 高　(2.0)	胎　φ4㎜小礫　粗砂粒少　白・黒・赤色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第241図 3 PL. 75	鉄製品 不明鉄製品	覆土 欠損あり	(3.7)	(3.5)	0.6	7	上部はやや薄く広がる。鎌などの基部か
第241図 4 PL. 75	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(5.3)	3.2	0.5	15	やや厚みのある板状品

23号土坑　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第241図 5 PL. 75	土師器 台付甕	覆土 脚4/6	口　－ 底　(9.2) 高　(2.8)	胎　細砂粒少　白色・黒色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい黄橙	内外面横ナデ	外面：炭化物付着
第241図 6 PL. 75	須恵器 羽釜	覆土 口～体上1/8	口　(21.6) 底　－ 高　(5.3)	胎　砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	轆轤整形	

24号土坑　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第241図 7 PL. 75	須恵器 埦	覆土 口破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　淡黄	轆轤整形　内面：ミガキ	内黒埦
第241図 8 PL. 75	須恵器 埦	覆土 口～体1/8	口　(10.6) 底　－ 高　(4.3)	胎　細砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形	

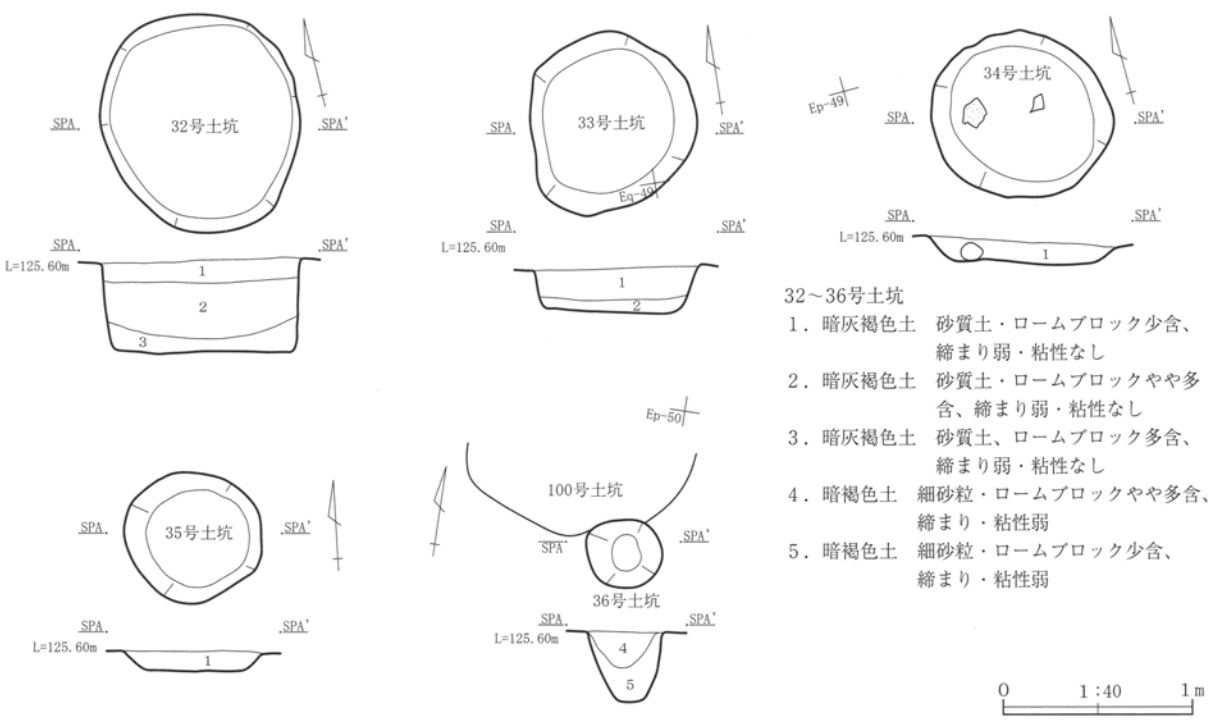
第241図 9 PL. 75	須恵器 埦	覆土 体下～底1/4	口 － 底 (5.4) 高 (2.7)	胎 φ4㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第241図10 PL. 75	鉄製品 不明鉄製品	覆土 欠損あり	(4.1)	1.2	0.2	3	扁平で、刃部の形成などは見られない
第241図11 PL. 75	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(2.6)	0.45	0.5	1	頭部折り曲げの角釘

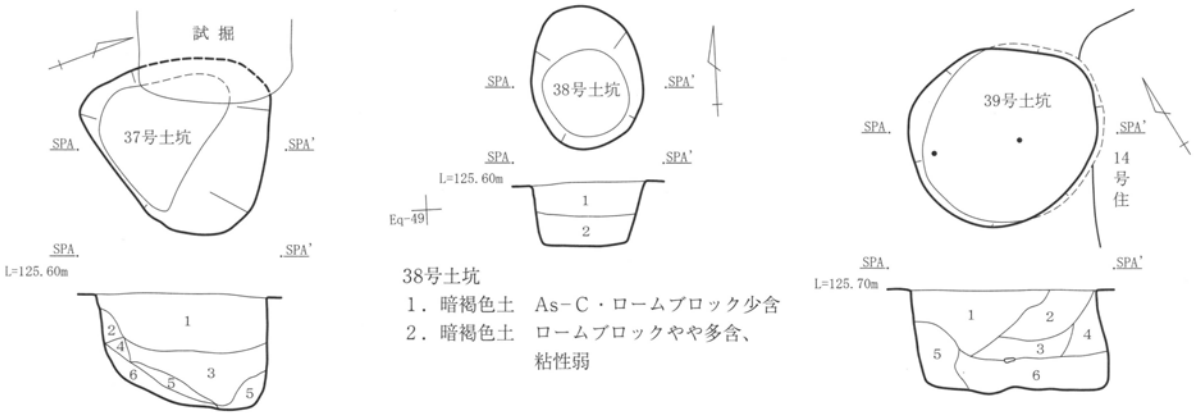
25号土坑　遺物観察表坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第242図 1 PL. 75	須恵器 埦	覆土 口～底3/4	口 11.0 底 5.6 高 4.4	胎 φ3㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰白	轆轤整形（右回転） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第242図 2 PL. 75	須恵器 埦	覆土 口～底1/2	口 (12.2) 底 (6.1) 高 5.0	胎 φ6㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 明褐灰	轆轤整形（右回転） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第242図 3 PL. 75	須恵器 埦	覆土 口～底1/4 高台欠損	口 (11.0) 底 － 高 (4.4)	胎 φ3㎜小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰白	轆轤整形（右回転） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第242図 4 PL. 75	灰釉陶器 埦	覆土 口～底2/5	口 (14.0) 底 － 高 (3.5)	胎 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面体部上半施釉、漬け掛け	口唇部に炭化物付着、大原2号窯式期
第242図 5 PL. 75	須恵器 甕	覆土 体～底1/4	口 － 底 (15.8) 高 (20.4)	胎 φ3㎜小礫 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	外面：体部ヘラ削りの後、ヘラナデ	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第242図 6 PL. 75	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(5.1)	(5.1)	0.5	12	扁平で、やや薄い板状品
第242図 7 PL. 75	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(3.5)	(3.5)	0.5	3	断面四角形の棒状品で、折り曲げられている。釘や工具の柄などか
第242図 8 PL. 75	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(2.6)	(2.6)	0.4	1	断面四角形の棒状品で、折り曲げられている。釘や工具の柄などか



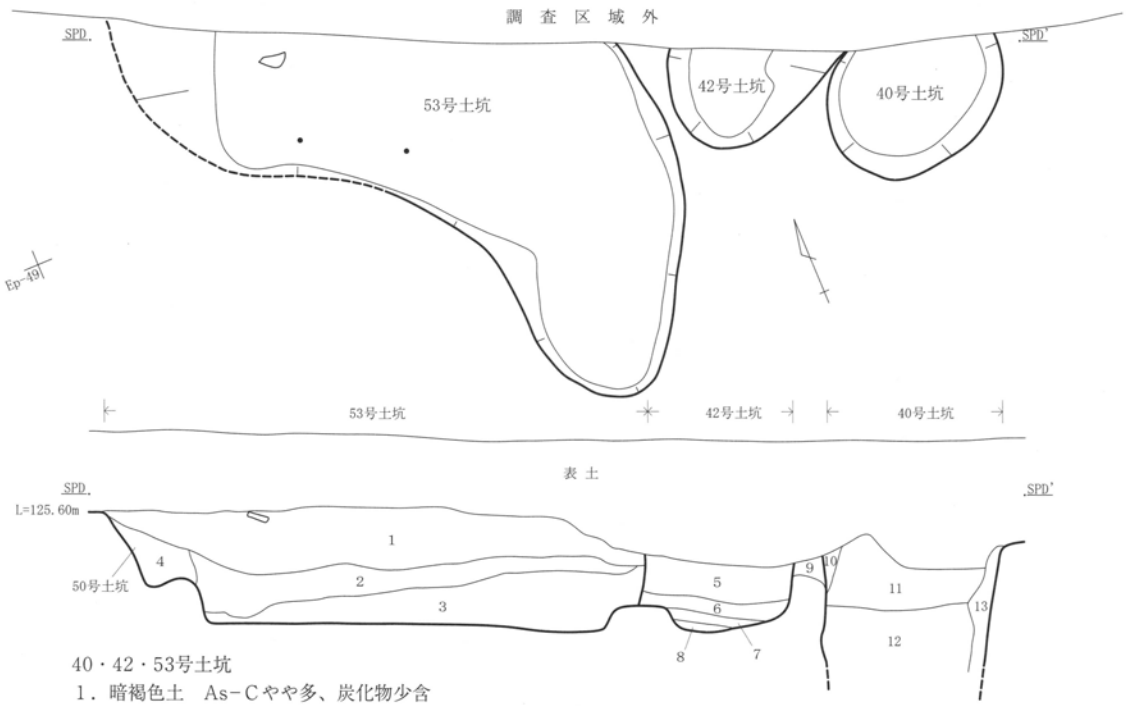
第243図　32～36号土坑



38号土坑
1．暗褐色土　As-C・ロームブロック少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含、粘性弱

37号土坑
1．暗褐色土　細砂粒多、As-C・ロームブロック少含、締まり・粘性弱
2．暗褐色土　暗褐粘質土ブロック多含、粘性弱
3．暗褐色土　ロームブロック・灰・焼土粒少含
4．暗黄褐色土　ロームブロック多含
5．暗褐色土　ロームブロックやや多含
6．淡褐色土　ロームブロック多含

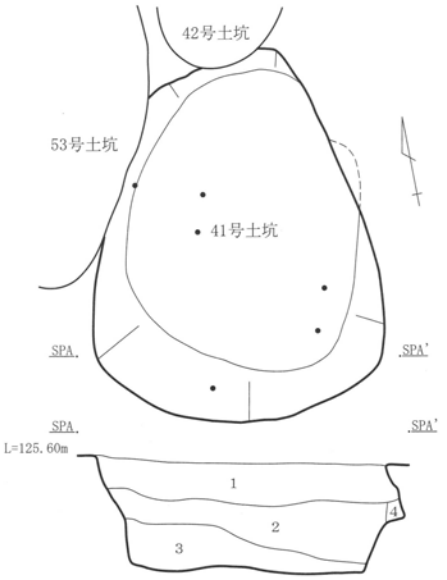
39号土坑
1．暗褐色土　砂質土、ロームブロックやや多、炭化物少含、粘性なし
2．暗褐色土　砂質土、ロームブロック・白色軽石やや多含、粘性なし
3．暗褐色土　砂質土、ロームブロック少含、締まり弱・粘性なし
4．暗褐色土　砂質土、ロームブロック極少含、粘性なし
5．暗褐色土　砂質土、ローム・暗褐粘質土ブロックやや多含、粘性なし
6．暗褐色土　砂質土、ローム・暗褐粘質土ブロック少含、粘性なし

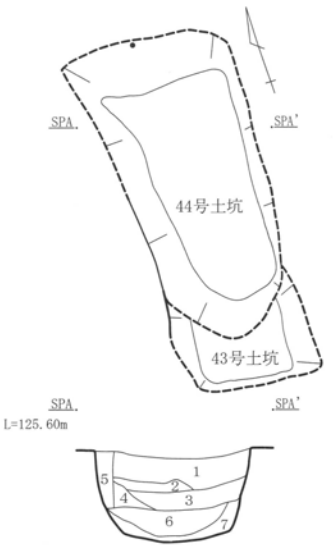


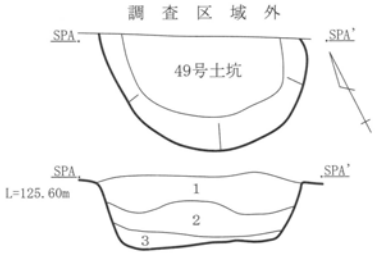
40・42・53号土坑
1．暗褐色土　As-Cやや多、炭化物少含
2．暗褐色土　As-Cやや多含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含、締まり弱
5．暗褐色土　As-Cやや多、ロームブロック少含
6．暗褐色土　As-C・ロームブロック少含
7．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C少含
8．暗褐色土　ロームブロック多含
9．暗褐色土　As-Cやや多含
10．暗褐色土　砂質土、As-C・暗褐粘質土ブロックやや多含、締まり弱・粘性なし
11．暗褐色土　砂質土、As-C少含、締まり・粘性なし
12．暗褐色土　砂質土、締まり弱・粘性なし
13．暗褐色土　砂質土、ロームブロックやや多含、締まり弱・粘性なし

0　1:40　1m

第244図　37～40・42・53号土坑



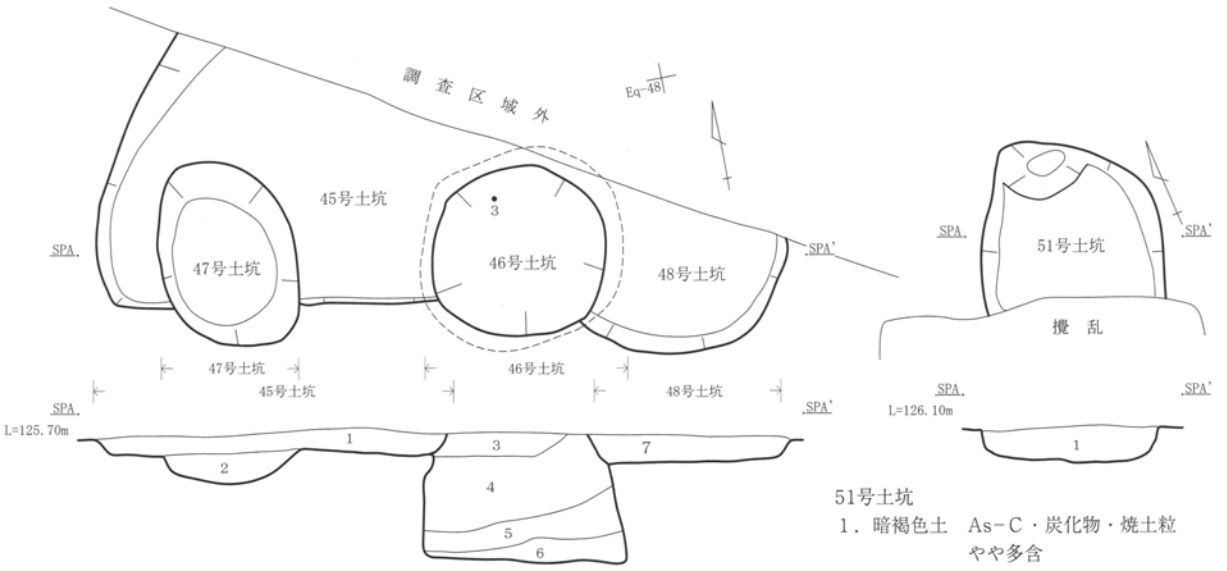




49号土坑
1．暗褐色土　砂質土、白色軽石・ロームブロック少含、締まり弱・粘性なし
2．暗褐色土　砂質土、ロームブロックやや多含、締まり弱・粘性なし
3．暗褐色土　砂質土、ロームブロック少含、粘性なし

41号土坑
1．暗褐色土　砂質土多、As−C少含、粘性弱
2．暗褐色土　As−C・ローム粒少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含
4．暗褐色土　砂質土多、暗褐粘質土やや多含、粘性弱

43・44号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、ロームブロック少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含
3．暗褐色土　As−C・ロームブロックやや多含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含
5．暗褐色土　ロームブロック多含、締まり弱
6．暗褐色土　ロームブロック少含
7．暗褐色土　ロームブロックやや多含

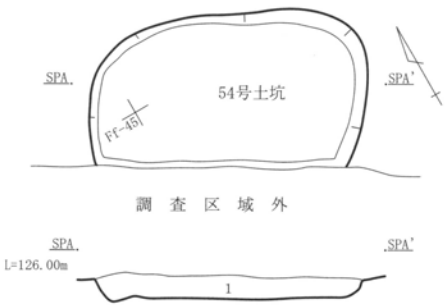


51号土坑
1．暗褐色土　As−C・炭化物・焼土粒やや多含

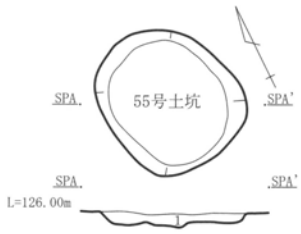
45～48号土坑
1．暗褐色土　砂質土、白色軽石やや多、焼土粒・炭化物少含、粘性なし
2．暗褐色土　砂質土、暗褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性なし
3．暗褐色土　砂質土、ロームブロックやや多、白色軽石少含、粘性なし
4．暗褐色土　砂質土、ロームブロック多含、締まり・粘性なし
5．暗褐色土　ロームブロック少含
6．暗褐色土　ロームブロックやや多含
7．暗褐色土　砂質土多、白色軽石少含

0　1:40　1m

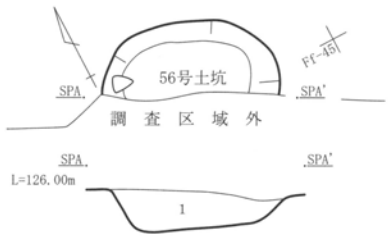
第245図　41・44～47・49・51号土坑



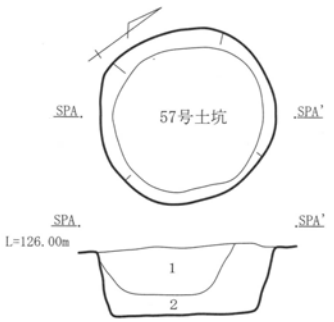
54号土坑
1．暗褐色土　炭化物・黄褐粘質土ブロック少、As－C・焼土粒極少含

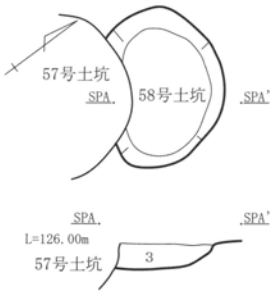


55号土坑
1．暗褐色土　As－Cやや多、焼土粒少含

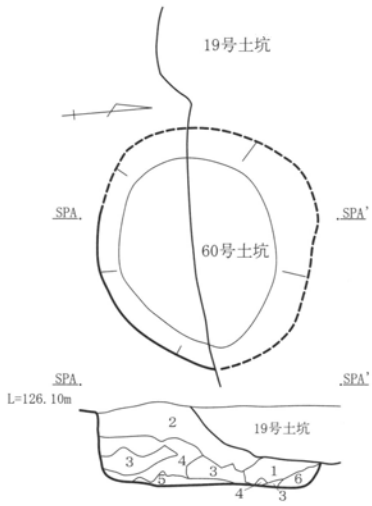


56号土坑
1．暗褐色土　砂質土多、炭化物少含

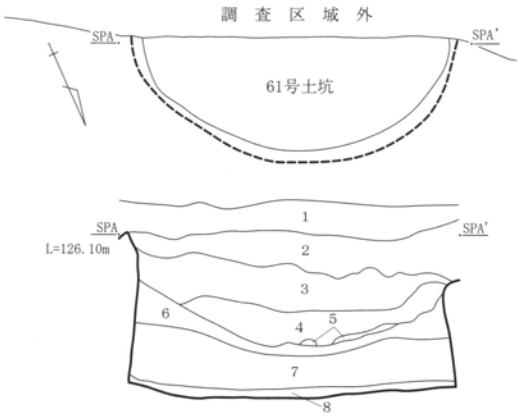




57・58号土坑
1．暗褐色土　As－C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　ロームブロック少含
3．暗褐色土　砂質土、As－Cやや多含、締まりなし



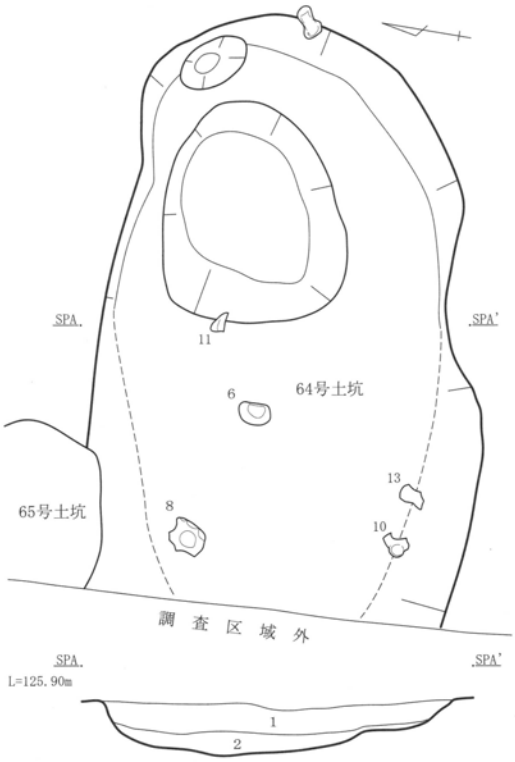
60号土坑
1．暗褐色土　As－B主体、褐ブロック多含、締まり弱・粘性なし
2．暗褐色土　As－B・褐ブロック多含、締まり弱・粘性なし
3．As－B層　As－Bの灰
4．As－B層　やや粗い軽石層
5．As－B層　細かい軽石層
6．暗褐色土　As－C・ローム粒少含



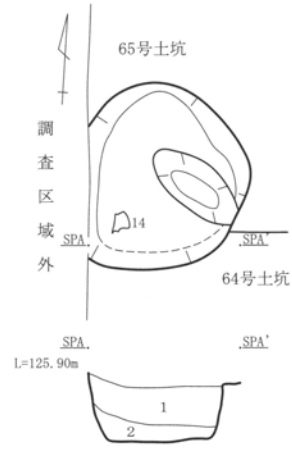
61号土坑
1．暗褐色土　砂質土多含、粘性弱
2．暗褐色土　As－B多含、締まり弱・粘性なし
3．暗褐色土　As－B多、As－B灰ブロック少含、締まり弱・粘性なし
4．As－B層　As－Bの灰
5．As－B層　As－Bの黒色灰
6．As－B層　As－Bの赤褐色灰
7．As－B層　やや細かい軽石層
8．As－B層　細かい軽石層

0　1:40　1m

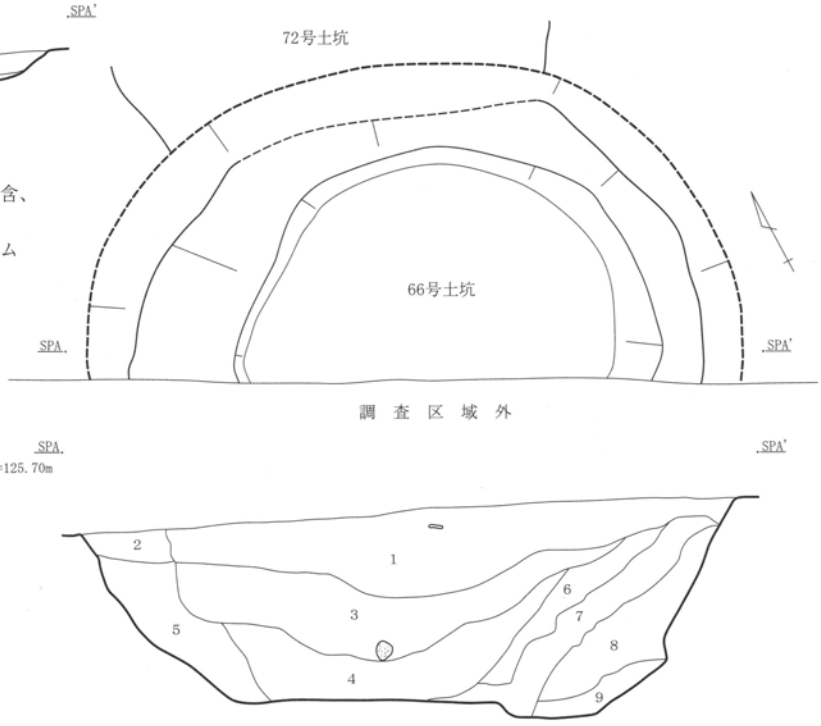
第246図　54～58・60・61号土坑

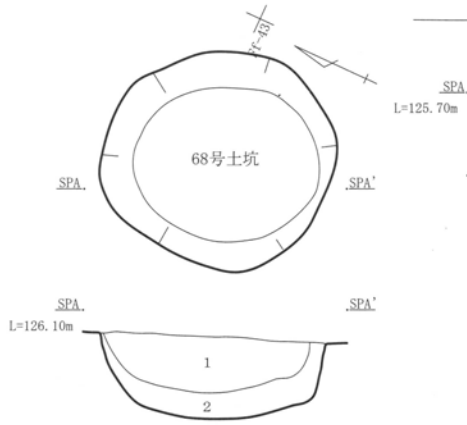


64号土坑
1．暗褐色土　As−C・細砂粒やや多含、粘性弱
2．暗褐色土　As−C・細砂粒・ロームブロック少含



65号土坑
1．暗褐色土　As−C・ロームブロック少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含



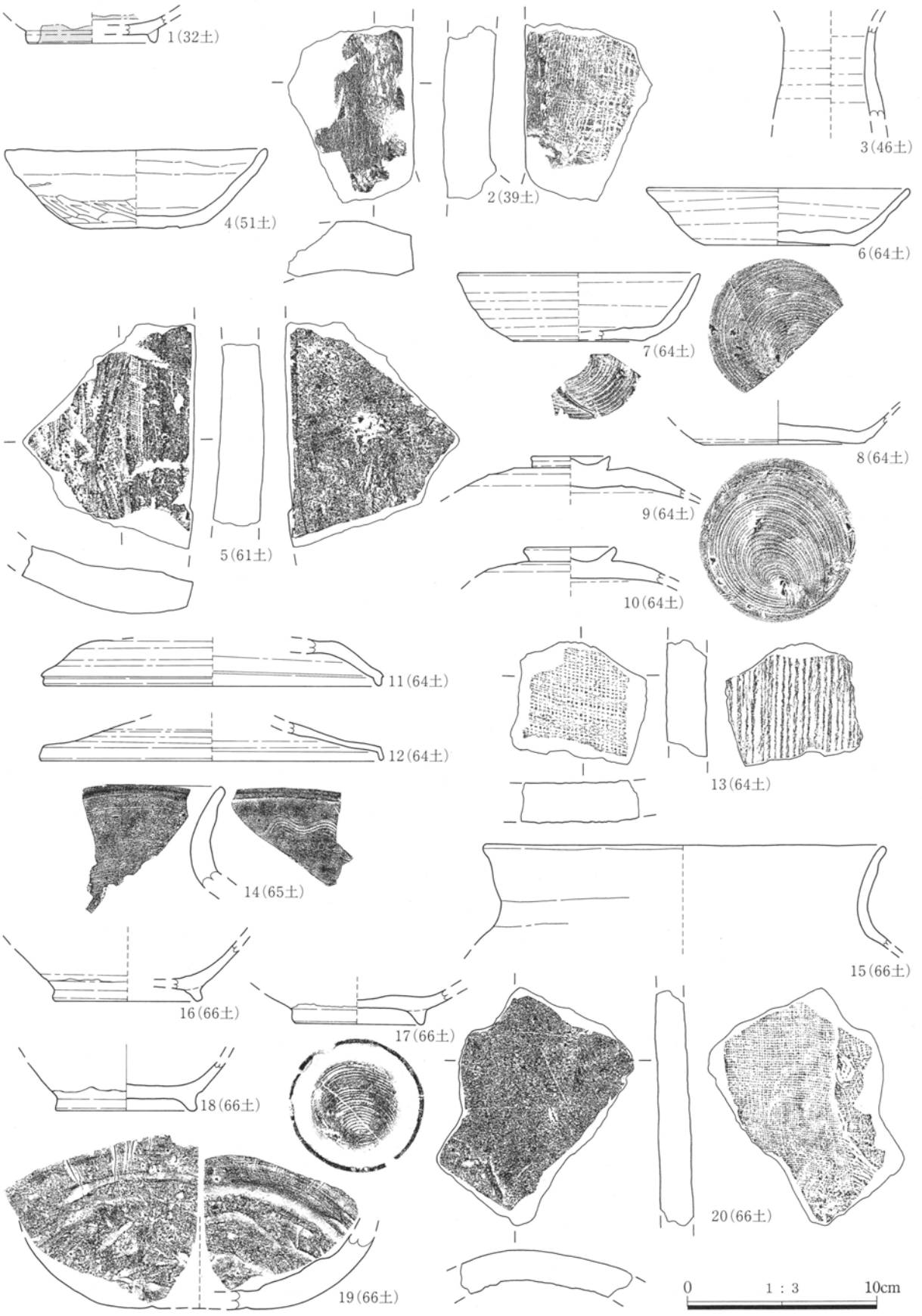


68号土坑
1．暗褐色土　As−C・ロームブロック少含
2．暗褐色土　As−C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含

66号土坑
1．暗褐色土　As−C・焼土粒・炭化物少含、粘性弱
2．褐色土　As−C・焼土粒極少、粘性弱
3．黒褐色土　As−C・焼土粒少含、粘性弱
4．黒褐色土　砂質土やや多、焼土粒・炭化物少、As−C極少含、粘性弱
5．暗褐色土　ロームブロックやや多、As−C極少含、締まりやや強
6．黒褐色土　焼土粒・炭化物少含、粘性強
7．暗褐色土　ロームブロック多、As−C極少含、粘性弱
8．暗褐色土　砂質土やや多、As−C・焼土粒極少含、粘性弱
9．暗褐色土　As−C極少含、粘性強

0　1:40　1m

第247図　64〜66・68号土坑



第248図　32～66号土坑出土遺物

32～66号土坑　遺物観察表坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第248図 1 PL. 75	灰釉陶器 埦	32土坑覆土 体下～底1/4	口　－ 底　(6.8) 高　(1.5)	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　内外面底部付近まで施釉	虎渓山１号窯式期
第248図 3 PL. 75	須恵器 長頸壺	46土坑覆土 頸1/8	口　－ 底　－ 高　(4.9)	胎　粗砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　褐灰	轆轤整形	
第248図 4 PL. 75	土師器 坏	51土坑覆土 口～底1/5	口　(13.8) 底　(6.0) 高　4.0	胎　φ3㎜小礫 砂粒やや多 黒・白・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	外面：口縁部横ナデ、体部下半～底部ヘラ削り　内面：横ナデ	
第248図 6 PL. 75	須恵器 坏	64土坑底面 口～底1/3	口　(13.8) 底　(7.9) 高　3.0	胎　φ3㎜小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第248図 7 PL. 75	須恵器 坏	64土坑覆土 口～底1/6	口　(12.6) 底　(7.0) 高　3.6	胎　φ4㎜小礫 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第248図 8 PL. 75	須恵器 坏	64土坑底面 体下～底ほぼ完	口　－ 底　7.9 高　(2.2)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第248図 9 PL. 75	須恵器 蓋	64土坑覆土 摘～天井1/6	口　－ 摘　(4.0) 高　(2.5)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　外面：天井部上半回転ヘラ削り	
第248図10 PL. 75	須恵器 蓋	64土坑底面 摘～天井1/4	口　－ 摘　(4.8) 高　(2.1)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　外面：天井部上半回転ヘラ削り	
第248図11 PL. 75	須恵器 蓋	64土坑覆土 天井～口1/5	口　(17.6) 摘　－ 高　(2.5)	胎　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形	
第248図12 PL. 75	須恵器 蓋	64土坑覆土 天井～口1/6	口　(18.0) 摘　－ 高　(2.0)	胎　φ5㎜小礫　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　やや軟 色　灰白	轆轤整形	
第248図14 PL. 75	須恵器 甕	65土坑底面 口破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　粗砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	外面：波状文　内面：自然釉	
第248図15 PL. 76	土師器 甕	66土坑覆土 口～体上1/5	口　(21.0) 底　－ 高　(5.5)	胎　砂粒やや多　白色・黒色・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り　内面：横ヘラナデ	
第248図16 PL. 76	須恵器 埦	66土坑覆土 体～底1/5	口　－ 底　(7.6) 高　(4.0)	胎　φ4㎜小礫 細砂粒少 黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　底部：切り離し技法不明、その後付け高台	
第248図17 PL. 76	須恵器 埦	66土坑覆土 体下～底 底完　他1/3	口　－ 底　6.8 高　(1.9)	胎　φ4㎜小礫 細砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　黄灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第248図18 PL. 76	須恵器 埦	66土坑覆土 体～底4/5	口　－ 底　7.4 高　(2.5)	胎　粗砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　黒褐	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り（？）後、付け高台	
第248図19 PL. 76	須恵器 甕	66土坑覆土 体下～底1/6	口　－ 底　－ 高　(3.9)	胎　砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	内面：青海波文	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第248図 2 PL. 75	鐙・男部	39土坑覆土 小破片	胎　並 焼　並 色	製　不明 桶 一　不明	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄消 型	2	秋間窯か観音山窯　9世紀前葉
第248図 5 PL. 75	平瓦	61土坑覆土 破坑片	胎　並 焼　密 色　灰黄褐	製 桶　○ 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　○ 乾　×	轆　× 叩　横撫 型	4	藤岡窯　8世紀中葉
第248図13 PL. 76	平瓦	64土坑覆土 小破片	胎　締 焼　密 色　オリーブ黒	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄絡 型	－	観音山窯　8世紀後葉～9世紀初
第248図20 PL. 76	丸瓦	66土坑覆土 破片	胎　並 焼　並 色　灰	製　2枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	－	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初頭

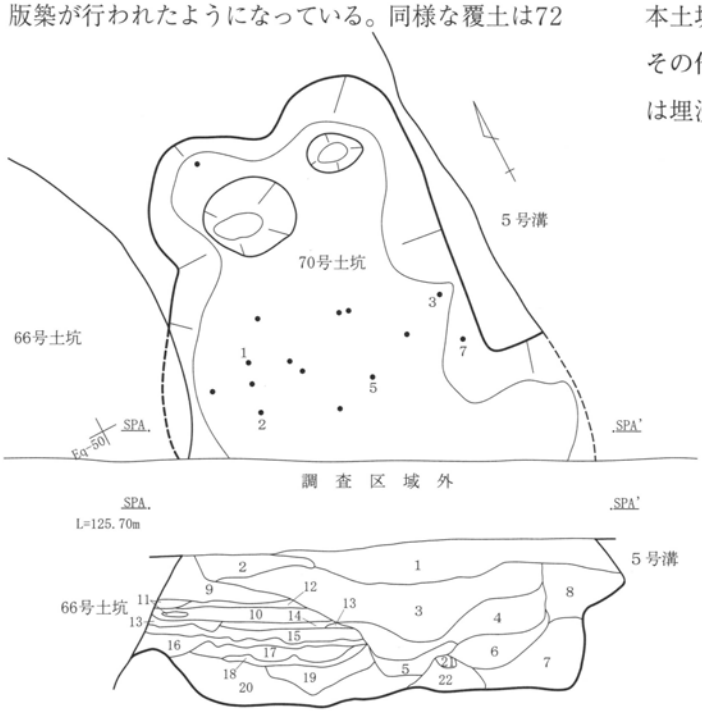
70号土坑（第249・253図、遺物PL.77）

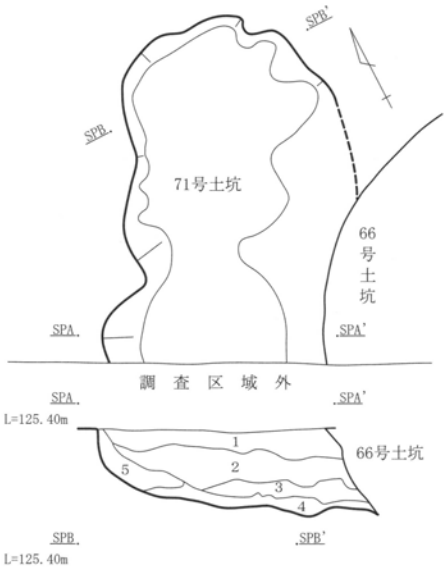
位置：Ep～Eq－49～51

概要：本土坑は調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。掘り込みは深いが、形状は不整形である。覆土の中央や上層部分は崩されているが、東部を中心に薄い重なりが残存している。層が何枚も重なったようになっている部分は固く、版築が行われたようになっている。同様な覆土は72号土坑にもあり、何らかの関連が伺える。本土坑付近には他に66・71・90・96号土坑があり、これらはいずれも規模が大きい。何らかの理由で大規模に掘られた後、埋め戻されている。

重複遺構：本土坑は５号溝と、66号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が古い。

その他：遺物には様々な時代があるが、平安時代には埋没していたであろう。



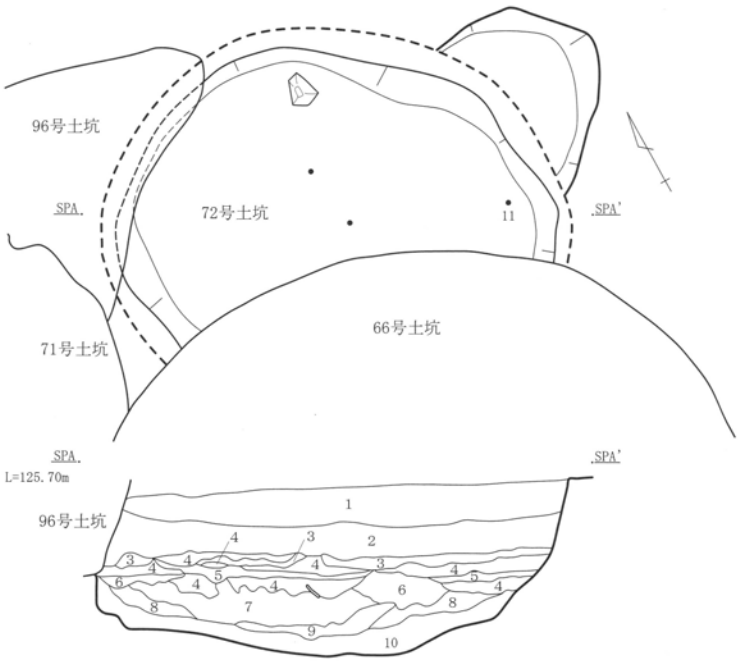


70号土坑
1．暗褐色土　As－C・焼土粒・炭化物少含、粘性弱
2．黒褐色土　砂質土・ロームブロック・As－C少含
3．黒褐色土　砂質土・ロームブロック・As－C少含
4．黒褐色土　ロームブロック少、As－C・焼土粒極少含、粘性やや強
5．黒褐色土　ロームブロック多、焼土粒極少含、粘性強
6．黒褐色土　ロームブロック・炭化物少含、粘性やや強
7．暗褐色土　ロームブロックやや多含、粘性強
8．暗褐色土　As－C少含、締まり・粘性強
9．黒褐色土　As－C少、焼土粒極少含、締まりやや強
10．黒褐色土　ロームブロック少、As－C極少含、締まりやや強
11．褐色土　砂質土・As－C少含、粘性なし
12．暗褐色土　明黄褐ブロックやや多含、締まりやや強・粘性強
13．暗褐色土　As－C少、締まり・粘性強
14．にぶい黄褐色土　砂質土主体、ロームブロック少含、粘性弱
15．黒褐色土　As－C少含、粘性強
16．明黄褐色土　ロームブロック主体、締まり・粘性強
17．黒褐色土　As－C少含、粘性やや強
18．暗褐色土　ロームブロック極少含、締まり・粘性強
19．暗褐色土　ロームブロック極少含、締まり強
20．暗褐色土　ロームブロックやや多含
21．暗褐色土　ロームブロック多含、粘性強
22．暗褐色土　ロームブロック主体、粘性強

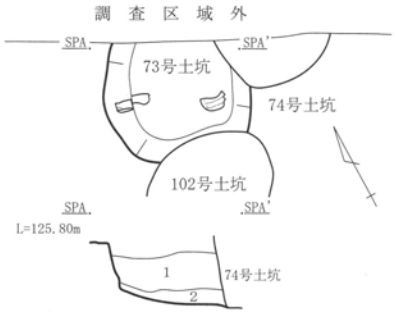
71号土坑
1．暗褐色土　As－C少、焼土粒極少含、締まりやや強
2．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C少含、締まりやや強
3．黒褐色土　As－C極少含
4．暗褐色土　ロームブロック多含、粘性やや強
5．暗褐色土　ロームブロックやや多含、締まりやや強・粘性強

0　1:40　1m

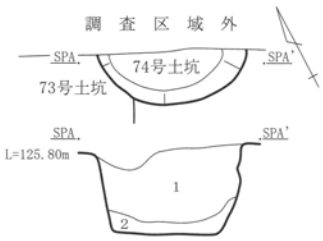
第249図　70・71号土坑



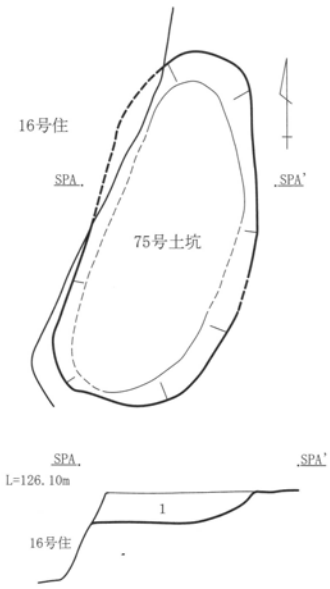
72号土坑
1．褐色土　As−Cやや多、焼土粒・炭化物極少含
2．暗褐色土　砂質土ブロックを数層含、As−Cやや多、焼土粒・炭化物極少含
3．にぶい黄橙色土　As−C少含、締まり・粘性強
4．暗褐色土　As−C・ロームブロック少含、締まり強・粘性やや強
5．暗褐色土　As−C極少含、締まり・粘性強
6．暗褐色土　ロームブロック少、As−C極少含、締まり・粘性強
7．にぶい黄褐色土　暗褐・明黄褐・明褐土が層状に入る、締まり・粘性強
8．明黄褐色土　暗褐・明褐土が層状に入る、締まり・粘性強
9．にぶい黄褐色土　暗褐・明黄褐・明褐土が層状に入る、締まり・粘性強
10．暗褐色土　ロームブロックやや多、As−C極少含、締まり・粘性強



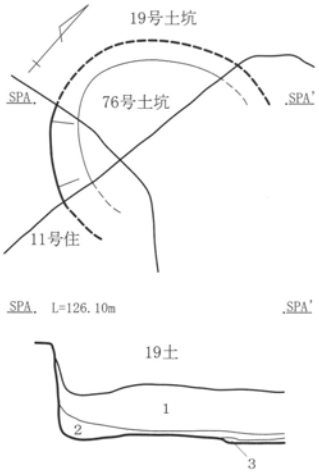
73号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　As−C・ロームブロック少含



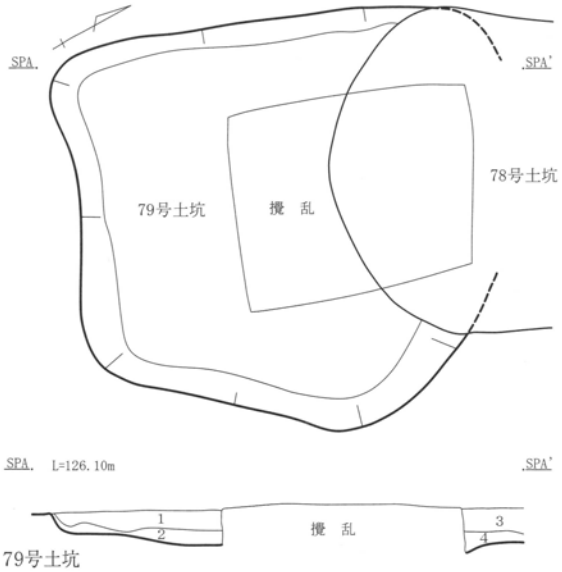
74号土坑
1．暗褐色土　As−B・白色軽石・暗褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性弱
2．暗褐色土　As−Bやや多、白色軽石・暗褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性弱



75号土坑
1．暗褐色土　As−C・ローム粒・焼土粒少含



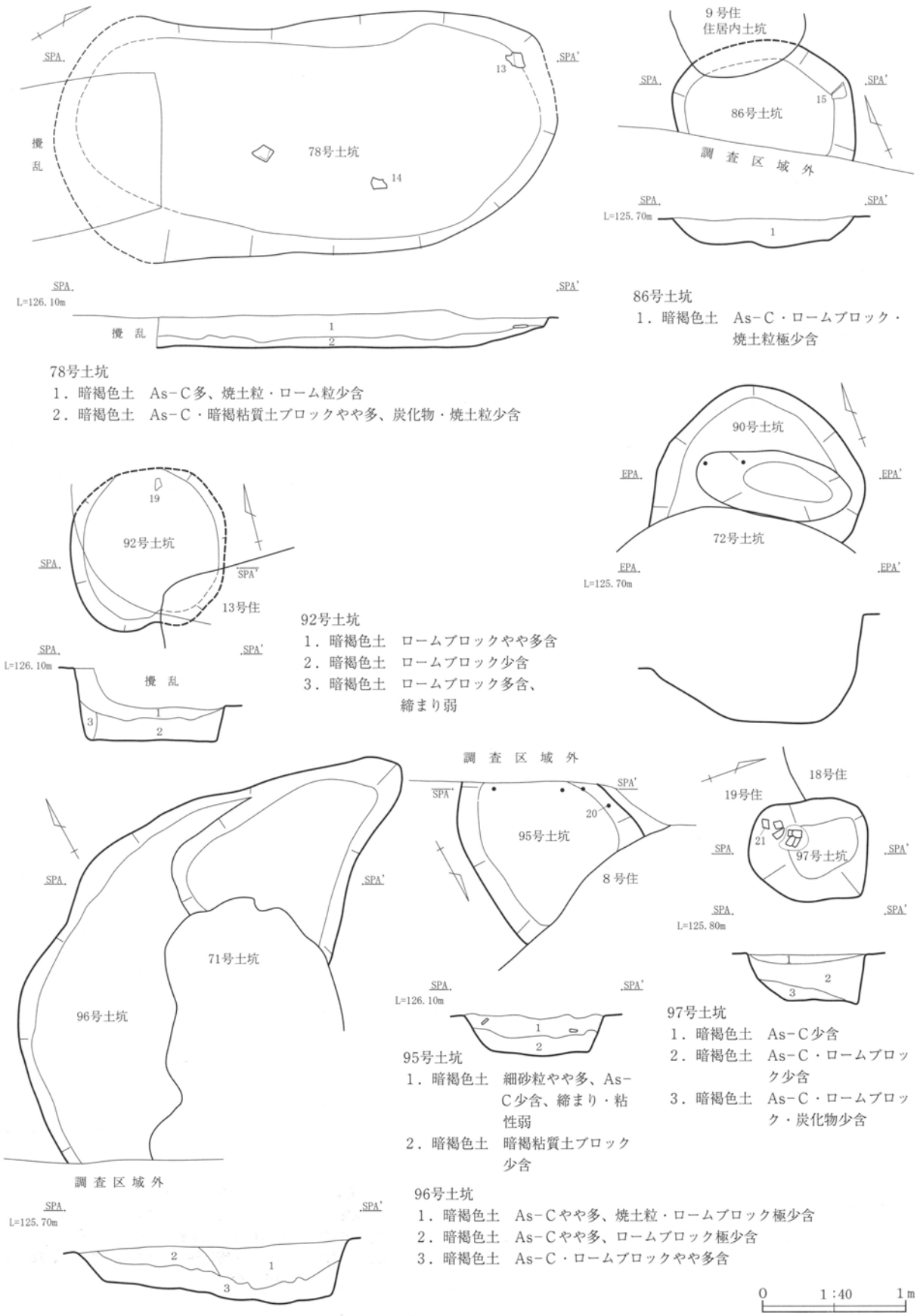
76号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、ローム粒・焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　As−C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含



79号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒少含
2．暗褐色土　暗褐粘質土ブロックやや多含、As−C少含
3．暗褐色土　As−C多、焼土粒・ローム粒少含
4．暗褐色土　As−C・暗褐粘質土ブロックやや多、炭化物・焼土粒少含

0　1:40　1m

第250図　72〜76・79号土坑



78号土坑
1．暗褐色土　As−C多、焼土粒・ローム粒少含
2．暗褐色土　As−C・暗褐粘質土ブロックやや多、炭化物・焼土粒少含

86号土坑
1．暗褐色土　As−C・ロームブロック・焼土粒極少含

92号土坑
1．暗褐色土　ロームブロックやや多含
2．暗褐色土　ロームブロック少含
3．暗褐色土　ロームブロック多含、締まり弱

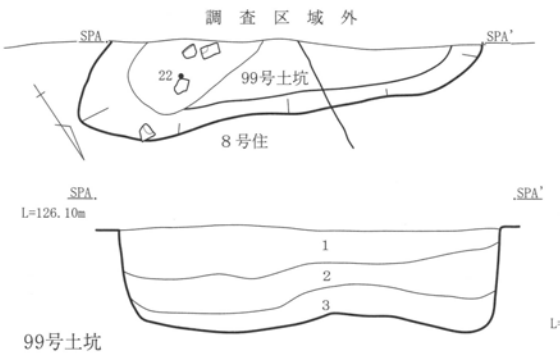
95号土坑
1．暗褐色土　細砂粒やや多、As−C少含、締まり・粘性弱
2．暗褐色土　暗褐粘質土ブロック少含

97号土坑
1．暗褐色土　As−C少含
2．暗褐色土　As−C・ロームブロック少含
3．暗褐色土　As−C・ロームブロック・炭化物少含

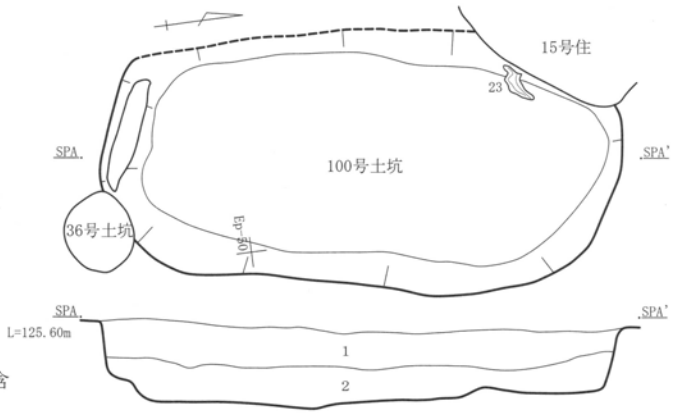
96号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒・ロームブロック極少含
2．暗褐色土　As−Cやや多、ロームブロック極少含
3．暗褐色土　As−C・ロームブロックやや多含

0　1:40　1m

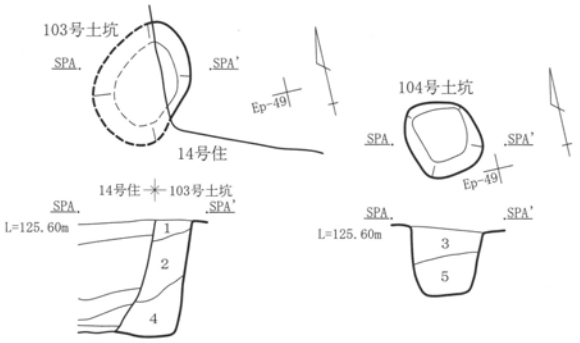
第251図　78・86・90・92・95〜97号土坑



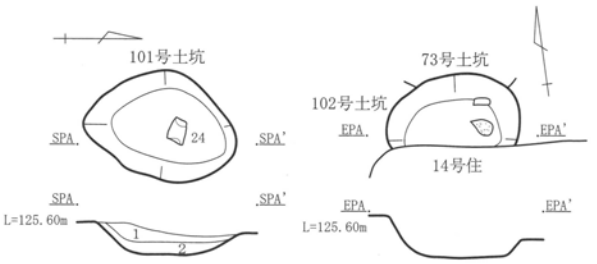
99号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒・炭化物・ローム粒少含
2．暗褐色土　As−C・炭化物・焼土粒少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多含



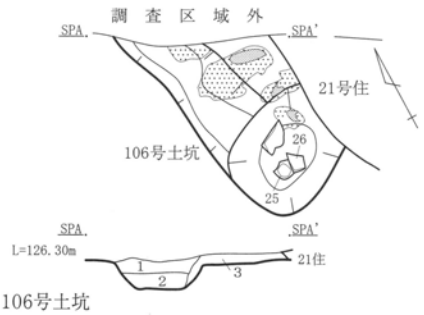
100号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒・炭化物少含
2．暗褐色土　As−C・暗褐粘質土ブロック少含



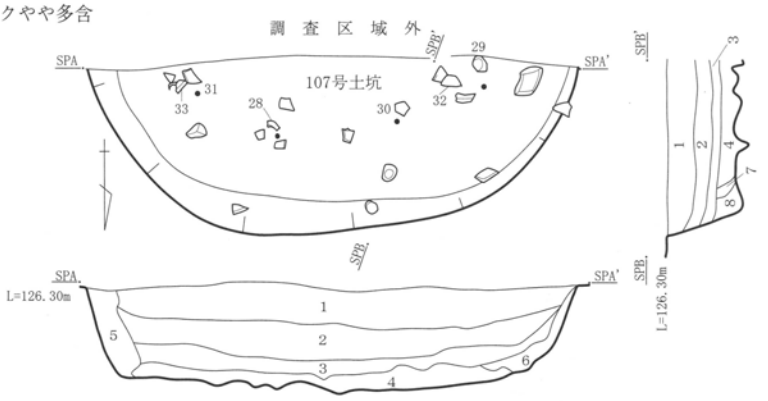
103・104号土坑
1．暗褐色土　As−C・ローム粒少含
2．暗褐色土　As−C・ブロック少含
3．暗褐色土　As−Cやや多、ローム粒少含
4．暗褐色土　ロームブロック少含
5．暗褐色土　ロームブロック・暗褐粘質土ブロックやや多含



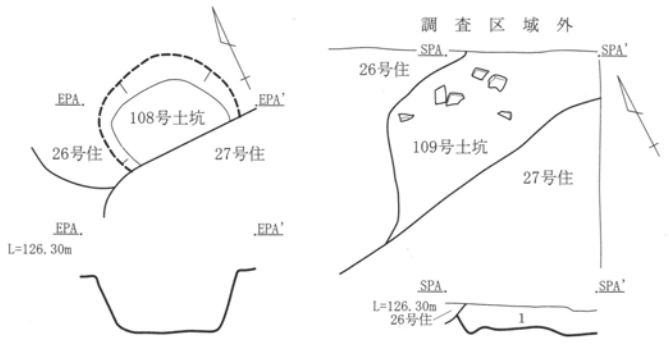
101号土坑
1．暗褐色土　ローム粒・As−C・焼土粒少含
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含



106号土坑
1．暗褐色土　炭化物・As−C少含
2．暗褐色土　ロームブロック・灰少含
3．暗褐色土　灰やや多、As−C少含



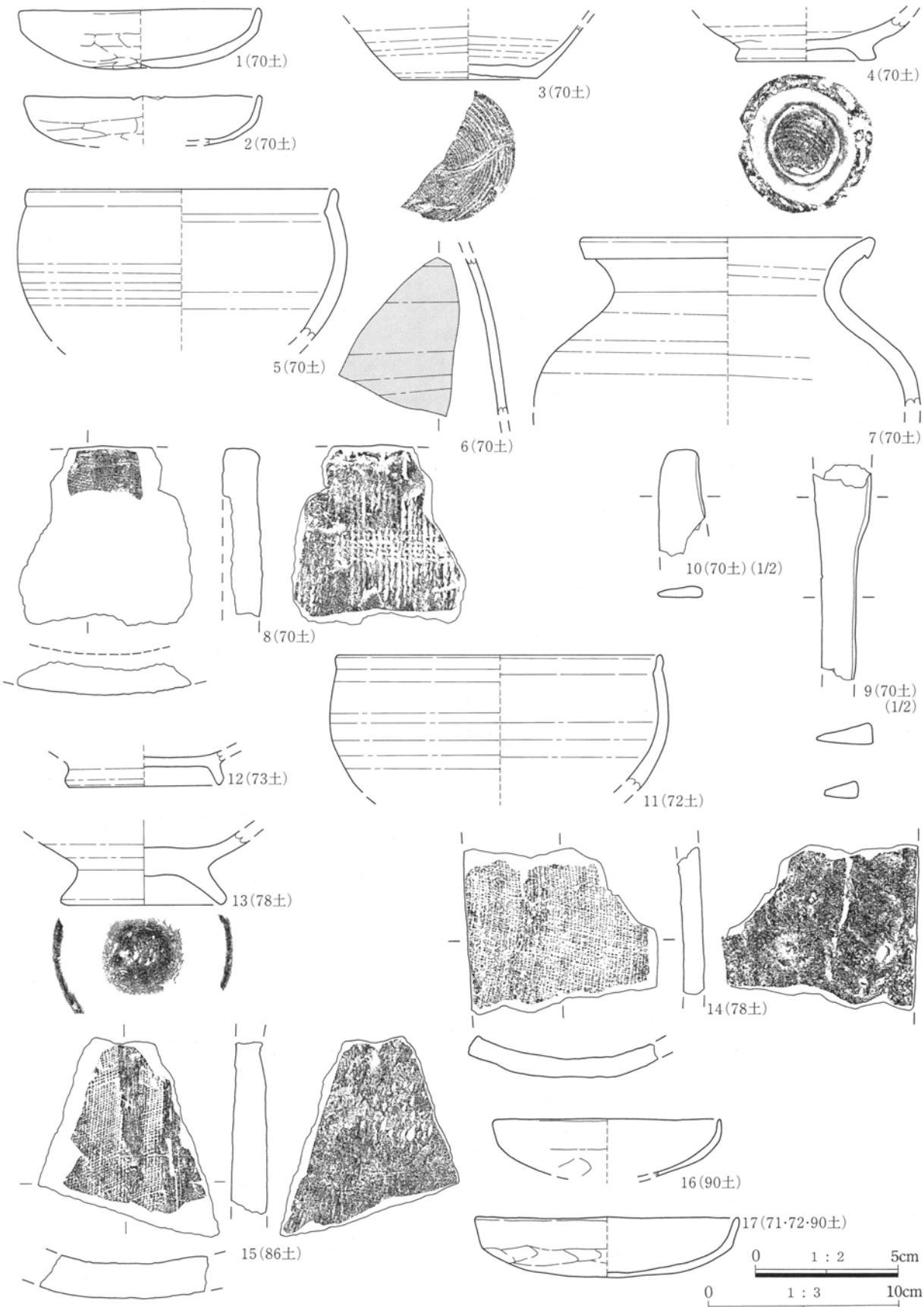
107号土坑
1．暗褐色土　As−C・ロームブロック・焼土粒少含
2．暗褐色土　灰・ロームブロック・炭化物少含
3．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒少含
4．暗褐色土　As−C・焼土粒少、ロームブロックやや多含
5．暗褐色土　As−C・ローム粒少含、締まり・粘性弱
6．暗褐色土　ロームブロック・As−Cやや多含
7．暗褐色土　ロームブロック多、炭化物少含
8．暗褐色土　ロームブロック多含



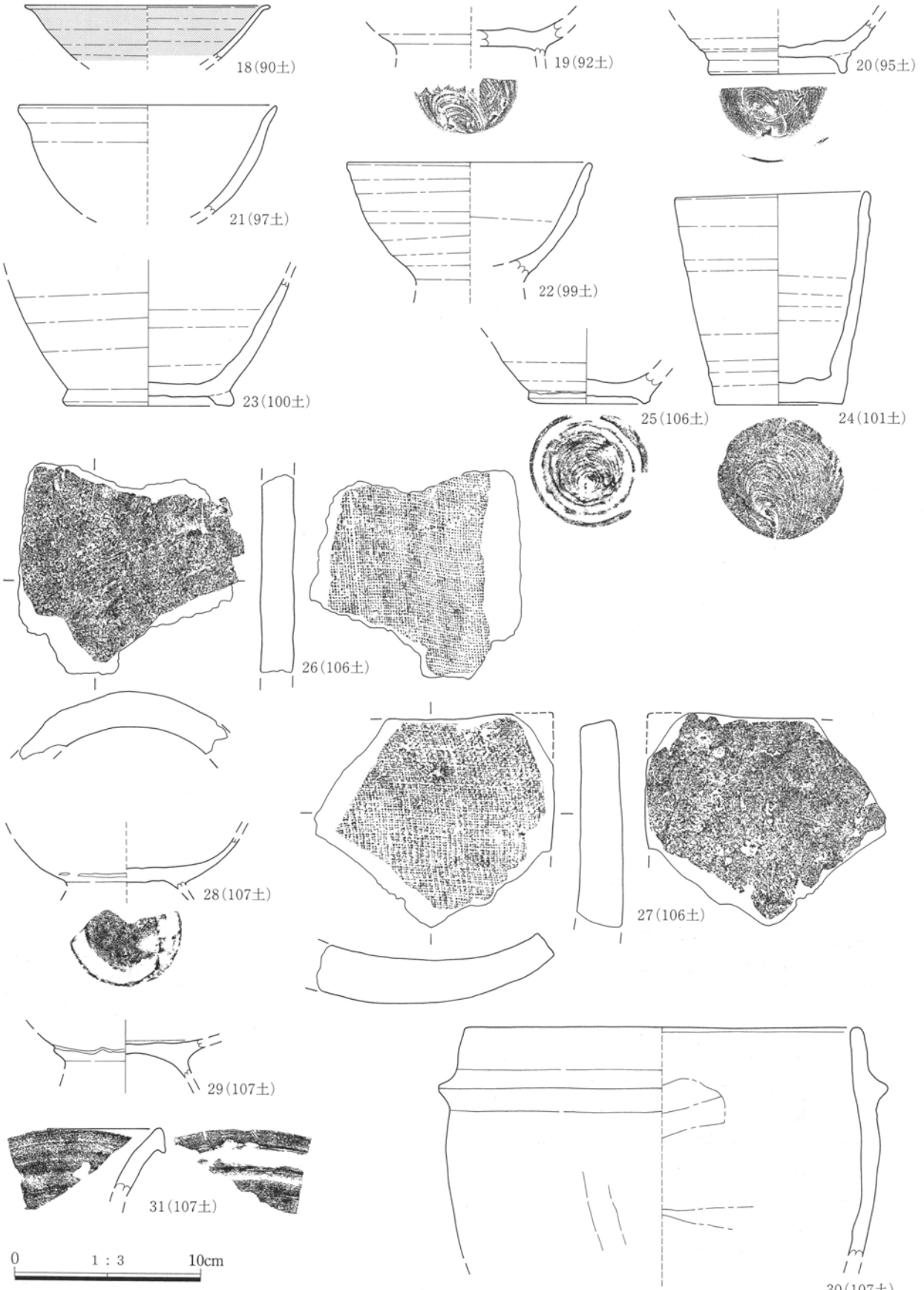
109号土坑
1．暗褐色土　As−Cやや多、焼土粒
・炭化物少含

0　1:40　1m

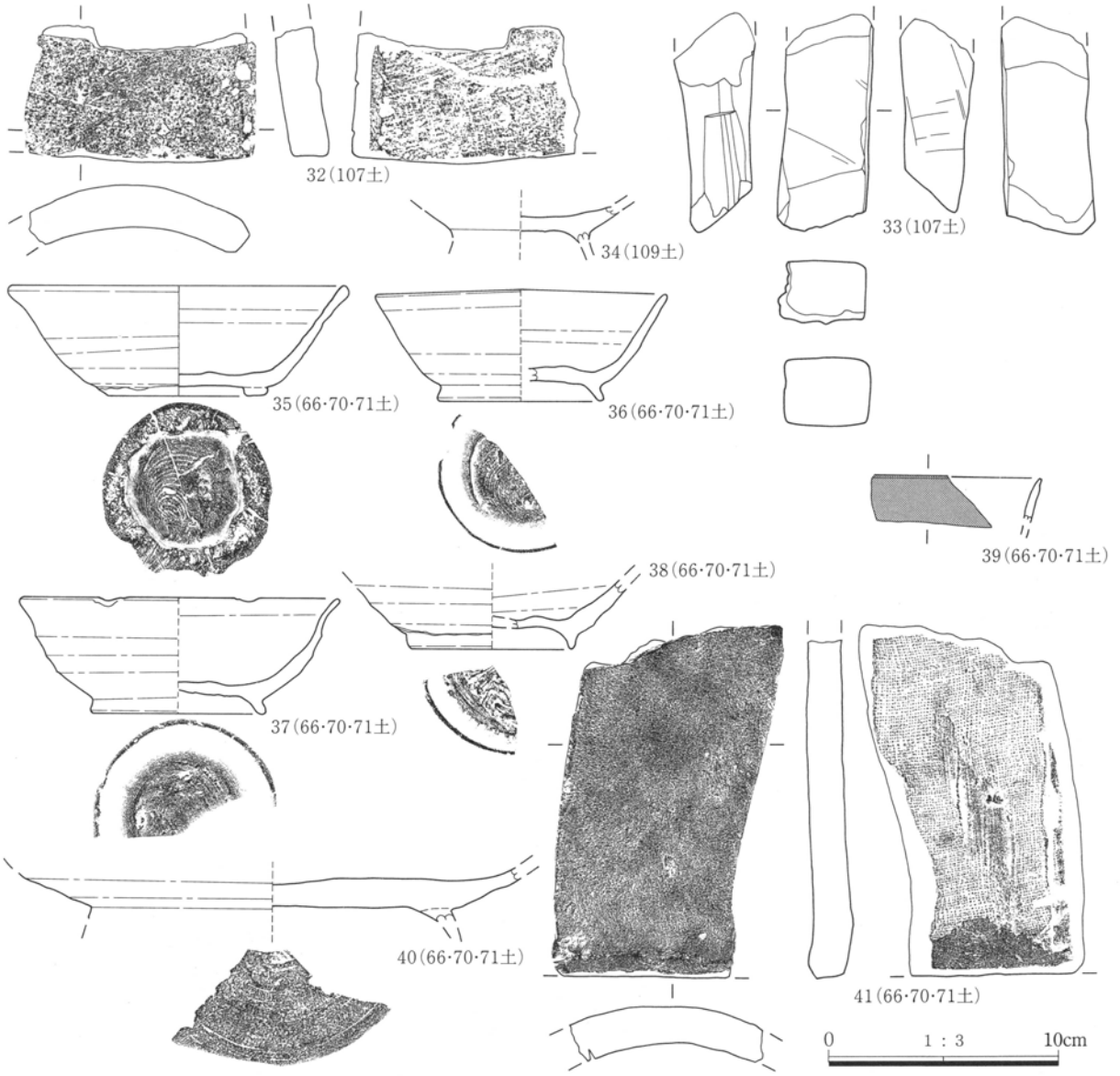
第252図　99～104・106～109号土坑



第253図　70～107号土坑・各土坑出土遺物（１）



第254図　70～107号土坑・各土坑出土遺物（2）



第255図　70～107号土坑・各土坑出土遺物（３）

70～109号土坑・各土坑　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第253図 1 PL. 76	土師器 坏	70土坑覆土 口～底1/8	口　(12.6) 底　－ 高　3.1	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：ナデ	
第253図 2 PL. 76	土師器 坏	70土坑底面 口～底1/6	口　(12.4) 底　－ 高　(2.7)	胎　砂粒少　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り　内面：横ナデ	
第253図 3 PL. 76	須恵器 坏	70土坑覆土 体～底1/3	口　－ 底　(7.2) 高　(3.8)	胎　細砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第253図 4 PL. 76	須恵器 埦	70土坑覆土 体～底　底完　他1/6	口　－ 底　7.3 高　(2.3)	胎　粗砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　黄灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第253図 5 PL. 76	須恵器 鉢	70土坑底面 口～体1/6	口　(16.2) 底　－ 高　(7.9)	胎　φ3㎜小礫　砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形	
第253図 6 PL. 76	灰釉陶器 瓶類	70土坑覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰黄	轆轤整形　外面施釉	

第253図 7 PL. 76	須恵器 甕	覆土 口～体上1/8	口 (15.4) 底 － 高 (8.7)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形 口縁部折り返し	
第253図11 PL. 76	須恵器 鉢	72土坑覆土 口～体1/6	口 (17.0) 底 － 高 (7.1)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形	
第253図12 PL. 76	灰釉陶器 埦か皿	73土坑覆土 底1/4	口 － 底 (8.0) 高 (1.9)	胎 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形	光ヶ丘1号窯式期
第253図13 PL. 76	須恵器 足高高台 埦	78土坑底面 体下～底2/3	口 － 底 8.6 高 (3.8)	胎 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 明褐	轆轤整形 底部：切り離し技法不明、その後付け高台	
第253図16 PL. 76	土師器 坏	90土坑覆土 口～体1/8	口 (12.0) 底 － 高 (3.0)	胎 細砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：ナデ	
第253図17 PL. 76	土師器 坏	90土坑覆土 口～底1/4	口 (13.7) 底 － 高 3.2	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第254図18 PL. 76	灰釉陶器 埦	90土坑覆土 口～体1/8	口 (13.0) 底 － 高 (2.9)	胎 緻密 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形 内外面施釉 刷毛塗り	光ヶ丘1号窯式期
第254図19 PL. 76	須恵器 埦	92土坑覆土 底1/4 高台欠損	口 － 底 － 高 (2.0)	胎 粗砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 白	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	内面スレ、転用硯か
第254図20 PL. 77	須恵器 埦	95土坑覆土 体下～底2/5	口 － 底 (7.0) 高 (3.0)	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	内面スレ、転用硯か
第254図21 PL. 77	須恵器 埦	97土坑覆土 口～体1/8	口 (13.7) 底 － 高 (5.9)	胎 φ4㎜小礫 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形	
第254図22 PL. 77	須恵器 埦	99土坑覆土 口～体1/8	口 (13.0) 底 － 高 (6.5)	胎 砂粒やや多 白色・黒色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	轆轤整形	
第254図23 PL. 77	須恵器 長頸壺	100土坑覆土 体下～底2/3	口 － 底 9.0 高 (6.8)	胎 粗砂粒やや多 白色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	轆轤整形	
第254図24 PL. 77	須恵器 鉢	101土坑覆土 口～底7/8	口 10.2 底 6.7 高 11.3	胎 φ4㎜小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第254図25 PL. 77	須恵器 埦	106土坑覆土 体～底4/5	口 － 底 6.6 高 (3.3)	胎 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 黒褐	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	
第254図28 PL. 77	須恵器 埦	107土坑覆土 体～底1/2 高台欠損	口 － 底 － 高 (2.7)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 橙	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台 内面：底部わずかにミガキ痕	内黒埦
第254図29 PL. 77	須恵器 埦	107土坑覆土 体下～底完 高台欠損	口 － 底 － 高 (2.3)	胎 砂粒多 黒色・白色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 淡黄	轆轤整形（右回転） 底部：切り離し技法不明、その後付け高台	
第254図30 PL. 77	須恵器 羽釜	107土坑覆土 口～体1/8	口 (21.0) 底 － 高 (12.2)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色・赤色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい橙	外面：口縁部～鍔部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	
第254図31 PL. 77	須恵器 甕	107土坑覆土 口破片	口 － 底 － 高 －	胎 φ2㎜小礫 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 黄灰	内外面横ナデ	
第255図34 PL. 77	須恵器 埦	109土坑覆土 体下～底1/4 高台欠損	口 － 底 － 高 (1.6)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰白	轆轤整形（右回転） 底部：切り離し技法不明、その後付け高台	
第255図35 PL. 77	須恵器 埦	66・70・71土 坑覆土 口～底 底完 他2/3	口 14.6 底 7.0 高 4.7	胎 φ6㎜小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 やや軟 色 灰白	轆轤整形（右回転） 口縁部弱く外反 底部：回転糸切り後、付け高台	
第255図36 PL. 77	須恵器 埦	66・70・71土 坑覆土 口～底1/2	口 (13.6) 底 (7.4) 高 5.0	胎 φ4㎜小礫 粗砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台 口唇部一部ゆがむ	
第255図37 PL. 77	須恵器 埦	66・70・71土 坑覆土 口～底1/4	口 (12.5) 底 (7.1) 高 4.8	胎 φ2㎜小礫 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焔 良好 色 灰	轆轤整形（右回転） 底部：回転切り離し後、付け高台	
第255図38 PL. 77	須恵器 埦	66・70・71土 坑覆土 体～底1/4	口 － 底 (7.1) 高 (3.0)	胎 φ5㎜小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焔 良好 色 にぶい橙	轆轤整形（右回転） 底部：回転糸切り後、付け高台	

第255図39 PL. 77	緑釉陶器 稜埦	66･70･71土 坑覆土 口破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　内外面施釉	猿投窯
第255図40 PL. 77	須恵器 盤	66･70･71土 坑覆土 体下～底1/4	口　－ 底　(13.8) 高　(2.3)	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　底部：回転ヘラ切り後、付け高台	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第253図８ PL. 76	平瓦	70土坑覆土 小破片	胎　軟 焼　並 色　にぶい黄橙	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄絡 型	×	秋間窯　９世紀前葉
第253図14 PL. 76	平瓦	78土坑底面 小破片	胎　並 焼　並 色　橙	製 桶　△ 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	1	吉井窯　９世紀中葉、薄作
第253図15 PL. 77	平瓦	86土坑覆土 破片	胎　硬 焼　密 色　黒褐	製 桶　△ 一　なし	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	－	笠懸窯　８世紀後葉、被熱している
第254図26 PL. 77	丸瓦	106土坑底面 破片	胎　硬 焼　並 色　灰黄	製　不明 桶 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	－	笠懸窯　８世紀後葉～９世紀初頭
第254図27 PL. 77	平瓦	106土坑覆土 破片	胎　硬 焼　並 色　灰	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	2	笠懸窯　８世紀後葉～９世紀初頭
第255図32 PL. 77	丸瓦	107土坑覆土 小破片	胎　硬 焼　並 色　灰	製　２枚 桶 一　なし	表　× 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	3	吉井窯　８世紀後葉～９世紀前葉
第255図41 PL. 77	丸瓦	66･70･71土 坑覆土 破片	胎　並 焼　並 色　黄灰	製　２枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	1 割込	笠懸窯　８世紀後葉～９世紀初頭、側部２回割込

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴
第253図９ PL. 76	鉄製品 板状品	70土坑覆土 欠損あり	(7.5)	2.0	0.9	13	肉厚だが、片側面は薄くなる。刀子類か
第253図10 PL. 76	鉄製品 板状品	70土坑覆土 欠損あり	(3.6)	1.6	0.3	3	扁平で薄い板状品

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第255図33 PL. 77	石製品 砥石	107土坑覆土 両端部欠損	(9.0)	3.7	2.9	砥沢石	欠損部を除く、ほぼ全面が使用面　溝状の切り込みと樋状の抉り込みが入る

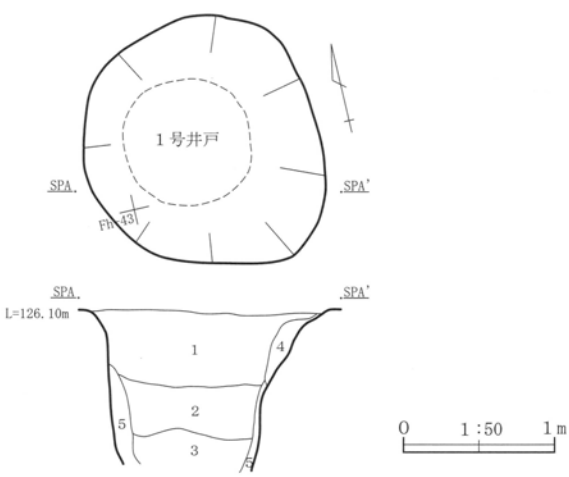
（４）井戸跡

１号井戸跡（第256図）

位置：Fg～Fi－42～44

方位：N－24°－W

概要：本遺跡では井戸跡が１基検出された。形状は長円形で、南北方向がやや長い。出土遺物はなく、時期は明らかでないが、覆土の様相から近世以降の可能性が考えられる。未完掘である。

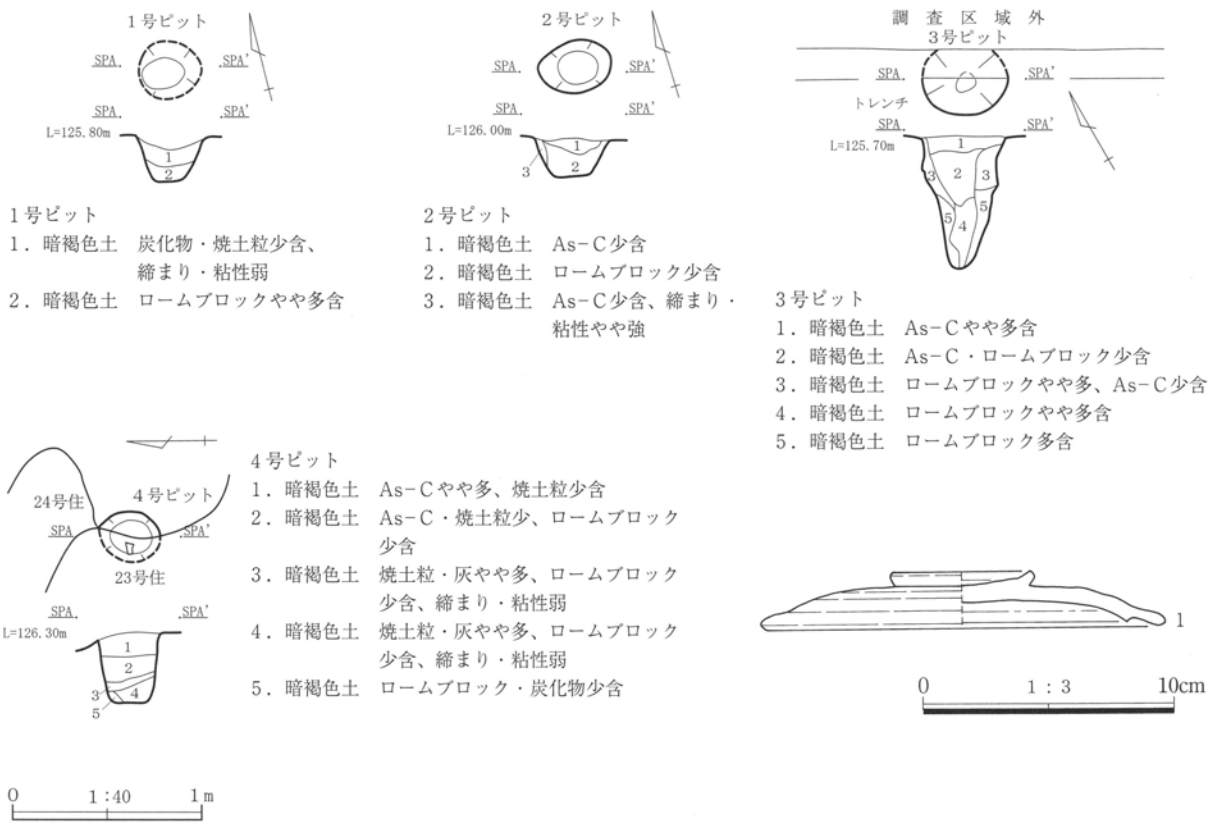


１号井戸跡
１．暗褐色土　砂質土、暗褐粘質土ブロック・白褐軽石極少含、締まり弱・粘性なし
２．暗褐色土　砂質土、暗褐粘質土ブロック極少含、締まり弱・粘性なし
３．暗褐色土　砂質土、炭化物少含、締まり弱・粘性なし
４．暗褐色土　砂質土・暗褐粘質土ブロック多含、締まり・粘性弱
５．暗褐色土　砂質土・暗褐粘質土ブロックやや多含、締まり・粘性弱

第256図　１号井戸跡

（5）ピット

本遺跡では、4基のピット状の遺構を検出した。掘立柱建物や柱列になるような配列を確認することはできなかった。詳細は計測表を参照されたい。



1号ピット
1．暗褐色土　炭化物・焼土粒少含、締まり・粘性弱
2．暗褐色土　ロームブロックやや多含

2号ピット
1．暗褐色土　As-C少含
2．暗褐色土　ロームブロック少含
3．暗褐色土　As-C少含、締まり・粘性やや強

3号ピット
1．暗褐色土　As-Cやや多含
2．暗褐色土　As-C・ロームブロック少含
3．暗褐色土　ロームブロックやや多、As-C少含
4．暗褐色土　ロームブロックやや多含
5．暗褐色土　ロームブロック多含

4号ピット
1．暗褐色土　As-Cやや多、焼土粒少含
2．暗褐色土　As-C・焼土粒少、ロームブロック少含
3．暗褐色土　焼土粒・灰やや多、ロームブロック少含、締まり・粘性弱
4．暗褐色土　焼土粒・灰やや多、ロームブロック少含、締まり・粘性弱
5．暗褐色土　ロームブロック・炭化物少含

第257図　1～4号ピット、出土遺物

3号ピット　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第257図1 PL.77	須恵器 蓋	覆土 摘～口1/2	口　(15.8) 摘　(5.6) 高　2.3	胎　φ3ミリ小礫　細砂粒少　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　外面：天井部上半回転ヘラ削り	内面スレ、転用硯か

（6）溝跡

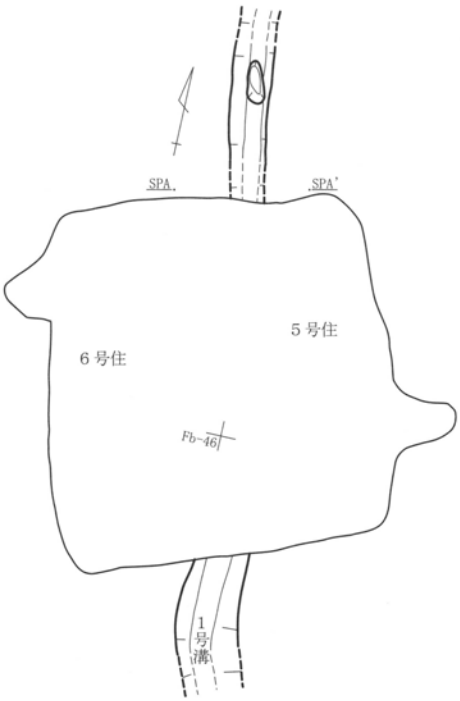
本遺跡では、5条の溝跡を検出した。覆土や遺物から中世よりは古く、1号溝跡以外は奈良・平安時代に属するであろう。詳細は計測表を参照されたい。

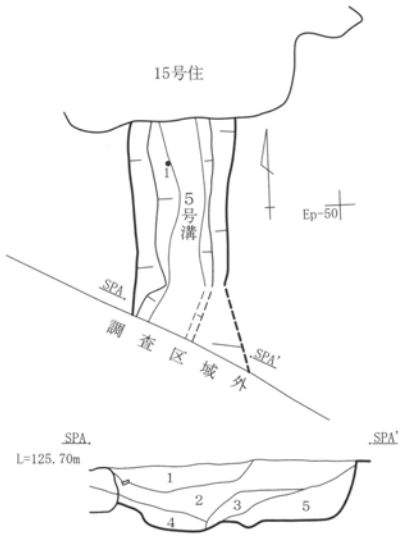
1号溝跡（第258図、遺構PL.60）

位置：Fa～Fc－44～47

方位：N－8°－W

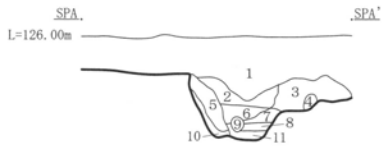
概要：As-C混土層の下面で確認された。そのため、時期は古墳時代以前に属すると考えられる。検出できた長さは短く、遺物も出土していないため、詳細は明らかでない。



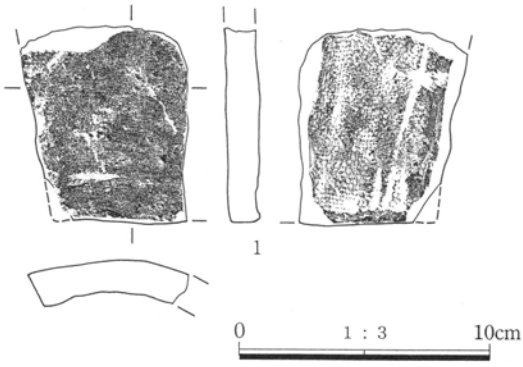


5号溝跡
1．暗褐色土　ロームブロックやや多、焼土粒・As－C少含
2．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒少、As－C極少含
3．暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・As－C少含、締まりやや強
4．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C少含、締まり・粘性強
5．暗褐色土　ロームブロック多、As－C極少含、締まり強・粘性やや強

0　1:50　1m
0　1:100　3m



1号溝跡
1．暗褐色土　As－Cやや多含、古墳～平安地山層
2．暗褐色土　小礫やや多含、締まり・粘性弱
3．暗褐色土　小礫多含、締まり・粘性弱
4．暗褐色土　小礫・ロームブロック主体
5．暗褐色土　小礫少含
6．暗褐色土　細砂粒多、小礫少含、粘性弱
7．暗褐色土　小礫・砂粒主体、締まり強・粘性弱
8．暗褐色土　粗砂粒少含
9．暗褐色土　植物痕か、１層に似た層、締まり弱
10　暗褐色土　ロームブロックやや多含
11．暗褐色土　粗砂粒・ロームブロックやや多含、締まり強・粘性弱



第258図　１・５号溝跡、出土遺物

5号溝跡　遺物観察表

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第258図１ PL. 77	丸瓦	底面 小破片	胎　並 焼　並 色　灰白	製　２枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	3	非陶土質・藤岡窯　９世紀前葉

2～4号溝跡（第259～261図、遺構PL.60、遺物PL.78）

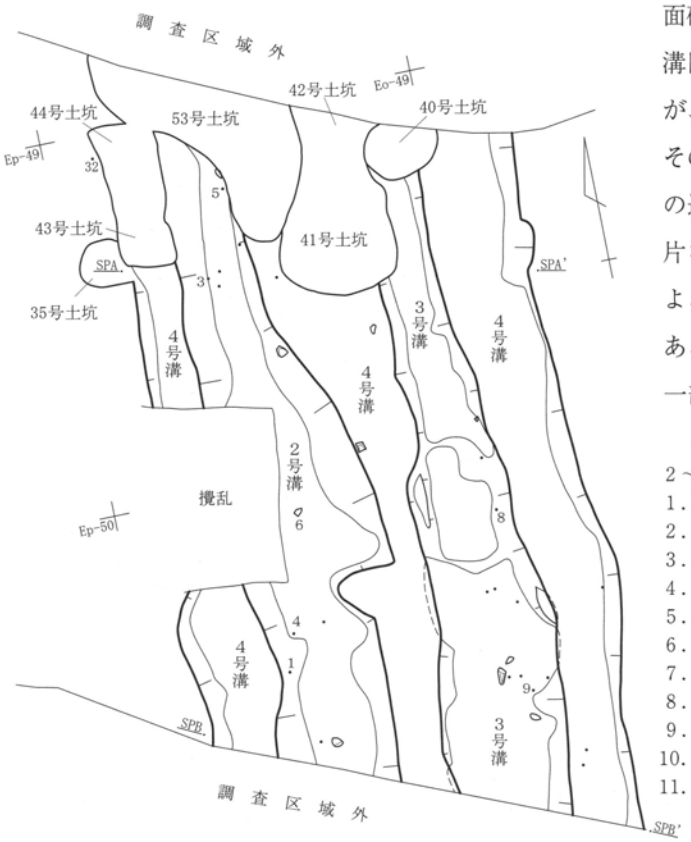
位置：En～Ep－48～51

方位：N－0°

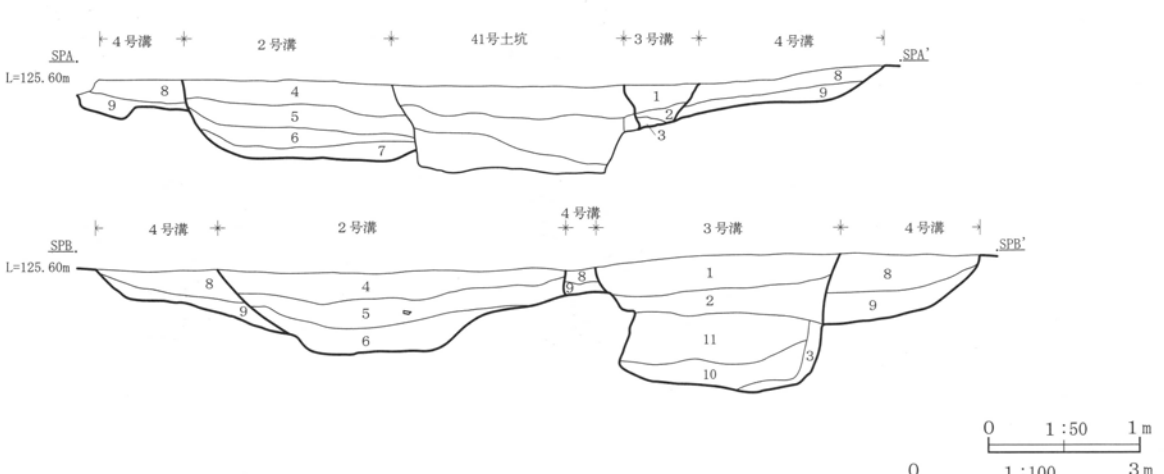
概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。この溝跡群は基本的には同一の溝跡であり、掘り直し等により複数の溝跡が集合したようになったと考えられる。溝跡は所々深くなっている箇所もあるが、基本的には浅い。方向は真北に向かって流れている。もっとも幅の広い4号溝跡の中を2・3号溝跡が列んで流れている。

重複遺構：これらの溝跡の北西部で35・40・41・42・43・44・53号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、溝跡が古い。また、溝同士では、4号溝跡がもっとも古いと考えられるが、2・3号溝跡同士の新旧関係は明らかでない。

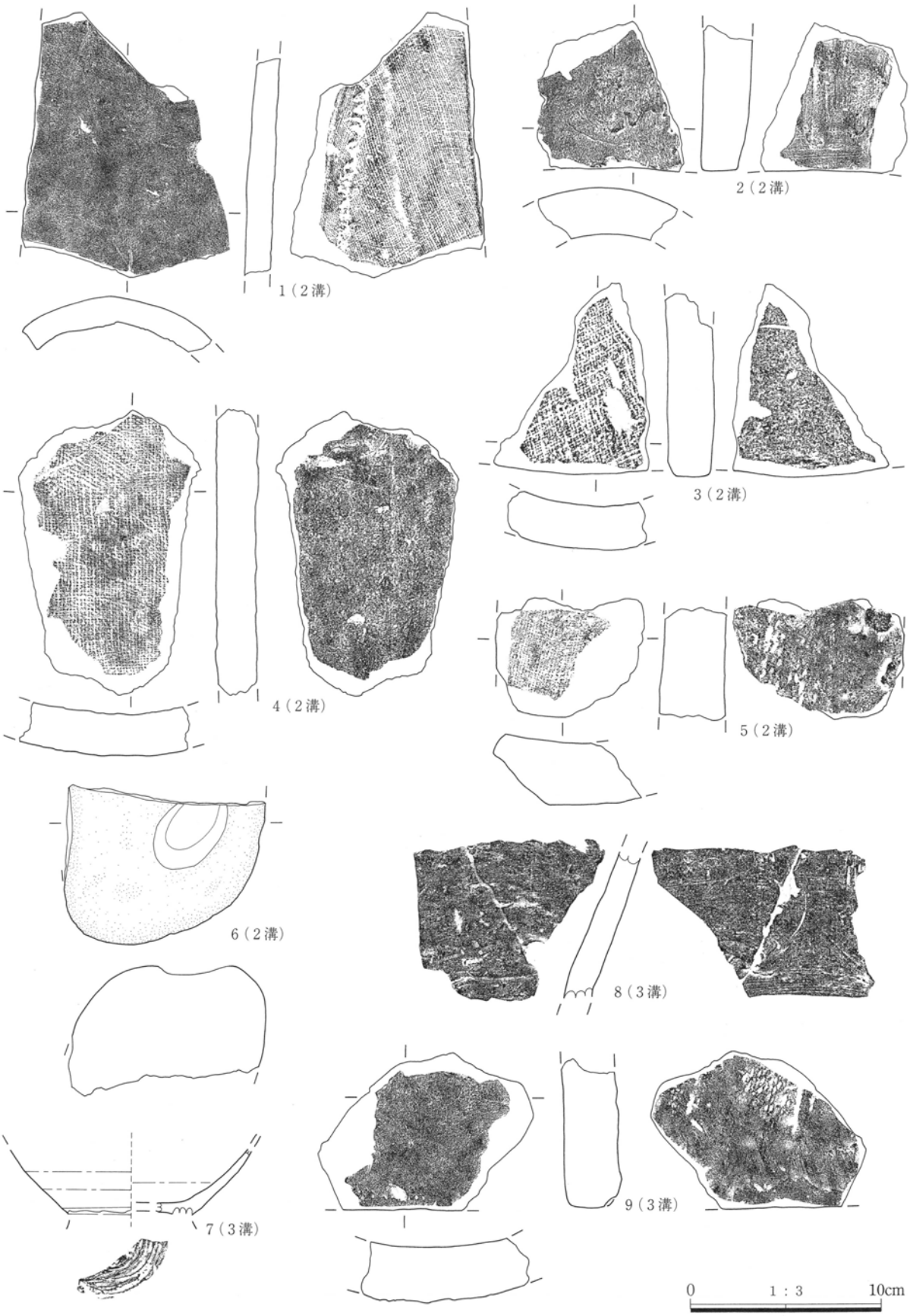
その他：8～9世紀代を主体とする土器類や瓦などの遺物が出土している他、軟質陶器鉢（No.8）の破片なども出土している。これらの遺物は流れ込みによるものと考えられ、時期を特定することは困難である。恐らく大半は平安時代に埋没し、3号溝跡の一部は中世以降にも残存していた可能性がある。



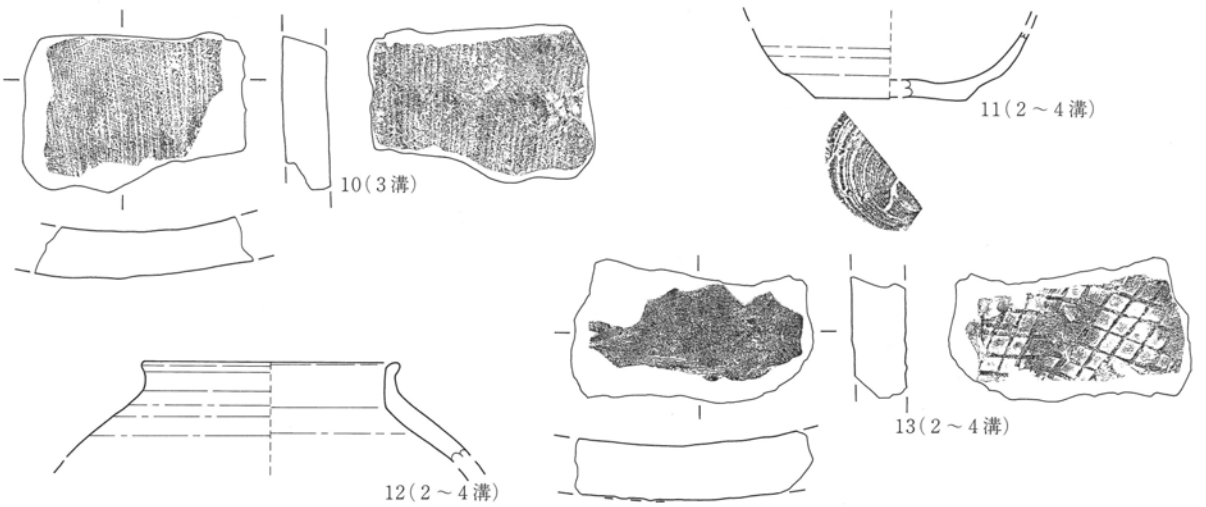
2～4号溝跡
1．暗褐色土　砂質性強、As－Cやや多、ローム粒少含、粘性弱
2．暗褐色土　As－C・ローム粒やや多含
3．暗褐色土　ロームブロック多含
4．暗褐色土　砂質性強、As－C・ローム粒やや多含、粘性弱
5．暗褐色土　As－C・ローム粒少含
6．暗褐色土　ロームブロックやや多、As－C少含
7．暗褐色土　ロームブロック多含
8．暗褐色土　As－C・ローム粒やや多、砂粒少
9．暗褐色土　ロームブロックやや多含
10．暗褐色土　砂質土、ロームブロック少含、締まり弱・粘性なし
11．暗褐色土　砂質土、As－C少含、締まり弱・粘性なし



第259図　2～4号溝跡



第260図　２～４号溝跡出土遺物（１）



第261図　2～4号溝跡出土遺物（2）

2～4号溝跡　遺物観察表

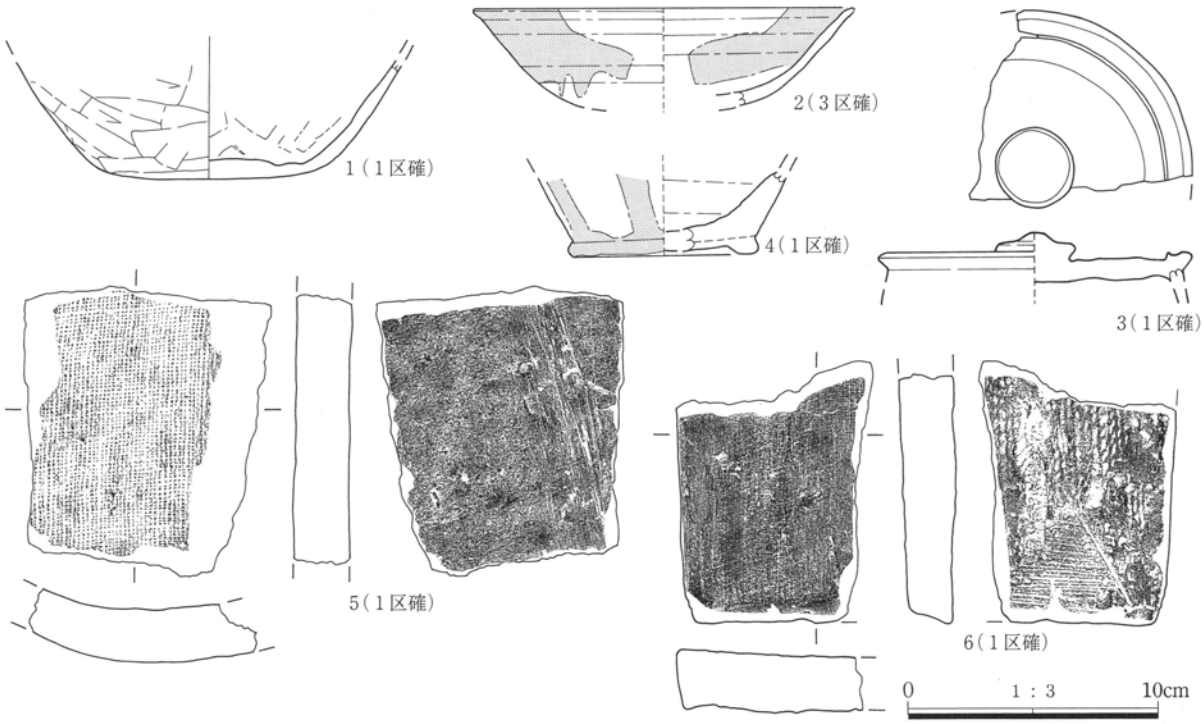
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第260図7 PL. 78	須恵器 埦	3溝覆土 体～底1/5 高台欠損	口　－ 底　－ 高　(4.8)	胎　細砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り後、付け高台	
第260図8 PL. 78	軟質陶器 鉢	3溝覆土 体破片	口　－ 底　－ 高　－	胎　φ7㎜小礫　細砂粒少　黒色・白色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　オリーブ黒	内外面横ナデ	
第261図11 PL. 78	須恵器 坏	2～4溝覆土 体～底1/3	口　－ 底　(6.0) 高　(2.7)	胎　φ2㎜小礫　細砂粒少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　黄灰	轆轤整形（右回転）　底部：回転糸切り	
第261図12 PL. 78	須恵器 短頸壺	2～4溝覆土 口～体上1/8	口　(10.0) 底　－ 高　(3.9)	胎　砂粒やや多　黒色・白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第260図1 PL. 78	丸瓦	2溝覆土 破片	胎　並 焼　並 色　にぶい黄橙	製　2枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　○ 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	2	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初頭
第260図2 PL. 78	丸瓦	2溝覆土 小破片	胎　硬 焼　密 色　灰	製　2枚 桶 一　なし	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　○ 叩　横撫 型	－	観音山窯　8世紀後葉～9世紀前葉
第260図3 PL. 78	平瓦	2溝覆土 小破片	胎　硬 焼　並 色　褐灰	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　撫 型	－	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初頭　ヘラ文字ありか
第260図4 PL. 78	平瓦	2溝底面 破片	胎　硬 焼　並 色　灰	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	－	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初頭
第260図5 PL. 78	平瓦	2溝覆土 小破片	胎　締 焼　並 色　青黒	製 桶　不明 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　縄絡 型	3	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初頭
第260図9 PL. 78	平瓦	3溝覆土 破片	胎　並 焼　並 色　黄灰	製 桶　なし 一　あり	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　○ 乾　×	轆　× 叩　縄絡消 型	－	笠懸窯　8世紀中葉
第261図10 PL. 78	平瓦	3溝覆土 小破片	胎　並 焼　並 色　褐	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	－	笠懸窯　8世紀後葉～9世紀初頭
第261図13 PL. 78	平瓦	2～4溝覆土 小破片	胎　並 焼　硬 色　淡黄	製　組か 桶　不明 一　不明	表　× 裏　× 接　×	合　× 擦　○ 乾　×	轆　× 叩　全格子 型	－	笠懸窯・非陶土質　8世紀後葉～9世紀前葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	石材	特徴
第260図6 PL. 78	石製品 凹石状	2溝底面 欠損あり	(9.3)	(10.3)	(6.7)	粗粒輝石安山岩	中央部が窪む

（７）遺構外出土遺物

本遺跡の遺構確認作業中に出土し、遺構との関係を明らかにすることができなかった遺物を掲載した。土師器、須恵器をはじめとして、灰釉陶器や瓦など、本遺跡の住居跡などでも多く出土している遺物である。



第262図　遺構外出土遺物

遺構外　遺物観察表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第262図１ PL. 78	土師器 甕	１区確認面 体下～底4/5	口　－ 底　－ 高　(4.8)	胎　φ3㎜小礫　砂粒多　白・黒・赤色鉱物 焼　酸化焔　良好 色　にぶい橙	外面：体部～底部ヘラ削り 内面：ヘラナデ、ヘラ痕	
第262図２ PL. 78	灰釉陶器 埦	３区確認面 口～体1/8	口　(15.0) 底　－ 高　(3.9)	胎　緻密 焼　還元焔　良好 色　灰	轆轤整形　外面施釉、漬け掛け	大原２号窯式期
第262図３ PL. 78	須恵器 蓋	１区確認面 摘～天井 摘完　他1/5	口　－ 摘　3.2 高　(2.0)	胎　砂粒やや多　白色・黒色鉱物 焼　還元焔　良好 色　黄灰	轆轤整形	
第262図４ PL. 78	灰釉陶器 長頸壺	１区確認面 体下～底1/4	口　－ 底　(7.4) 高　(4.0)	胎　細砂少　白色鉱物 焼　還元焔　良好 色　灰白	轆轤整形　外面：底部付近まで釉がかかる	

挿図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板（剥取表・裏・接合）	布目痕（合目・擦消）・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	側部面取	備考
第262図５ PL. 78	平瓦	１区確認面 破片	胎　並 焼　並 色　灰	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　× 接　×	合　× 擦　× 乾　×	轆　× 叩　素文 型	－	笠懸窯　８世紀後葉～９世紀初頭
第262図６ PL. 78	平瓦	１区確認面 破片	胎　並 焼　並 色　灰白	製 桶　なし 一　あり	表　○ 裏　○ 接　×	合　× 擦　× 乾　○瓦端	轆　× 叩　縄絡 型	3	秋間窯　９世紀前葉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
(遺構外７) PL. 78	樹脂製品 薬入れ	２区確認面 完形	径　4.2 厚　1.1	－ － －	片面にゴム製の蓋がつく	延命堂製薬所「爽仁」

3．引間松葉遺跡Ⅲ区のまとめ

塚田中原遺跡０区と同様に、ほとんど１面のみの調査であった。一部の土坑の覆土にはAs－Ｂが入ることから、時期の特定ができるが、遺構確認面はAs－Ｃ混土層上であるため、土坑など時期が特定できない遺構が多い。

縄文時代では、本遺跡も遺構は検出していない。後期初頭の称名寺式の土器片が出土した他は、塚田村東Ⅳ遺跡や塚田中原遺跡０区と同様に、中期の土器片と石器が出土したのみである。

古墳時代の遺構では、６世紀後半から７世紀初頭に位置付けられる住居跡を１軒検出した。７世紀後葉から８世紀初頭に属する５・６・７号住居跡と共に、古墳時代後期から少しずつ集落が営まれてきていることがわかる。

奈良・平安時代では、住居跡など遺構の数はやはり多い。しかし、極端に増加するのは９世紀後半以降であり、８世紀代はまばらである。この時期では、８世紀前葉から中葉の住居跡が１・22号住居跡の２軒のみであり、古墳時代後期から増加するとは言い難い。さらに、８世紀後半には住居跡はなく、９世紀前半では、その時期に属する可能性があるのは４号住居跡だけである。大幅に増加するのは９世紀後半以降であり、この時期の住居跡で特徴的なのは、重複が激しいことである。３・４・10・11号住居跡群や８・９・12・13ａ・13ｂ・16・17号住居跡群のように、９世紀後半から10・11世紀まで、ほとんど同一箇所に住居を造り続けている。また、21・23・25・26・27号住居跡群も10世紀から11世紀にかけて近い場所に作り続けている。これらは、９世紀後半から11世紀にかけて何代にも亘って、集落が営まれた結果である。これらの住居跡からは、瓦や灰釉陶器などが出土しており、国分僧寺とのなんらかの関係をもった集落が、長く保たれていたことを示すだろう。

住居跡以外の遺構では、２・３・４号溝跡が特徴的である。これらの溝跡は、基本的には同一の溝跡と考えられるが、ずれることなく南北に走向していることが特徴である。すぐ側には塚田中原遺跡０区18号溝跡が並行して流れており、奈良・平安時代からこの付近に区画となる溝が存在していた可能性が考えられる。

また、この時代で特筆すべき遺物に饒益神寶が挙げられる。これは、17号土坑から出土したものであるが、この土坑の性格は明らかにできていない。調査区域外にまで広がることも一因ではあるが、他の遺物にめぼしいものはなく、土坑の規模や形態も際だったものがないことによる。覆土には炭化物がみられることから、他の土坑の多くとは異なる点もある。しかし、土坑墓と判断するだけの情報も得られなかった。饒益神寶は上野国分僧寺尼寺中間地域で出土しているが、県内では類例が少ない。

次に、本遺跡ではAs－Ｂ直下の遺構が検出されている。これは、60・61号土坑であり、円柱形の形態をしている。しかし、性格は明らかでない。

中世に属すると判断できた遺構は検出されていない。しかし、隣接する塚田中原遺跡０区など周辺遺跡の様相から考えると、多数ある土坑などの一部は、この時期に属する可能性もあろう。

近世以降では、１号井戸跡と、19号土坑が挙げられる。１号井戸跡は、覆土から近世以降に属すると判断したが、時期は明らかでない。19号土坑は板状の鉄材などに混じって、近代のガラス瓶が出土したことが特徴である。19号土坑は近代以降の廃棄を目的とした土坑と判断しているが、ここから出土したガラス製品には第２次大戦中かそれ以前のものも含まれている。近くから迫撃砲砲弾が出土したことも含めて考えると、終戦後に投棄などが行われた可能性も考えられる。

第10表　引間松葉遺跡Ⅲ区土坑計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径（cm）	深度（cm）	出土遺物	備考
1	Fc～Fd－44～45	隅丸長方形	N－0°	222×(92)	54	土師器、須恵器、瓦、灰釉陶器、鉄製品	
2	Fc～Fd－44～45	円形	N－40°－W	60×60	15	土師器、須恵器、陶磁器	
3	Fc～Fd－44～45	楕円形	N－75°－W	35×30	15	陶磁器	
4	Fc～Fe－43～45	隅丸方形か	N－59°－W	(180)×(130)	36	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
5	Fd～Fe－44～45	ほぼ円形	N－70°－W	50×45	12		
6	Fd～Fe－44～45	ほぼ円形	N－70°－W	60×53	15	土師器、須恵器	
7	Fd～Fe－44～45	楕円形	N－75°－W	50×35	28		
8	Fd～Fe－45～46	ほぼ円形	N－71°－W	58×55	9		
9	Fd～Fe－45～47	隅丸方形か	N－56°－W	265×(37)	6		
10	Fd～Fe－45～46	隅丸長方形	N－55°－E	77×63	8		
11	Fc～Fd－45～46	ほぼ円形	N－38°－E	73×63	12	土師器、須恵器	
12	Fb～Fc－45～46	楕円形	N－57°－E	49×41	23	土師器、灰釉陶器	
13	Fh～Fi－42～43	円形	N－50°－W	105×105	31	土師器、須恵器、灰釉陶器	
14	Fh～Fi－42～43	不明	N－74°－W	381×(48)	25	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
15	Fi～Fj－42～43	不明	N－55°－W	(470)×(350)	40	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、鉄製品、石製品	
16	Fi～Fj－43～44	不明	N－58°－W	(240)×(62)	51		
17	Fh～Fi－43～44	楕円形か	N－55°－W	47×(30)	26	土師器、須恵器、灰釉陶器、饒益神寶	
18	Fe～Ff－43～44	ほぼ円形	N－27°－E	105×94	47	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
19	Fe～Ff－43～44	不整形	N－9°－E	(180)×(140)	48	土師器、須恵器、瓦、陶磁器、ガラス製品	近代以降
20	Fi～Fj－42～43	ほぼ円形か	N－22°－E	84×84	50	土師器、須恵器	
21	Fd～Fe－43～44	円形か	N－55°－W	90×(45)	50	土師器、須恵器、瓦	
22	Fd～Fe－44～45	楕円形	N－40°－E	114×73	20	土師器、須恵器、瓦、鉄製品	
23	Fe～Ff－43～45	円形	N－70°－W	115×115	21	土師器、須恵器	
24	Fh～Fi－43～44	隅丸長方形	N－74°－W	250×116	44	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、鉄製品	
25	Fh～Fi－42～44	隅丸方形か	N－8°－E	160×(110)	30	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品	
26	Fi～Fj－42～43	楕円形か	N－85°－W	75×60	21		
27	Fi～Fj－42～43	円形	－	65×63	38	土師器	
32	Ep～Er－48～49	ほぼ円形	N－8°－E	116×105	48	土師器、須恵器、灰釉陶器	
33	Ep～Er－48～49	ほぼ円形	N－11°－E	97×88	25	土師器、灰釉陶器、瓦	
34	Eo～Ep－49～50	ほぼ円形	N－66°－W	97×86	12	瓦	
35	Eo～Ep－49～50	ほぼ円形	N－38°－W	74×70	10		
36	Ep～Eq－50～51	ほぼ円形	N－37°－W	40×36	36		
37	Ep～Eq－48～49	隅丸三角形	N－81°－W	95×85	60	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
38	Ep～Eq－48～49	楕円形	N－4°－W	76×58	32		
39	Ep～Eq－48～49	楕円形	N－69°－W	104×95	55	土師器、須恵器、瓦	
40	En～Ep－49～50	楕円形	N－57°－E	95×80	35	土師器、須恵器	
41	Eo～Ep－49～50	楕円形	N－8°－E	(190)×140	60	土師器、須恵器	
42	Eo～Ep－49～50	隅丸長方形	－	85×(52)	41		
43	Eo～Ep－49～50	長方形	N－0°	190×65	33		
44	Eo～Ep－49～50	隅丸長方形	N－0°	136×67	19		
45	Eq～Er－47～49	隅丸方形か	N－71°－W	173×145	10	土師器、須恵器、灰釉陶器	
46	Eq～Er－48～49	ほぼ円形	N－84°－E	110×100	70	須恵器	
47	Eq～Er－48～49	楕円形	N－3°－W	100×72	17	須恵器	
48	Ep～Er－48～49	楕円形か	N－67°－W	110×78	16	土師器、須恵器	
49	Ep～Eq－48～49	楕円形か	N－60°－W	107×61	35		
51	Fe～Fg－44～45	隅丸方形か	N－66°－W	95×90	18	土師器、須恵器	
53	Eo～Ep－48～50	不整形	N－59°－W	270×(75)	65	土師器、須恵器、瓦	
54	Fe～Fg－44～46	隅丸長方形	N－59°－W	147×(80)	13		

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径（cm）	深度（cm）	出土遺物	備考
55	Fe～Fg－44～45	隅丸長方形	N－19°－W	78×67	8		
56	Ff～Fg－44～45	楕円形か	N－62°－W	95×(38)	20		
57	Ff～Fg－44～45	円形	－	95×90	34	土師器	
58	Ff～Fg－44～45	楕円形	N－62°－W	86×(50)	14		
60	Fe～Ff－43～44	楕円形	N－70°－W	122×115	40		As－B下
61	Fe～Ff－45～46	楕円形か	N－65°－W	170×(65)	65	瓦	As－B下
64	Er～Es－47～48	隅丸長方形	N－83°－E	312×172	30	土師器、須恵器、陶磁器、瓦	
65	Er～Es－47～48	楕円形	N－3°－E	100×(80)	37	土師器、須恵器	
66	Ep～Er－49～51	楕円形か	N－62°－W	350×(165)	115	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
68	Ff～Fh－42～44	楕円形	N－15°－W	126×116	46	土師器、須恵器、灰釉陶器	
70	Ep～Eq－49～51	不定形	N－67°－W	(220)×140	105	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、鉄製品	
71	Eq～Er－49～50	不定形	N－22°－E	(185)×110	47		
72	Eq～Er－49～50	楕円形	N－61°－W	250×(125)	85	土師器、須恵器	
73	Ep～Eq－48～49	隅丸長方形	N－79°－W	75×(65)	34	土師器、須恵器、瓦	
74	Ep～Eq－48～49	楕円形か	N－60°－W	79×(28)	40		
75	Ff～Fg－43～44	隅丸長方形	N－17°－E	190×88	15	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
76	Fe～Ff－43～44	円形か	－	115×(50)	53		
78	Ff～Fg－43～45	隅丸長方形	N－28°－E	325×146	20	須恵器、瓦	
79	Ff～Fg－44～45	隅丸方形	N－29°－E	205×(204)	20		
86	Fg～Fi－43～44	楕円形か	N－57°－W	130×(73)	15	瓦	
90	Ep～Eq－48～49	円形か	N－69°－W	146×(90)	38	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
92	Ff～Fg－42～43	ほぼ円形	－	110×110	50	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
95	Fg～Fh－44～45	楕円形か	N－8°－W	115×110	30	土師器、須恵器、鉄製品	
96	Eq～Er－49～50	不定形	N－74°－E	310×(150)	37		
97	Er～Es－48～50	隅丸長方形	N－20°－E	85×70	35	須恵器	
99	Fg～Fh－43～45	楕円形	N－63°－W	230×(40)	55	須恵器	
100	Eo～Eq－49～51	隅丸長方形	N－8°－E	275×125	46	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
101	Ep～Eq－49～50	楕円形	N－12°－E	80×56	18	須恵器	
102	Ep～Eq－48～49	楕円形	N－82°－W	70×37	23	須恵器	
103	Ep～Eq－48～49	隅丸長方形	N－39°－E	(65)×(45)	61		
104	Ep～Eq－48～49	隅丸方形	N－14°－W	42×37	37		
106	Fk～Fl－39～40	隅丸方形か	N－67°－W	(55)×51	15	須恵器、瓦	
107	Fi～Fk－40～41	楕円形	N－90°	260×(92)	60	須恵器、瓦、石製品	
108	Fi～Fk－40～42	隅丸方形か	N－66°－W	70×(48)	30		
109	Fi～Fｊ－40～41		N－80°－E	(130)×(56)	15	須恵器	

第11表　引間松葉遺跡Ⅲ区ピット計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径（cm）	深度（cm）	出土遺物	備考
1	Fh～Fi－43～44	楕円形	N－75°－W	35×30	25		
2	Ff～Fg－42～43	楕円形	N－73°－W	39×26	22		
3	Fq～Fr－47～48	楕円形	N－60°－W	45×(35)	70	土師器、須恵器	
4	Fj～Fk－43～44	楕円形	N－13°－W	33×26	32	土師器	

第12表　引間松葉遺跡Ⅲ区溝跡計測表

番号	位置	断面形状	方位	幅（cm）	深度（cm）	出土遺物	備考
1	Fa～Fc－44～47	逆台形	N－8°－W	(上)60～100 (下)25～30	45		古墳時代以前
2	Ep～Eq－49～51	逆台形	N－0°	(上)90～196 (下)42～135	22	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品	古代
3	Ep～Eq－49～51	逆台形状	N－0°	(上)78～165 (下)42～136	30～87	土師器、須恵器、灰釉陶器、軟質陶器、瓦	中世

番号	位置	断面形状	方位	幅（cm）	深度（cm）	出土遺物	備考
4	Ep～Eq－49～51	皿状	N－0°	(上)510～590 (下)470～505	45	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	古代
5	Ep～Eq－49～51	皿状	N－0°	(上)120～140 (下)35～47	23～45	須恵器、瓦	古代

第５章　調査の成果

1．集落の変遷

今回の３遺跡の調査では、合計62軒の住居跡を検出することができた。調査区の幅が広くないため、部分的にしか検出することができなかったり、重複が激しく、不明瞭な点が多い住居跡もあったが、時期のわかる住居跡を時期毎に区分して、集落の変遷を考えてみたい。

本３遺跡は、国府域の西部で、国分僧寺南面に位置する。したがって、これらの存在による影響を強く受けた集落といえよう。塚田村東Ⅳ遺跡の場合、国分僧寺よりもより国府に近く、引間松葉遺跡Ⅲ区は国分僧寺の方がより近いなど、遺跡によって距離の違いはある。しかし、染谷川を挟んでいるとはいえ、国分僧寺の建立は、この地にとって大きな出来事であっただろう。特に塚田中原遺跡０区・引間松葉遺跡Ⅲ区は正面である南面に位置することから、国府よりも強い関係があったかもしれない。

そこで、集落の変遷を考える上で、住居跡を大きく３時期に区分して考える。第１は国分僧寺建立以前の８世紀前半までの時期、第２は国分僧寺建立後の８世紀後半から９世紀前半までの時期、第３は国分僧寺が少しずつ力を失っていく９世紀後半以降の時期とする。

塚田村東Ⅳ遺跡では、15軒の住居跡を検出した。その内訳を見ると、８世紀前半までの時期が８軒、８世紀後半から９世紀前半までの時期が３軒、９世紀後半以降が３軒、時期不明が１軒となっている。特徴としては、国分寺建立以前の時期が最も多く、その後は、減少したまま目立った増加が見られないことである。10世紀代の住居が検出されていない事も特徴であろう。塚田村東Ⅳ遺跡における８世紀前半までの住居跡には、鉄生産関連遺物を伴うものが多い。この時期は、律令体制の整備に伴い、建物建築や物資など様々な需要があったと考えられる。しかし、国分僧寺の建設は８世紀後半も続けられたことを考えると、塚田村東Ⅳ遺跡の住居跡は、減少するのが早すぎる感がある。塚田村東Ⅳ遺跡の８世紀前半までの住居跡は、国府との関連で建てられた可能性を考えたい。では、その後の減少は何を意味するのであろうか。また、10世紀以降の住居跡が検出されなかったのは、何を意味するのであろうか。

群馬町教育委員会による発掘調査で、塚田村東Ⅳ遺跡と最も近い距離にあるのは、塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡である（田辺・綿貫　2001・2002）。それによると、８世紀前半までの住居跡も多いが、９世紀後半以降の住居跡がより多い。しかし、８世紀後半から９世紀前半期の住居跡はあまり多くない傾向がある。また、鉄生産関連遺物の出土は、８世紀前半期の住居跡（H-21）にみられるが、他に10世紀代の住居跡（H-9）にもみられ、特定の時期に集中するような傾向は確認できなかった。

塚田村東Ⅳ遺跡と塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡の傾向をみると、８世紀前半までの時期は、住居跡の数が多く、８世紀後半から９世紀前半期は、減少する。そして、９世紀後半以降に増加するようである。塚田村東Ⅳ遺跡では、10世紀の住居跡はみられないが、隣接する塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡では検出されているので、あたらなかっただけであろう。

塚田中原遺跡０区では、19軒の住居跡を検出した。その内訳は、８世紀前半までの時期が２軒、８世紀後半から９世紀前半までの時期が５軒、９世紀後半以降の時期が10軒、時期不明が２軒であった。８世紀後半から９世紀前半の時期に分類した住居跡は、重複住居であり、やや不明瞭な点もあるが、一応の傾向として、時期が下るに連れて増加しているようにみえる。塚田中原遺跡０区は、南東から北西に長く、東端の０－１区は塚田村東Ⅳ遺跡の北にほぼ接し、西端の０－６区は引間松葉遺跡Ⅲ区に接する。ここでは、８世紀前半までの時期の住居跡は塚田村東Ⅳ遺跡に近い東側で検出されている。

群馬町教育委員会による発掘調査で、塚田中原遺跡０区に最も近い、塚田村東Ⅲ遺跡（田辺・綿貫2002）では、塚田村東Ⅳ遺跡に近い東端部で８世紀前半までの住居跡が多く、それ以外の調査区では、９世紀後半以降の住居跡が多く検出されている。

塚田中原遺跡０区だけでみると、８世紀後半から９世紀前半の時期に住居跡が減少し、９世紀後半以降に増加するという傾向は確認できない。しかし、塚田村東Ⅲ遺跡とあわせてみると、ほぼ東部だけに８世紀前半までの時期の住居跡がみられ、８世紀後半から９世紀前半の時期は、少数の住居跡が継続的に営まれ、その後の９世紀後半以降に、北西部を中心として、かなりの増加がみられる。この傾向は、塚田中原遺跡０区の北に位置する上野国分寺参道遺跡（齊藤・吉田　1997）や元総社西川遺跡（笹沢　2001）の様相とも一致している。ただし、元総社西川・塚田中原遺跡（井川　2003）では、８世紀後半から９世紀前半の住居数は多いという。もっともその前後の時期も多いため、全体的な傾向は変わらないだろう。

引間松葉遺跡Ⅲ区では、28軒の住居跡を検出した。その内訳をみると、８世紀前半までの時期が６軒、８世紀後半から９世紀前半の時期が１軒、９世紀後半以降が20軒、時期不明が１軒であった。調査区は塚田中原遺跡０－６区の西端に始まり北西に細く延びている。８世紀前半までの時期と９世紀後半以降の時期は、重複住居を考慮するとすべてが同時に建っていたわけではないが、それでも９世紀後半以降の時期は住居跡の増加が目立ち、竪穴住居では最後に近い11世紀代までまんべんなくみられる。逆に、８世紀後半から９世紀前半の時期が極端に少なく感じられる。

群馬町教育委員会の発掘調査による引間松葉・塚田的場遺跡（田辺・綿貫　2000）においても、８世紀前半までの時期は、あまり多くなく、８世紀後半から９世紀前半の時期はさらに少ない。そして、９世紀後半以降に増加している。

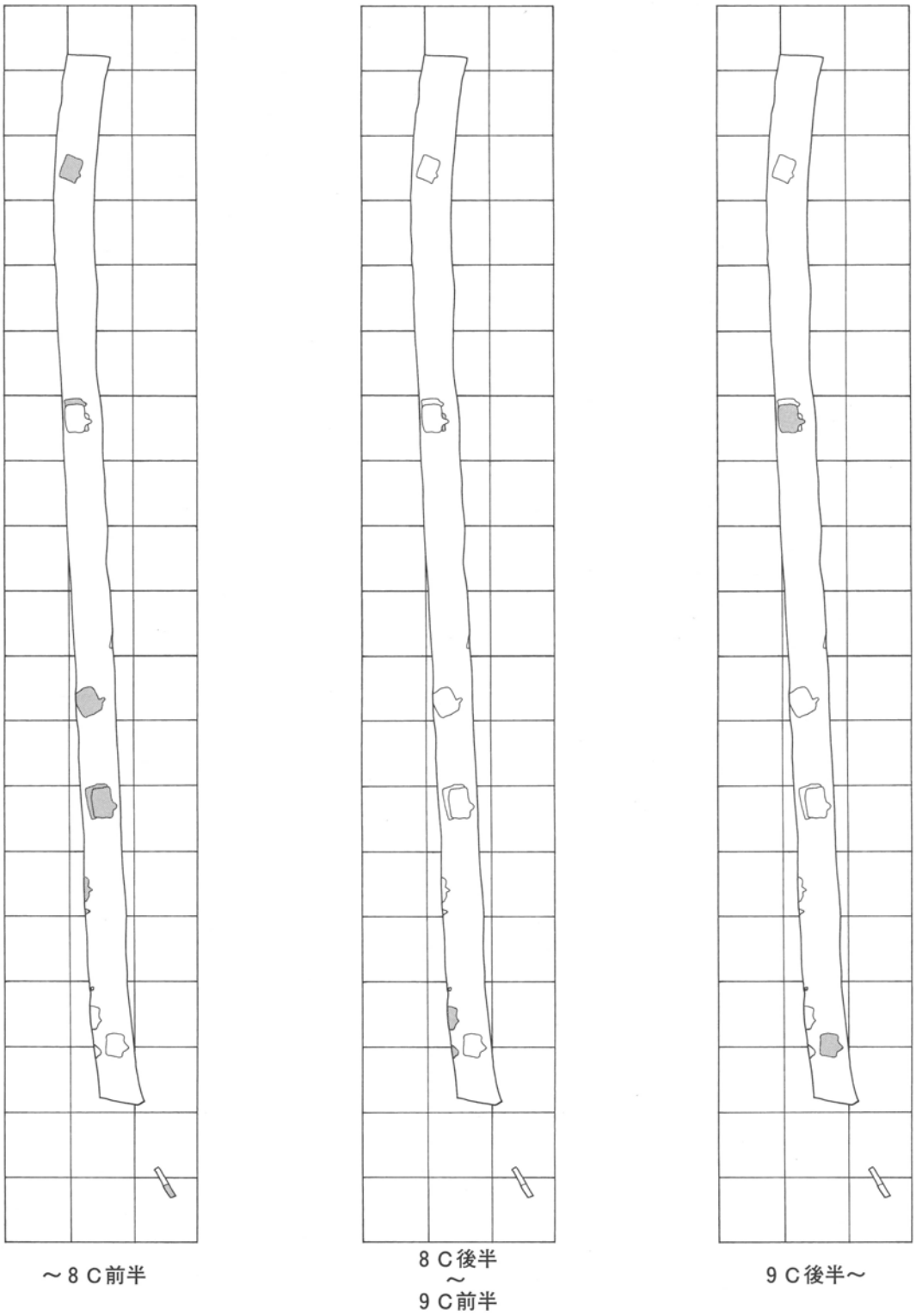
このことから、引間松葉遺跡Ⅲ区は基本的には隣接する塚田中原遺跡０区と同じ様相であり、９世紀前半までの時期は少なく、９世紀後半以降に住居跡が増加する。そして、10世紀以降の住居跡は、塚田中原遺跡０区より多い傾向にある。

３遺跡とその周辺遺跡の住居跡の傾向を概観してみたが、いくつかの傾向をまとめてみたい。

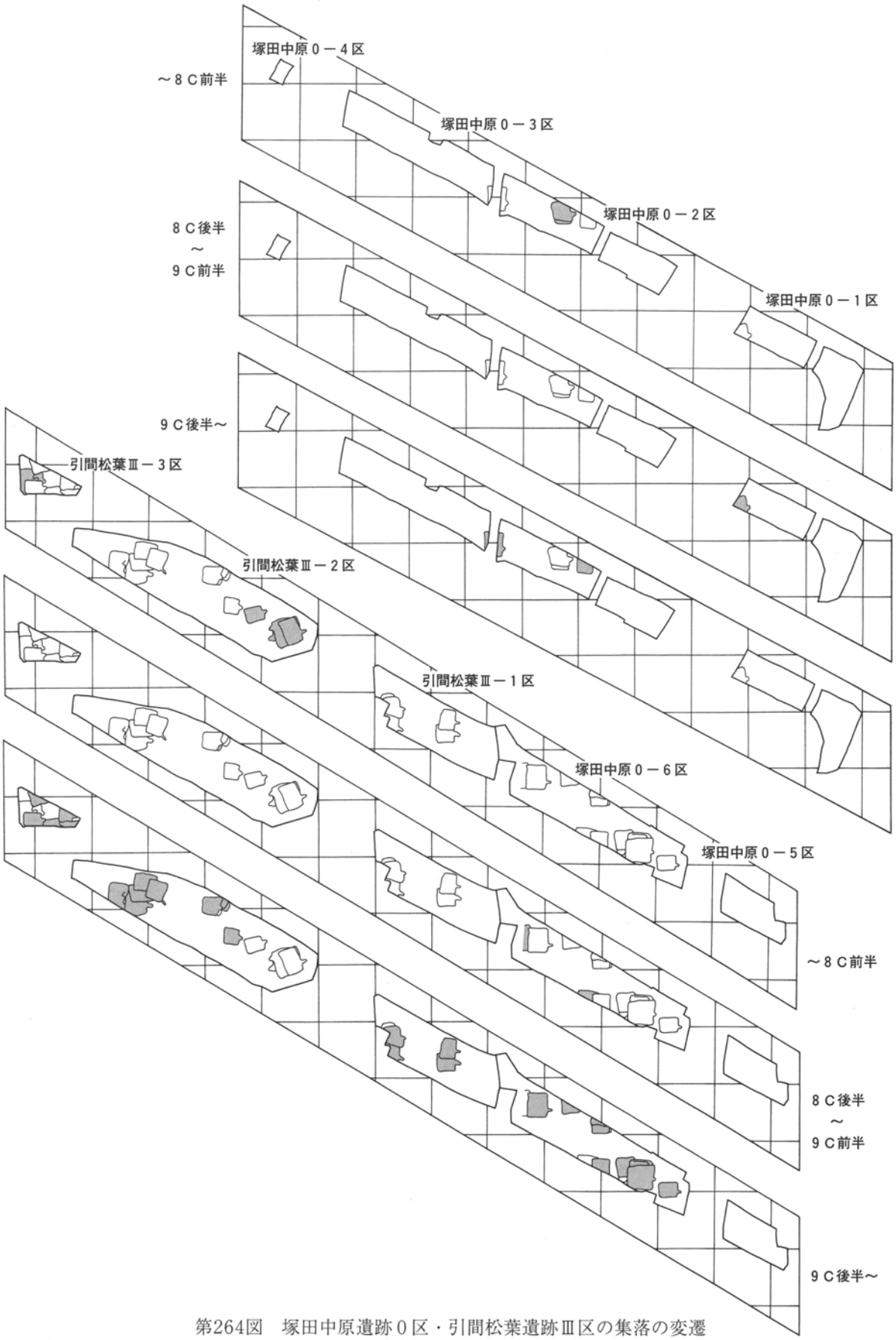
８世紀前半までの時期は、住居跡は多くはないが、一定数はみられる。特に国府に近い東よりではやや多くみられる。そして、塚田村東Ⅳ遺跡の鉄生産関連遺物を出土する住居跡や、鉄製錘・漆付着土器をもつ塚田中原遺跡０区26号住居跡のように、重要な役割を担っていたであろう住居跡が存在するのも特徴である。恐らく、国府との何らかの関わりを持った集落であり、地方支配制度の整備期において、国府を支える集落の一つであったのだろう。

８世紀後半から９世紀前半の時期は、全体的に住居跡が少ないことが特徴である。なくなったわけではなく、少数が存在することから、国分僧寺南面を完全に無住としたわけではないようである。そうであるならば、国分僧寺建立において、それを支える役目を担っても良い地域であり、工房的性格を持った竪穴住居などが検出されても良いはずである。しかし、この地域の様相からみると、国分僧寺建立を支えるために集落が発達したようにはみえない。減少したということを踏まえると、他の地域に配された可能性が考えられる。国分僧寺と同じ染谷川北岸に位置し、僧寺・尼寺により近い上野国分僧寺・尼寺中間地域（木津ほか　1987～1992）でもこの時期の減少は強くでている。おそらく、このあたりの地域は上野国の中枢として、居住などに制限があったのだろう。

９世紀後半以降になると、この地域では住居跡が極端に増加する。特にその傾向は、国分僧寺により近いところで顕著である。塚田村東Ⅳ遺跡周辺でも増加はみられるが、塚田中原遺跡０区や引間松葉遺跡Ⅲ区周辺が目立つ。この時期の住居跡は、カマドなどに瓦を用い、灰釉陶器や緑釉陶器などの破片が出土することが多い。塚田中原遺跡０区の奈良三彩も含めて、国分僧寺との結びつきが遺物に現れてくる。国分僧寺の瓦などがどのような経緯を経て、住居に持ち込まれるのかはわからない。しかし、公的な制度とは別の有機的な結びつきが感じられる。



第263図　塚田村東Ⅳ遺跡の集落の変遷



第264図　塚田中原遺跡０区・引間松葉遺跡Ⅲ区の集落の変遷

2．旧陸軍前橋飛行場に関わる遺構と遺物について

（1）対空高射機関銃座

陸軍前橋飛行場の設定は、1943（昭和18）年5月の土地測量から始まった。飛行場敷地は約160町歩に及び、43年から44年にかけて、地元の堤ヶ岡村や国府村をはじめ周辺町村住民による連日の勤労奉仕が続いた。そして44年2月には、いまだ完成していない滑走路に金網を敷いて初めての飛行機が着陸した。前橋飛行場は教育訓練用に設定された、陸軍の飛行場の一つであった。飛行場内外には、飛行機誘導路や掩体（壕）11か所が造られた。

この飛行場に関わる遺構や遺物が発掘調査に伴って検出されている。塚田村東Ⅳ遺跡の11号土坑と引間松葉遺跡Ⅱ区（別途報告）の312号土坑が、対空高射機関銃座であった。また引間松葉遺跡Ⅲ区からは未使用の迫撃砲砲弾が出土した。

塚田村東Ⅳ遺跡の11号土坑は、飛行場の東隅から北へ約220メートルに位置している。発掘当初は、覆土上層から戦後の遺物が出土したこともありゴミ穴と判断されたが、さらに慎重に調査を進めた結果、ゴミ穴ではなくて何らかの土坑であることが判明した。近隣の住民からは、土坑の約20メートル北には東西に飛行機誘導路が延びており、それを挟んで千鳥足状に飛行機の掩体（壕）が存在し、付近に高射機関砲座があった、との証言が得られたこともあり、この土坑は対空機関砲座の可能性が高まった。

そこで防衛研究所図書館での調査となった。担当者一名が同図書館専門官に土坑の図面を見てもらい、飛行場と土坑の位置関係、その他の状況を説明し教示を受けた。それによると「機関砲なら98式高射機関砲」「機関銃なら92式重機関銃」の公算が大きい、との説明を受けた。

ただし98式高射機関砲は全長2m45cmであり、11号土坑は径約2mである。この場合、土坑の外に銃口がはみ出してしまい、旋回補弾操作に支障をきたしてしまう、最低でも全長程度の直径が必要である

という。92式重機関銃の全長は115cm程であり、土坑の中におさまる。また、3か所の付随する張り出し（長さ70～120cm、幅30～70cm）は弾薬格納に使用された可能性があり、銃座の深さは盛り土を除くと70～80cmを必要とすることから、当土坑の深さと一致する。そして土坑の北西に伸びる溝は交通壕と思われ、主要射撃方向は敵機予想進入経路の一つである東側を指向していることもわかった。

これらのことから、塚田村東Ⅳ遺跡11号土坑は92式重機関銃を使用した、対空高射機関銃座であることが判明した。

なお、「太平洋戦争米国海軍・海兵隊艦載機戦闘報告書」中にある1945年7月10日に行われた前橋飛行場に対する空襲、そのドッグ掃討隊の戦闘報告書に「降下中、飛行場北側にほんのわずかな銃撃を確認したが、たいしたものではなく飛行機にも命中しなかった」とあるが、それに該当する対空高射機関銃座であるのかは判然としない。

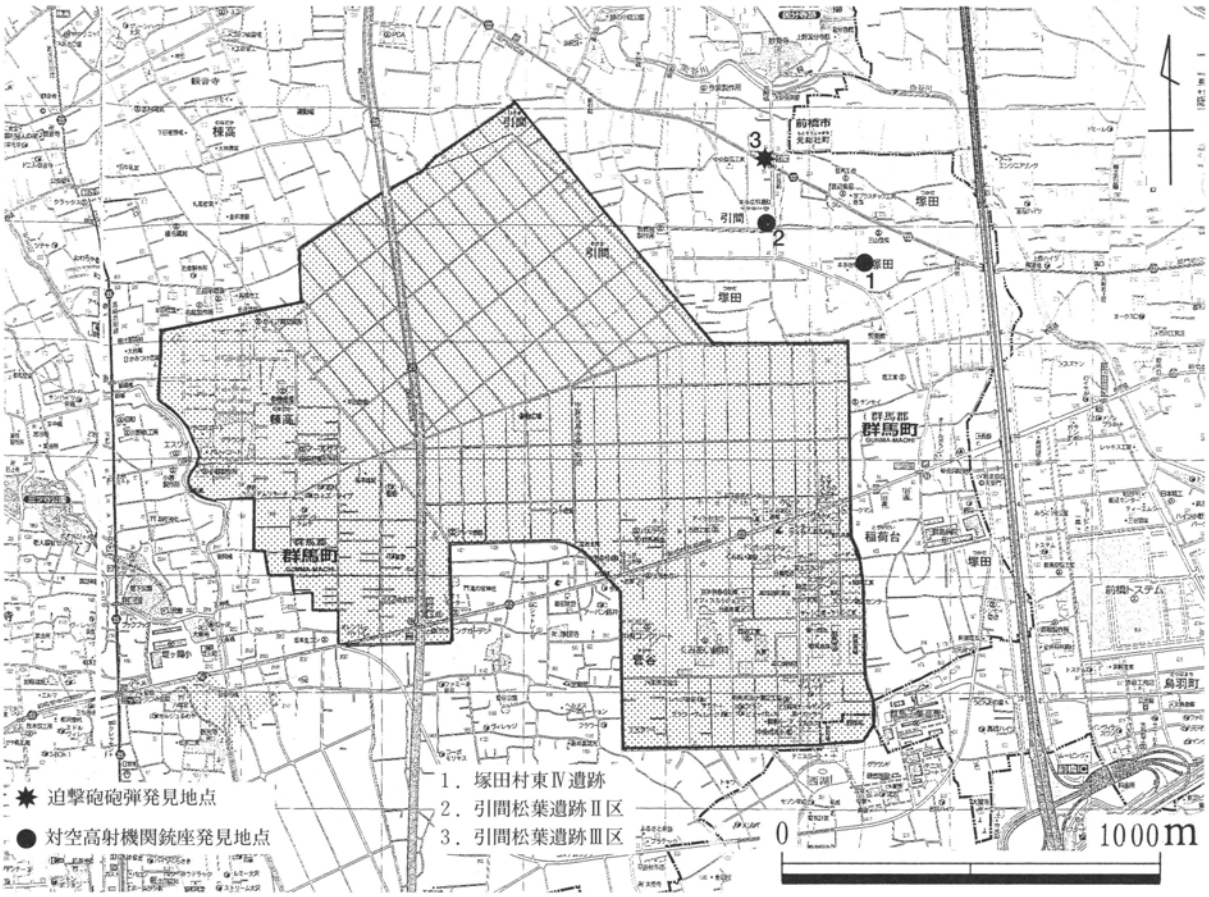
（2）迫撃砲砲弾

2003（平成15）年10月1日、引間松葉遺跡Ⅲ区の調査現場から不発弾と思われる砲弾が発見された。発掘区の松杭を抜こうとしたときに、地表下約15cmのところでスコップに当たったものである。砲弾の長さ30cm、直径9cm、重量約3000gで信管も付着。

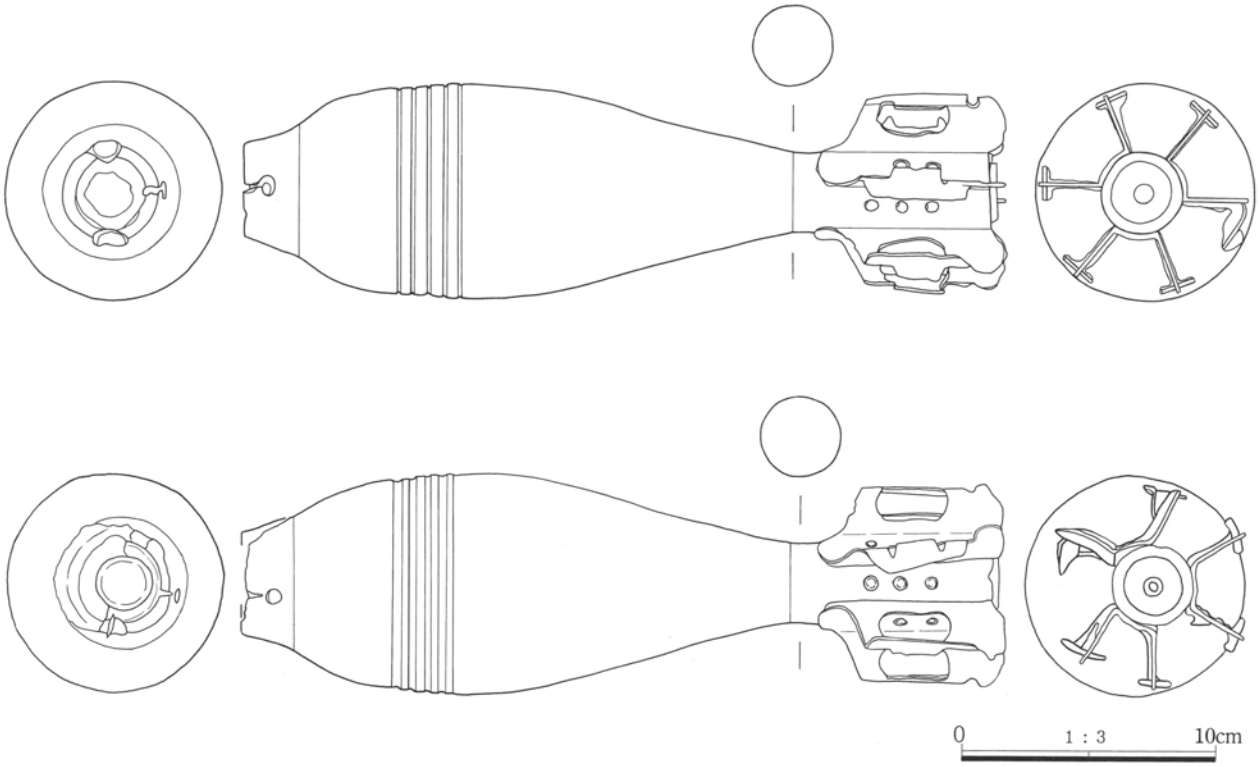
直ちに警察に連絡、県警察本部生活安全部銃器薬物対策課、高崎署員が急行して現場を封鎖し調べたところ、すぐには爆発の危険性はないということであった。砲弾は高崎署で保管し、自衛隊の定期回収の際、引き取ってもらうことになった。

その後、この砲弾は旧陸軍の「九四式・九七式軽迫撃砲」の砲弾であることが判明した。爆発すれば、半径30mに被害が及ぶ。

なお、現物は回収されてしまったので、参考までに県内の赤城演習場跡（陸軍特殊演習場）で採集された同型の砲弾2点を紹介する。戦争遺跡関連の調査では、このような事例は今後も増えるものと思う。その取り扱いには慎重を期したい。



第265図　陸軍前橋飛行場（アミ部分）と関連遺構位置図



第266図　九四式軽迫撃砲砲弾（参考図）

3．総括

今回の塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡０区・引間松葉遺跡Ⅲ区の発掘調査では、奈良・平安時代を中心として、縄文・古墳・中世・近世・近代に至る､様々な時代の資料を得ることができた。

塚田村東Ⅳ遺跡では、奈良・平安時代の住居跡15軒や多数の遺構を中心として、古墳時代の畠跡、中近世の土坑墓や畠跡、近代の土坑（機関銃座）を検出した。奈良・平安時代の遺物では、住居跡や土坑から羽口や鉄滓が出土し、住居跡の年代から８世紀前半に鉄生産との関わりがあったことが確認された。中世では土坑墓や火葬跡が検出され、また、近世では土坑墓が検出され、17世紀の埋葬例や人骨が確認できた。

塚田中原遺跡０区では、奈良・平安時代の住居跡19軒を中心として、中世の遺構や遺物８世紀前半の住居跡から鉄製錘が出土し、溝跡からは奈良三彩が出土するなど、奈良・平安時代の集落から重要な遺物の出土がみられた。また、中世の土坑墓も確認することができた。

引間松葉遺跡Ⅲ区では、古墳時代後期から11世紀代に至る住居跡が検出され、遺物では、土坑から饒益神寶が出土した。また、近代のガラス製品などがまとまって見つかった。本遺跡からは、調査終了後の埋め戻しなどの撤収作業中に、旧日本軍の迫撃砲砲弾が出土するなど、前例の少ない出来事もあった。

今回の塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡０区・引間松葉遺跡Ⅲ区の成果を中心として、集落の変遷を述べてみたが、あくまでも部分的な情報から考えてみたに過ぎない。これまでの調査を踏まえ、西毛広域幹線道路の本線部分の発掘調査成果がまとめられることによって、この地域におけるより詳細な集落動態が解明されるであろう。

これまでの調査によって、これほどの良好な資料を得ていながら、それを十分に活かしてまとめられなかったことをお詫びすると共に、調査・整理において、貴重なご意見・ご指導を下さった方々に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

参考文献

井川達雄　2003『元総社西川・塚田中原遺跡－一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告323集　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

今井和久　2003『稲荷塚道東遺跡－前橋警察署新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第320集　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

木津博明・桜岡正信・友廣哲也ほか　1987～1992『上野国分僧寺尼寺中間地域（1）～（8）』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬町誌編纂委員会　1998『群馬町誌』資料編１　原始古代・中世　群馬町誌刊行委員会

群馬町誌編纂委員会　2001『群馬町誌』通史編上　原始古代・中世・近世　群馬町誌刊行委員会

齊藤仁志・吉田聖二　1997『上野国分寺参道遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団

笹澤泰史　2001『元総社西川遺跡－国分寺進入路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第288集　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

田辺芳昭・綿貫綾子他　2000『国府南部遺跡群Ⅰ・Ⅱ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第55集　群馬町教育委員会

田辺芳昭・綿貫綾子　2001『国府南部遺跡群Ⅲ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第59集　群馬町教育委員会

田辺芳昭・綿貫綾子　2002『国府南部遺跡群Ⅳ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第62集　群馬町教育委員会

田辺芳昭・綿貫綾子　2003『国府南部遺跡群Ⅴ』群馬町埋蔵文化財調査報告書第64集　群馬町教育委員会

付編　自然科学分析

１．塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡０区出土人骨

楢崎　修一郎

塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡０区は、それぞれ、群馬県群馬郡群馬町大字塚田字村東・同大字塚田字中原に所在する。西毛広域幹線道路建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成15（2003）年４月から同年10月まで行われた。上記の２遺跡より、人骨が出土したので以下に報告する。しかしながら、人骨の保存状態は全般的に悪いため、主に、歯について報告せざるをえない。歯の計測方法は、藤田（1949）に従った。また、歯の計測値の比較は中近世人は松村（MATSUMURA,1995）を引用し、現代人は権田（1959）を引用した。

塚田村東Ⅳ遺跡出土人骨

塚田村東Ⅳ遺跡からは、３号土坑・85号土坑・86号土坑より中世の人骨が、19号土坑・20号土坑・31号土坑・45号土坑より近世の人骨が出土したので、以下に報告する。

１．３号土坑出土人骨

時代は、出土遺物より、13世紀後半以降の中世に比定されている。

（１）人骨の出土状況

人骨は、長さ約222㎝・幅約２ｍ・深さ約20㎝の楕円形土坑から出土している。本土坑の上部には、多量の礫が発見されており、その下から人骨が出土している。人骨は、すべて火を受けた痕跡が認められるため、火葬跡と推定される。ちなみに、出土人骨は、主に中央南側に分布している。人骨の個体数は、２個体と推定されるが、火葬骨の総量は明らかに少ない。したがって、収骨された跡なのであろう。このように、火葬骨の全部ではなく一部のみを収骨する方法は、現代にも続く西日本タイプの収骨方法であると推定される（楢崎、2002）。

（２）人骨の出土部位

火葬人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。

（３）被火葬者の頭位・火葬状態

被火葬者の頭位及び火葬状態は、不明である。

（４）被火葬者の個体数

出土火葬人骨に、下顎骨頤部及び上腕骨及び大腿骨骨頭部に重複部位が認められたため、被火葬者の個体数は２個体であると推定される。これは、本土坑の大きさが大きいことからも矛盾しない。

（５）被火葬者の性別

火葬による、人骨の収縮を考慮しても、上腕骨骨頭及び大腿骨骨頭の大きさに大小があるため、被火葬者の性別は男性及び女性の２個体分であると推定される。

（６）被火葬者の死亡年齢

残存していた下顎骨右の歯槽部を観察すると、歯が第３大臼歯まで萌出していたことが確定できる。ところが、上顎第３大臼歯はまだ、歯根が完成していない状態である。したがって、被火葬者の死亡年齢は、約20歳前後と推定される。もう１体は、成人であろう。

（７）火葬の方法

火葬人骨の色を観察すると、白色を呈しているため、高温、恐らく900℃以上で火葬に付されたと推定される。また、人骨には亀裂や歪み及び捻れが認められるため、白骨化させたものを火葬に付したのではなく、死体をそのまま火葬に付したと推定される。

２．85号土坑出土人骨

本土坑より副葬品は出土していないが、As－B（浅間Ｂ）混土層に覆われた状態で検出されたため、時代は中世に比定されている。

（１）人骨の出土状況

人骨は、長さ約115㎝・幅約80㎝・深さ約25㎝の隅丸長方形土坑から出土している。

（２）人骨の出土部位

人骨の残存状態は悪いが、頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。

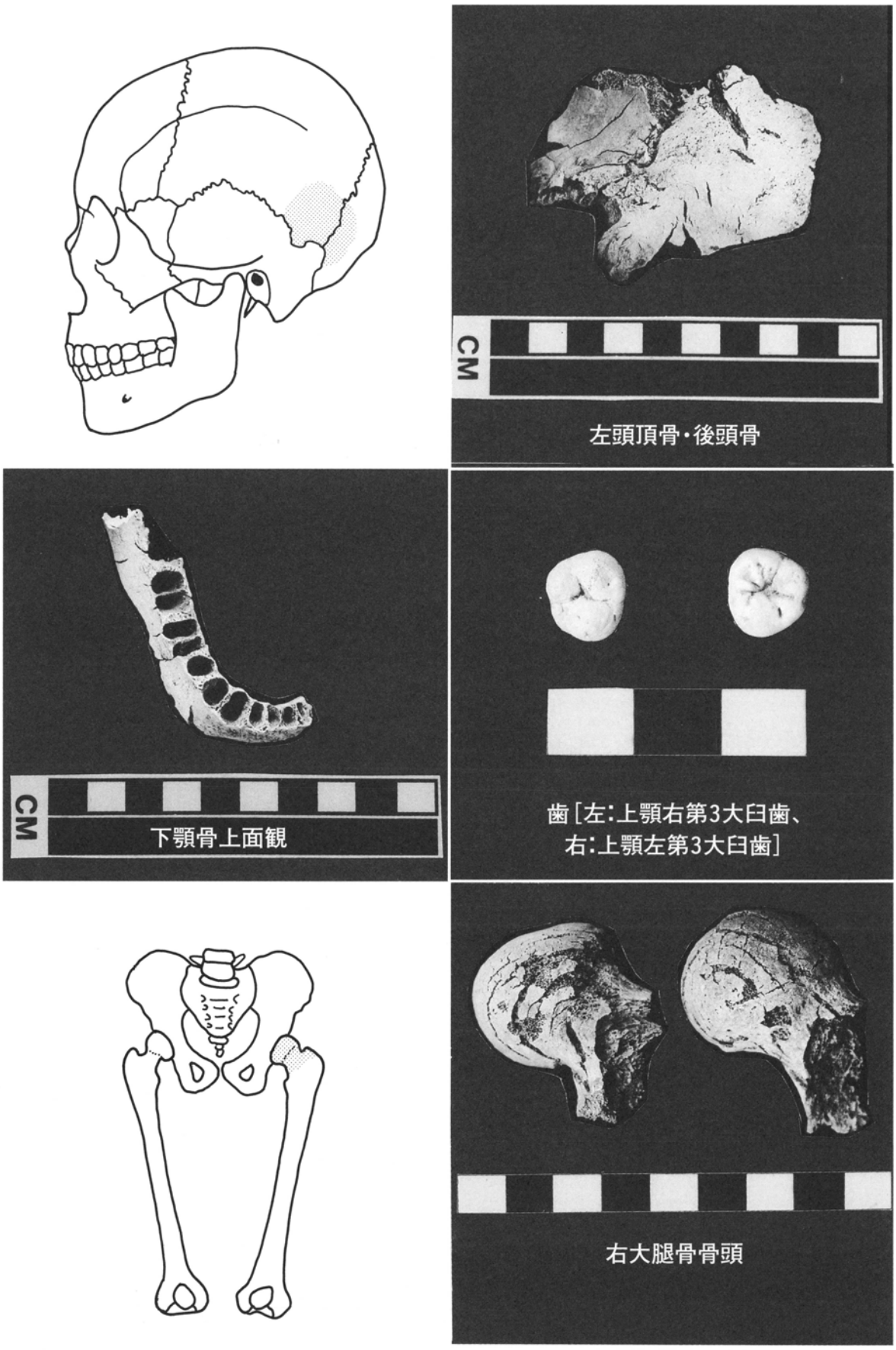


図１．塚田村東Ⅳ遺跡３号土坑出土火葬人骨

（３）被葬者の頭位・埋葬状態

出土状況より、被葬者の頭位は北側で、恐らく左側を下にした側臥（横臥）屈葬により埋葬されたと推定される。

（４）被葬者の個体数

出土人骨特に歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体と推定される。

（５）被葬者の性別

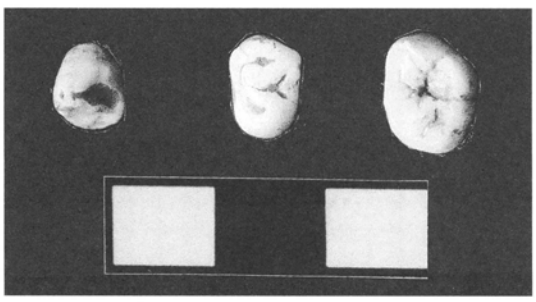
頭蓋骨の骨の厚さが比較的厚く出土歯の歯冠計測値も大きいため、被葬者の性別は男性と推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、上顎犬歯では象牙質が線状に露出した状態である。しかしながら、これは、人為的に歯を使用してできた異常摩耗であると推定される。したがって、確かな死亡年齢推定はできないが、恐らく、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

（７）被葬者の古病理

上顎左第１小臼歯の、遠心面歯頸部に象牙質に達する程度の齲蝕（虫歯）が認められた。



左から、上顎右Ｃ（犬歯）・同Ｐ１（第１小臼歯）・同Ｍ３（第３大臼歯）

図２．塚田村東Ⅳ遺跡85号土坑出土歯

表１．塚田村東Ⅳ遺跡85号土坑出土永久歯歯冠計測値及び比較表

歯種		計測項目	塚田村東Ⅳ 85号土坑	中世時代人 *		江戸時代人 *		現代人 **	
			右	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	C	MD	(7.3)	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.5	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	7.1	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	10.3	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	M3	MD	9.2	－	－	－	－	8.94	8.86
		BL	11.8	－	－	－	－	10.79	10.50

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．歯種は、Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｍ３（第３大臼歯）を意味する。
註３．計測項目は、ＭＤ（歯冠近遠心径）・ＢＬ（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註４．計測値の内、（　）で囲まれているものは、咬耗により、計測値が影響を受けていることを示す。
註５．「＊」は、MATSUMURA(1995)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第３大臼歯のデータは無い。
註６．「＊＊」は、権田（1959）より引用。

３．86号土坑出土人骨

本土坑より副葬品は出土していないが、As－Ｂ（浅間Ｂ）混土層に覆われた状態で検出されたため、時代は中世に比定されている。

（１）人骨の出土状況

人骨は、長さ約148㎝・幅約74㎝・深さ約24㎝の楕円形土坑から出土している。

（２）人骨の出土部位

人骨の残存状況は、比較的良好である。人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。

（３）被葬者の頭位・埋葬状態

出土状況より、被葬者の頭位は北側で、恐らく左側を下にした側臥（横臥）屈葬により埋葬されたと推定される。

（４）被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体と推定される。

（５）被葬者の性別

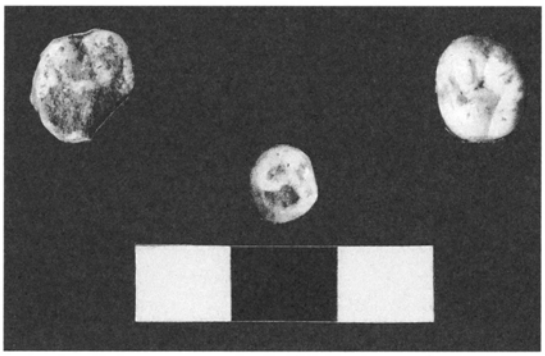
四肢骨が比較的大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性と推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

右第１大臼歯の咬耗は、象牙質にまで達して面を形成している。従って、50歳代とも推定されるが、人為的に歯を使用してできた異常摩耗であるとも推定されるので、咬耗が実際の年齢よりも早く進んでいる可能性もある。ところが、わずかに残されている下顎骨より、下顎左右第１大臼歯部から第３大臼歯部は、生前脱落をしており、歯槽が閉鎖していることが確かめられた。そうすると、下顎の歯が先に生前脱落をおこし、上顎の歯と咬耗をしなかったとも推定される。そうすると、被葬者の死亡年齢は、老齢の可能性がある。

（７）被葬者の古病理

出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。



左から、上顎右M１（第１大臼歯）・下顎右Ｐ１（第１小臼歯）・上顎左M３（第３大臼歯）

図３．塚田村東Ⅳ遺跡86号土坑出土歯

表２．塚田村東Ⅳ遺跡86号土坑出土永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	塚田村東Ⅳ 86号土坑 右	塚田村東Ⅳ 86号土坑 左	中世時代人 * ♂	中世時代人 * ♀	江戸時代人 * ♂	江戸時代人 * ♀	現代人 ** ♂	現代人 ** ♀
上顎	M１	MD	10.0	−	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.50
		BL	10.7	−	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M３	MD	−	9.2	−	−	−	−	8.94	8.86
		BL	−	10.7	−	−	−	−	10.79	10.50
下顎	P１	MD	6.8	−	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.9	−	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．歯種は、Ｐ１（第１小臼歯）・M１（第１大臼歯）・M３（第３大臼歯）を意味する。
註３．計測項目は、MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註４．「＊」は、MATSUMURA（1995）より引用。なお、MATSUMURA（1995）には、第３大臼歯のデータは無い。
註５．「＊＊」は、権田（1959）より引用。

４．19号土坑出土人骨

出土遺物より、時代は17世紀の近世に比定されている。

（１）人骨の出土状況

人骨は、長さ約100㎝・幅約65㎝・深さ約112㎝の長方形土坑から出土している。

（２）人骨の出土部位

人骨の残存状態は非常に悪い。歯及び四肢骨片が出土している。

（３）被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

（４）被葬者の個体数

人骨の残存状態は非常に悪いが、出土歯に、一部重複部位が認められたため、被葬者の個体数は２個体と推定される。以下に、歯の一部が出土しているものを個体Ａとし、歯のほとんどが出土しているものを個体Ｂとして記載する。

（５）被葬者の性別

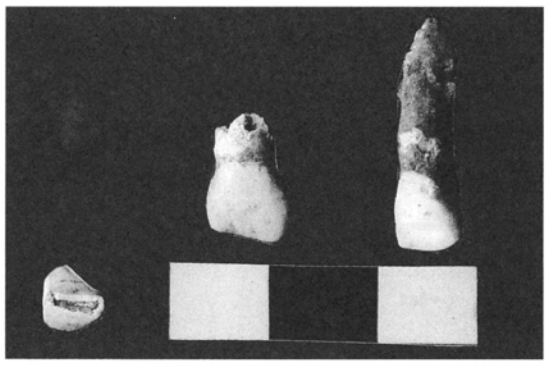
人骨Ａ及び人骨Ｂ共に、比較的歯の計測値が大きいため、被葬者の性別はどちらも男性であると推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、人骨Aは象牙質が線状に露出する状態である。従って、被葬者の死亡年齢は、約30歳代と推定される。また、人骨Ｂは、人骨Ａに比べると咬耗が少ないので約20歳代と推定される。

（７）被葬者の古病理

人骨Ａの上顎歯の舌側面には、異常摩耗が認められた。これは、歯で樹皮をしごいたり苧麻等の繊維を歯で紡いだためと推定される。



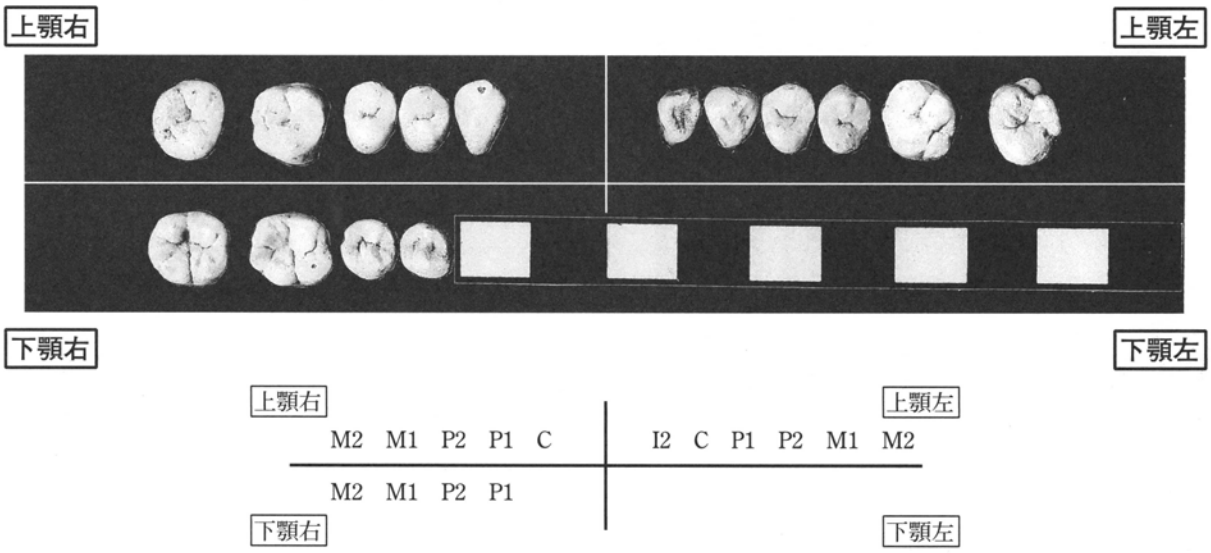
左から、下顎右Ｉ２（第２切歯）・上顎左Ｉ１（第１切歯）・上顎左Ｉ２（第２切歯）

図４．塚田村東Ⅳ遺跡19号土坑出土歯Ａ

表３．塚田村東Ⅳ遺跡19号土坑出土人骨永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	塚田村東Ⅳ 19号土坑 右	塚田村東Ⅳ 19号土坑 左	中世時代人 * ♂	中世時代人 * ♀	江戸時代人 * ♂	江戸時代人 * ♀	現代人 ** ♂	現代人 ** ♀
上顎	Ｉ１	MD	−	8.5A	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	−	7.2A	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	Ｉ２	MD	6.1	6.9A ；6.3	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	6.4	破損A ；6.5	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	7.5	7.6	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.6	8.5	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	Ｐ１	MD	7.4	7.5	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	9.2	9.5	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	Ｐ２	MD	7.2	7.0	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.9	9.6	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M１	MD	10.5	10.4	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	11.4	11.4	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M２	MD	9.7	9.8	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	11.5	11.9	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
下顎	Ｉ２	MD	5.8A	−	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	6.4A	−	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	Ｐ１	MD	7.4	−	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.8	−	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	Ｐ２	MD	7.8	−	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.6	−	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M１	MD	11.2	−	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	10.4	−	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M２	MD	11.2	−	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	10.5	−	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．計測値にAとついているものは個体Aで、その他は個体Bである。
註３．歯種は、Ｉ１（第１切歯）・Ｉ２（第２切歯）・C（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・M１（第１大臼歯）・M２（第２大臼歯）を意味する。
註４．計測項目は、MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註５．「＊」は、MATSUMURA（1995）より引用。
註６．「＊＊」は、権田（1959）より引用。



註：Ｉ２（第２切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）を意味する

図５．塚田村東Ⅳ遺跡19号土坑出土歯Ｂ

５．20号土坑出土人骨

出土遺物より、時代は17世紀の近世に比定されている。

（１）人骨の出土状況

人骨は、長さ約98㎝・幅約86㎝・深さ約165㎝の楕円形土坑から出土している。

（２）人骨の出土部位

人骨は、ほぼ全身が出土しているが、残存状態はあまり良くない。

（３）被葬者の頭位・埋葬状態

出土状況から、被葬者は座葬で埋葬された可能性が高い。

（４）被葬者の個体数

出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体と推定される。

（５）被葬者の性別

出土歯の歯冠計測値が比較的大きく、四肢骨が頑丈で大きいため、被葬者の性別は男性と推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、小臼歯にはそれほどの咬耗が認められないが、犬歯には象牙質が面を成すほどに露出している。これは、歯を人為的に使用したためにできた異常摩耗とも推定される。しかしながら、頭蓋骨の主要縫合である冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると、一部に若干の癒合が認められるものの、ほとんどは癒合していない状態である。したがって、総合的に、被葬者の死亡年齢は約30歳代と推定される。

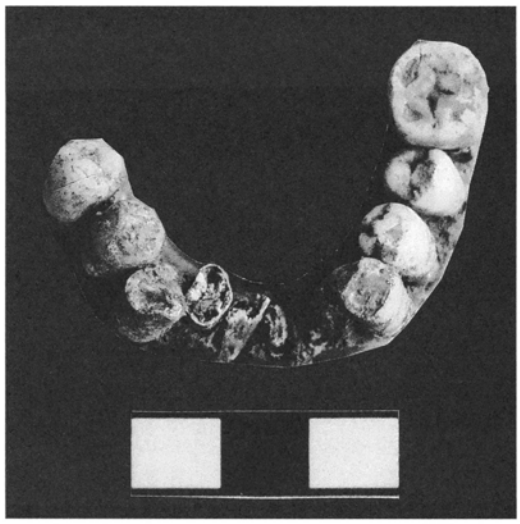


図６．塚田村東Ⅳ遺跡20号土坑出土歯

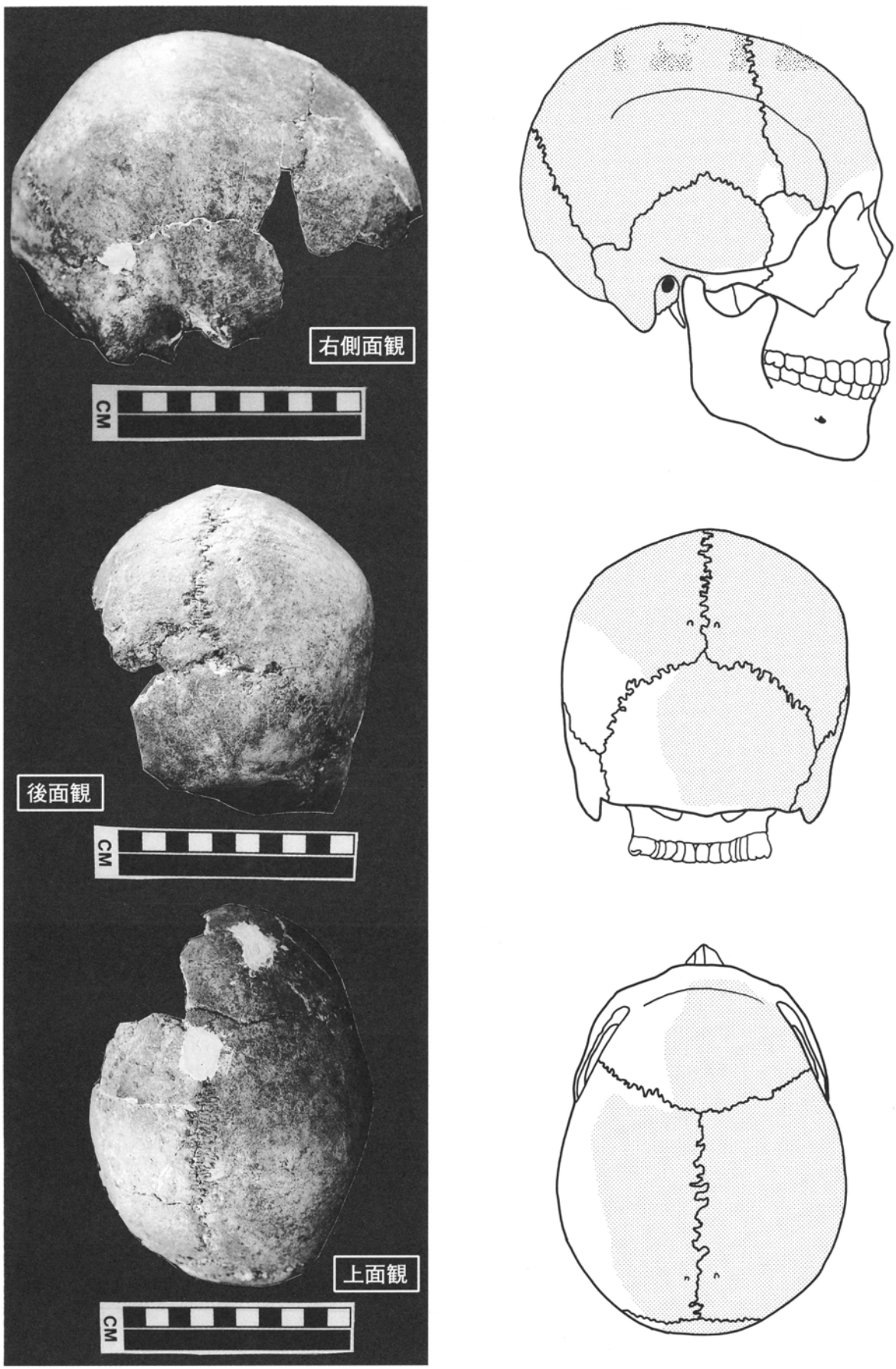


図７．塚田村東Ⅳ遺跡20号土坑出土頭蓋骨及び出土部位図

（７）被葬者の古病理

出土歯の内、上顎右第１大臼歯は、歯冠が完全に崩壊し、歯根のみが残存する状態の齲触症第４度（Ｃ４）である。これは、恐らく、俗に虫歯と呼ばれる齲触により、歯冠が崩壊したと推定される。

表４．塚田村東Ⅳ遺跡20号土坑出土人骨永久歯歯冠計測値及び比較表

歯種		計測項目	塚田村東Ⅳ 20号土坑 右	塚田村東Ⅳ 20号土坑 左	中世時代人 * ♂	中世時代人 * ♀	江戸時代人 * ♂	江戸時代人 * ♀	現代人 ** ♂	現代人 ** ♀
上顎	Ｉ１	MD	8.6	8.5	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	7.9	7.8	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	Ｉ２	MD	6.9	7.4	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	7.4	破損	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	7.9	7.7	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	9.9	9.5	8.5	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	Ｐ２	MD	－	7.2	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	－	10.4	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	Ｍ１	MD	歯冠崩壊	10.4	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL		破損	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	Ｍ２	MD	10.5	10.0	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	12.7	12.6	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
下顎	C	MD	7.0	6.6	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	9.2	9.4	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	Ｐ１	MD	7.5	7.3	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	8.1	8.3	8.1	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	Ｐ２	MD	7.5	7.5	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	9.2	9.0	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	Ｍ１	MD	11.2	12.0	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	10.4	10.9	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．歯種は、Ｉ１（第１切歯）・Ｉ２（第２切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）を意味する。
註３．計測項目は、ＭＤ（歯冠近遠心径）・ＢＬ（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註４．「破損」は歯冠が破損しているため、「歯冠崩壊」は歯冠が齲触（虫歯）のために崩壊しているため計測不能であることを示す。
註５．「＊」は、MATSUMURA（1995）より引用。
註６．「＊＊」は、権田（1959）より引用。

６．31号土坑出土人骨

出土銭貨より、時代は17世紀の近世に比定されている。

（１）人骨の出土状況

土坑は、調査区域外にまたがるため、土坑の形状及び大きさは不明である。検出された土坑の大きさは、長さ約62㎝・幅55㎝・深さ約45㎝である。

（２）人骨の出土部位

人骨の保存状態は、比較的良好である。人骨の出土部位はほぼ全身に及ぶ。

（３）被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土状況より、被葬者は顔を北に向けた座葬で埋葬されたと推定される。

（４）被葬者の個体数

出土人骨に重複部位は認められないため、被葬者の個体数は１個体と推定される。

（５）被葬者の性別

被葬者の性別は、頭蓋骨並びに四肢骨の計測値が大きく頑丈であるため、男性と推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

頭蓋の主要縫合を観察すると、冠状縫合は癒合しているが、矢状縫合及びラムダ（人字）縫合は癒合していない状態である。また、歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度である。総合的に、被葬者の死亡年齢は、約30歳代であると推定される。

（７）被葬者の古病理

本被葬者には、骨梅毒の痕跡が認められた。

①梅毒の起源

梅毒の起源については、コロンブスがアメリカから1492年以降にヨーロッパに持ち帰ったという説・元々ヨーロッパに存在したという説があり、未だに決着はついていない。土肥慶三の『日本梅毒史』によると、日本では室町時代（1338年－1573年）の永正９（1512）年に、中国の広東省から京都に伝わり、翌年には関東地方に伝わったというのが定説になっている。これを裏付けるかのように、日本では、中世の室町時代人骨である東京の鍛冶橋遺跡や近世の出土人骨に、多数、骨梅毒の痕跡が認められている。なお、近世の骨梅毒についてまとめたものに、東京都老人総合研究所の鈴木隆雄による研究がある（SUZUKI, 1984；鈴木、1998）。

②症状

病変は、皮膚・骨・心血管系・肝臓や小腸等の消化器系・中枢神経系までもがおかされる。症状は、３期に分かれ、感染後数週間は性器のみだが、その後数ヶ月すると全身にバラ疹ができ、数年後にはゴム腫と呼ばれる腫瘤ができ、骨を破壊し、大動脈瘤破裂といった症状をもたらす。

③骨の特徴

スタインボック（Steinbock, 1976）によると、骨梅毒に侵される骨の部位は、頭蓋骨と脛骨が主であり、その他、鎖骨・胸骨・上腕骨・橈骨・尺骨・大腿骨も含まれるという。なお、ハンセン病は、梅毒

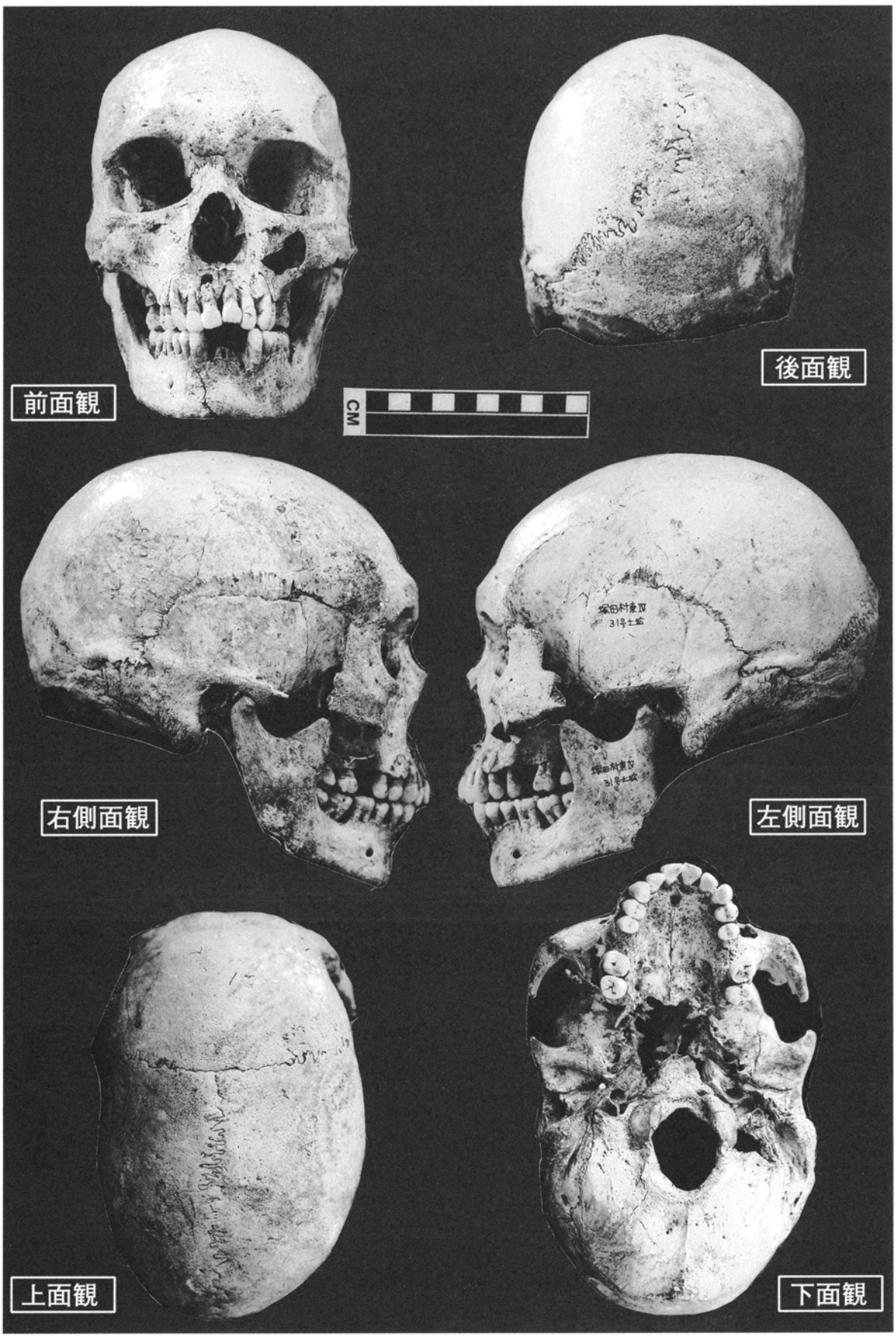


図８．塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土頭蓋骨

頭蓋骨前面観（梨状口と上顎骨の骨萎縮に注意）

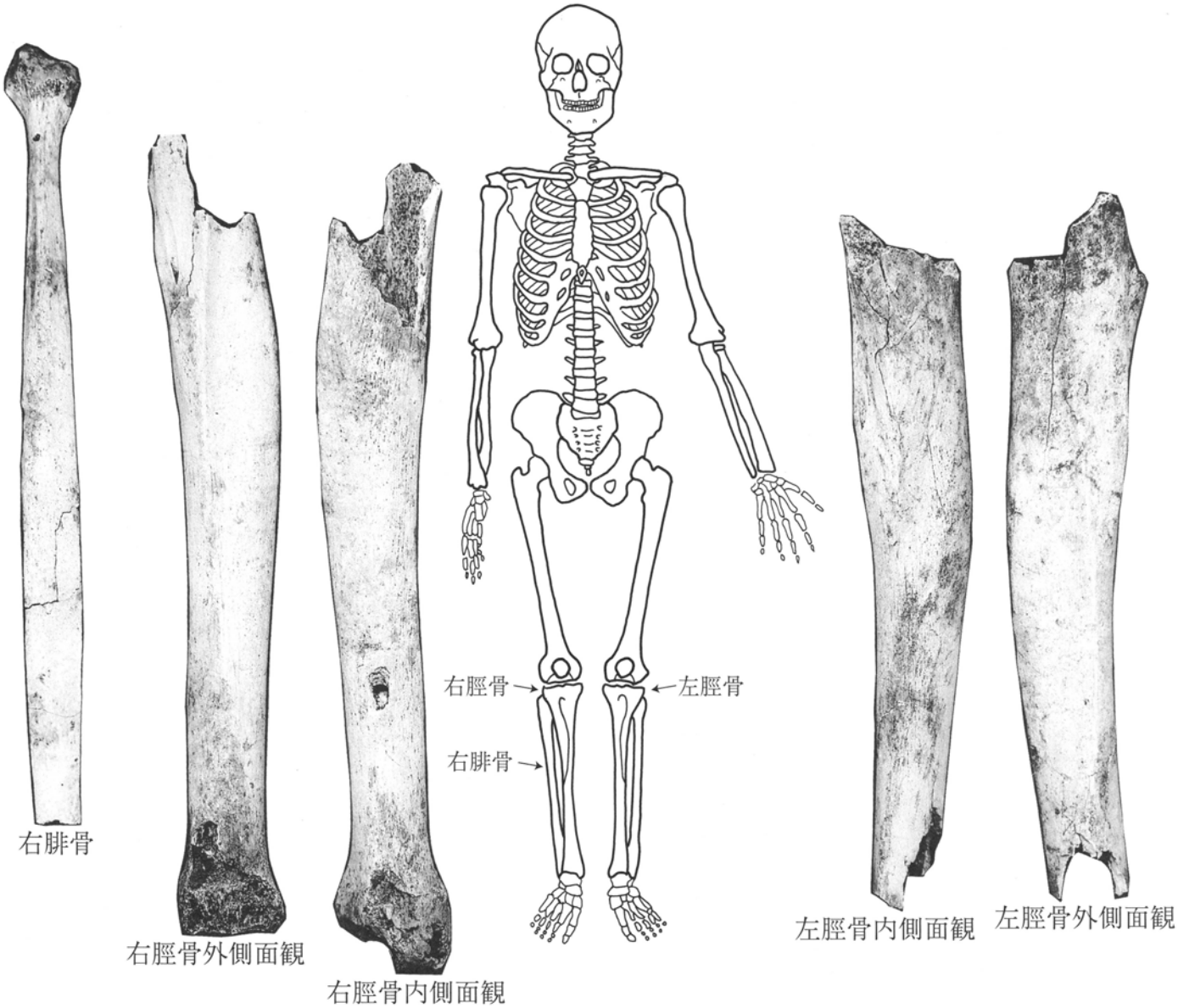


図９．塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土人骨病変部

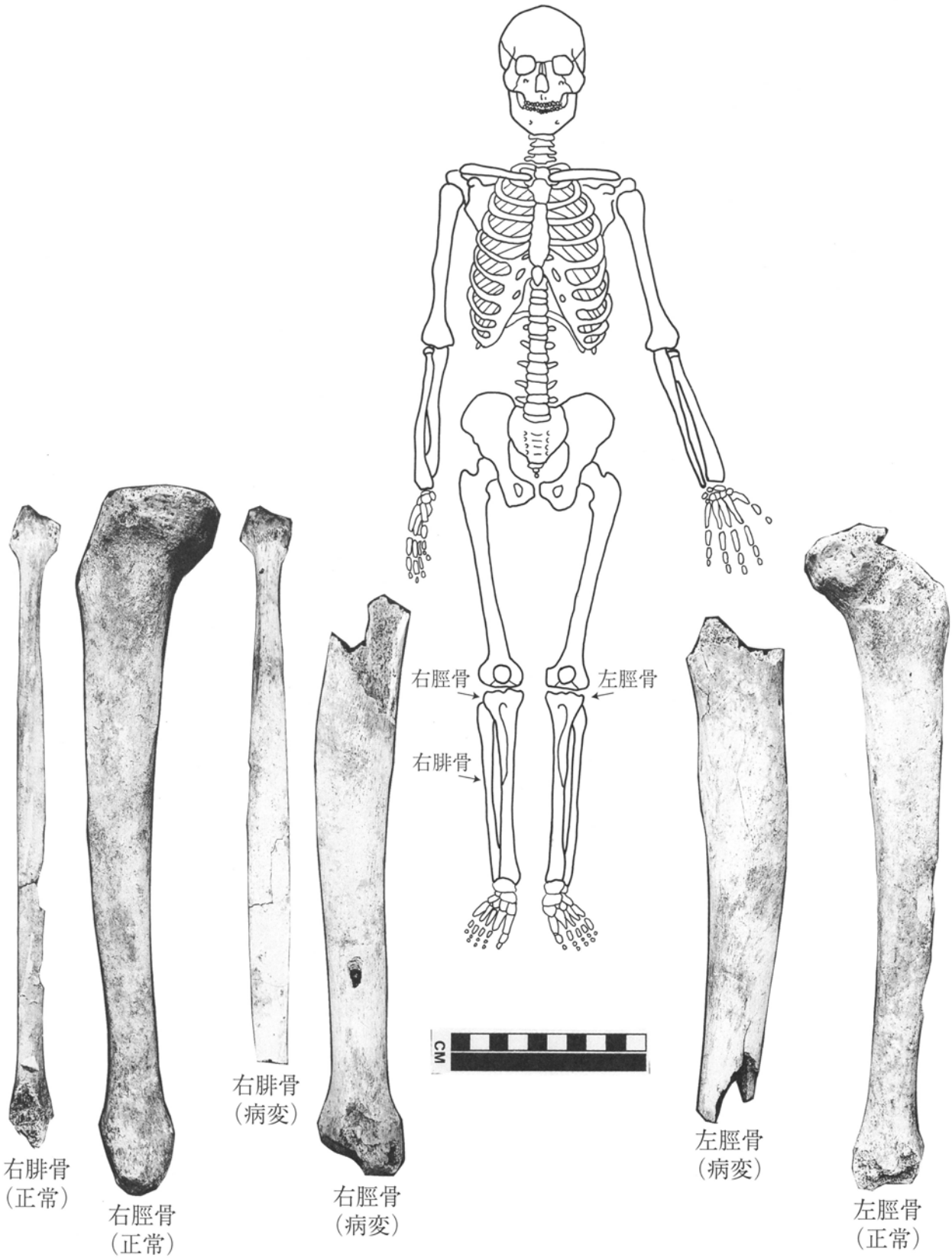


図10．塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土人骨病変と正常人骨（今井三騎堂遺跡）

と症例が似ることが知られており、ハンセン病では上顎骨及び脛骨・腓骨・手足の指の先端部が罹患するが、本出土人骨の手足の指には症例が認められなかった。

④人骨の症状

出土人骨を観察すると、頭蓋骨では鼻の梨状口下縁及び上顎骨に骨萎縮が認められる。また、尺骨・大腿骨遠位部・脛骨・腓骨に骨の異常増殖による肥厚が認められた。歯を観察すると、上顎の左右第１大臼歯は生前脱落をおこしており、歯槽も閉鎖している。上顎の左右第２大臼歯・下顎左第２大臼歯・下顎左右第３大臼歯の咬合面には、転倒・衝突・転落・打撲等により強い外力が加わり、歯冠部が破損した痕跡が認められた。生前に、前出の事故に遭遇したと推定される。これらの歯の形態は、一見、桑実状臼歯に似ている。この桑実状臼歯は、梅毒に先天的に罹患した際に現れることが知られているが、同時に、上下顎の切歯の先端部が欠損するハッチンソンの歯が本個体には認められないため、被葬者は先天性梅毒ではなく、後天的に罹患したものと推測される。以上を総合して、本人骨は梅毒に罹患していたと推定される。

なお、本報告者が知る限り、群馬県内での出土人骨で梅毒に罹患した例は初見である。

（８）被葬者の生前の身長

今回、出土した四肢骨の中で唯一全長を計測することができた右尺骨の全長は、263㎜であった。これから、藤井の式を使って被葬者の生前の身長を推定すると、163.9㎝となった。尺骨による身長推定は、他の上腕骨・大腿骨・脛骨に比べると、精度が落ちるので、場合によってはもう少し身長が高かった可能性もある。北里大学の平本嘉助による江戸時代人骨の右大腿骨を使用した研究では、江戸時代人男性の平均身長は157.1㎝［最大167.2㎝、最小147.2㎝］であり、女性の平均身長は145.6㎝［最大157.1㎝、最小137.6㎝］である（平本、1947）。本個体は、江戸時代男性としては、大柄であったと推定される。

７．45号土坑出土人骨

人骨の残存状態は、きわめて悪いため、被葬者の個体数・性別・死亡年齢等を推定するのは不可能である。

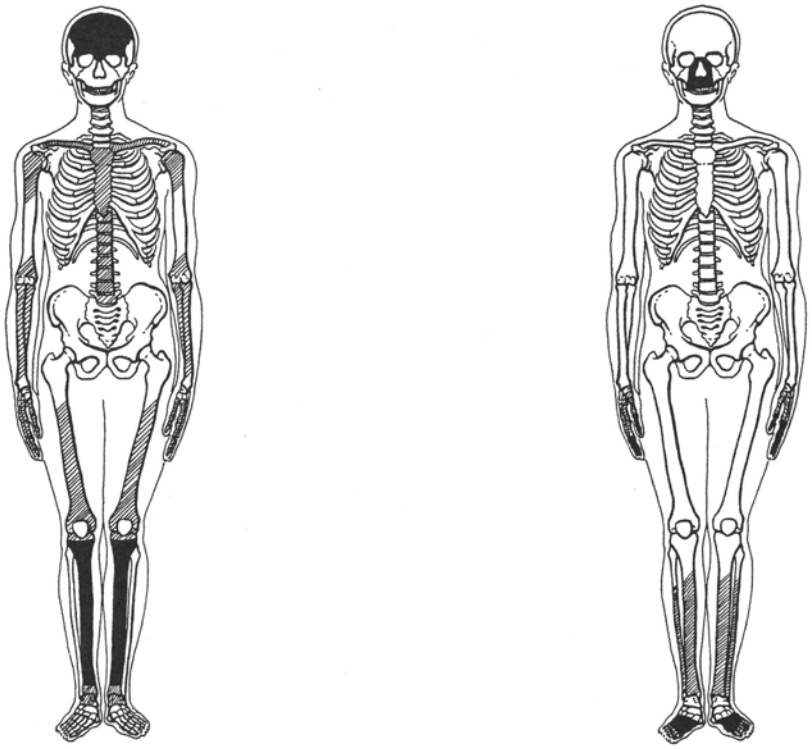
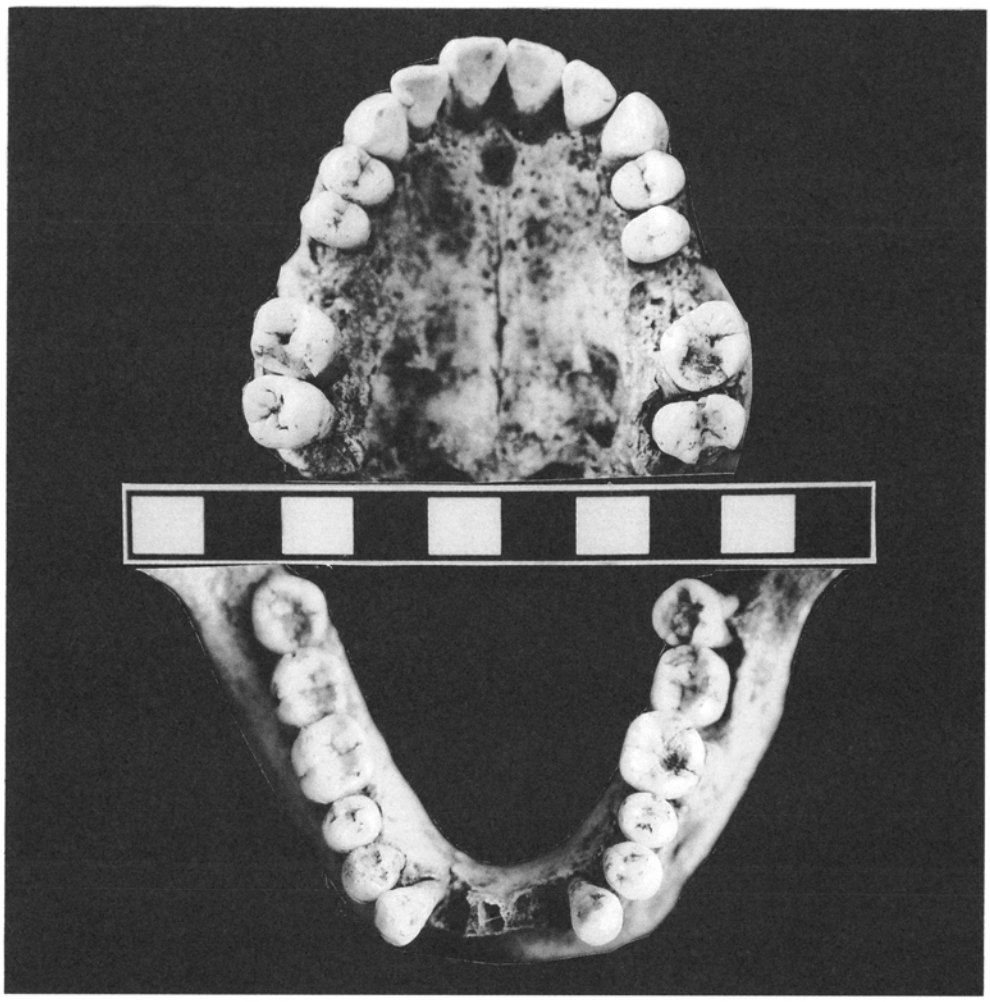


図11．左：梅毒におかされる部位、右：ハンセン病におかされる部位（steinbock,1976より引用）



上顎右　　上顎左

M3	M2		P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2		M2	M3
M3	M2	M1	P2	P1	C					C	P1	P2	M1	M2	M3

下顎右　　上顎左

註：Ｉ１（第１切歯）・Ｉ２（第２切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）・Ｍ３（第３大臼歯）を意味する。

図12．塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土歯

表５．塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土頭蓋骨及び比較表

計測項目	塚田村東Ⅳ	中世人骨＊		江戸時代人骨＊＊		現代人＊＊＊	
(Martin's No.)	31号土坑	♂	♀	♂	♀	♂	♀
1　脳頭蓋最大長	198 ㎜	184.2 ㎜	177.9 ㎜	181.9 ㎜	175.4 ㎜	178.9 ㎜	170.8 ㎜
8　脳頭蓋最大幅	133 ㎜	136.5 ㎜	131.8 ㎜	139.8 ㎜	136.8 ㎜	140.3 ㎜	135.9 ㎜
8：1　頭蓋長幅示数	67.2(過長頭)	74.2(長頭)	74.2(長頭)	76.9(中頭)	78.1(中頭)	78.5(中頭)	79.7(中頭)
17　バジオン・ブレグマ高	139 ㎜	137.2 ㎜	128.8 ㎜	137.5 ㎜	133.3 ㎜	138.1 ㎜	132.5 ㎜
17：1　頭蓋長高示数	70.2(中頭)	75.0(高頭)	73.4(中頭)	75.6(高頭)	75.8(高頭)	77.3(高頭)	77.7(高頭)
17：8　頭蓋幅高示数	104.5(狭頭)	99.8(狭頭)	97.6(中頭)	98.6(狭頭)	97.5(中頭)	98.6(狭頭)	97.7(中頭)
1＋8＋17／3　脳頭蓋モズルス	156.7	152.4	146.4	153.1	148.7	－	146.8
5　頭蓋底長	106 ㎜	103.5 ㎜	93.0 ㎜	101.9 ㎜	97.7 ㎜	100.7 ㎜	95.6 ㎜
9　最小前頭幅	93 ㎜	93.5 ㎜	90.5 ㎜	94.5 ㎜	91.8 ㎜	93.2 ㎜	91.0 ㎜
10　最大前頭幅	122 ㎜	114.2 ㎜	109.0 ㎜	117.4 ㎜	114.0 ㎜	115.9 ㎜	113.7 ㎜
9：10　横前頭示数	76.2	81.9	82.8	80.8	80.5	80.5	81.5
9：8　横前頭頭頂示数	69.9(広前頭)	68.3(中前頭)	69.1(広前頭)	67.7(中前頭)	67.0(中前頭)	66.4(中前頭)	66.9(中前頭)
11　両耳幅	124 ㎜	119.2 ㎜	113.5 ㎜	126.2 ㎜	120.9 ㎜	124.9 ㎜	118.8 ㎜
12　最大後頭幅	110 ㎜	107.8 ㎜	104.4 ㎜	109.9 ㎜	105.8 ㎜	108.4 ㎜	104.2 ㎜
12：8　横頭頂後頭示数	82.7	77.6	78.9	78.6	76.6	77.3	76.8
13　乳様突起間幅	102 ㎜	103.7 ㎜	100.6 ㎜	104.0 ㎜	99.2 ㎜	102.4 ㎜	97.6 ㎜
7　大後頭孔長	38 ㎜	34.7 ㎜	34.1 ㎜	35.9 ㎜	34.6 ㎜	35.0 ㎜	33.7 ㎜
16　大後頭孔幅	28 ㎜	28.9 ㎜	28.1 ㎜	29.8 ㎜	28.3 ㎜	29.8 ㎜	28.4 ㎜
16：7　大後頭孔示数	73.7(狭)	82.7(中)	85.9(中)	83.4(中)	82.1(中)	85.2(中)	84.4(中)
23　脳頭蓋水平周	542 ㎜	516.9 ㎜	495.6 ㎜	520.2 ㎜	503.3 ㎜	513.7 ㎜	493.7 ㎜
24　横弧長	315 ㎜	309.4 ㎜	297.2 ㎜	313.1 ㎜	313.8 ㎜	324.4 ㎜	313.2 ㎜
25　正中矢状弧長	399 ㎜	373.7 ㎜	360.1 ㎜	373.4 ㎜	361.1 ㎜	371.7 ㎜	357.6 ㎜
26　正中前頭弧長	134 ㎜	126.5 ㎜	120.9 ㎜	126.7 ㎜	123.7 ㎜	127.4 ㎜	122.1 ㎜
27　正中頭頂弧長	140 ㎜	129.4 ㎜	124.4 ㎜	127.7 ㎜	123.9 ㎜	125.1 ㎜	121.0 ㎜
28　正中後頭弧長	125 ㎜	117.5 ㎜	114.6 ㎜	119.2 ㎜	113.0 ㎜	119.1 ㎜	114.3 ㎜
27：26　矢状前頭頭頂示数	104.5	102.7	103.3	101.1	100.7	98.6	98.9
28：26　矢状前頭後頭示数	93.3	95.1	94.4	94.2	91.4	93.6	93.9
28：27　矢状頭頂後頭示数	89.3	93.1	92.0	93.3	91.2	95.4	95.4
26：25　前頭矢状弧長示数	33.6	33.8	33.6	33.9	34.3	34.3	34.2
27：25　頭頂矢状弧長示数	35.1	34.5	34.6	34.2	34.3	33.7	33.8
28：25　後頭矢状弧長示数	31.3	31.9	31.9	31.9	31.3	32.0	32.0
29　正中前頭弧長	118 ㎜	111.5 ㎜	106.6 ㎜	111.4 ㎜	108.7 ㎜	111.8 ㎜	106.5 ㎜
30　正中頭頂弦長	118 ㎜	115.7 ㎜	111.6 ㎜	114.6 ㎜	111.2 ㎜	111.8 ㎜	108.6 ㎜
31　正中後頭弦長	103 ㎜	99.3 ㎜	99.6 ㎜	99.1 ㎜	96.8 ㎜	100.4 ㎜	97.0 ㎜
29：26　矢状前頭彎曲示数	88.1	88.2	88.2	87.9	87.9	87.9	87.4
30：27　矢状頭頂彎曲示数	84.3	89.5	89.6	89.7	89.7	89.3	89.8
31：28　矢状後頭彎曲示数	82.4	82.9	84.2	85.7	85.7	84.5	84.9
40　顔長	102 ㎜	102.0 ㎜	94.9 ㎜	99.3 ㎜	96.7 ㎜	97.6 ㎜	94.4 ㎜
40：1　頭顔長示数	51.5	55.8	54.4	－	－	－	－
40：5　顎示数	96.2	98.8	98.9	97.6	98.6	97.0	99.0
41　側顔長	75 ㎜	75.4 ㎜	72.6 ㎜	－	－	－	－
42　下顔長	109 ㎜	110.4 ㎜	101.0 ㎜	－	－	104.6 ㎜	99.6 ㎜
43　上顔幅	111㎜	105.5 ㎜	100.1 ㎜	104.8 ㎜	101.2 ㎜	103.8 ㎜	100.1 ㎜
44　両眼窩幅	103 ㎜	100.0 ㎜	94.7 ㎜	98.8 ㎜	95.9 ㎜	97.2 ㎜	94.1 ㎜
9：43　前頭上.顔示数	83.8	88.9	90.7	－	－	－	－
46　中顔幅(上顔幅)	114 ㎜	101.8 ㎜	95.4 ㎜	99.6 ㎜	94.8 ㎜	98.6 ㎜	93.5 ㎜
47　顔高	125 ㎜	115.8 ㎜	105.1 ㎜	118.0 ㎜	－	123.8 ㎜	115.0 ㎜
48　上顔高	72 ㎜	64.7 ㎜	61.6 ㎜	66.2 ㎜	66.6 mm	70.7 ㎜	67.1 ㎜
47：46　ウイルヒョウ顔示数	110.6(低顔)	113.9(低顔)	109.4(過低顔)	116.2(低顔)	－	125.4(正顔)	123.3(正顔)
48：46　ウイルヒョウ上顔示数	62.8(過低顔)	65.6(低顔)	64.1(過低顔)	69.7(低顔)	70.6(低顔)	71.8(低顔)	72.0(低顔)
50　前眼窩間幅	17 ㎜	19.1 ㎜	18.2 ㎜	18.6 ㎜	17.1 ㎜	17.8 ㎜	17.4 ㎜
50：44　眼窩間示数	16.5	19.2	19.8	18.7	17.9	18.3	18.5
51　眼窩幅(右)	42 ㎜	43.3 ㎜	41.1 ㎜	－	－	－	－
51　眼窩幅(左)	42 ㎜	43.1 ㎜	40.7 ㎜	43.2 ㎜	42.0 ㎜	42.7 ㎜	41.1 ㎜
52　眼窩高(右)	35 ㎜	33.8 ㎜	33.1 ㎜	－	－	－	－
52　眼窩高(左)	34㎜	33.7 ㎜	32.9 ㎜	34.4 ㎜	34.9 ㎜	34.3 ㎜	33.8 ㎜
52：51　眼窩示数(右)	83.3(中眼窩)	77.8(中眼窩)	80.7(中眼窩)	－	－	－	－
52：51　眼窩示数(左)	81.0(中眼窩)	78.2(中眼窩)	79.9(中眼窩)	79.5(中眼窩)	83.3(高眼窩)	80.4(中眼窩)	82.4(中眼窩)
54　鼻幅	27 ㎜	26.6 ㎜	24.6 ㎜	26.2 ㎜	25.1 ㎜	25.0 ㎜	24.5 ㎜
55　鼻高	56 ㎜	51.1 ㎜	46.9 ㎜	52.5 ㎜	49.5 ㎜	52.0 ㎜	49.0 ㎜
54：55　鼻示数	48.2(中鼻)	52.1(広鼻)	52.7(広鼻)	49.9(中鼻)	50.9(中鼻)	48.4(中鼻)	50.2(中鼻)
55(1)　梨状口高	35 ㎜	30.0 ㎜	27.7 ㎜	31.8 ㎜	29.6 ㎜	30.6 ㎜	28.0 ㎜
56　鼻骨長	22 ㎜	23.3 ㎜	21.8 ㎜	－	－	－	－
57　鼻骨最小幅	7 ㎜	8.0 ㎜	7.9 ㎜	7.6 ㎜	6.8 ㎜	7.0 ㎜	7.1 ㎜
57(1)　鼻骨最大幅	17 ㎜	17.9 ㎜	17.6 ㎜	18.4 ㎜	17.5 ㎜	17.9 ㎜	17.5 ㎜
60　上顎歯槽突起長	55 ㎜	55.7 ㎜	49.5 ㎜	53.3 ㎜	52.4 ㎜	52.4 ㎜	50.3 ㎜
61　上顎歯槽突起幅	69 ㎜	65.2 ㎜	60.7 ㎜	66.5 ㎜	64.8 ㎜	65.8 ㎜	61.7 ㎜
62　口蓋長	50 ㎜	46.3 ㎜	43.6 ㎜	44.8 ㎜	44.0 ㎜	44.0 ㎜	42.7 ㎜
63　口蓋幅	41 ㎜	41.0 ㎜	38.3 ㎜	40.9 ㎜	40.7 ㎜	40.0 ㎜	38.4 ㎜
61：60　上顎歯槽突起示数	125.5(短顎)	121.8(短顎)	124.1(短顎)	125.0(短顎)	123.1(短顎)	126.0(短顎)	123.2(短顎)
63：62　口蓋示数	82.0(中口蓋)	86.7(広口蓋)	88.9(広口蓋)	91.2(広口蓋)	90.9(広口蓋)	91.1(広口蓋)	90.4(広口蓋)
67　前下顎幅	48 ㎜	48.4 ㎜	45.9 ㎜	47.8 ㎜	32.5 ㎜	－	－
69　頤高	35 ㎜	32.7 ㎜	28.7 ㎜	34.5 ㎜	32.5 ㎜	32.7 ㎜	33.2 ㎜
71　下顎枝幅(左)	39 ㎜	36.6 ㎜	35.7 ㎜	35.4 ㎜	31.1 ㎜	36.6 ㎜	31.1 ㎜

表６．塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土頭蓋骨非計測的形質

観察項目	塚田村東Ⅳ遺跡 31号土坑 右	中央	左
前頭縫合	×	－	×
眼窩上孔	＋	×	＋
副眼窩下孔	－	×	破損
副頤孔	－	×	－
内側口蓋管骨橋	＋	×	＋
第３後頭顆	×	－	×
前顆結節	－	×	－
卵円孔棘孔連続	－	×	－
鼓室骨裂孔	－	×	－
頭静脈孔二分	－	×	－
顆管開存	－	×	破損
横頬骨縫合痕跡	－	×	－
頭頂切痕骨	－	×	－
アステリオン骨	－	×	－
後頭乳突縫合骨	－	×	－
外耳道骨腫	－	×	－
顎舌骨筋神経溝骨橋	－	×	－
ラムダ小骨	×	－	×
舌下神経管二分	－	×	＋
横後頭縫合痕跡	－	×	－

註１：「＋」は有ることを、「－」は無いことを示す。
註２：「破損」は、人骨が破損していて観察不能であることを示す。

表７．塚田村東Ⅳ遺跡31号土坑出土永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	塚田村東Ⅳ 31号土坑 右	左	中世時代人 * ♂	♀	江戸時代人 * ♂	♀	現代人 ** ♂	♀
上顎	Ｉ１	ＭＤ	9.3	9.2	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		ＢＬ	7.6	7.6	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	Ｉ２	ＭＤ	7.9	8.1	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		ＢＬ	7.3	7.2	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	Ｃ	ＭＤ	8.5	8.4	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		ＢＬ	9.9	10.1	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	Ｐ１	ＭＤ	7.6	7.6	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		ＢＬ	10.8	10.6	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	Ｐ２	ＭＤ	6.9	6.9	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		ＢＬ	9.9	9.7	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	Ｍ１	ＭＤ	生前脱落	生前脱落	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		ＢＬ			11.81	11.3	11.87	11.39	11.75	11.40
	Ｍ２	ＭＤ	破損	10.6	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		ＢＬ	12.9	12.8	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	Ｍ３	ＭＤ	10.0	破損	－	－	－	－	8.94	8.86
		ＢＬ	12.2	12.6	－	－	－	－	10.79	10.50
下顎	Ｉ１	ＭＤ	欠損	欠損	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		ＢＬ			5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	Ｉ２	ＭＤ	欠損	欠損	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		ＢＬ			6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	Ｃ	ＭＤ	7.5	7.5	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		ＢＬ	9.2	8.9	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.5
	Ｐ１	ＭＤ	7.7	7.4	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		ＢＬ	9.1	9.1	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	Ｐ２	ＭＤ	7.7	7.4	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		ＢＬ	8.9	8.8	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	Ｍ１	ＭＤ	11.9	12.2	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		ＢＬ	11.4	11.4	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	Ｍ２	ＭＤ	12.0	11.9	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		ＢＬ	10.8	10.5	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
	Ｍ３	ＭＤ	11.5	9.8	－	－	－	－	10.96	10.65
		ＢＬ	10.3	10.7	－	－	－	－	10.28	10.02

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．歯種は、Ｉ１（第１切歯）・Ｉ２（第２切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）・Ｍ３（第３大臼歯）を意味する。
註３．計測項目は、ＭＤ（歯冠近遠心径）・ＢＬ（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註４．「生前脱落」は歯槽が閉鎖していることを示す。
註５．「欠損」は生前脱落でも死後脱落でもなく歯が出土していないことを示す。
註６．「破損」は、歯冠が破損しており計測ができなかったことを示す。
註７．「＊」は、MATSUMURA（1995）より引用。なお、MATSUMURA（1995）には、第３大臼歯のデータは無い。
註８．「＊＊」は、権田（1959）より引用

塚田中原遺跡０区出土人骨

塚田中原遺跡０区からは、２号竪穴状遺構・95号土坑・104号土坑・143号土坑・10号溝より人骨が出土したので、以下に報告する。

１．２号竪穴状遺構出土人骨

本遺構は、出土遺物より、９世紀より新しい時代に比定されている。人骨は焼かれており、大きさが約１cmから５mm程度の骨片が数十片出土しているのみである。火葬人骨の色は白色を呈しているため、約９００℃以上で焼成されたことが推定される。残念ながら、この骨片からは、被火葬者の個体数・死亡年齢・性別等を推定するのは不可能である。

２．95号土坑出土人骨

本土坑は、出土遺物より、中世に比定されている。土坑の大きさは、長さ約4.4m・幅約1.78mの隅丸長方形土坑である。人骨は焼かれており、数ミリの破片が出土しているのみである。火葬人骨の色は白色を呈しているため、約900℃以上で焼成されたことが推定される。残念ながら、この骨片からは、被火葬者の個体数・死亡年齢・性別等を推定するのは不可能である。

３．104号土坑出土人骨

出土状況から、中世に比定されている。副葬品は、銭貨が出土している。

（１）人骨の出土状況

人骨は、長さ約46cm・幅約32cmの隅丸長方形土坑より出土している。

（２）人骨の出土部位

人骨の残存状況は、非常に悪い。頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。

（３）被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の残存状況が悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

（４）被葬者の個体数

出土人骨、特に出土歯に重複部位が認められないため被葬者の個体数は１個体と推定される。

（５）被葬者の性別

出土歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性と推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、上顎犬歯・下顎切歯は象牙質が面を成す程度まで咬耗している。しかしながら、上下顎の小臼歯及び大臼歯はエナメル質のみかあるいは象牙質が点状に露出する程度である。また、上顎左第１切歯の舌側面には異常摩耗が認められるため、同様に上顎犬歯及び下顎切歯は異常摩耗と推定される。そうすると、被葬者の死亡年齢は、上下顎の咬耗度より、約30歳代と推定される。

（７）被葬者の古病理

前出のように、本被葬者の上顎切歯・上顎犬歯・下顎切歯には、異常摩耗が認められた。これは、歯で苧麻等の繊維を紡いだためと推定される。

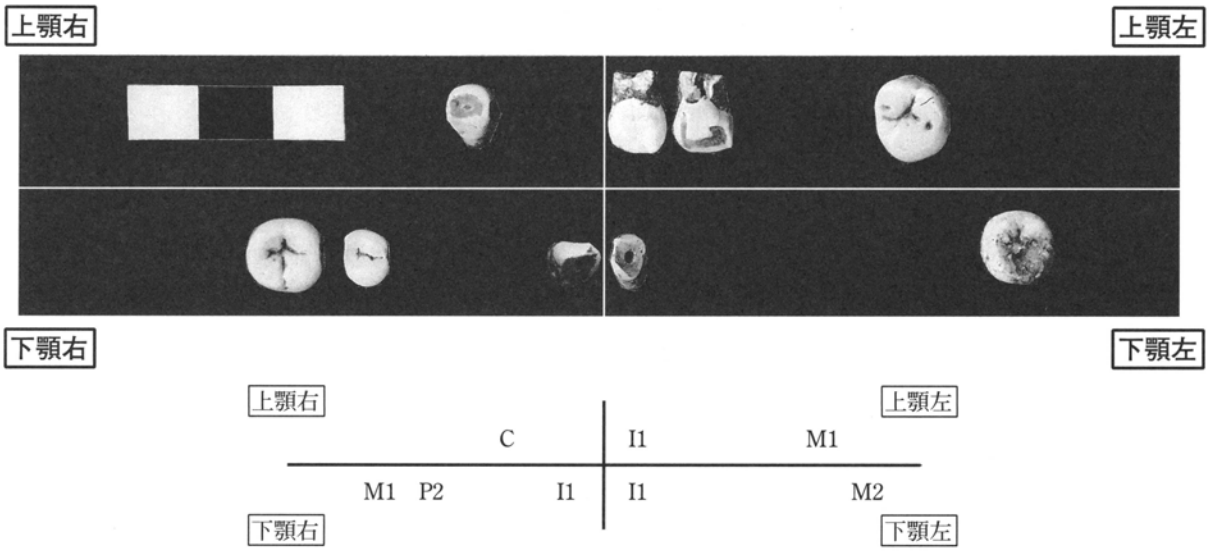
表８．塚田中原遺跡０区104号土坑出土永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	塚田村東104号土坑 右	塚田村東104号土坑 左	中世時代人＊ ♂	中世時代人＊ ♀	江戸時代人＊ ♂	江戸時代人＊ ♀	現代人＊＊ ♂	現代人＊＊ ♀
上顎	I１	MD	－	8.0	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	－	7.5	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	C	MD	6.7	－	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.0	－	8.5	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	M１	MD	－	10.1	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	－	12.0	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
下顎	I１	MD	(5.2)	(4.5)	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		BL	6.5	6.8	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	P２	MD	6.2	－	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.1	－	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M１	MD	10.9	－	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	10.5	－	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M２	MD	－	10.2	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	－	10.3	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20

註１．計測値の単位は、すべて、「mm」である。
註２．歯種は、Ｉ１（第１切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）を意味する。
註３．計測項目は、ＭＤ（歯冠近遠心径）・ＢＬ（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註４．（　）内の計測値は、異常摩耗で計測値が影響を受けている。
註５．「＊」は、MATSUMURA（1995）より引用。
註６．「＊＊」は、権田（1959）より引用。

４．143号土坑出土人骨

本土坑は、出土遺物より、平安時代に比定されている。人骨は、焼かれており、大きさ約１cmから５mm程度の破片が数百片出土している。中には、歯根も出土しているので、人骨であることは間違いない。火葬人骨の色は、白色を呈しており、約900℃以上で焼成されたと推定される。本土坑からは、炭化材も出土しているので、火葬跡であり、丁寧に収骨した跡であると推定される。残念ながら、小破片のみであるため、被火葬者の個体数・死亡年齢・性別等を推定するのは不可能である。



註：Ｉ１（第１切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）を意味する。

図13．塚田中原遺跡０区104号土坑出土歯

５．10号溝跡出土人骨

本溝跡は、中世に埋没したと推定されている。

（１）人骨の出土状況

本土坑は、10号溝跡に切られており、出土状況は不明である。

（２）人骨の出土部位

人骨の残存状況は悪い。頭蓋骨片及び歯が出土している。

（３）被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の残存状況が悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

（４）被葬者の個体数

出土人骨、特に出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体と推定される。

（５）被葬者の性別

出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性と推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、上顎左右第１大臼歯は象牙質が面を成す程度に露出しているが、上顎左右犬歯・第１小臼歯・第２小臼歯は、象牙質が点状に露出する程度である。これは、上顎左右第１大臼歯が異常摩耗であると推定される。したがって、被葬者の死亡年齢は上顎左右犬歯から第２小臼歯までの咬耗度から、約30歳代と推定される。

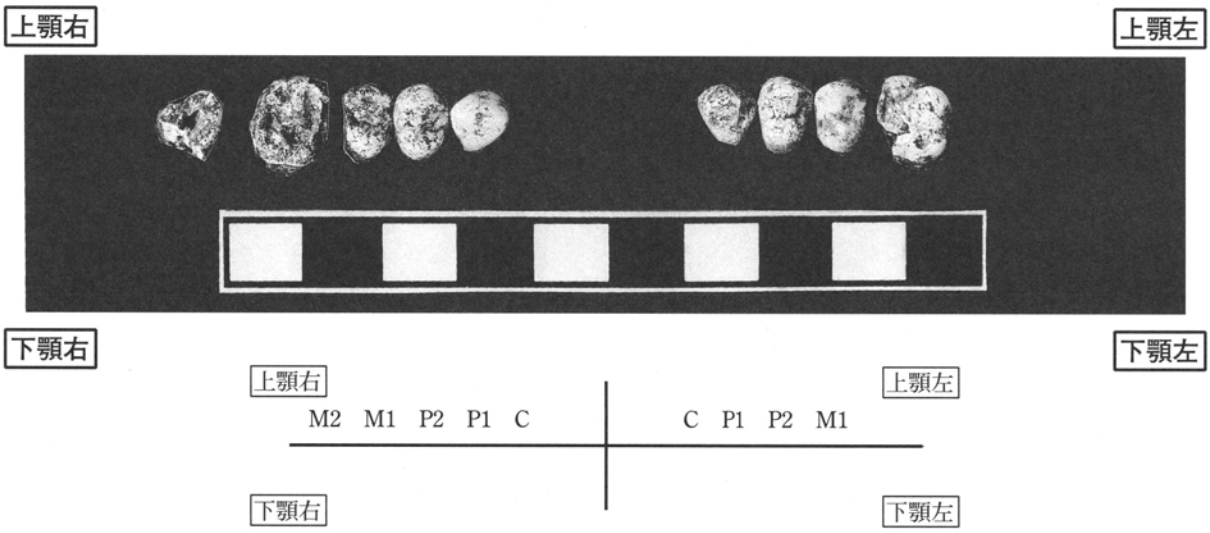
（７）被葬者の古病理

被葬者の上顎右第２大臼歯は、歯冠が完全に崩壊し、歯根のみが残存する状態の齲触症第４度（Ｃ４）である。これは、恐らく、俗に虫歯と呼ばれる齲触により、歯冠が崩壊したと推定される。

表９．塚田中原遺跡０区10号溝跡出土永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	塚田中原10号溝跡 右	塚田中原10号溝跡 左	中世時代人 * ♂	中世時代人 * ♀	江戸時代人 * ♂	江戸時代人 * ♀	現代人 ** ♂	現代人 ** ♀
上顎	C	MD	7.7	7.4	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.5	8.2	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	7.1	7.3	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	10.1	10.1	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P2	MD	6.8	6.8	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.9	10.0	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	(10.0)	9.9	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	(11.8)	11.5	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M2	MD	歯冠	－	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	崩壊	－	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．歯種は、Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）を意味する。
註３．計測項目は、ＭＤ（歯冠近遠心径）・ＢＬ（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註４．「歯冠崩壊」とは齲触（虫歯）により歯冠が崩壊したことを示す。
註５．「＊」は、MATSUMURA（1995）より引用。
註６．「＊＊」は、権田（1959）より引用。



註：C（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）を意味する

図14．塚田中原遺跡０区10号溝跡出土歯

まとめ

塚田村東Ⅳ遺跡及び塚田中原遺跡０区より、人骨が出土した。以下に、出土人骨のまとめを表にした。本出土人骨の特徴としては、多くの個体に歯の異常摩耗が認められたことである。また、１例ではあるが、骨梅毒に罹患した近世人骨も認められた。これは、群馬県では、恐らく初見であると考えられる。

表10．出土人骨のまとめ

塚田村東Ⅳ遺跡出土人骨						
土坑番号等	時代	個体数	性別	死亡年齢	身長	備　考
３号土坑	中世	２個体	男性	約20歳	不明	火葬骨
			女性	成人	不明	火葬骨
85号土坑	中世	１個体	男性	約40歳代	不明	歯に異常摩耗
86号土坑	中世	１個体	男性	老齢	不明	歯に異常摩耗
19号土坑	近世	２個体	男性	約20歳代	不明	－
			男性	約30歳代	不明	歯に異常摩耗
20号土坑	近世	１個体	男性	約30歳代	不明	歯に異常摩耗
31号土坑	近世	１個体	男性	約30歳代	163.9㎝	骨梅毒
45号土坑	近世	不明	不明	不明	不明	－
塚田中原遺跡０区						
２号竪穴	９Ｃ以降	不明	不明	不明	不明	－
95号土坑	中世	不明	不明	不明	不明	－
104号土坑	中世	１個体	女性	約30歳代	不明	歯に異常摩耗
143号土坑	平安	不明	不明	不明	不明	－
10号溝跡	中世	１個体	男性	約30歳代	不明	歯に異常摩耗

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただき、考古学的情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小林　正氏に感謝します。また、助言をいただいた、同事業団の菊池　実氏に感謝いたします。

引用文献

藤井　明　1960　四肢骨長の長さと身長との関係に就いて、「順天堂大学体育学部紀要」、３:49-61.

藤田恒太郎　1949　歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61(1):1-6.

権田和良　1959　歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67(3):47-59.

平本嘉助　1972　縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的変化、「人類学雑誌」、80(3):221-236.

MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Musem Monpgraphs No.9, National Science Museum, Tokyo.

STEINBOCK, R. Ted 1976 Paleopathological Diagnosis and Interpretation, Charles C. Thomas.

鈴木隆雄　1998 『骨から見た日本人』、講談社

2．塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡０区・引間松葉遺跡Ⅲ区出土獣骨

楢崎　修一郎

塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡０区・引間松葉遺跡Ⅲ区は、それぞれ、群馬県群馬郡群馬町大字塚田字村東・同大字塚田字中原・同大字引間字松葉に所在する。西毛広域幹線道路建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成15(2003) 年４月より同年10月まで行われた。上記の３遺跡より、獣骨が出土したので以下に報告する。

１．塚田村東Ⅳ遺跡出土馬歯

塚田村東遺跡では、６号溝跡より馬歯が出土している。この６号溝跡は、平安時代に埋没したと推定されている。

馬の下顎臼歯が１本分出土しているが、ばらばらの状態であるため、歯種の同定はできなかった。しかしながら、馬歯であることは、間違いない。

２．塚田中原遺跡０区出土馬歯

塚田中原遺跡０区では、11号溝跡より馬歯が出土している。この11号溝跡は、中世に埋没したと推定されている。

馬の上顎臼歯が１本出土しているが、破損しているため、歯種は、上顎左第３・４小臼歯及び同第１・２大臼歯のどれかであると推定される。

全歯高を計測すると、約50㎜であった。このことから、死亡年齢は、約６歳から７歳であると推定される。獣医学の分野では、６歳～15・16歳は壮齢馬に分類される。

３．引間松葉遺跡Ⅲ区出土馬骨・馬歯

引間松葉遺跡Ⅲ区では、８号住居・13号住居・22号住居・22号土坑より獣骨が出土している。

（１）22号住居

22号住居は、８世紀中葉に比定されている。長さ約３㎝の骨片が出土している。骨の特徴から、人骨では無いことは明らかである。恐らく、馬の骨であると推定されるが、詳細は不明である。

（２）８号住居

８号住居は、10世紀前葉に比定されている。馬の下顎臼歯片が出土しているが、ばらばらの状態であり、復元することも不可能である。従って、歯種の同定はできなかった。しかしながら、馬歯であることは間違いない。

（３）13号住居

13号住居は、10世紀後半に比定されている。骨片が数点出土している。すべて、馬の歯の一部と推定されるが、小片であるため、歯種の同定は不可能である。

（４）22号土坑

22号土坑は、10世紀代に比定されている。長さ約８㎝の骨片が出土している。骨の特徴から、人骨では無いことは明らかである。恐らく馬の長骨片であると推定されるが、詳細は不明である。

写真１．塚田中原遺跡０区11号溝跡出土馬歯(上顎左Ｐ３・Ｐ４・Ｍ１・Ｍ２のどれか)[左：頬側面観、右：舌側面観]

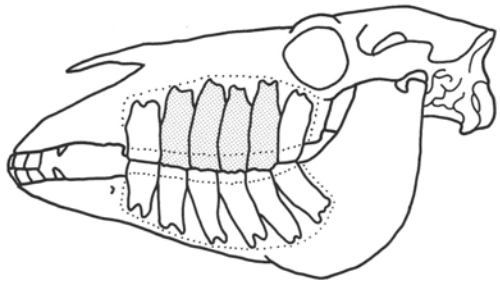


図１．塚田中原遺跡０区11号溝跡出土馬歯（上顎左Ｐ３・Ｐ４・Ｍ１・Ｍ２のどれか）出土馬歯出土部位図

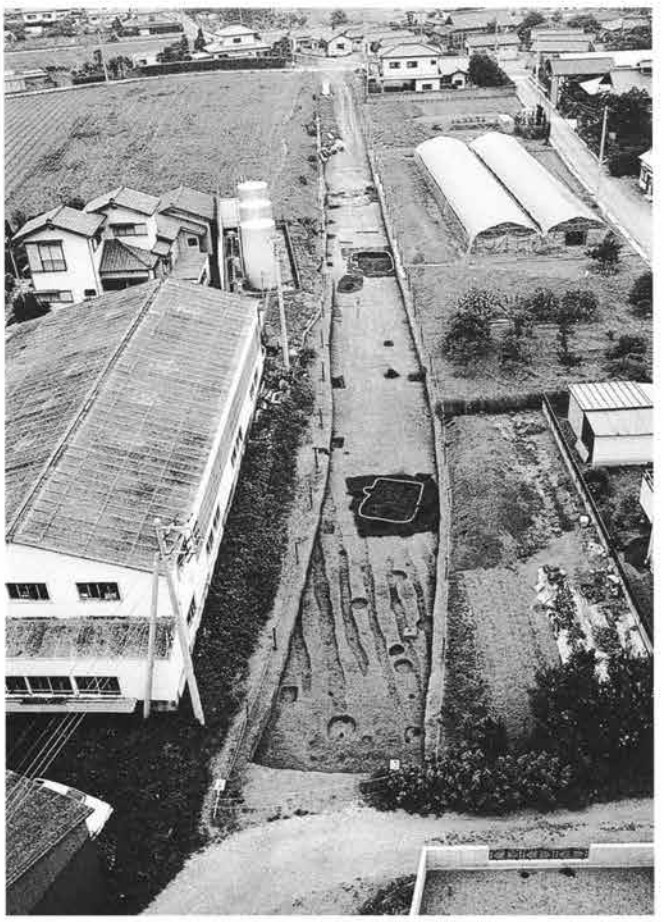
報告書抄録

書名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき・つかだなかはらいせき（ぜろく）・ひきままつばいせき（さんく）
書名	塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡（０区）・引間松葉遺跡（Ⅲ区）
副書名	一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	347
編著者名	小林　正
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20050315
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377－8555
電話番号	0279－52－2511
住所	群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784－２
遺跡名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき
遺跡名	塚田村東Ⅳ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんぐんまぐんぐんままちおおあざつかだ
遺跡所在地	群馬県群馬郡群馬町大字塚田
市町村コード	10324
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362306
東経(日本測地系)	1390133
北緯(世界測地系)	362317
東経(世界測地系)	1390122
調査期間	20030414－20030703
調査面積	1554
調査原因	道路建設工事
種別	集落／田畑／その他
主な時代	古墳／奈良平安／中世／近世／近代
遺跡概要	集落－奈良平安－住居跡15＋竪穴状遺構１＋土坑42＋溝２－土師器＋須恵器＋瓦＋鉄製品／田畑－古墳－畠１／平安－畠１／中世－畠14／近代畠２／その他－縄文－縄文土器＋石器／中世－土坑29＋溝４－陶器＋石製品＋人骨／近世－土坑５－陶器＋銭貨＋人骨／近代－土坑７
特記事項	奈良平安の集落と近世墓

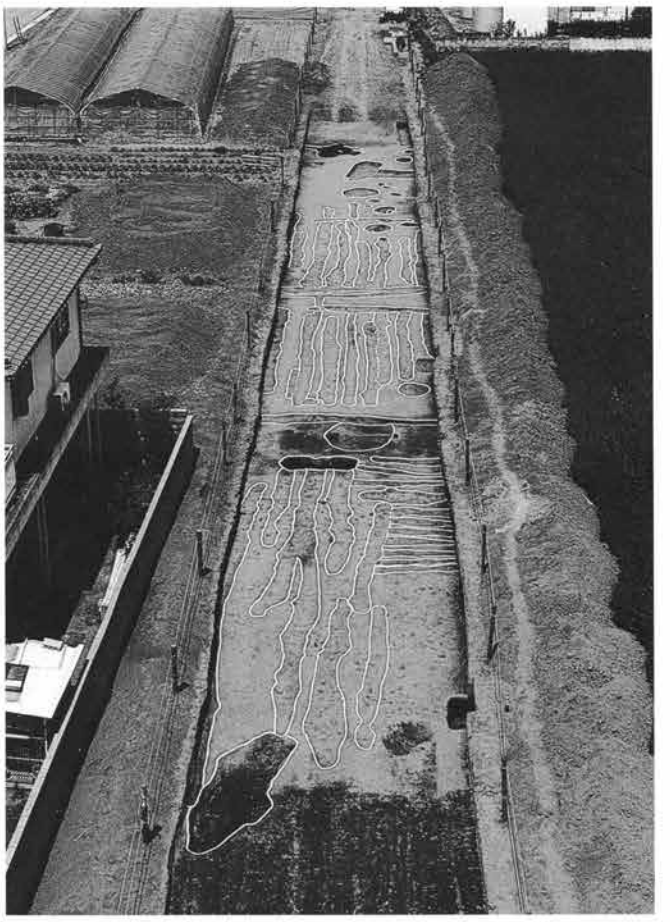
書名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき・つかだなかはらいせき（ぜろく）・ひきままつばいせき（さんく）
書名	塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡（０区）・引間松葉遺跡（Ⅲ区）
副書名	一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	347
編著者名	小林　正
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20050315
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377－8555
電話番号	0279－52－2511
住所	群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784－２
遺跡名ふりがな	つかだなかはらいせき
遺跡名	塚田中原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんぐんまぐんぐんままちおおあざつかだ
遺跡所在地	群馬県群馬郡群馬町大字塚田
市町村コード	10324
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362311
東経(日本測地系)	1390128
北緯(世界測地系)	362322
東経(世界測地系)	1390117
調査期間	20030624－20031024
調査面積	1520
調査原因	道路建設工事
種別	集落／田畑／その他
主な時代	古墳／奈良平安／中近世
遺跡概要	集落－奈良平安－住居跡19＋土坑＋溝－土師器＋須恵器＋陶器＋瓦＋鉄製品／田畑－古墳－畠２／古代２／中世２／その他－縄文－縄文土器＋石器／中近世－土坑＋溝－陶器＋銭貨＋人骨
特記事項	奈良平安の集落／奈良三彩出土

書名ふりがな	つかだむらひがしよんいせき・つかだなかはらいせき（ぜろく）・ひきままつばいせき（さんく）
書名	塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡（０区）・引間松葉遺跡（Ⅲ区）
副書名	一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	347
編著者名	小林　正
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20050315
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377－8555
電話番号	0279－52－2511
住所	群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784－２
遺跡名ふりがな	ひきままつばいせき
遺跡名	引間松葉遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんぐんまぐんぐんままちおおあざひきま
遺跡所在地	群馬県群馬郡群馬町大字引間
市町村コード	10324
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362315
東経(日本測地系)	1390121
北緯(世界測地系)	362326
東経(世界測地系)	1390110
調査期間	20030724－20031010
調査面積	1059
調査原因	道路建設
種別	集落／その他
主な時代	奈良平安／中近世／近代
遺跡概要	集落－奈良平安－住居跡28＋土坑＋溝－土師器＋須恵器＋陶器＋瓦＋鉄製品＋銭貨／その他－中近世－土坑＋溝－陶器／近代－土坑－ガラス
特記事項	奈良平安の集落／饒益神寶出土

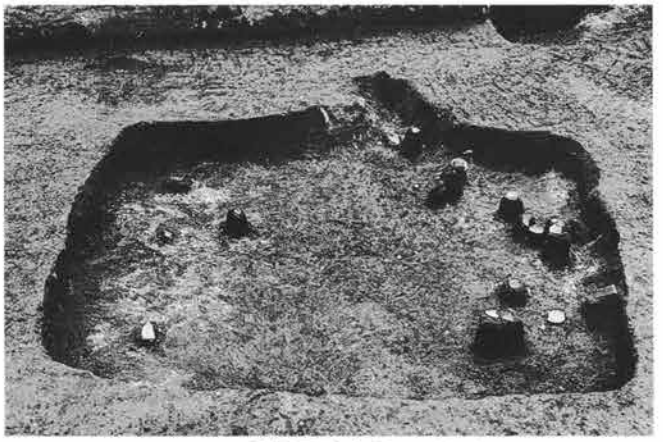
写　真　図　版



1．古墳～平安面北部全景　北から



2．中世面南部全景　南から



3．1号住居跡全景　西から

4．1号住居跡掘り方全景　西から

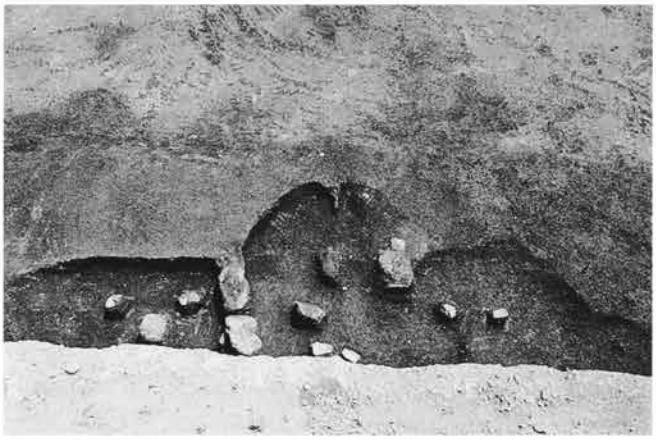
5．2号住居跡カマド　西から

6．2号住居跡カマド掘り方　東から

1．3号住居跡全景　北から

2．3号住居跡掘り方全景　南から

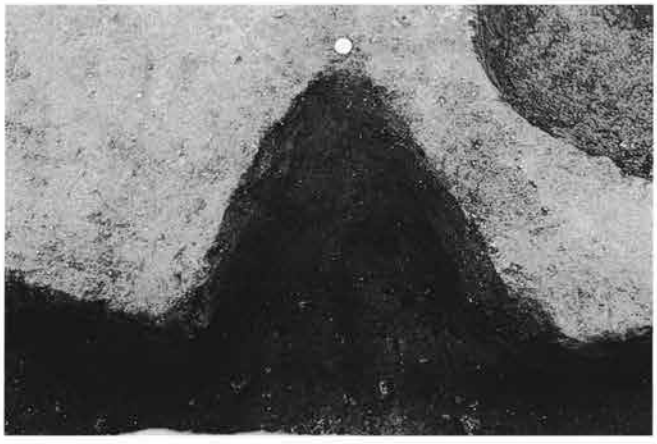
3．4号住居跡カマド　西から



4．5号住居跡全景　西から

5．5号住居跡掘り方全景　西から

6．6号住居跡カマド　西から



7．6号住居跡カマド掘り方　西から

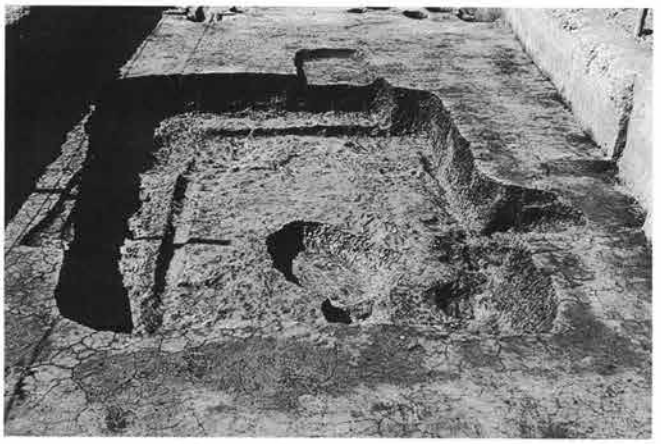
8．7号住居跡全景　西から

1．8号住居跡全景　南から

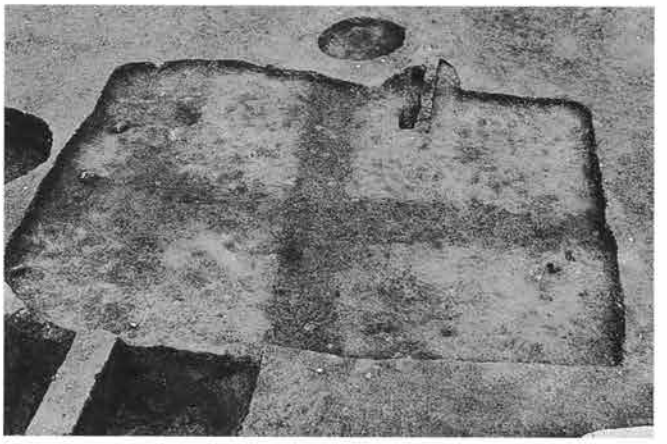
2．8号住居跡掘り方全景　南から

3．9・10（奥～左端）号住居跡全景　南から

4．9号住居跡カマド　西から



5．9・10（奥～左端）号住居跡掘り方全景　南から

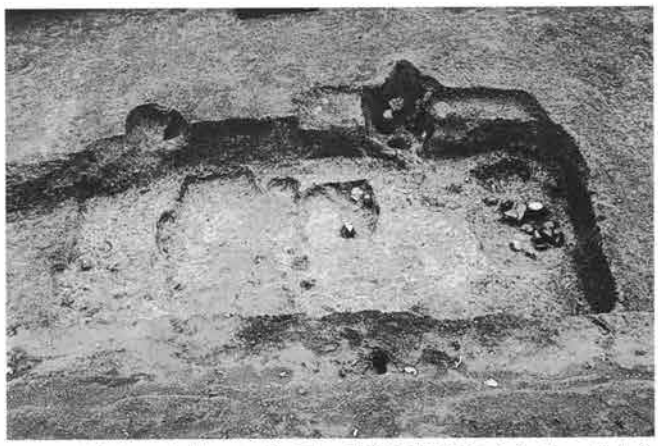


6．11号住居跡全景　西から

7．11号住居跡炉跡　南から

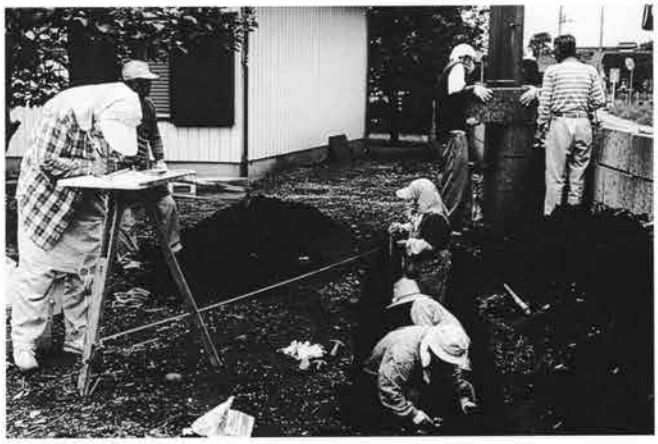
8．11号住居跡掘り方全景　西から

1．12(奥)・13(前)・14(右前) 号住居跡全景　南から



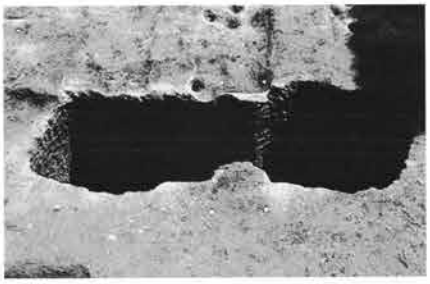
2．12(左)・13(右)・14(右奥) 号住居跡掘り方全景　西から

3．15号住居跡　北から



4．15号住居跡調査風景　北から

5．1号竪穴状遺構(左)・46号土坑(右)　南から



6．2(中)・19(左)・20(右) 号土坑　北から

7．19号土坑人骨・遺物出土状況　東から

8．20号土坑人骨出土状況　西から

9．3号土坑礫出土状況　北から

10．3号土坑人骨出土近景　北から

11．3号土坑人骨出土状況全景　北から

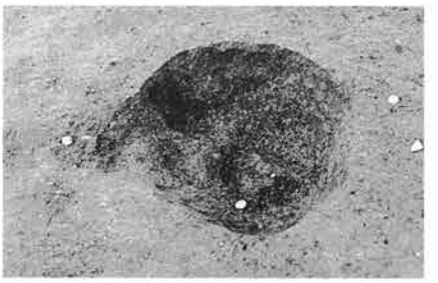
12．3号土坑全景　北から

1．4号土坑　北から

2．5号土坑　南から

3．6号土坑　西から

4．7号土坑　西から


5．8号土坑　南から

6．9号土坑　南から

7．10号土坑　南から

8．11号土坑　北から

9．12～14（奥～前）・15（左）号土坑

10．16号土坑　南から

11．17号土坑　北から

12．23号土坑　西から

13．24号土坑　南から

14．25号土坑　南から

15．26号土坑　南から

16．27号土坑　西から

17．28（左）・29（右）号土坑　南から

18．30号土坑　南から

1．31号土坑人骨出土状況　東から

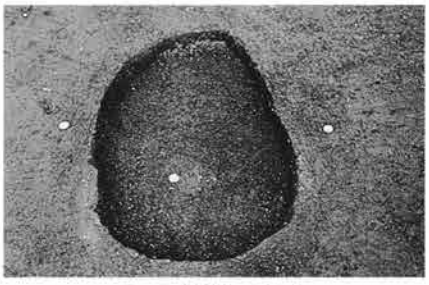
2．31号土坑人骨出土状況　東から

3．31号土坑人骨出土状況　南から

4．31号土坑　東から

5．33号土坑　南から

6．34号土坑　南から



7．35号土坑　南から

8．36号土坑　南から

9．37号土坑　西から

10．38号土坑　南から

11．39号土坑　南から

12．40号土坑　東から

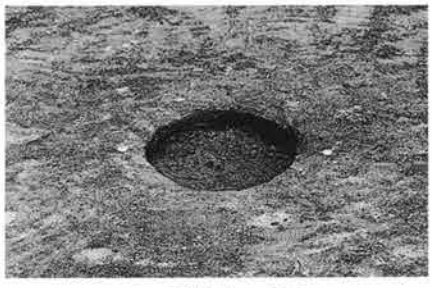
13．45号土坑遺物出土状況　東から

14．45号土坑　東から

15．48号土坑　南から

16．49号土坑　南から

17．50（右）・51（左）号土坑　南から



18．52号土坑　南から

1．53号土坑　南から

2．54号土坑　南から

3．55号土坑　西から

4．56号土坑　南から

5．57号土坑　南から

6．58号土坑　南から

7．59号土坑　南から

8．60号土坑　南から

9．61号土坑　北から

10．62号土坑　北から

11．63号土坑　南から

12．64(左)・65(右)号土坑　北から

13．66号土坑　北から

14．67号土坑　北から

15．68(右奥)・69(左奥)・77(左前)号土坑　南から

16．72～74・76・78号土坑　南から

17．79号土坑　南から

18．80号土坑　南から

1．82号土坑　南から

2．83号土坑　南から

3．84号土坑上面　北から

4．84号土坑中面　東から

5．84号土坑下面　西から

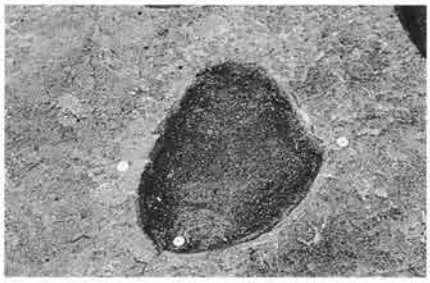
6．85号土坑人骨出土状況　東から

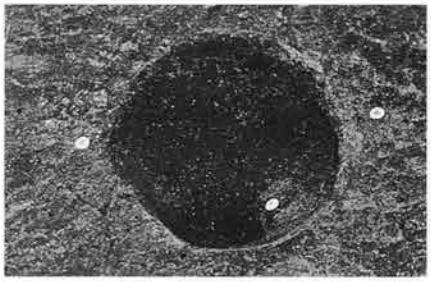
7．86号土坑人骨出土状況　東から

8．85(右)・86(左)号土坑　西から

9．87号土坑　南から

10．93号土坑　南から


11．94号土坑　南から


12．95号土坑　南から

13．1号ピット　南から

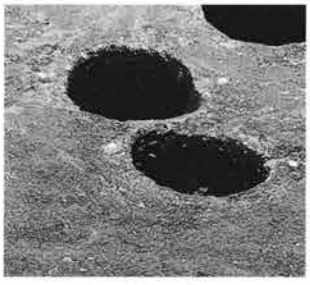
14．2号ピット　南から

15．3(右)・4(左)号ピット　南から

16．6号ピット　南から

17．7号ピット　南から

18．8号ピット　南から


19．9(前)・10(奥)号ピット　南から

20．11(前)・15(奥)号ピット　南から

1．12(右)･13(左)号ピット　南から

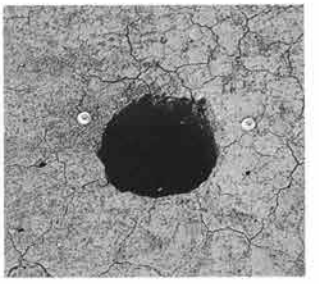
2．14号ピット　南から

3．16号ピット　北から

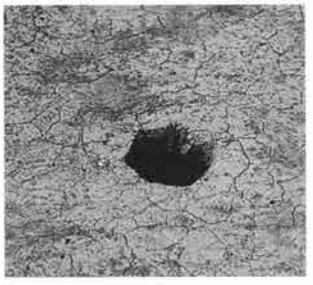
4．17号ピット　北から

5．21(左)･41(右)号ピット　南から

6．22(左)･23(右)号ピット　南から


7．24号ピット　南から

8．25号ピット　南から


9．26号ピット　南から

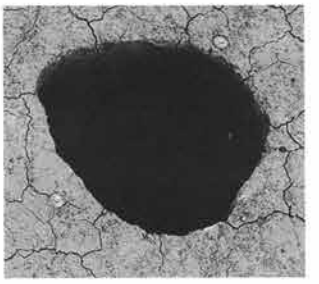
10．27(右)･28(左)号ピット　西から

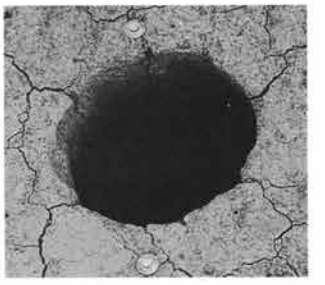
11．29号ピット　南から

12．30号ピット　南から

13．31号ピット　南から

14．32(左)･33(右)号ピット　南から


15．34号ピット　西から


16．35号ピット　西から

17．36号ピット　西から

18．37号ピット　南から

19．38号ピット　南から

20．39号ピット　南から

21．40号ピット　南から

22．42(前)･69(奥)号ピット　南から

23．44号ピット　南から

24．45(前)･46(奥)号ピット　南から

1．47号ピット　南から

2．50･51･54(奥から)号ピット　南から

3．52号ピット　西から

4．55(右)･56(左)･57(前)号ピット 南から

5．59号ピット　南から

6．61号ピット　南から

7．62号ピット　南から

8．63号ピット　北から

9．64号ピット　北から

10．65号ピット　北から

11．67号ピット　南から

12．68(左)･69(右)号ピット　南から

13．1号溝跡　西から

14．2号溝跡　北から

15．3号溝跡　北から

16．4号溝跡　南西から

1．5号溝跡　北から

2．6号溝跡　北から

3．1号畠跡　北から

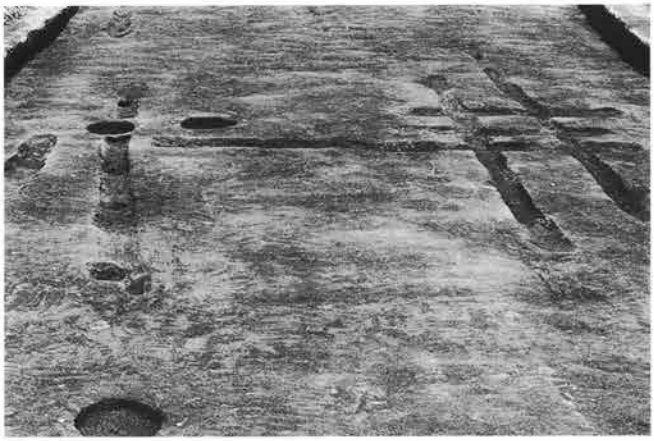
4．2号畠跡　西から

5．3号畠跡　北西から

6．3（奥）・4（前）号畠跡　北から

7．5（奥）・6（前）号畠跡　北から

8．7（奥）・8（前）号畠跡　南から

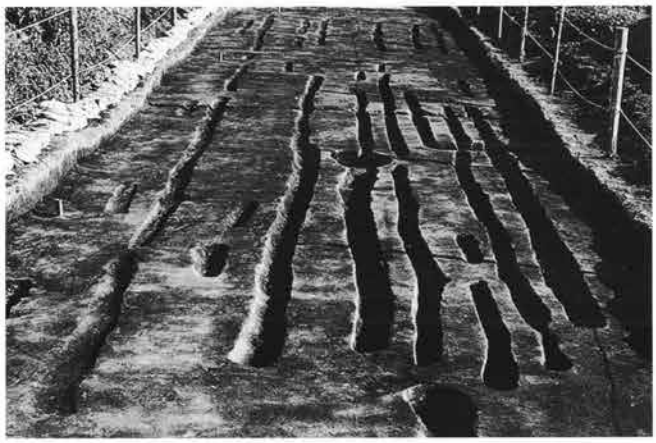


1．9(右横)・10(右縦)・11(左縦) 号畠跡　南から

2．12号畠跡　南から

3．13号畠跡　南から

4．14号畠跡　北から

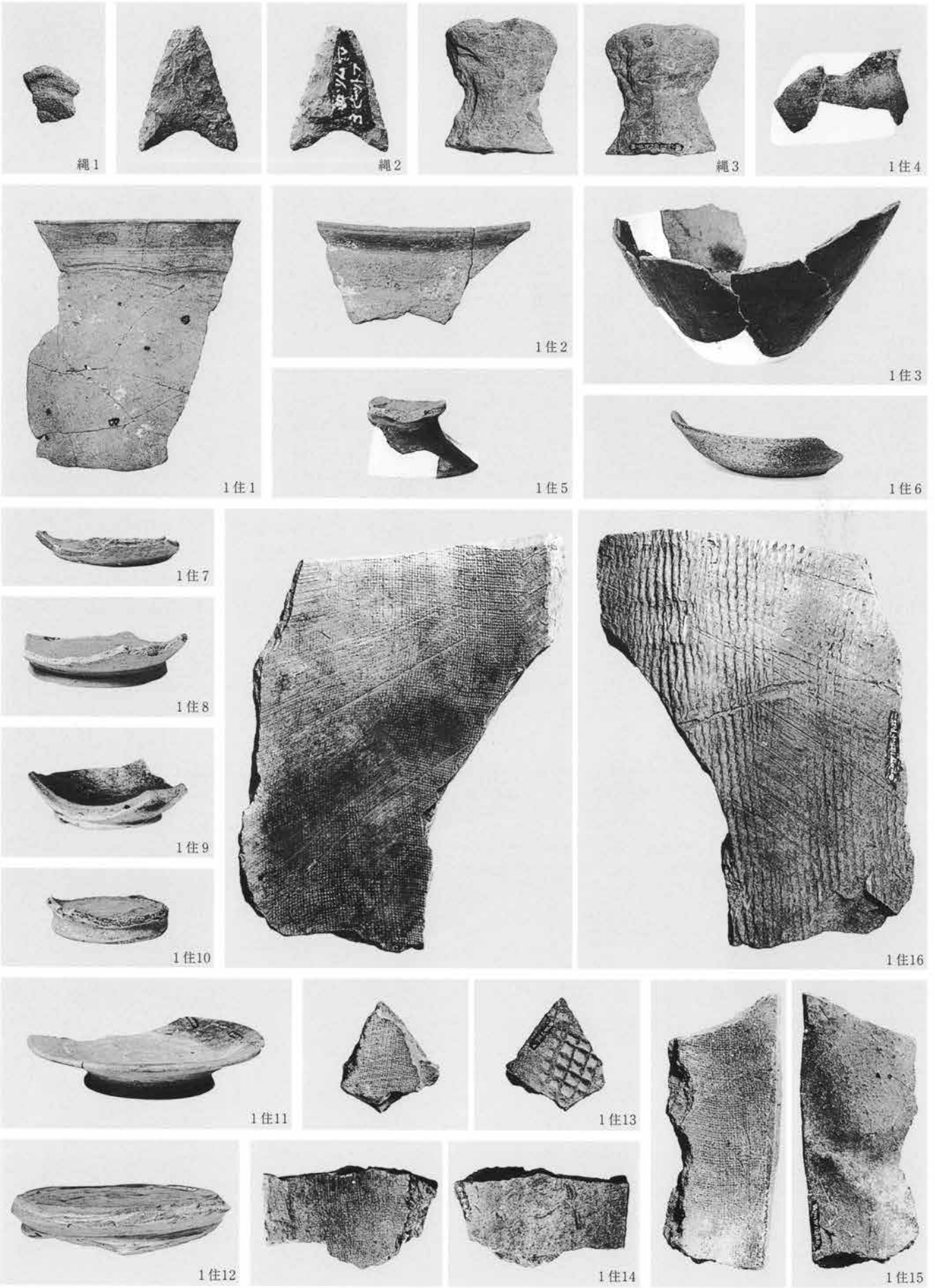


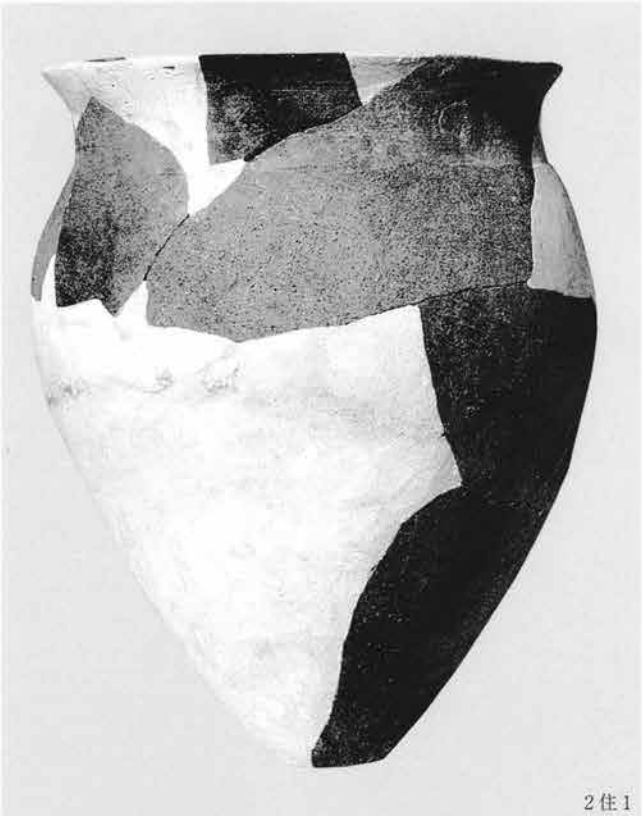
5．15号畠跡　北から

6．16号畠跡　北から

7．17号畠跡　南から

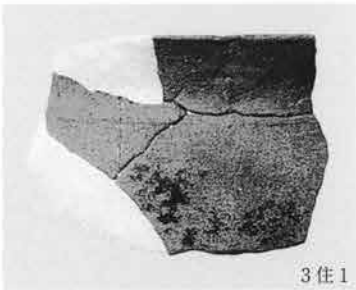
8．18号畠跡　南から


縄1
縄2
縄3
1住4
1住1
1住2
1住3
1住5
1住6
1住7
1住8
1住9
1住10
1住16
1住11
1住13
1住12
1住14
1住15


2住1

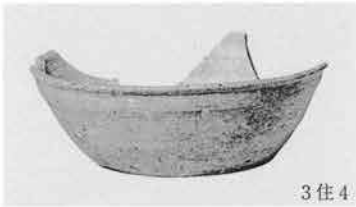
2住2

2住3


3住1

3住2

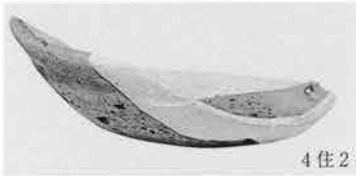
3住3

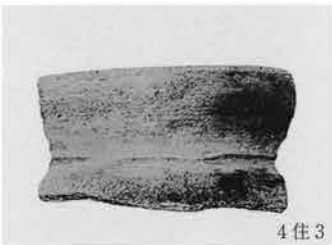

3住4

3住5

3住6

4住1


4住2

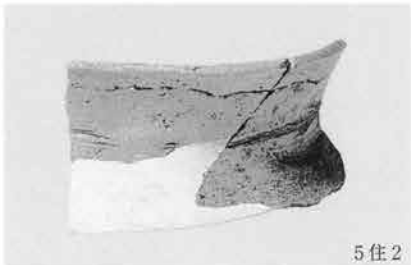

4住3

4住4

5住1

6住3

4住5


5住2

6住2

4住6

4住8

5住3

5住4

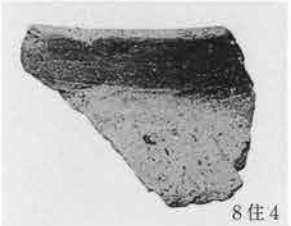
6住1

6住4

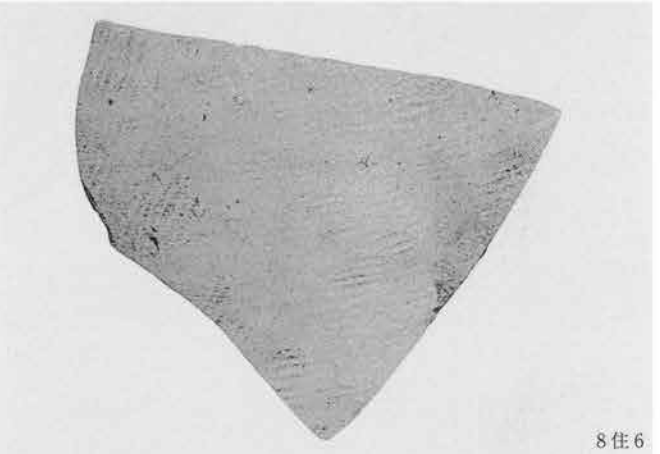
8住1

8住2

8住3


8住4

8住5


8住6

8住7

8住8

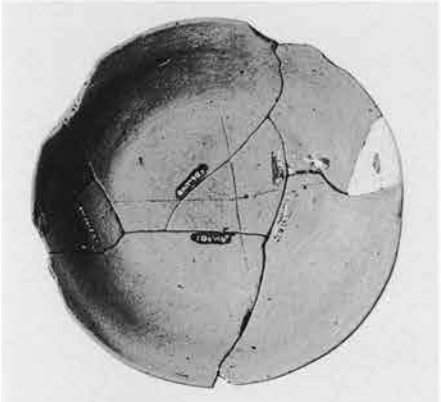
9住1

8住9

8住10

8住12

8住13



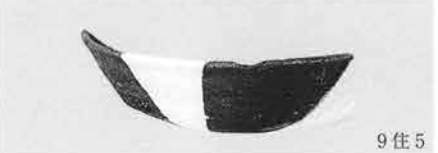
8住15

8住17

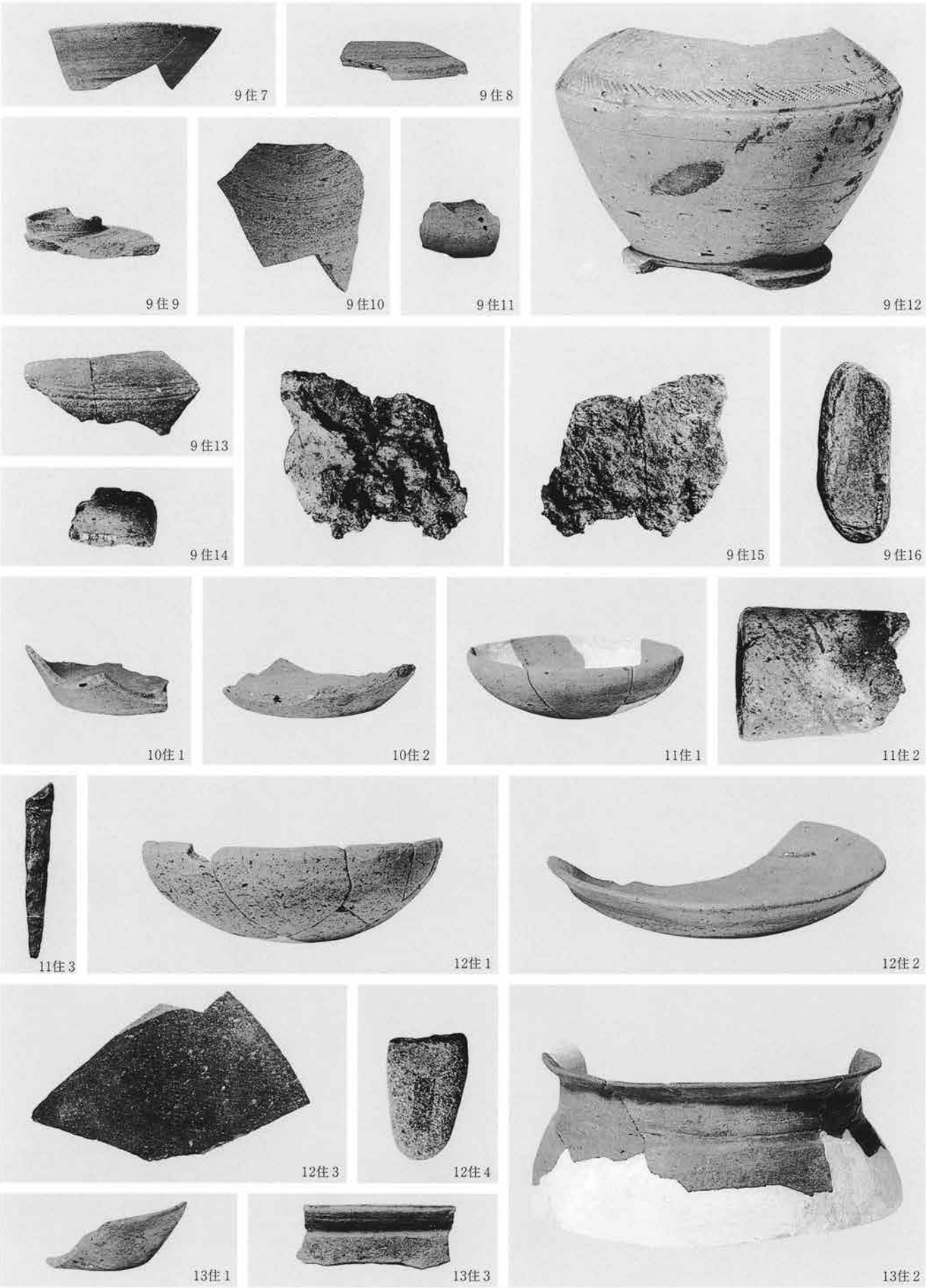
9住3

9住4

9住2


9住5

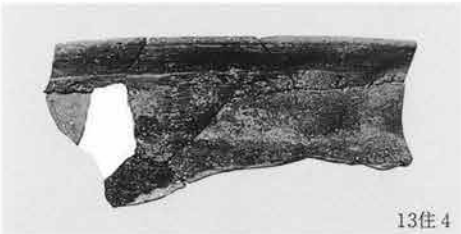
9住6

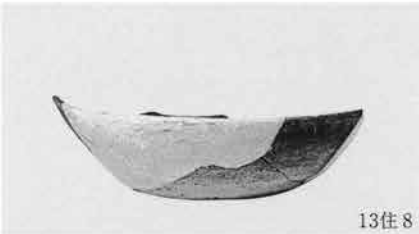

9住7
9住8
9住9
9住10
9住11
9住12
9住13
9住14
9住15
9住16
10住1
10住2
11住1
11住2
11住3
12住1
12住2
12住3
12住4
13住1
13住3
13住2

13住7

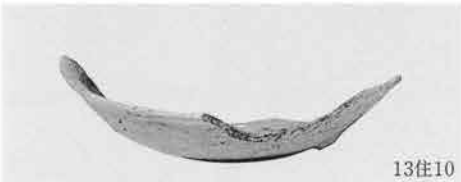
13住5

13住6


13住4


13住8

13住9


13住10

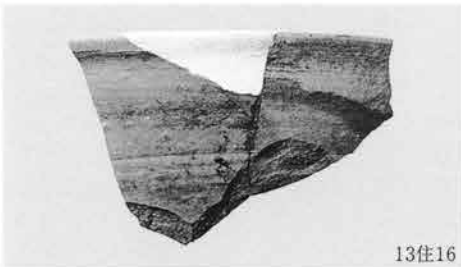
13住11

13住12

13住13

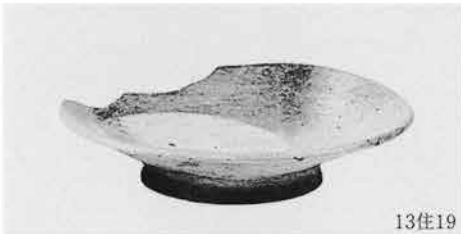
13住14

13住15

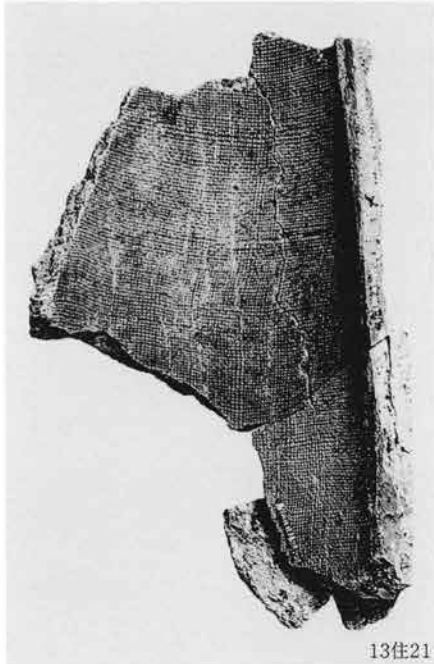

13住16

13住17

13住18


13住19

13住20

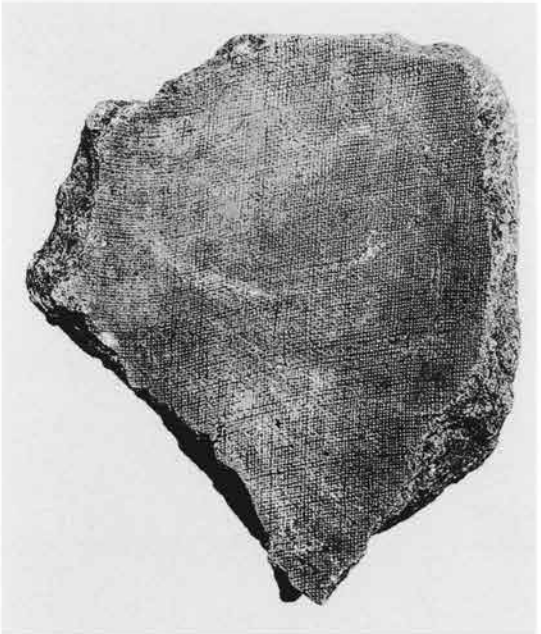

13住21

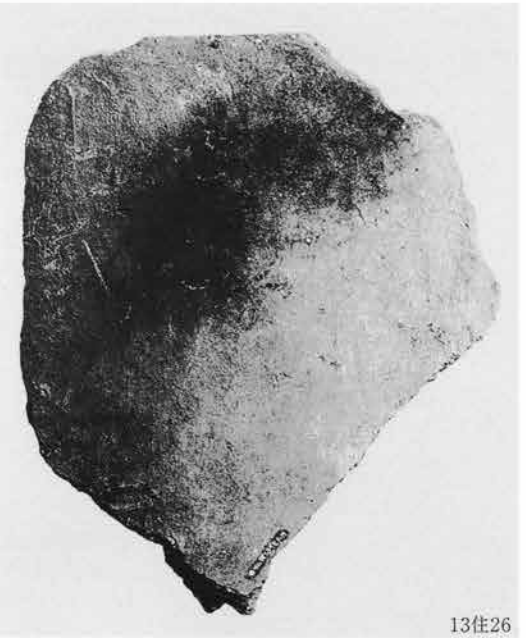
13住22

13住27

13住24

13住25





13住26

13住28

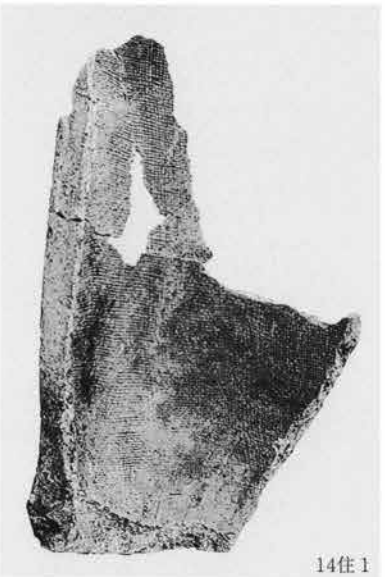
13住29

15住4

13住23

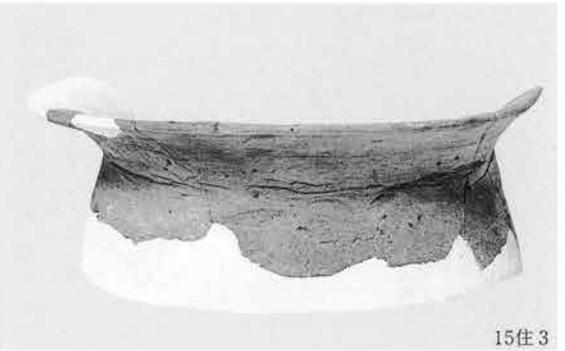
15住2

14住2



14住1

15住1



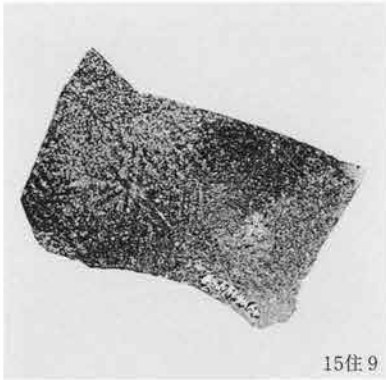
15住3

15住5

15住6

15住7

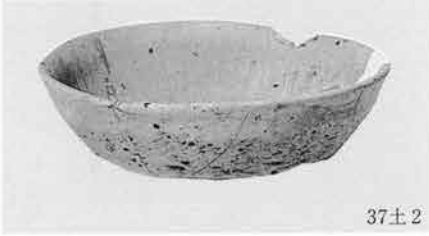
15住8

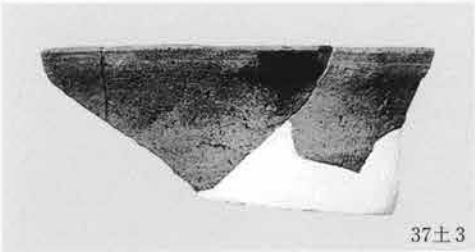

15住9

1竪1

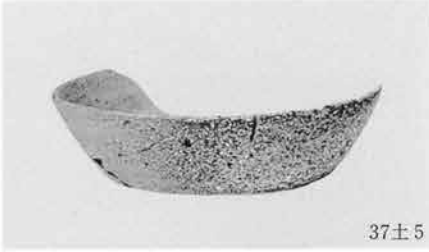
1竪2

37土1

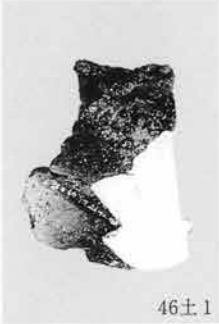

37土2


37土3

37土4

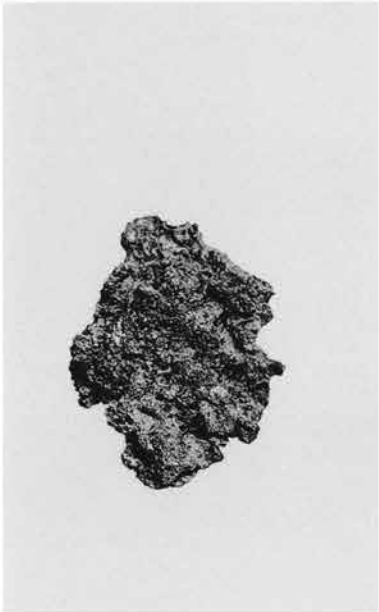

37土5

37土6

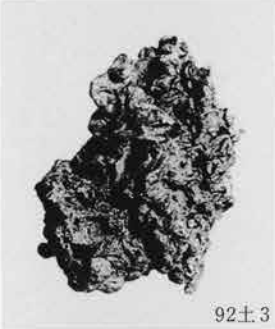

46土1

84土1

84土2

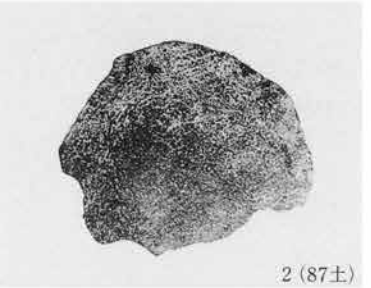


92土1


92土3

92土4

1（32土）

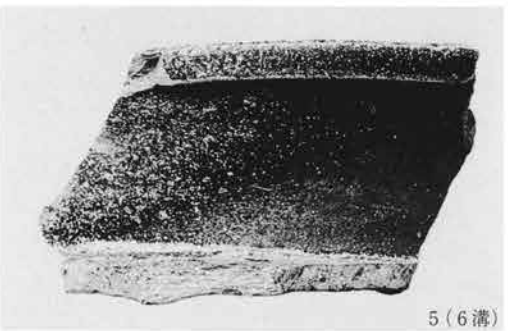

2（87土）

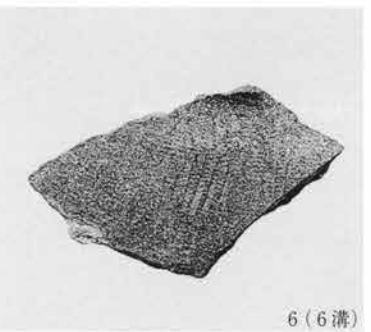
1（4溝）

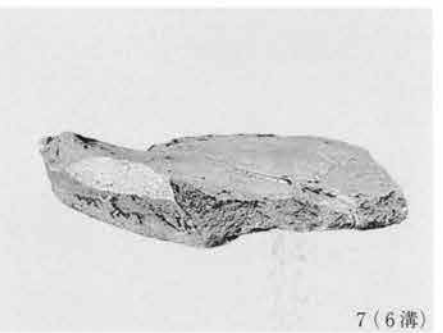
2（6溝）

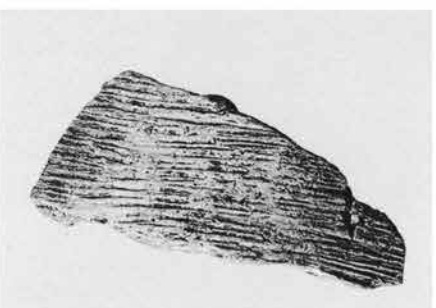
3（6溝）

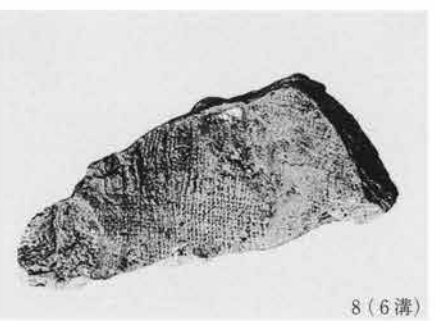
4（6溝）


5（6溝）


6（6溝）


7（6溝）

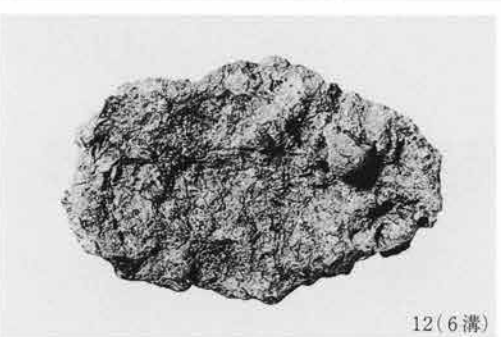


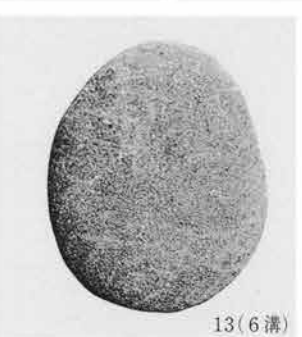

8（6溝）

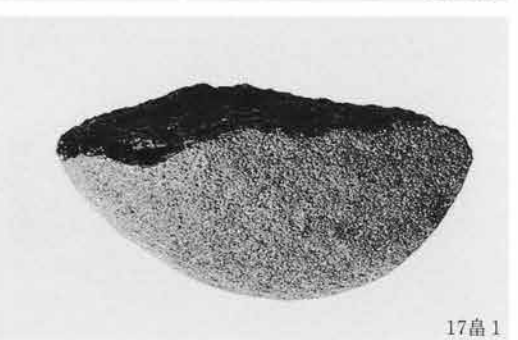
10（6溝）

9（6溝）

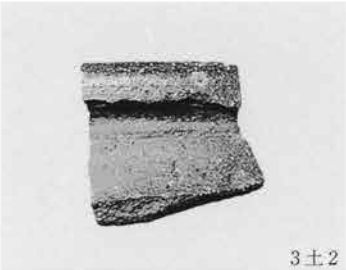
11（6溝）


12（6溝）


13（6溝）

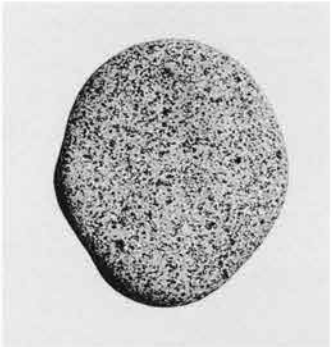

17畠1

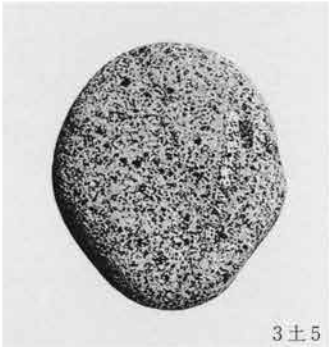
3土1


3土2

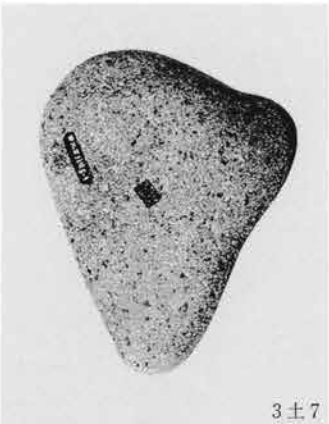
3土3

3土4




3土5

3土6

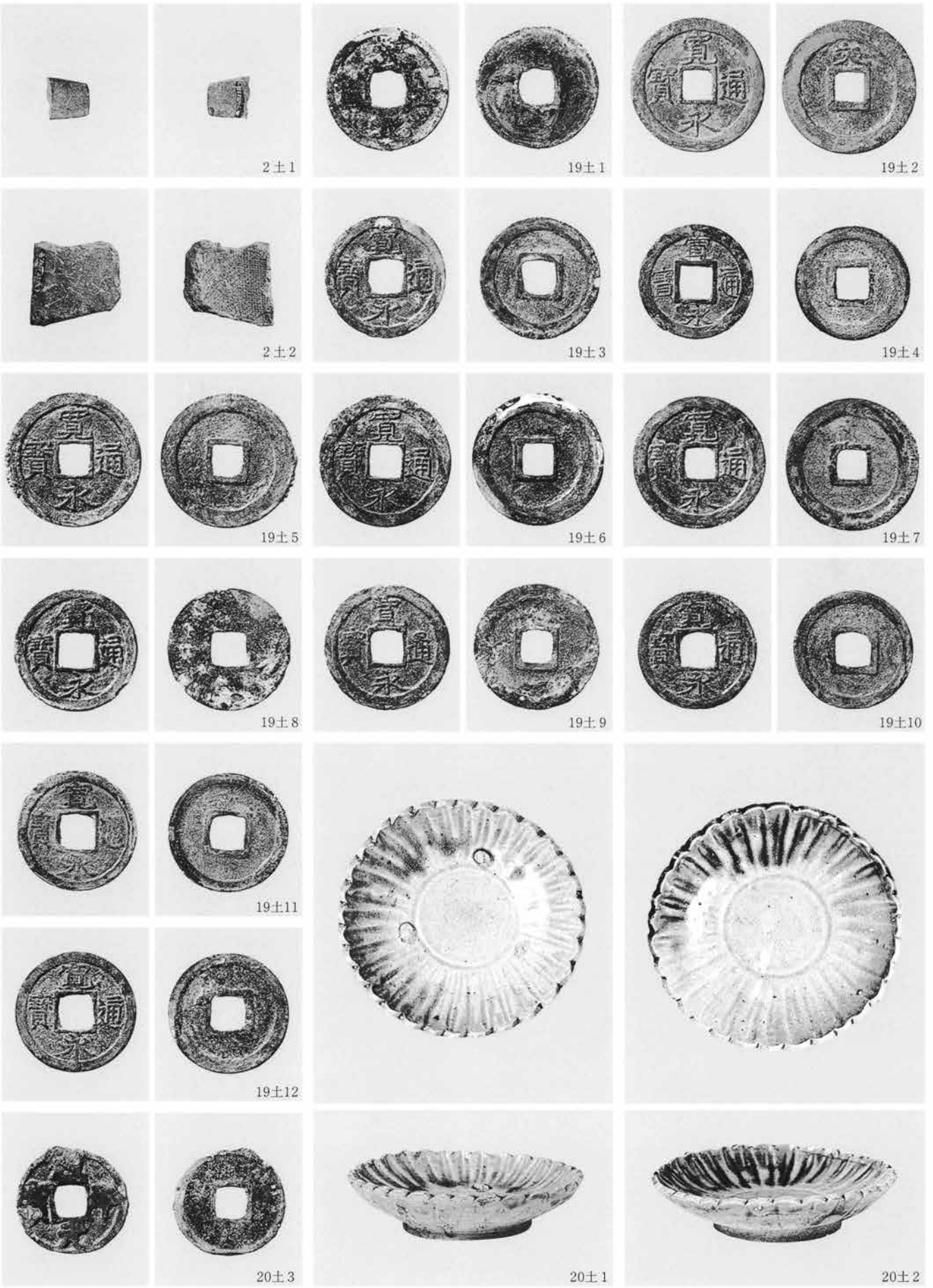

3土7

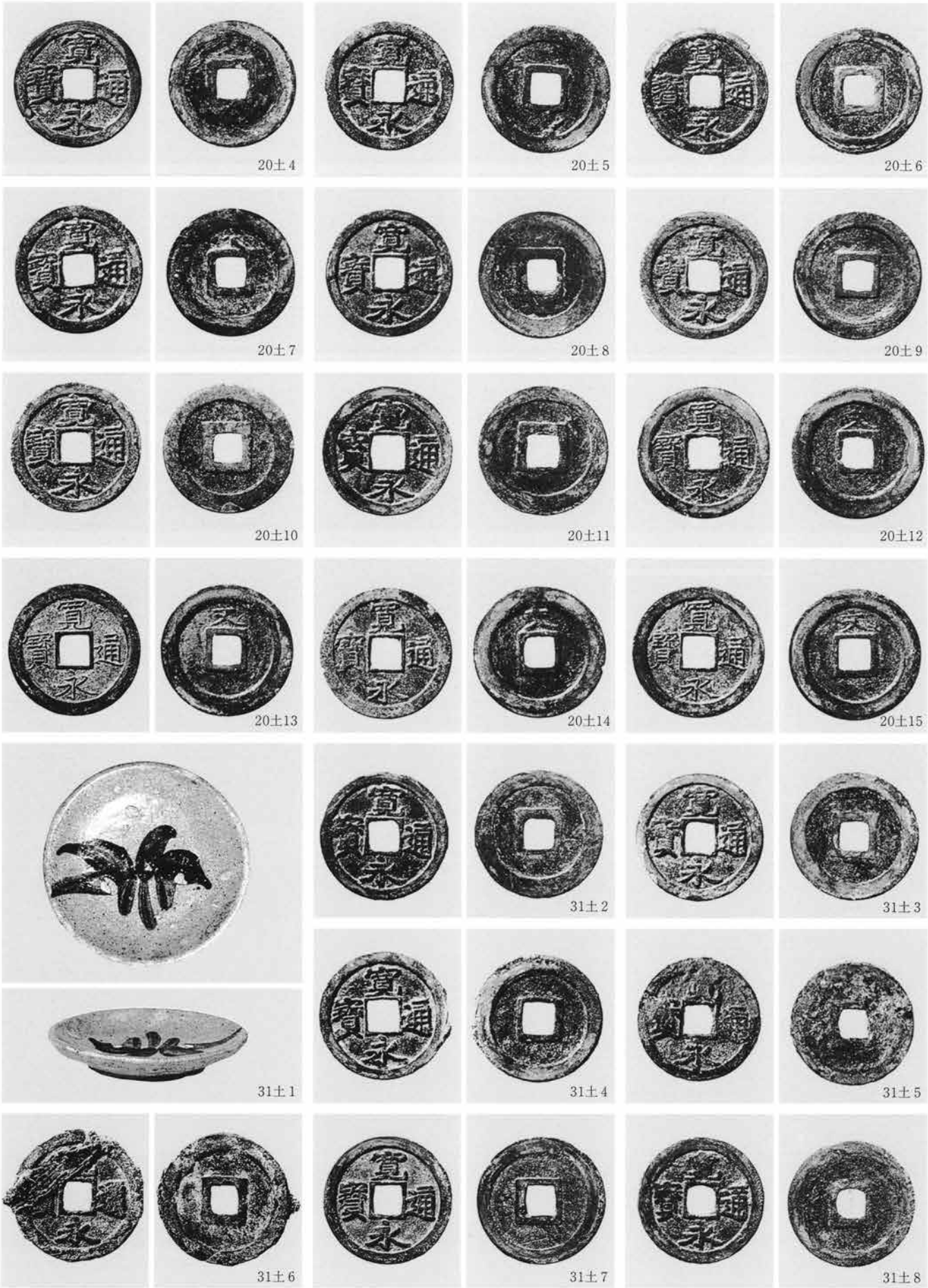
3土8

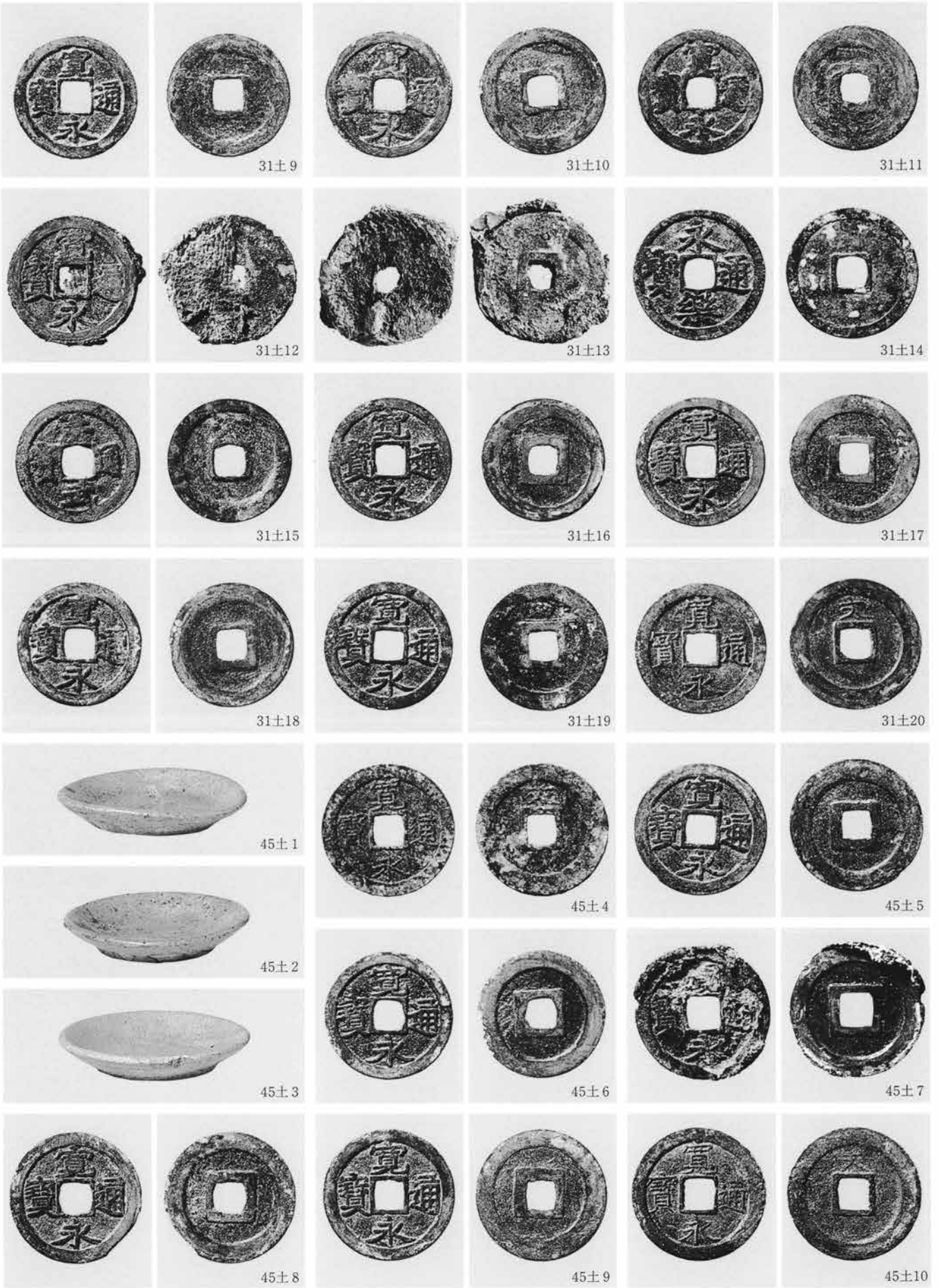
14·15土1

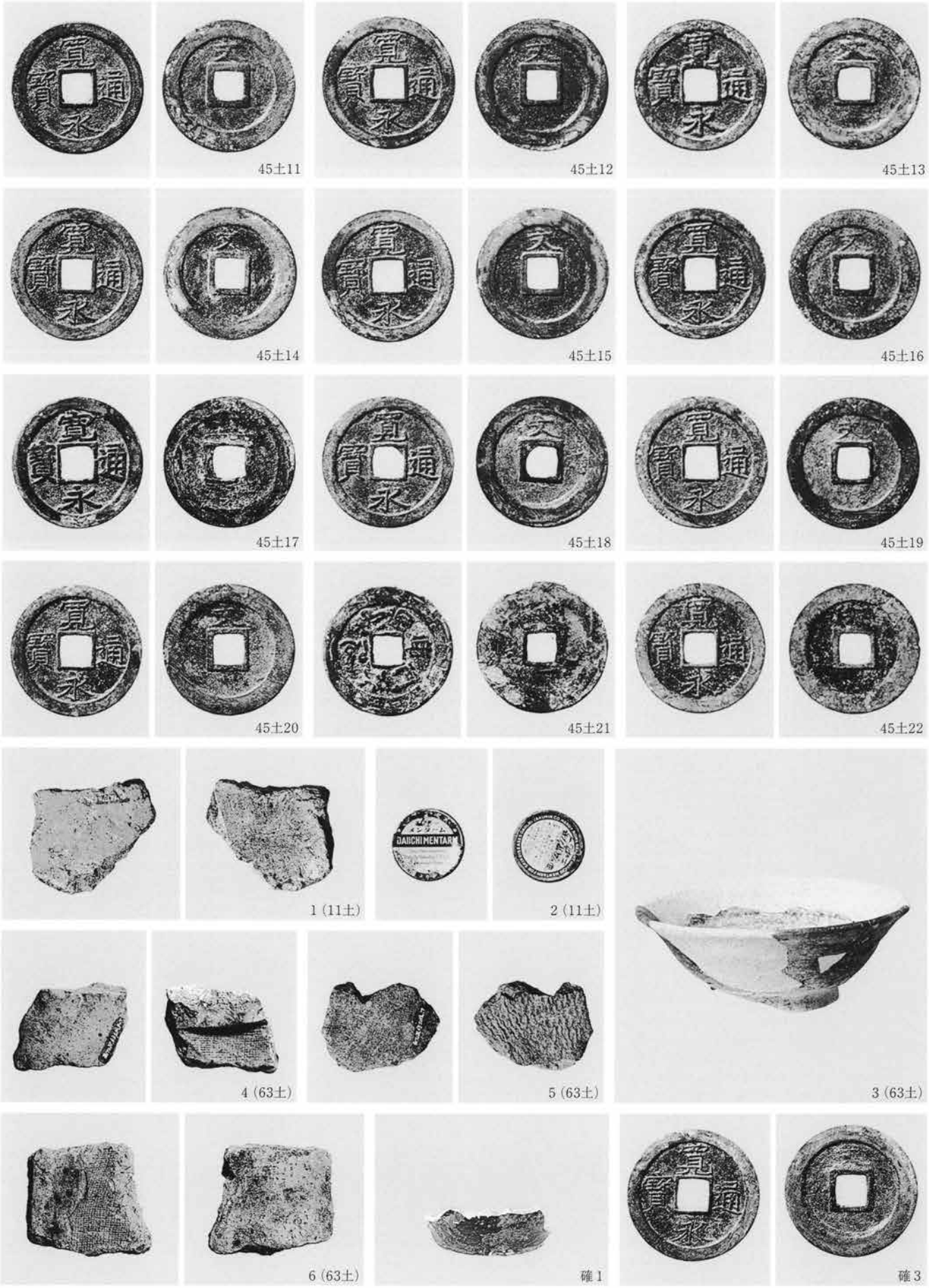
1（1畠）

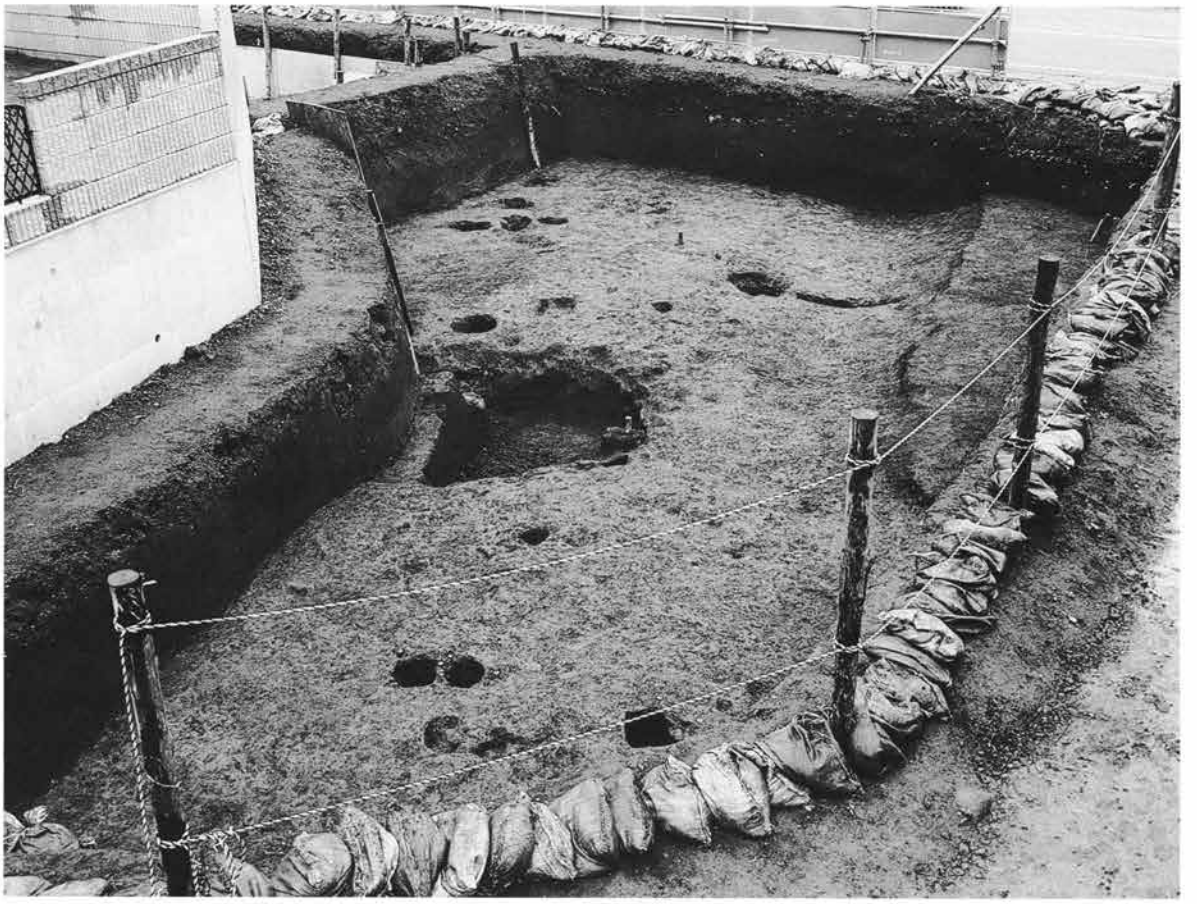
2（4畠）


2土1
19土1
19土2
2土2
19土3
19土4
19土5
19土6
19土7
19土8
19土9
19土10
19土11
19土12
20土3
20土1
20土2


20土4
20土5
20土6
20土7
20土8
20土9
20土10
20土11
20土12
20土13
20土14
20土15
31土1
31土2
31土3
31土4
31土5
31土6
31土7
31土8


31土9
31土10
31土11
31土12
31土13
31土14
31土15
31土16
31土17
31土18
31土19
31土20
45土1
45土2
45土3
45土4
45土5
45土6
45土7
45土8
45土9
45土10


45±11
45±12
45±13
45±14
45±15
45±16
45±17
45±18
45±19
45±20
45±21
45±22
1 (11±)
2 (11±)
4 (63±)
5 (63±)
3 (63±)
6 (63±)
確1
確3

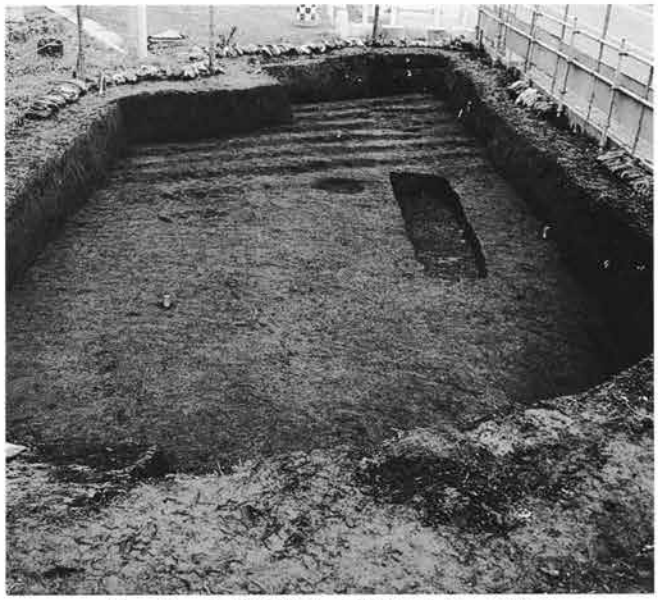


１．０－１区東側全景　南東から

２．０－１区西側全景　西から

３．０－２区全景　東から

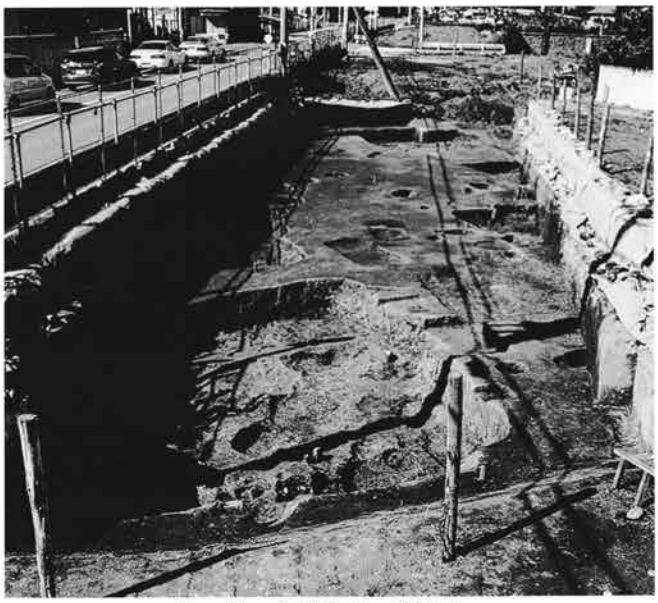
1．０－３区全景　西から



2．０－５区東側As-B混下全景　西から

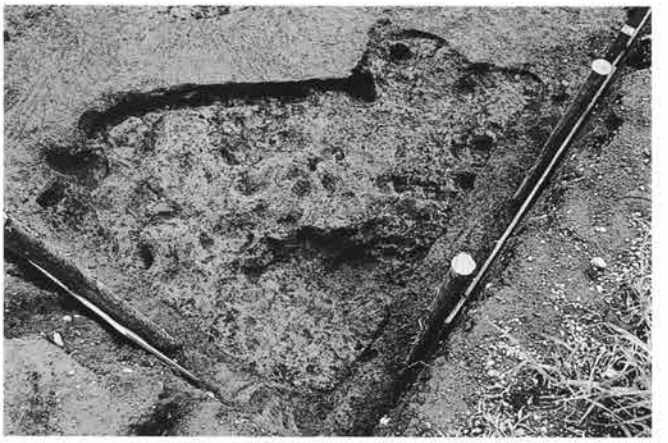
3．０－５区西側全景　東から

4．０－５区東側全景　西から



5．０－６区全景　東から

1．25号住居跡全景　西から



2．25号住居跡掘り方全景　西から

3．26(中)・29(右) 号住居跡全景　西から

4．26号住居跡遺物出土状況　西から

5．26(中)・29(右) 号住居跡掘り方全景　西から

6．27号住居跡全景　西から

7．27号住居跡掘り方全景　西から

8．28号住居跡東側　西から

1．28号住居跡西側　西から

2．31(右奥)･33(左奥)･34(左前)･35(右前)号住居跡全景　西から

3．31･33･34･35･44(中やや左)号住居跡掘り方全景　西から

4．32号住居跡全景　西から

5．32号住居跡掘り方全景　西から

6．36(奥)・37(前) 号住居跡全景　西から

7．36(奥)・37(前) 号住居跡掘り方全景　西から

8．38(右)・42(左)・43(奥) 号住居跡全景　西から

1．38(右)・42(左)・43(奥)号住居跡掘り方全景　西から

2．38号住居跡貯蔵穴　西から

3．39号住居跡全景　西から

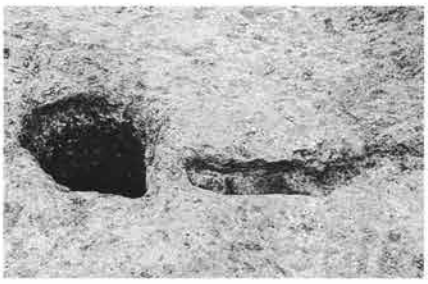
4．39号住居跡遺物出土状況　西から

5．39号住居跡掘り方全景　西から

6．40・41号住居跡全景　西から

7．40号住居跡緑釉陶器（No14）出土状況（奥）　西から

8．40・41号住居跡掘り方全景　西から


1．89(右)・90(左) 号土坑　南から

2．91号土坑　東から

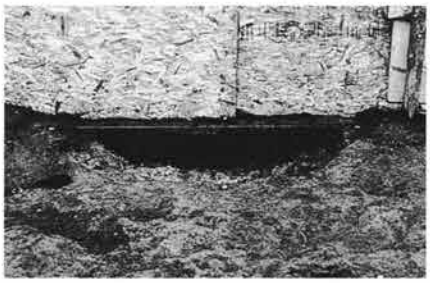
3．92号土坑　南から

4．93(左)・94(右) 号土坑　西から

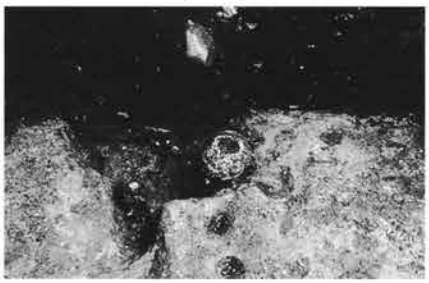
5．95(中)・96(中下)・97(右外)号土坑　西から

6．98(前)・99(奥)・100(右) 号土坑　西から

7．101号土坑　南から


8．102号土坑　北から

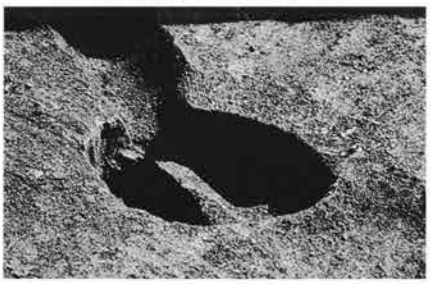
9．103号土坑　西から


10．104号土坑　西から

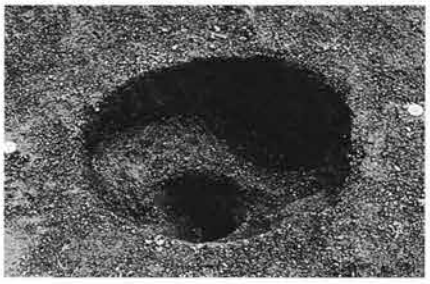
11．104号土坑人骨出土状況　北から

12．105(右)・106(左) 号土坑　南から

13．107(奥)・108(中)・109(左)号土坑　南から


14．110号土坑　北から

15．111号土坑　西から

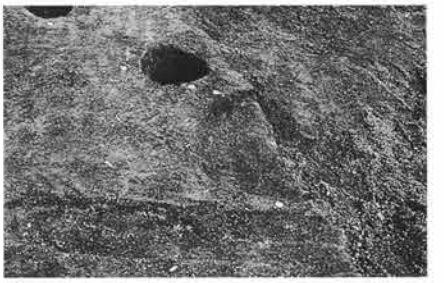

16．112号土坑　北から

17．113号土坑　北から

18．114号土坑　北から

1．115号土坑　西から

2．116号土坑　南から


3．117号土坑　西から

4．120号土坑　南から

5．122号土坑　南から

6．125号土坑　南から

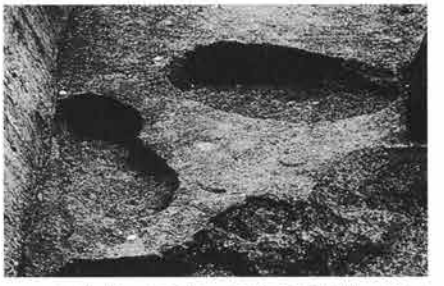
7．126号土坑　南から

8．128号土坑　北から

9．129(右)・130(左) 号土坑　西から

10．131(右)・132(左) 号土坑　北から

11．134号土坑　北から


12．135(右奥)・136(前)・137(左奥)号土坑　西から

13．右から138・139・140号土坑　西から

14．143号土坑　西から

15．144号土坑　北から

16．145(右)・146(左) 号土坑　西から

17．147号土坑　東から

18．148号土坑　東から

1．149号土坑　北から

2．150号土坑　西から

3．151号土坑　南から

4．152(右)・164(左) 号土坑　南から

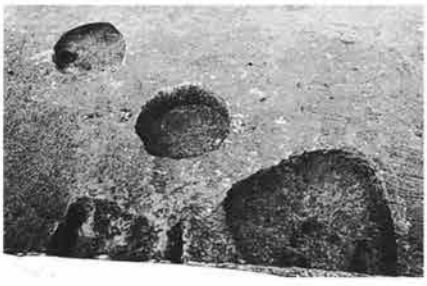
5．153号土坑　南から

6．154号土坑　東南から

7．155(左)・156(右) 号土坑　南から

8．157(前)・158(奥) 号土坑　北東から

9．159号土坑　東から


10．160(中)・161(奥)・162(前)号土坑　南から

11．163号土坑　西から

12．165号土坑　東から

13．103号ピット　東から

14．104号ピット　東から

15．105号ピット　東から

16．106(右)・107(左)号ピット　東から

17．108号ピット　東から

18．109号ピット　東から

19．110号ピット　東から

20．111号ピット　南から

1．112(右)･113(左)号ピット 南から

2．前から114･115･116号ピット 西から

3．117号ピット 北から

4．118号ピット 西から

5．119号ピット 北から

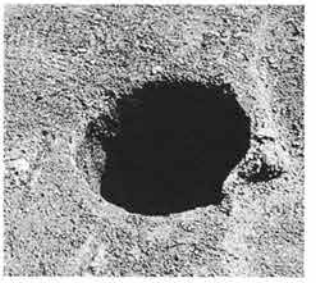
6．120号ピット 北から

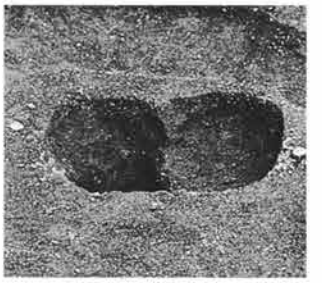
7．121(左)･122(奥)･125(右)号ピット 北から

8．126(左前)･127(右奥)号ピット 西から

9．128号ピット 北から

10．129(左)･130(右)号ピット北から


11．132号ピット 北から


12．133(左)･134(右)号ピット 西から

13．135(奥)･136(前)号ピット 北から

14．137(左)･138(右)号ピット 西から

15．139号ピット 西から

16．140号ピット 西から

17．142(前)･143(奥)号ピット 南から

18．144(前)･145(右)･146(左)号ピット 南から

19．147(前)･148(奥)号ピット 南から

20．150(左)･151(右)号ピット 西から

21．152号ピット 北から

22．153(前)･154(奥)号ピット 北から

23．155号ピット 北から

24．156号ピット 東から

1．９号溝跡　東から

2．９(右)・10(左) 号溝跡　東から

3．11号溝跡　東から

4．12号溝跡　南から

5．13号溝跡　北から

6．14号溝跡　南から

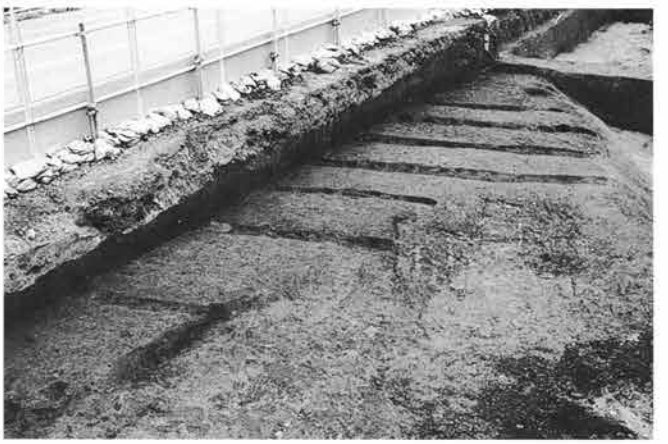
7．15号溝跡　東から

8．16号溝跡奈良三彩（No.７）出土状況　南から

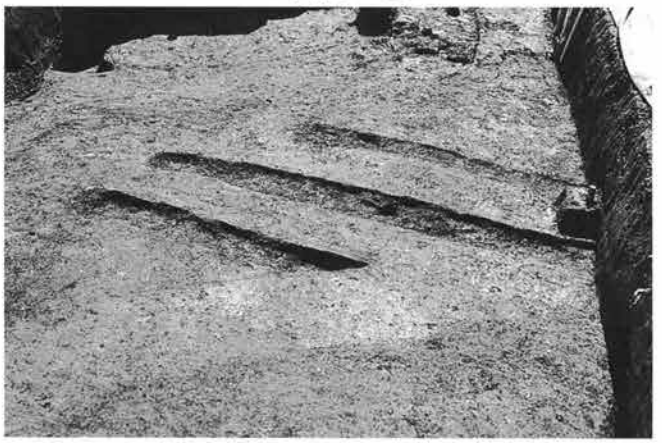
1．17号溝跡　北から

2．18号溝跡　南から

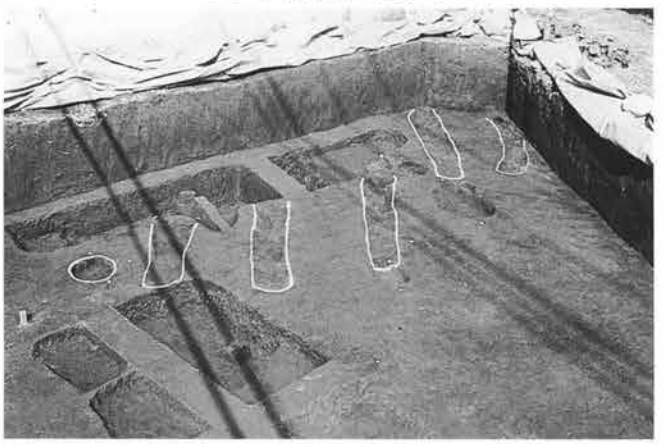
3．18号溝跡　北から



4．1号畠跡　西から



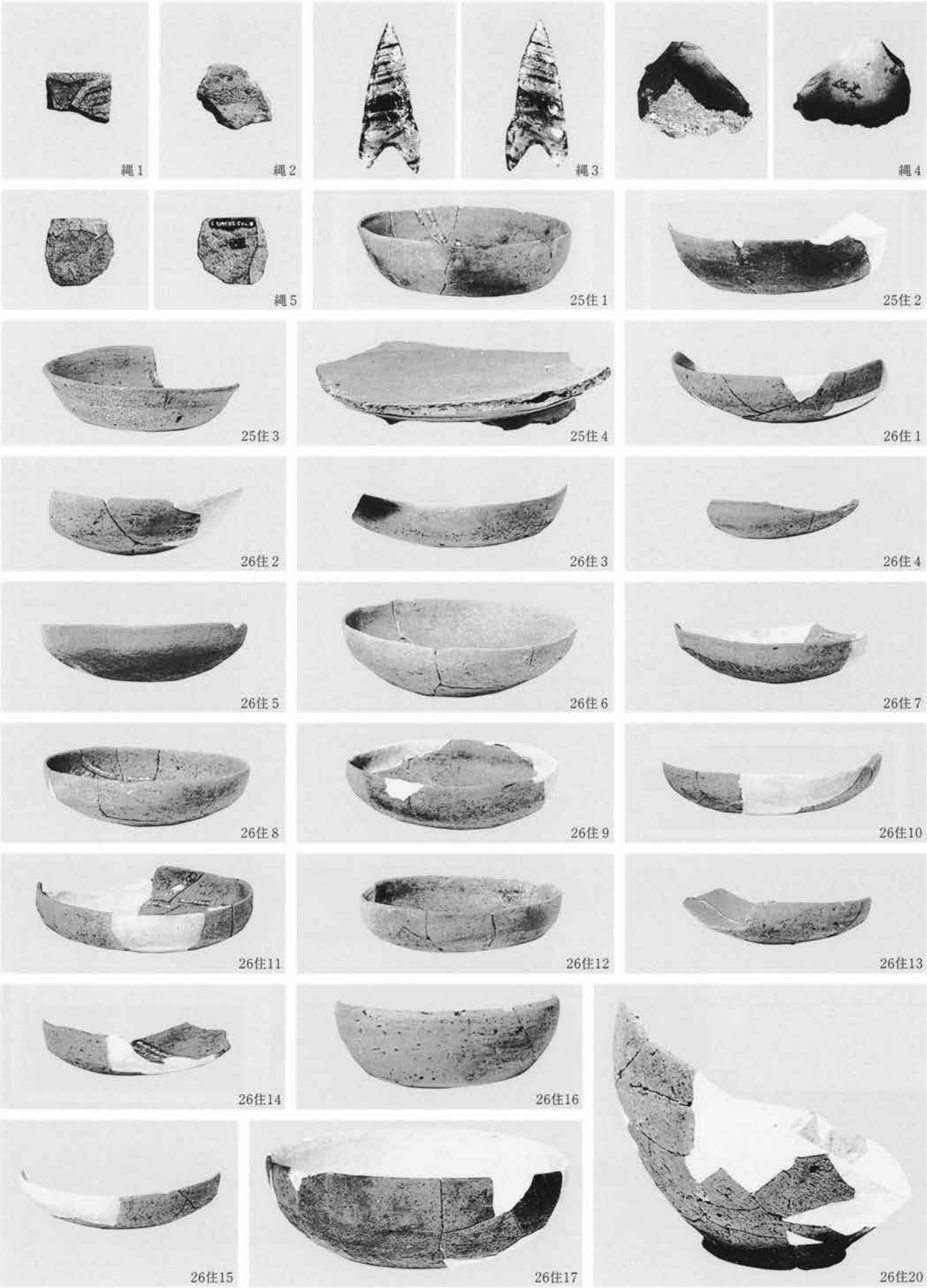
5．5号畠跡　西から



6．6号畠跡　東から

7．0－1区西側調査風景　西から

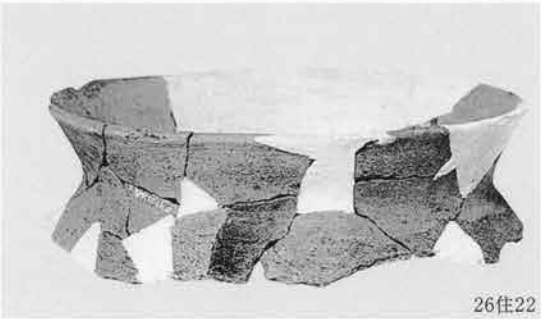
8．25号住居跡調査風景　西から


縄1
縄2
縄3
縄4
縄5
25住1
25住2
25住3
25住4
26住1
26住2
26住3
26住4
26住5
26住6
26住7
26住8
26住9
26住10
26住11
26住12
26住13
26住14
26住16
26住15
26住17
26住20

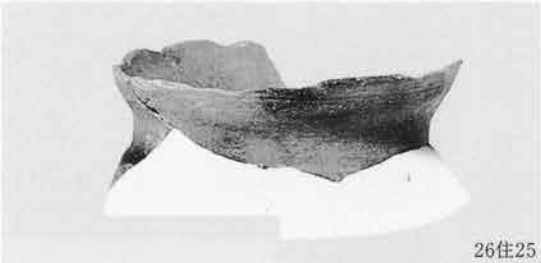
26住18

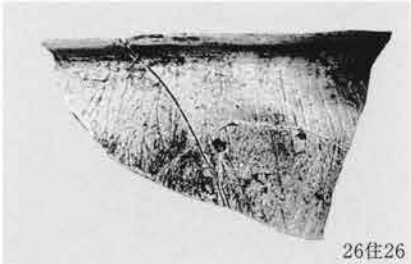
26住19

26住21


26住22

26住23

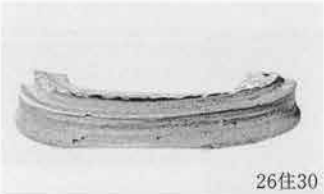

26住25


26住26

26住27

26住24

26住29


26住30

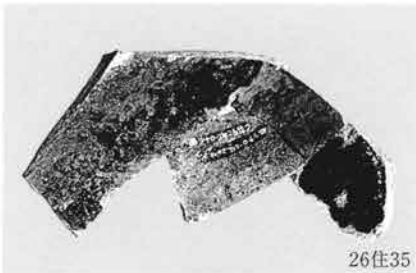
26住28

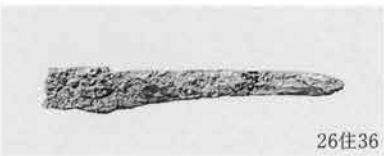
26住31

26住32

26住33

26住34


26住35


26住36

26住37

26住39

26住38

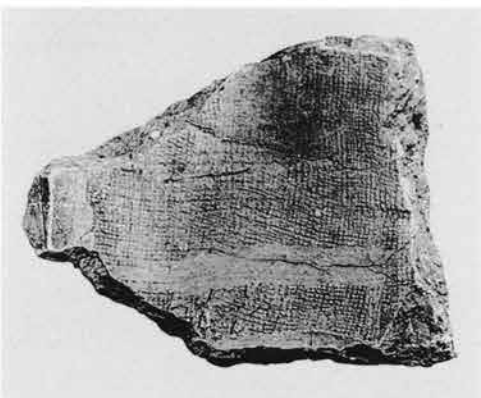
26住40

26住42

27住１

26住41

27住２



27住３

28住１

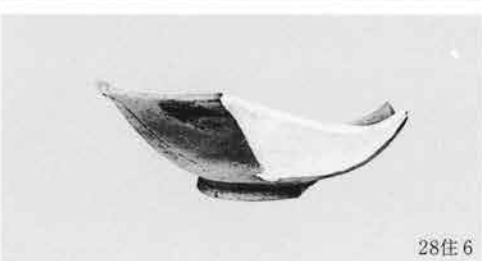
28住２

28住３

28住４

28住７

28住５

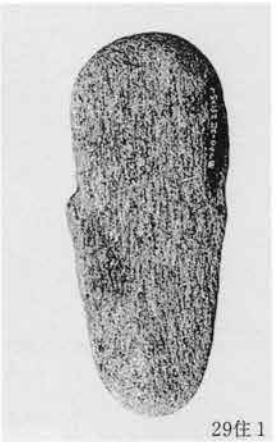

28住６

28住８

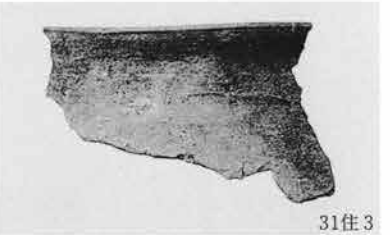
28住９

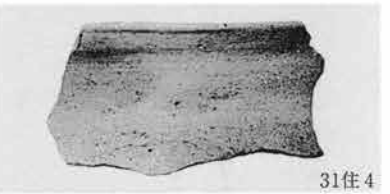
28住10

31住１


29住１

31住２


31住３


31住４

31住６

31住７

31住５

31住８

31住９

31住10

31住11

31住13

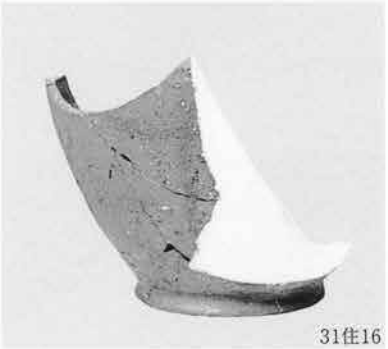
31住15

31住17

31住12

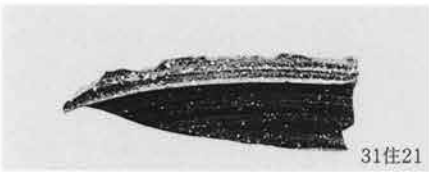
31住18

31住14


31住16

31住19

31住20


31住21

31住29

31住25

31住26

31住24

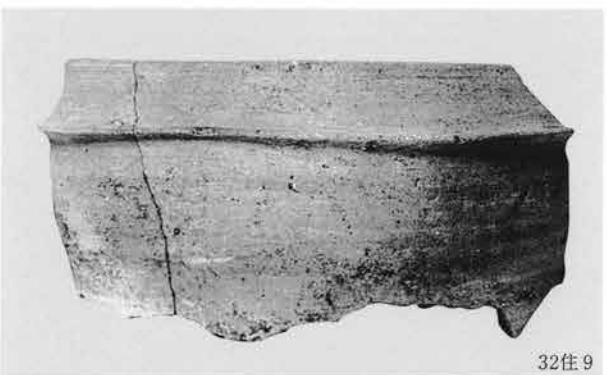
31住28

32住１

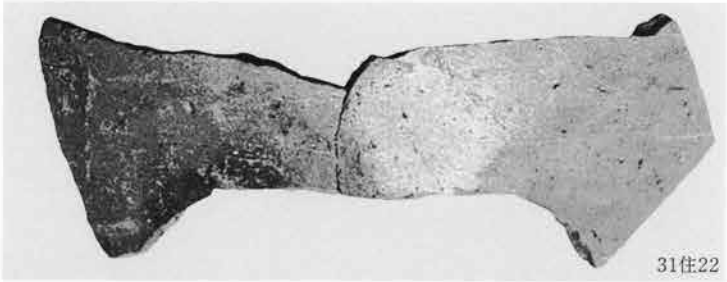
32住２

32住７

32住８


32住９

32住14


31住22

31住23

32住４

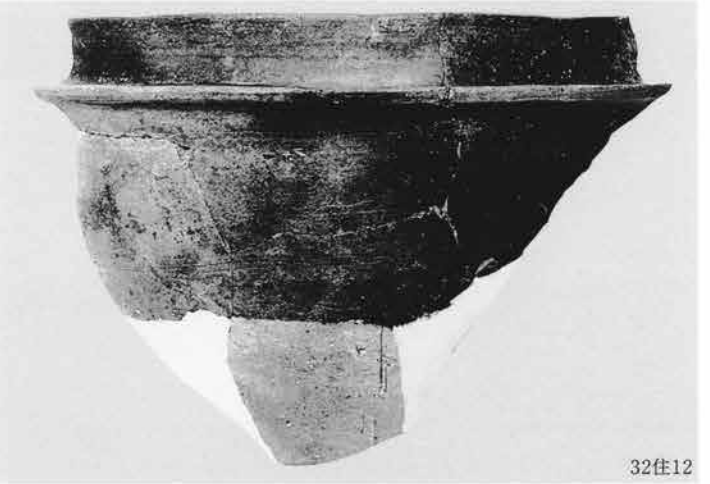
32住５

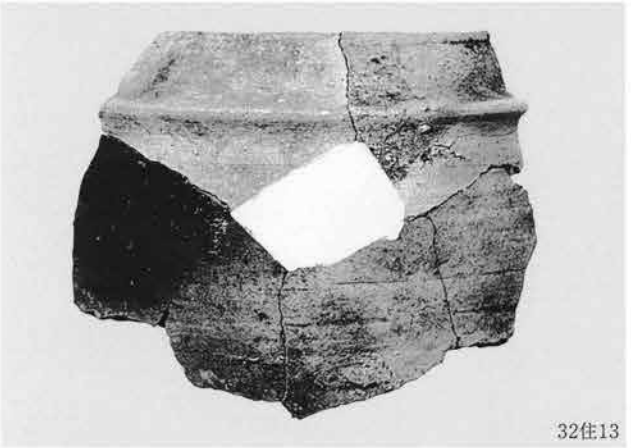
32住３

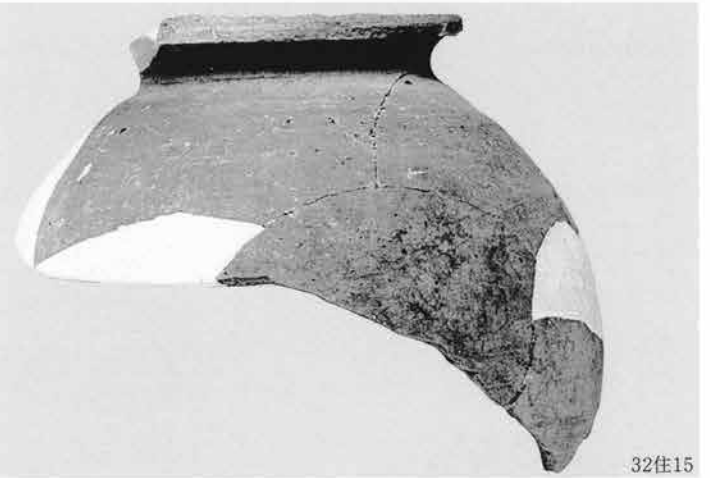
32住６

32住10

32住11


32住12

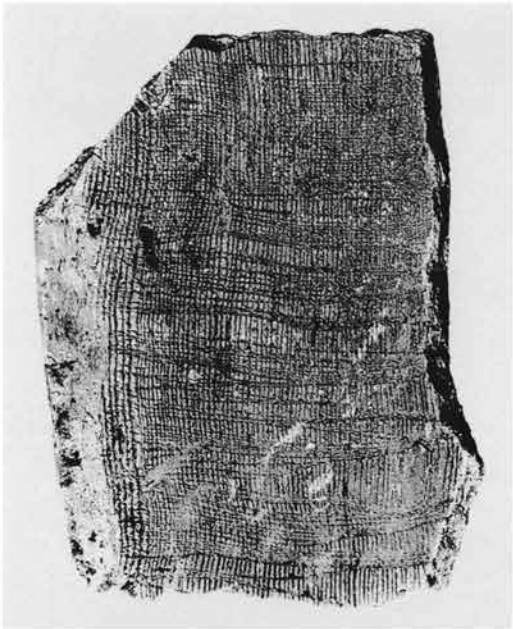

32住13

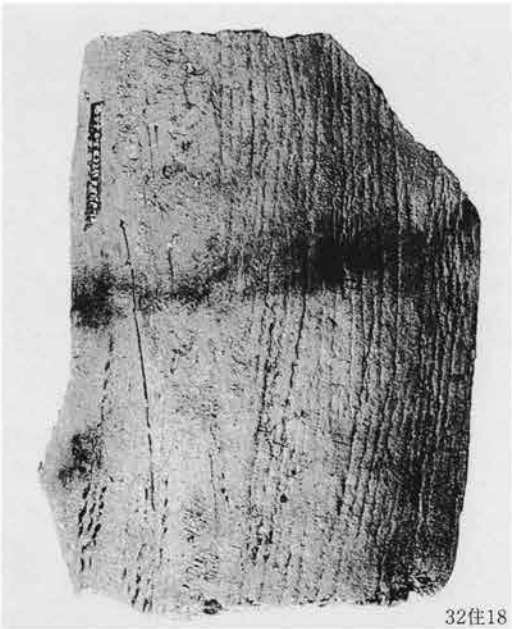

32住15

32住16

32住17

32住20

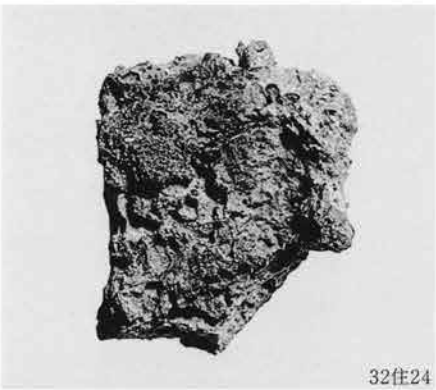


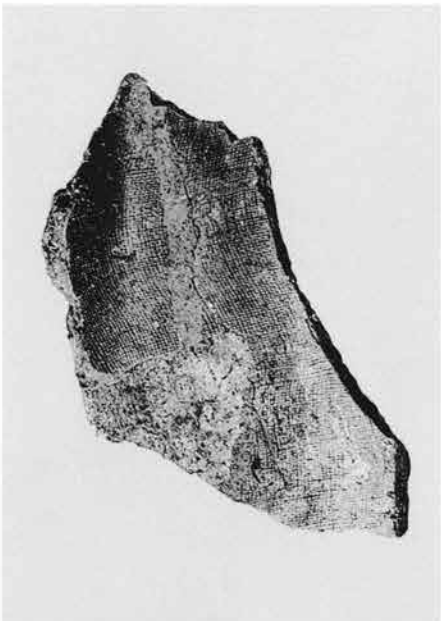

32住18

32住22

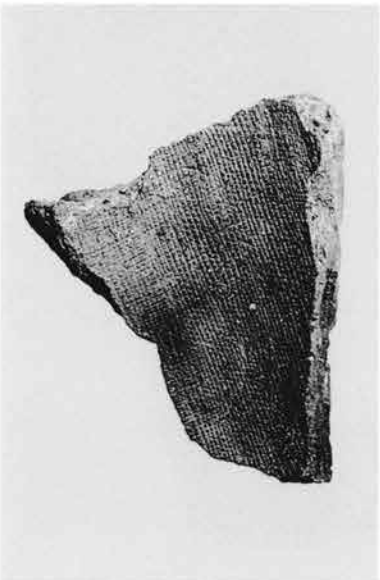
32住23

32住25


32住24

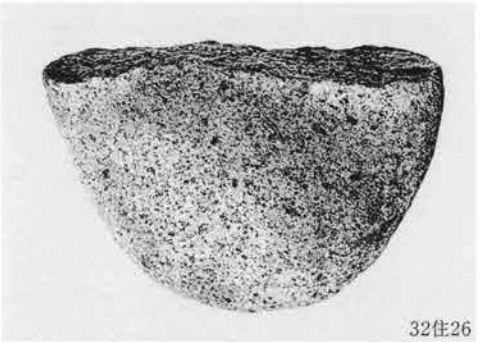


32住19



32住21

32住27


32住26

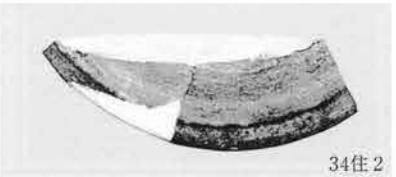
33住1

33住2

33住4

33住3

34住1


34住2

33住5

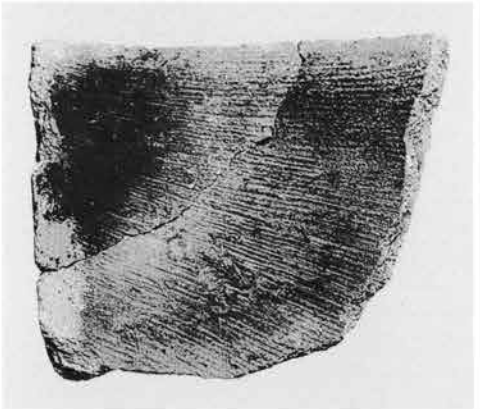
33住6

34住3

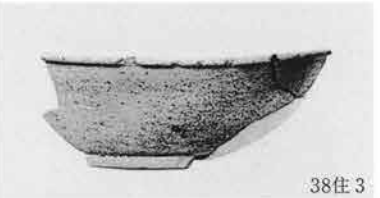
36住1

36住4

37住1



36住2


38住3

38住4

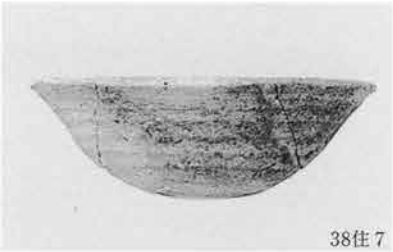
36住3

38住5

38住6

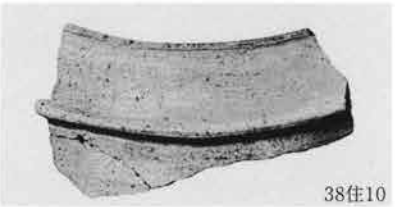
38住１

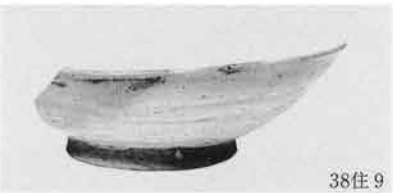
38住２


38住７

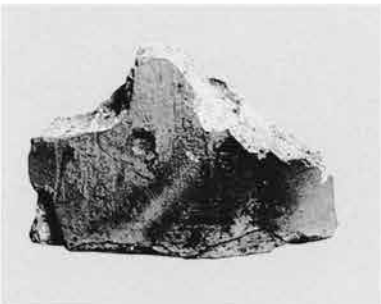
38住８

38住11


38住10

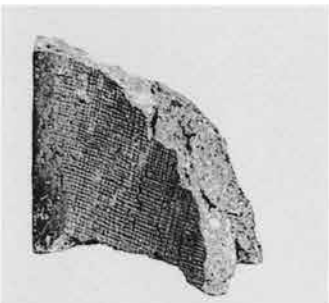

38住９

38住12



38住14

38住13



38住15

38住16

38住17

38住18

39住３

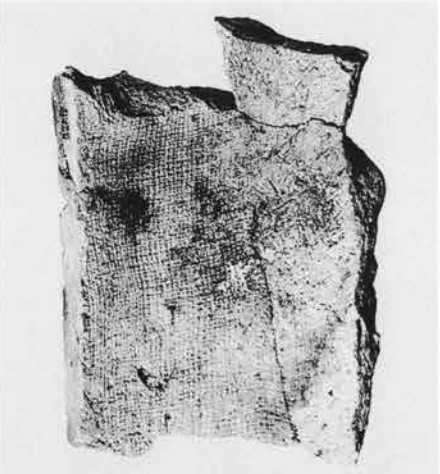
39住２

39住４

39住５

39住６

39住 1



39住 8

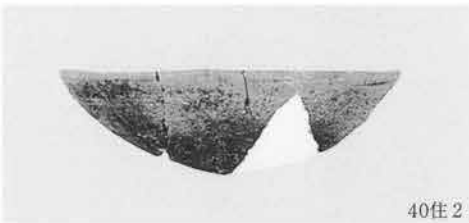
39住 7

39住10

39住 9

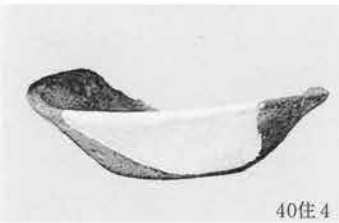
39住12

40住 1


40住 2

39住11

40住 3


40住 4

40住 5

40住 6

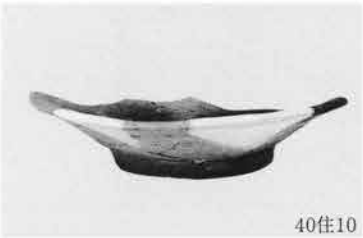
40住 7

40住８

40住９

40住12

40住11

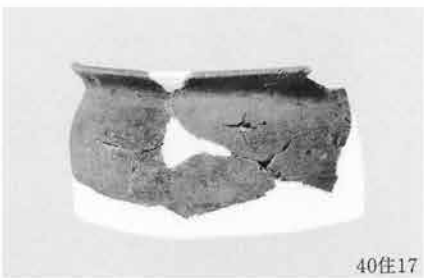

40住10

40住14

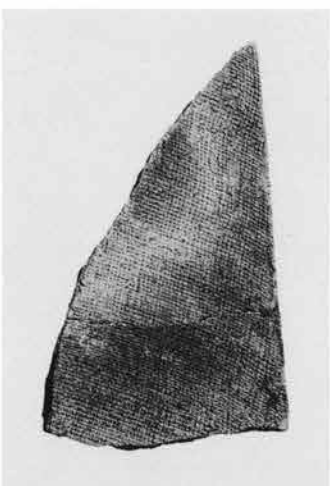
40住13

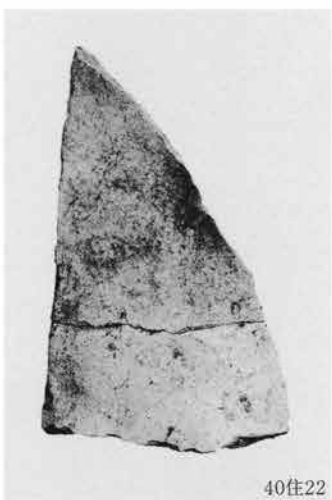
40住15

40住16

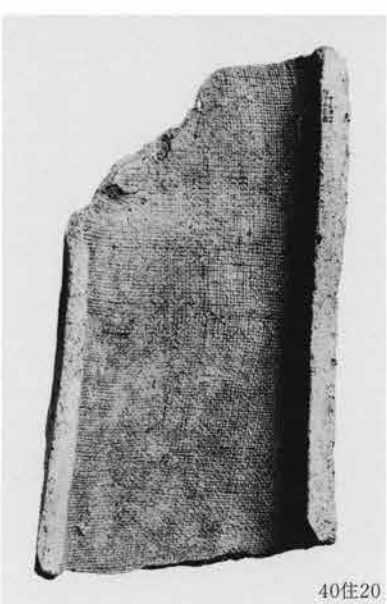

40住17

40住23




40住22

40住19

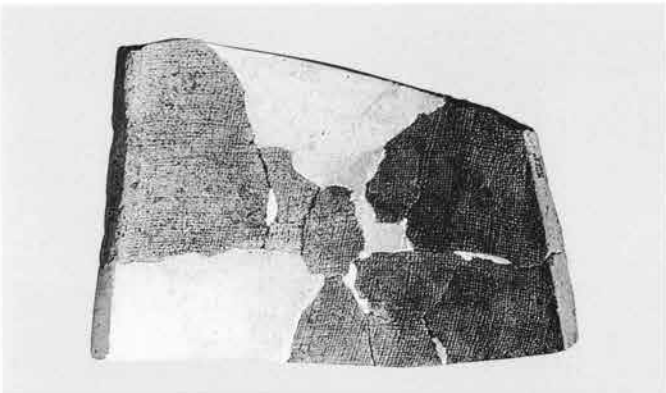

40住20

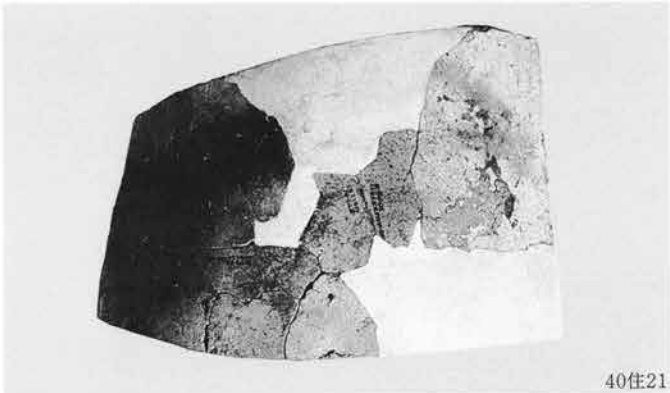
40住18

40住24

41住１

41住２




40住21

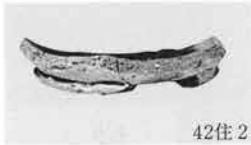
41住３

41住５

41住６

41住４

42住１


42住２

43住１

２竪１

２竪２

２竪３

２竪８

２竪４

２竪５

２竪６

２竪７

２竪10

２竪11

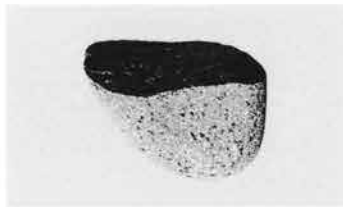
２竪９

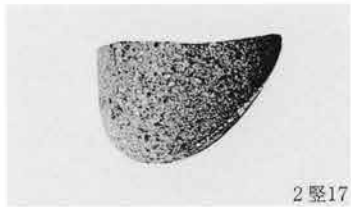
２竪12

２竪13

２竪14

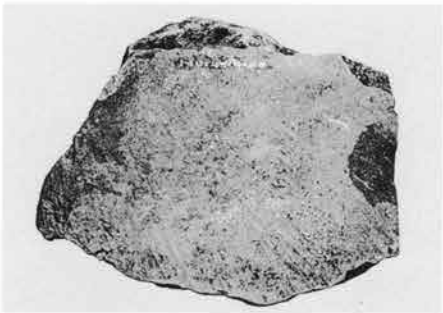
２竪15

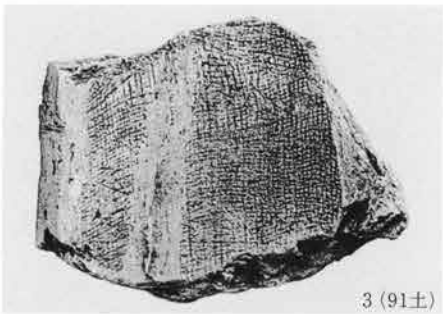



２竪17

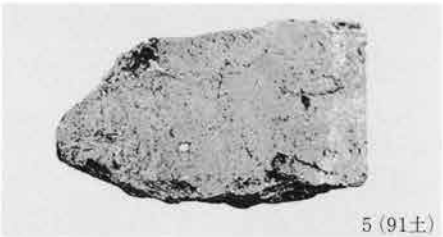
1（90土）

2（91土）

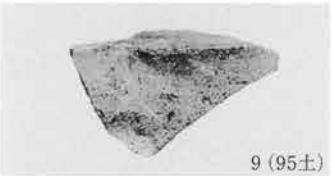


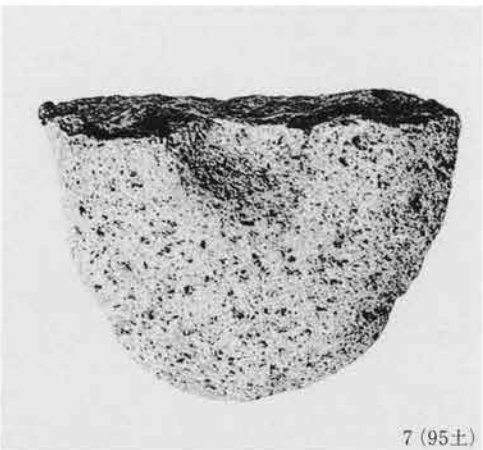

3（91土）

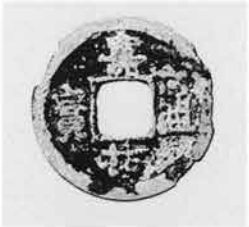
4（91土）

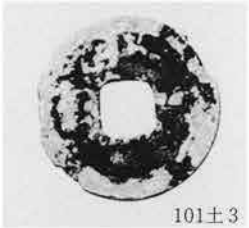

5（91土）

6（91土）


9（95土）


7（95土）




101土3

101土4

8（95土）

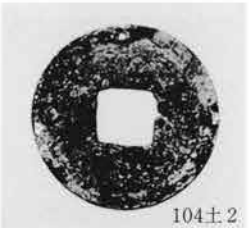
101土1

101土2

104土1

145土1

145土2

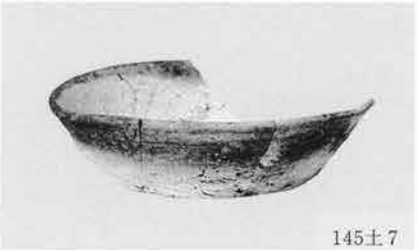

104土2

145土3

145土6

145土8

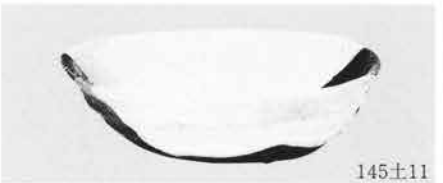
145土4


145土7

145土5

145土9

145土10


145土11

145土12

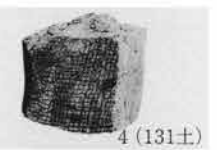
145土13

145土14

145土15

1（118土）

2（128土）


4（131土）

6（144土）

7（146土）

5（136･137土）

9（159土）

8（159土）

3（129土）

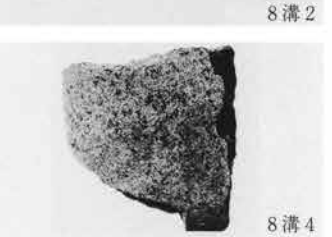
1（155ピ）

2（124ピ）

8溝1

8溝2

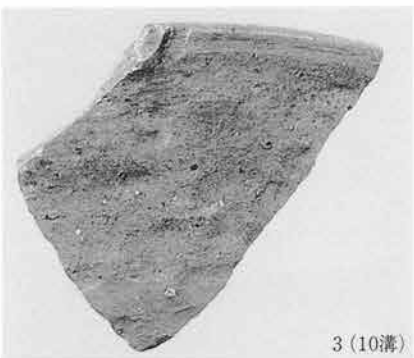
8溝3


8溝4

8溝5

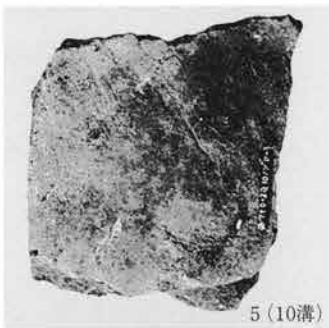
1（9溝）

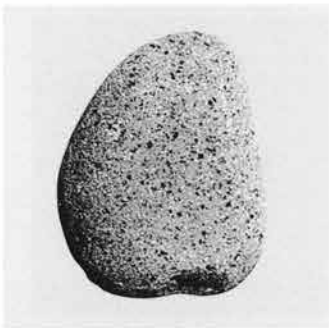
2（10溝）

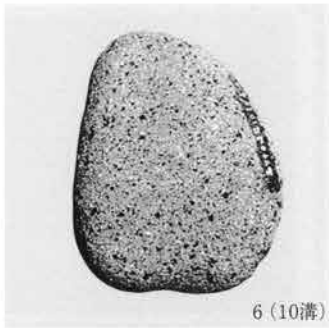

3（10溝）

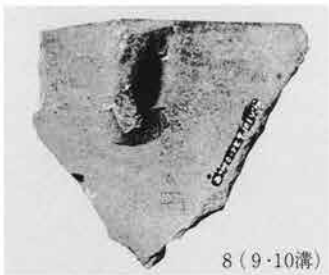
4（10溝）

7（9・10溝）


5（10溝）




6（10溝）

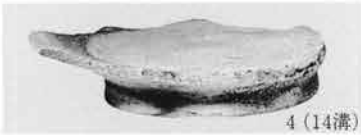

8（9・10溝）

9（9・10溝）

1（13溝）

2（13溝）

3（14溝）

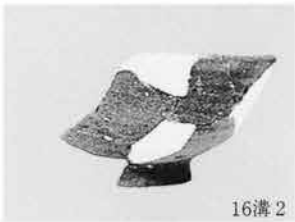

4（14溝）

5（14溝）

6（14溝）

16溝 1

16溝 4


16溝 2

16溝 3

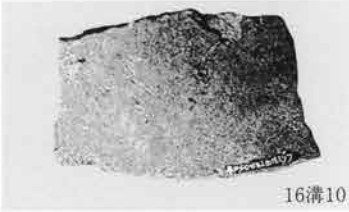
16溝 5

16溝 6

16溝 7

16溝 8

16溝9


16溝10

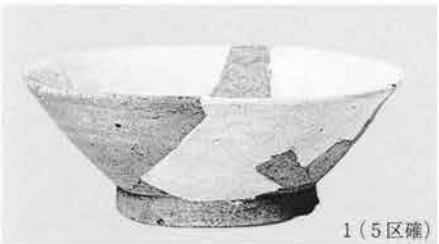
16溝11

18溝１

18溝３

18溝２

18溝４



１（５区確）

２（５区確）

７（２区確）

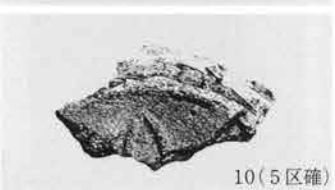
３（２区確）

４（５区確）

５（１区試）

８（１区確）

９（５区確）



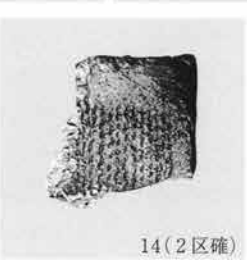
10（５区確）

12（１区確）

６（３区確）

11（６区確）

13（６区確）



14（２区確）

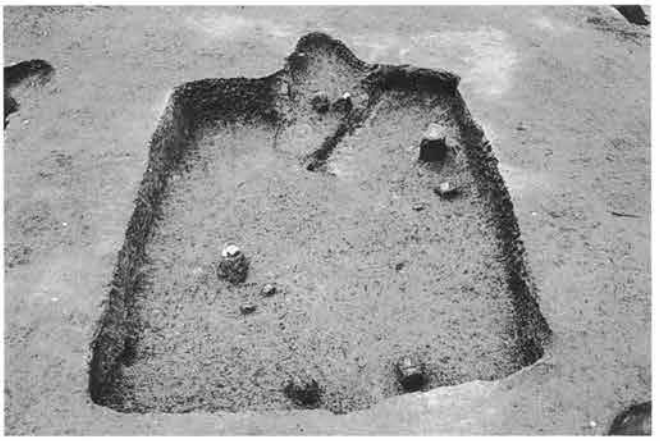
15（６区確）

1．Ⅲ－1区全景　西から

2．Ⅲ－2区東側全景　西から

3．Ⅲ－2区西側全景　西から

4．Ⅲ－3区全景　西から



1．1号住居跡全景　西から

2．2号住居跡全景　西から

3．2号住居跡掘り方全景　西から

4．3・4・10・11号住居跡全景　西から

5．3・4・10・11号住居跡掘り方全景　西から

6．5・6・7号住居跡全景　東から

7．8・9・17号住居跡全景　西から

8．12・13ab・16号住居跡全景　西から

1．14号住居跡全景　西から

2．14号住居跡掘り方全景　西から

3．15号住居跡全景　西から

4．15号住居跡掘り方全景　西から

5．18(中)・19(右)・20(左) 号住居跡全景　西から

6．21号住居跡全景　西から

7．22(前)・23(中)・24(中右) 号住居跡全景　西から

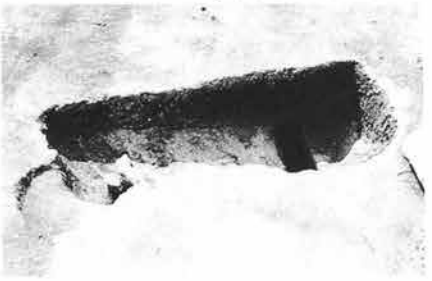
8．23号住居跡カマド出土遺物　西から

1．25号住居跡全景　西から

2．26号住居跡全景　西から

3．26号住居跡掘り方全景　西から

4．27号住居跡全景　西から



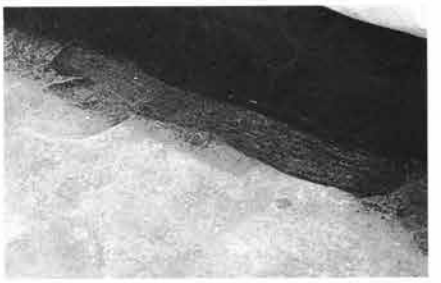
5．1(中)・2(左)号土坑　東から

6．3(奥)・5(前)号土坑　西から

7．4号土坑　南から

8．6(左)・7(右)号土坑　西から

9．8号土坑　北から



10．9(中)・10(左)号土坑　北から

11．11号土坑　西から

12．12号土坑　西から

13．13号土坑　南から

1．14(左)・15(中)・16(右奥) 号土坑　西から

2．18号土坑　北から

3．19(左)・21(右) 号土坑　西から

4．19(中)・60(前) 号土坑　南から

5．19号土坑遺物出土状況　西から

6．20(右)・26(中)・27(左) 号土坑　南から

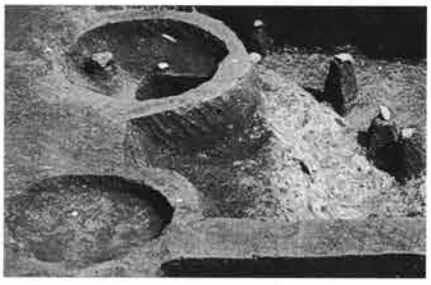
7．22(前)・23(左奥) 号土坑　西から

8．24号土坑　西から

9．24(前)・25(右奥) 号土坑　南から

10．32号土坑　北から

11．33号土坑　北から



12．34号土坑　南から

13．37(奥)・38(前) 号土坑　北から

14．39号土坑　北から

15．40(右奥)・41(前) 号土坑　南から

16．43(中)・44(前) 号土坑　北から

17．45(奥)・47(前) 号土坑　南から

18．46号土坑　南から

1．48号土坑　南から

2．49号土坑　南から

3．51号土坑　西から

4．54(左奥)・55(前)・56(右奥)号土坑　北から

5．57(左)・58(右) 号土坑　西から

6．61号土坑　北から

7．64号土坑　西から

8．65号土坑　西から

9．71・72・90・96号土坑　北から

10．78(右)・79(左) 号土坑　東から

11．92号土坑　東から

12．95号土坑　北から

13．100号土坑　西から

14．101号土坑　西から

15．106号土坑　西から

16．107号土坑　西から

17．108号土坑　西から

18．109号土坑　西から

1．1号溝跡北部全景　南から

2．1号溝跡南部全景　北から

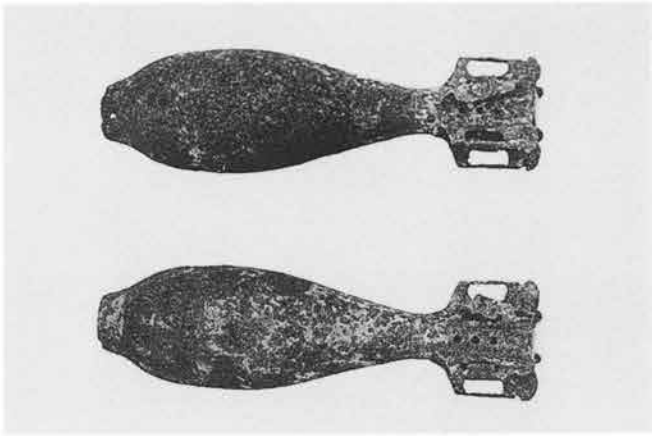
3．2～4号溝跡全景　南から

4．5号溝跡全景　北から

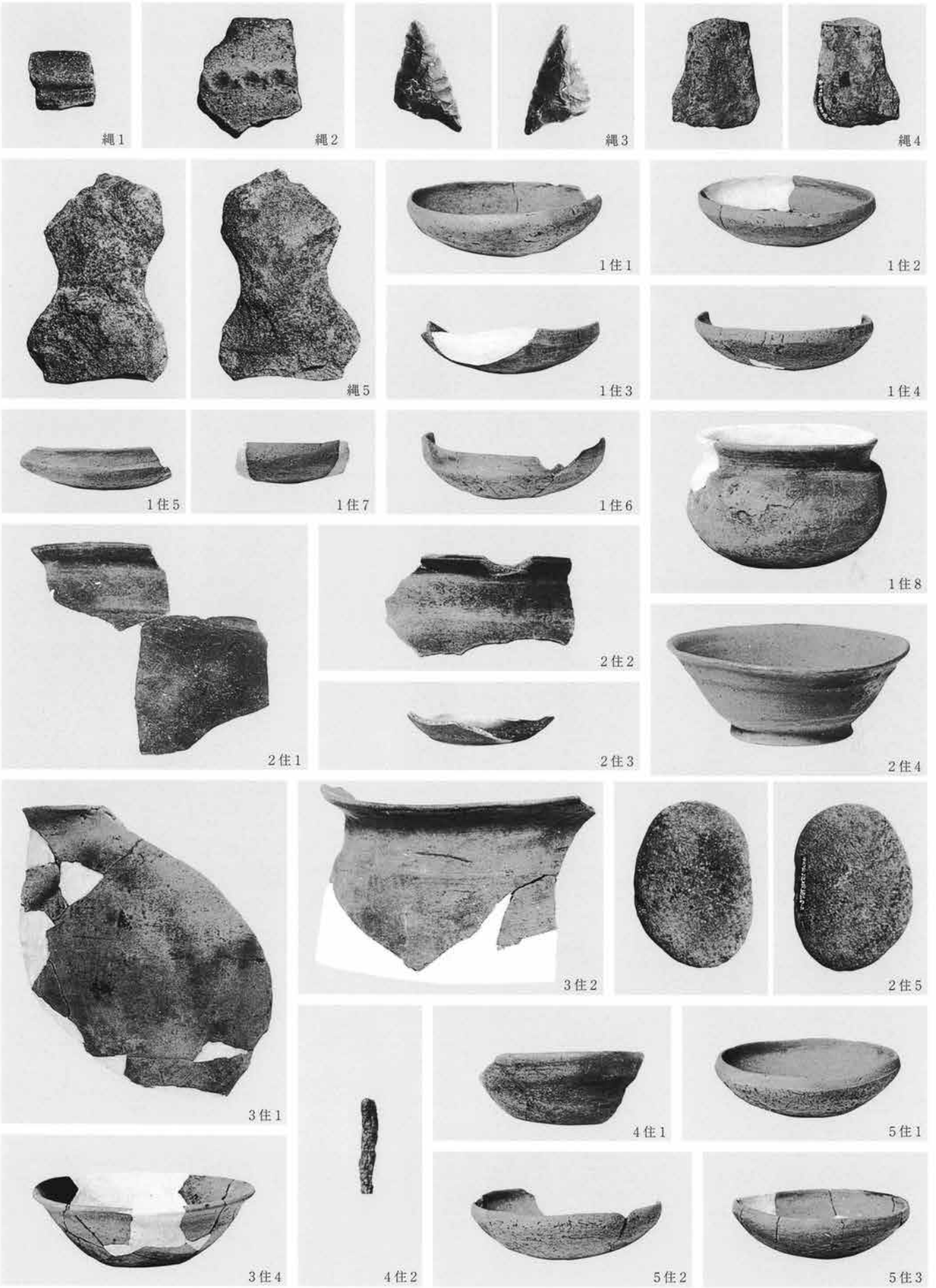
5．出土迫撃砲砲弾

6．出土迫撃砲砲弾調査状況

7．出土迫撃砲砲弾処理状況

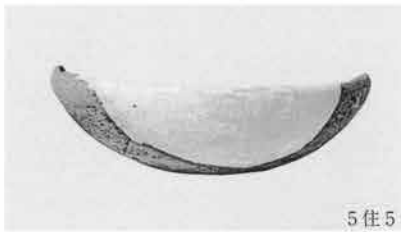


8．出土したものと同型の九四式軽迫撃砲砲弾


縄1
縄2
縄3
縄4
縄5
1住1
1住2
1住3
1住4
1住5
1住7
1住6
1住8
2住1
2住2
2住3
2住4
3住1
3住2
2住5
4住1
5住1
3住4
4住2
5住2
5住3

3住3

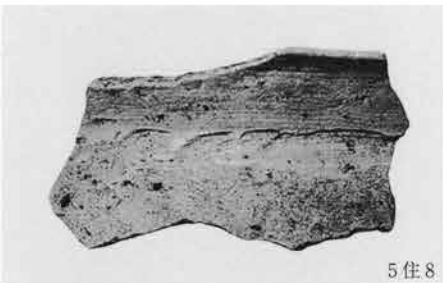
5住4


5住5

5住6

5住7

5住10


5住8

5住9

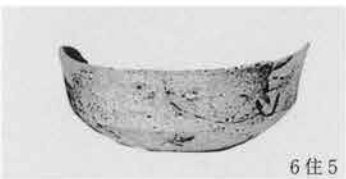
5住11

5住12

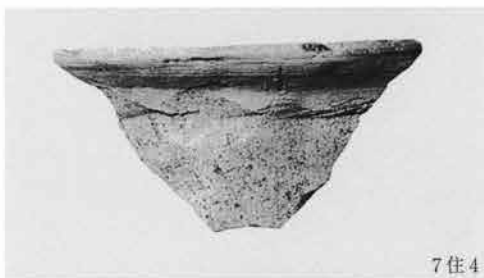
5住13

6住1

6住2


6住5

7住3


7住4

7住1

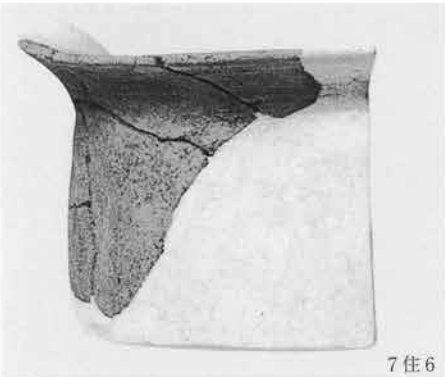
7住2

7住5

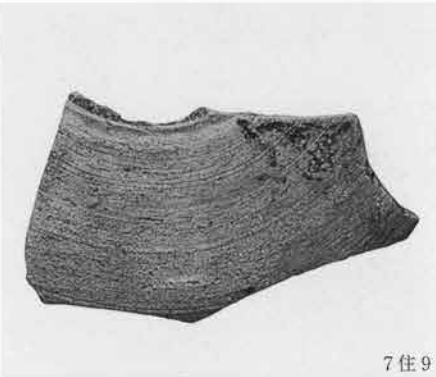
7住8

6住3

6住4


7住6

7住7


7住9

7住10

7住11

7住12

7住13

8住1

8住2

8住3

8住4

8住5

8住6

8住7

8住8

8住9

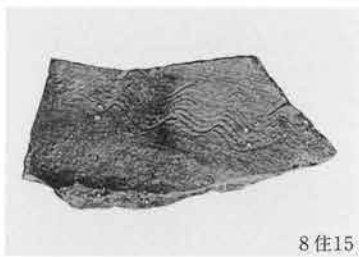
8住10

8住11

8住12

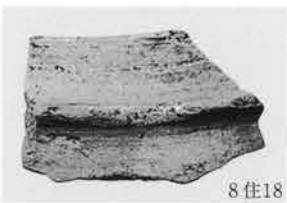
8住13

8住14


8住15

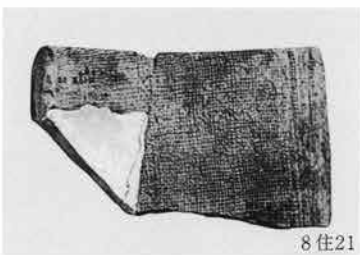
8住16

8住17


8住18

8住19

8住20


8住21

8住22

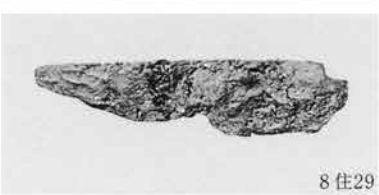
8住23

8住25

8住28

8住24

8住26


8住29

8住27

8住31

8住30

9住1

9住2

9住4

9住5

9住6

9住3

9住7

9住8

9住9

9住11

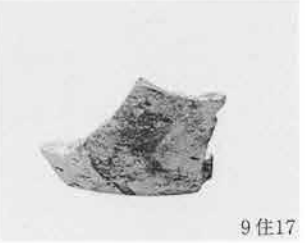
9住12

9住10

9住13

9住14

9住15


9住17

9住16

9住18

9住19

9住25

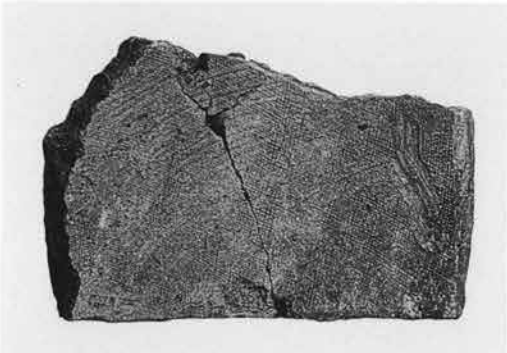
9住20

9住22

9住23

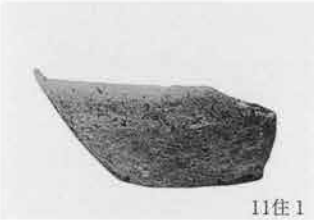
9住24

9住26



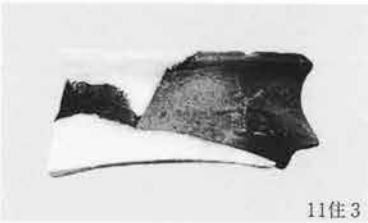
9住21

10住1



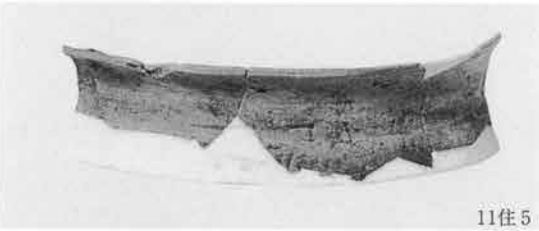
11住1

11住2



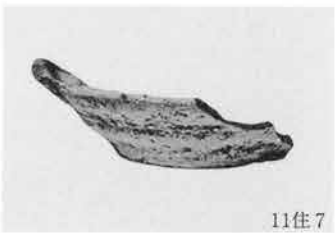
11住3

11住4

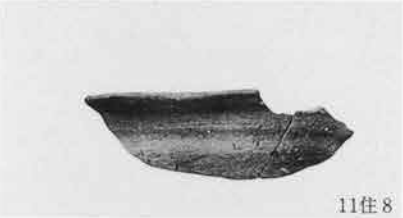


11住5

11住6



11住7



11住8

11住9

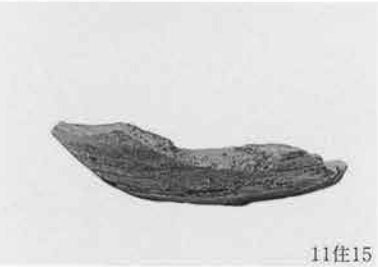
11住10

11住11

11住12

11住13

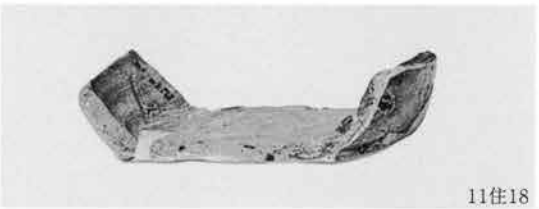
11住14



11住15

11住17

11住16



11住18

11住19

11住22

11住20

11住21

12住1

12住2

12住4

12住3

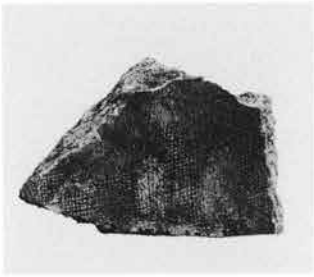
12住5

13住1

13住3

13住2

13住4



13住5

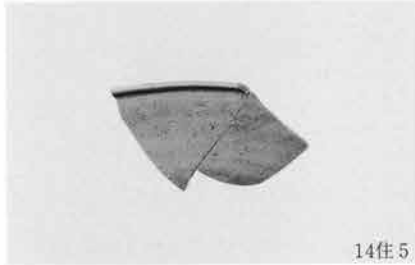
13住6

14住1

14住3

14住4

14住2


14住5

14住7

14住6

14住9

14住8

14住10

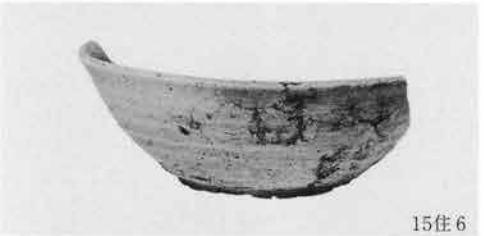
15住1

15住2

15住3

15住4

15住5


15住6

15住7

15住8

15住9

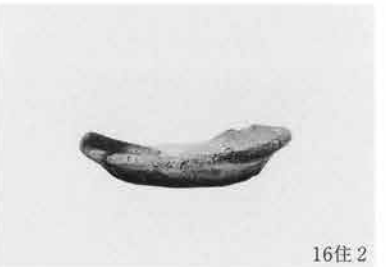
15住11

15住13

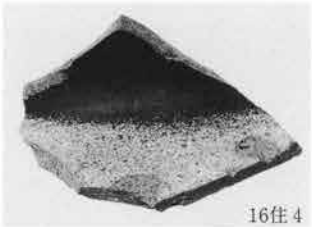
15住10

15住12

16住1


16住2

16住3


16住4

16住5

16住6

16住7

16住8

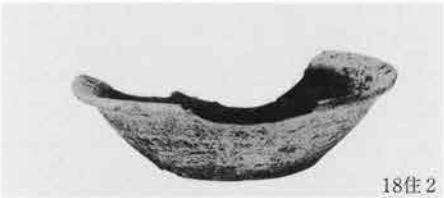
17住2

17住1

18住1

18住4

18住3


18住2

18住5

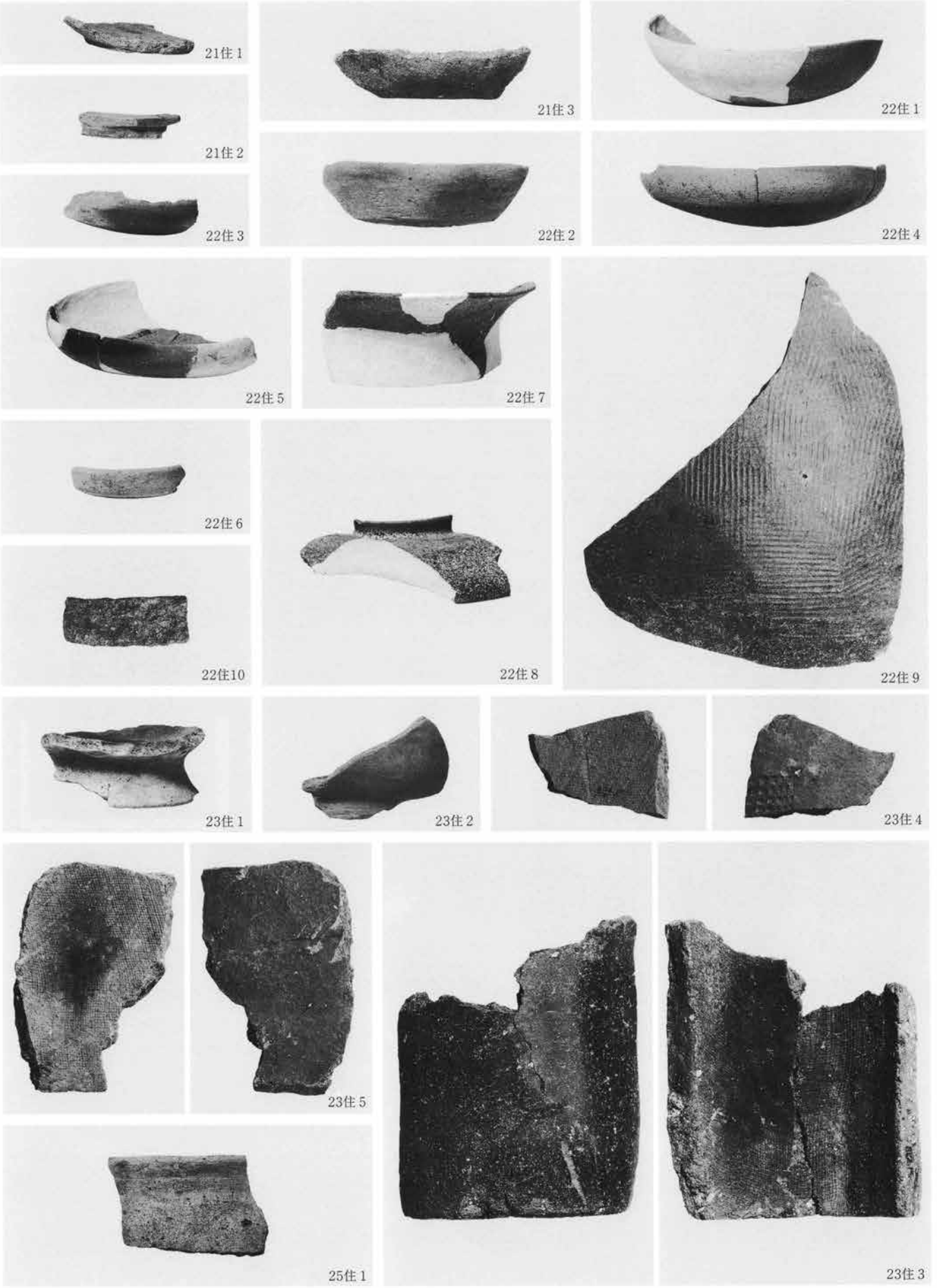
18住6

19住3

19住1

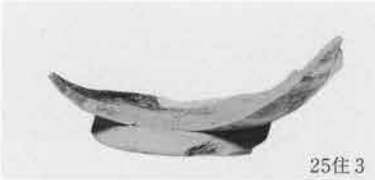
19住2

19住4


21住1
21住2
22住3
21住3
22住2
22住1
22住4
22住5
22住7
22住6
22住10
22住8
22住9
23住1
23住2
23住4
23住5
25住1
23住3

24住 1

25住 6


25住 3

25住 4

25住 2

25住 5

25住 9

25住 7

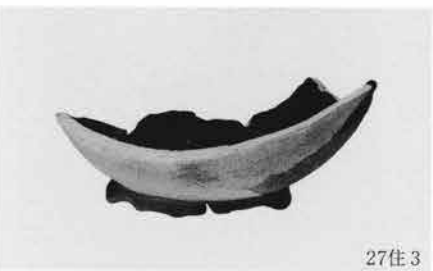
25住 8

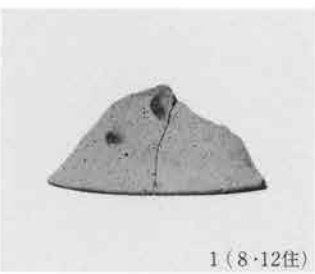
26住 1

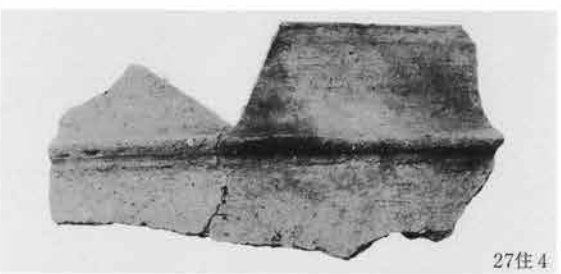
26住 2

27住 1

27住 2


27住 3


1（8・12住）


27住 4

2（8・12住）

3（8・12住）

4（8・12住）

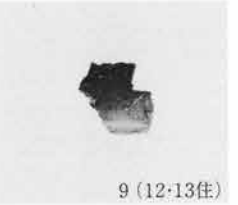
5（8・13住）

6（8・13住）

27住5

7（12·13住）

8（12·13住）


9（12·13住）

10（12·13住）

11（13·16住）

12（13·16住）

13（13·16住）

14（13·16住）

15（14·15住）

16（14·15住）

17（14·15住）

1（1土）

2（2土）

3（4土）

4（9·10土）

1（14土）

2（14土）

3（14土）

4（14土）

5（15土）

6（15土）

7（15土）

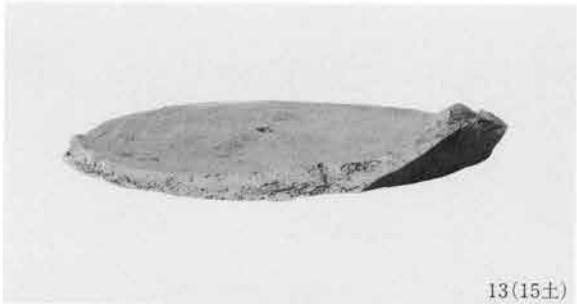
8（15土）

9（15土）

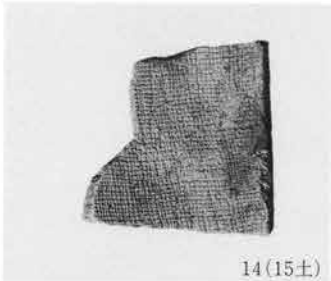
10（15土）

11（15土）

12(15土)


13(15土)

18(15土)


14(15土)

15(15土)

16(15土)

17(15土)

1(17土)

19土1

19土5

19土2

2(20土)

19土4

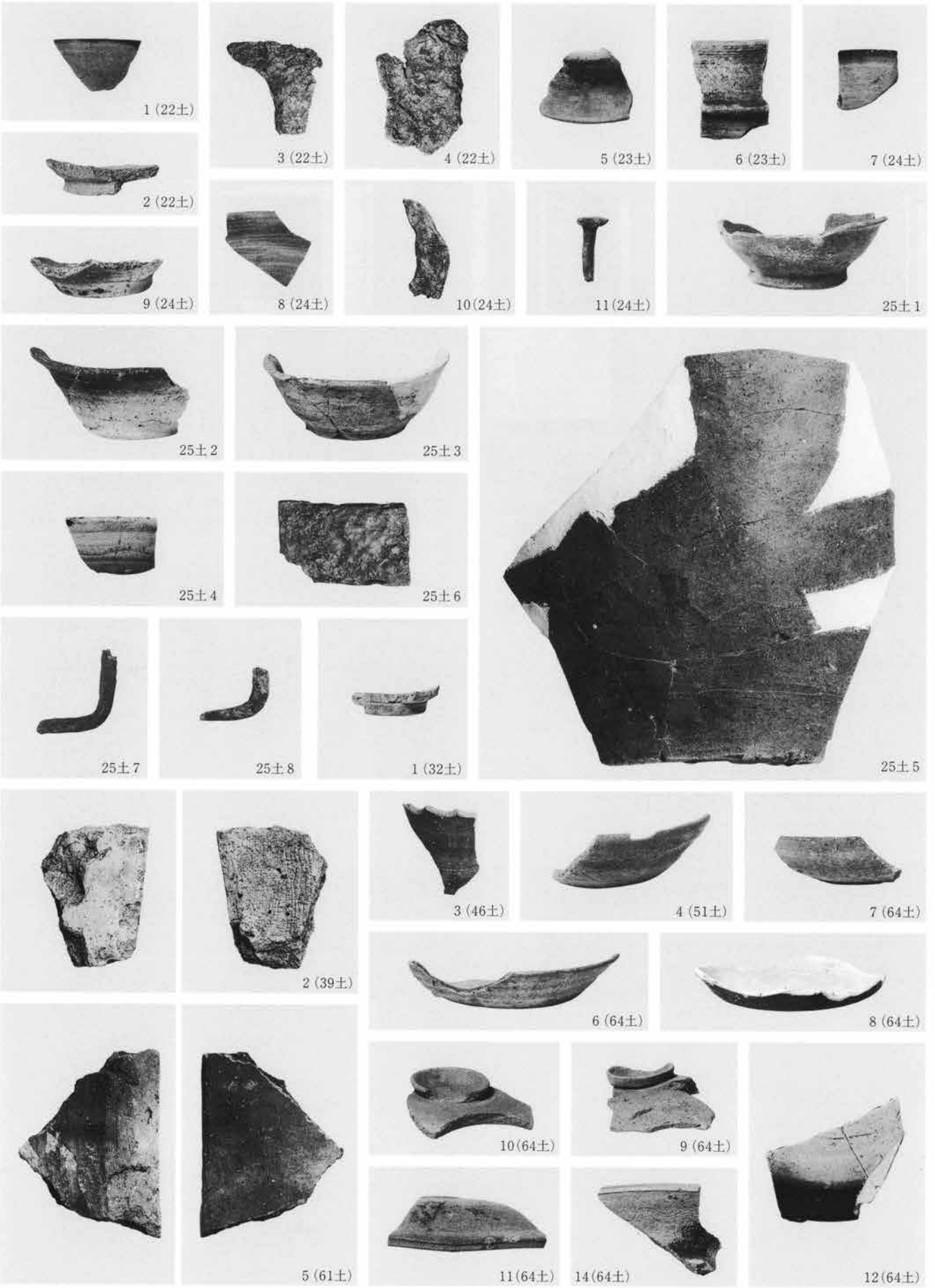
19土7

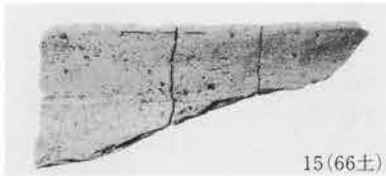
19土8

19土3

19土6

19土9


1 (22土)
2 (22土)
3 (22土)
4 (22土)
5 (23土)
6 (23土)
7 (24土)
8 (24土)
9 (24土)
10(24土)
11(24土)
25土1
25土2
25土3
25土4
25土5
25土6
25土7
25土8
1 (32土)
2 (39土)
3 (46土)
4 (51土)
5 (61土)
6 (64土)
7 (64土)
8 (64土)
9 (64土)
10(64土)
11(64土)
12(64土)
14(64土)

13(64土)

15(66土)

16(66土)

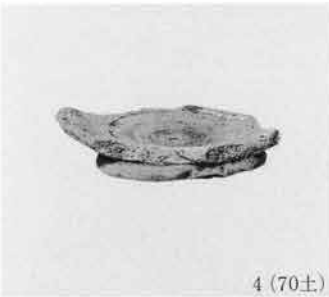
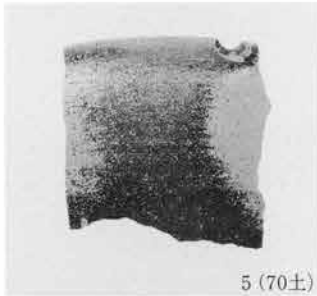
17(66土)

18(66土)

19(66土)

20(66土)

1(70土)

2(70土)

4(70土)

5(70土)

6(70土)

3(70土)

9(70土)

10(70土)

12(73土)

7(70土)

8(70土)

14(78土)

11(72土)

13(78土)

16(90土)

15(86土)

17(90土)

19(92土)

18(90土)

20(95土)

21(97土)

22(8住)

23(100土)

25(106土)

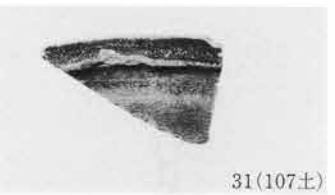
28(107土)

30(107土)

24(101土)

26(106土)

29(107土)


31(107土)

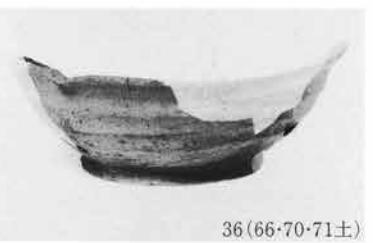
27(106土)

32(107土)

33(107土)

34(109土)

35(66·70·71土)


36(66·70·71土)

37(66·70·71土)

38(66·70·71土)

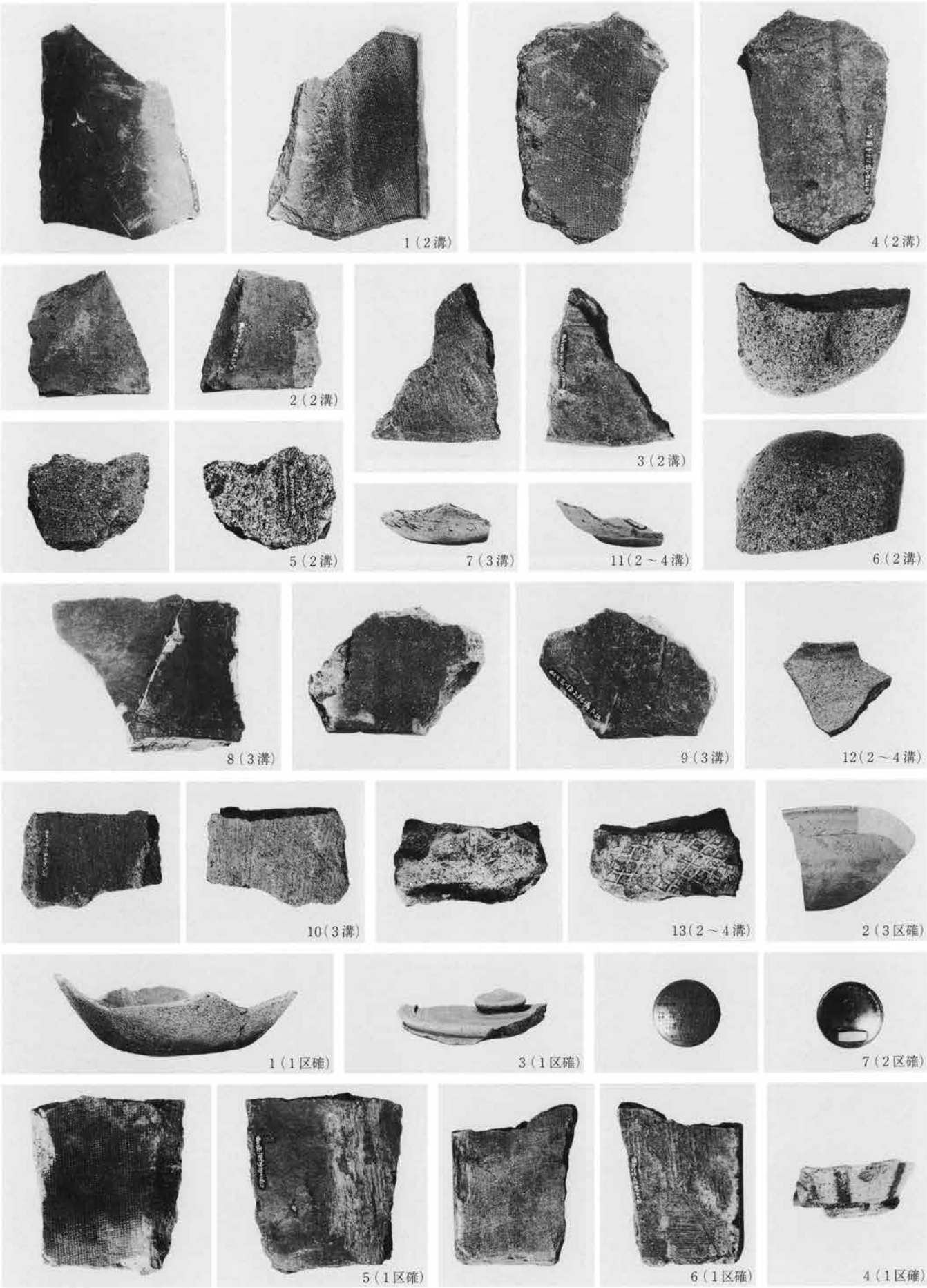
39(66·70·71土)

40(66·70·71土)

41(66·70·71土)

5溝1

3ピ1


1（2溝）
4（2溝）
2（2溝）
3（2溝）
5（2溝）
7（3溝）
11（2～4溝）
6（2溝）
8（3溝）
9（3溝）
12（2～4溝）
10（3溝）
13（2～4溝）
2（3区確）
1（1区確）
3（1区確）
7（2区確）
5（1区確）
6（1区確）
4（1区確）

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第347集

塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡（0区）・引間松葉遺跡（Ⅲ区）

一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）

建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

平成17年（2005年）3月10日印刷

平成17年（2005年）3月15日発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

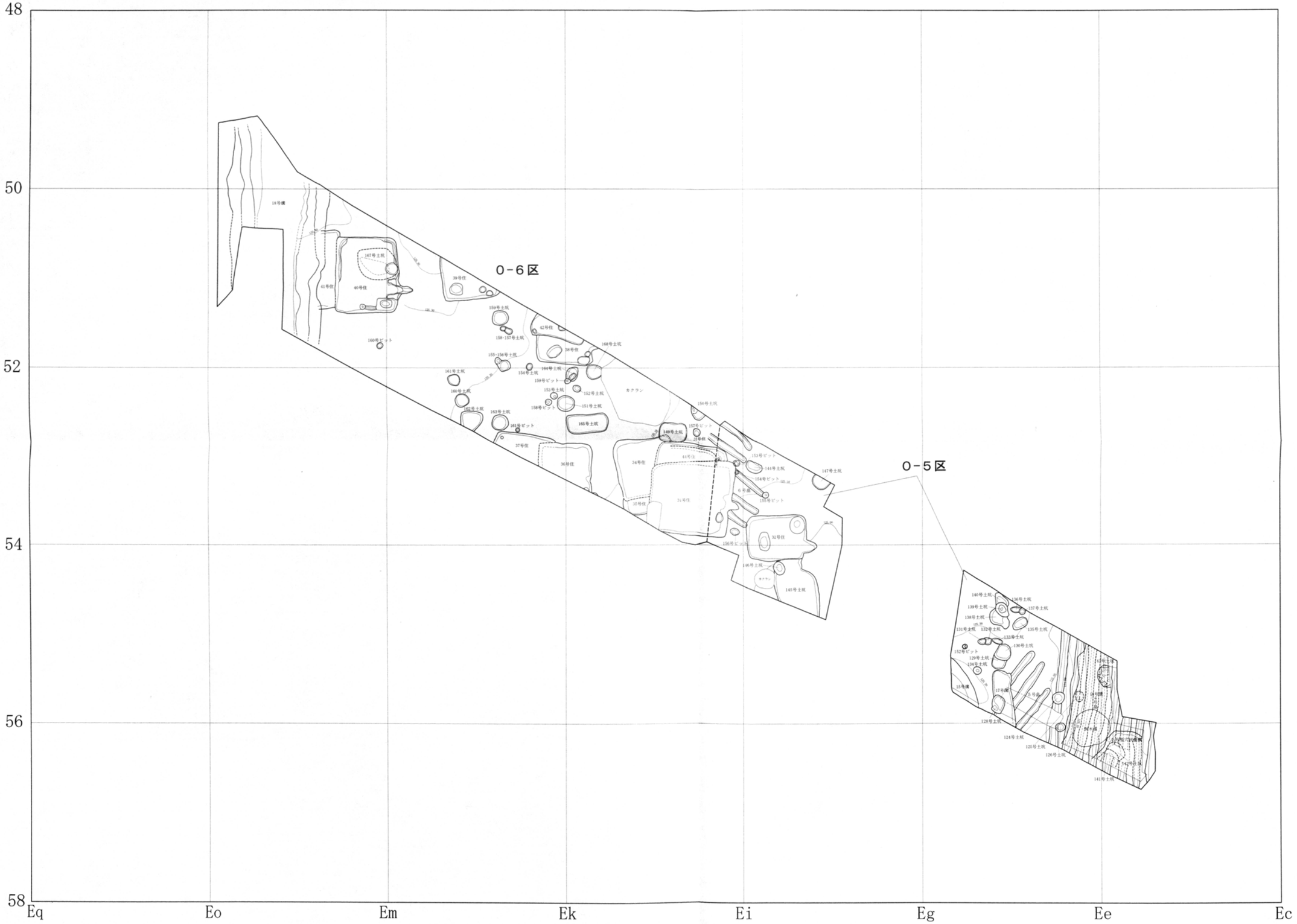
〒377-8555　群馬県北橘村大字下箱田784番地の2

電話 0279－52－2511（代表）

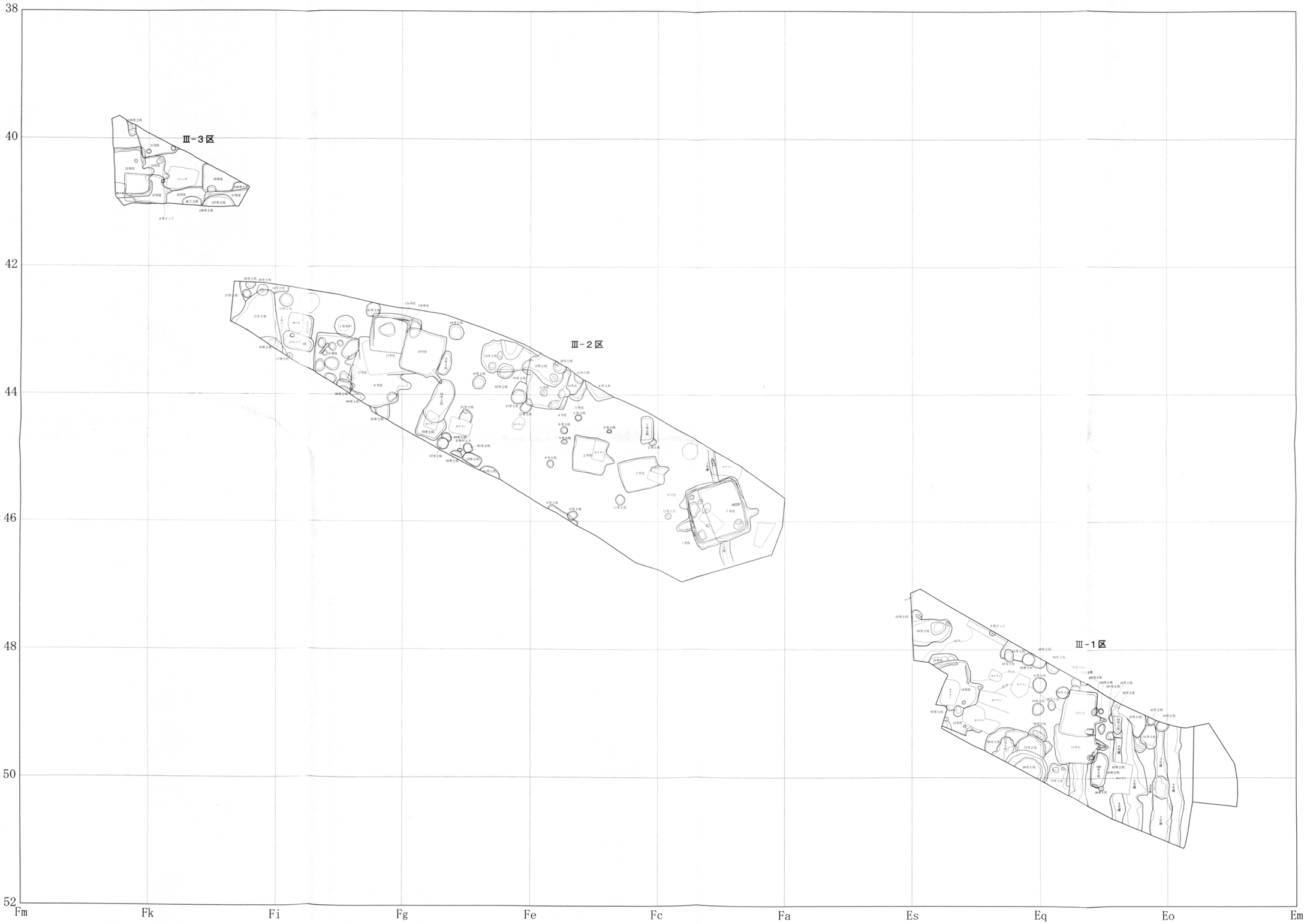
ホームページアドレス http://www.gunmaibun.org/

印刷／上毎印刷工業株式会社

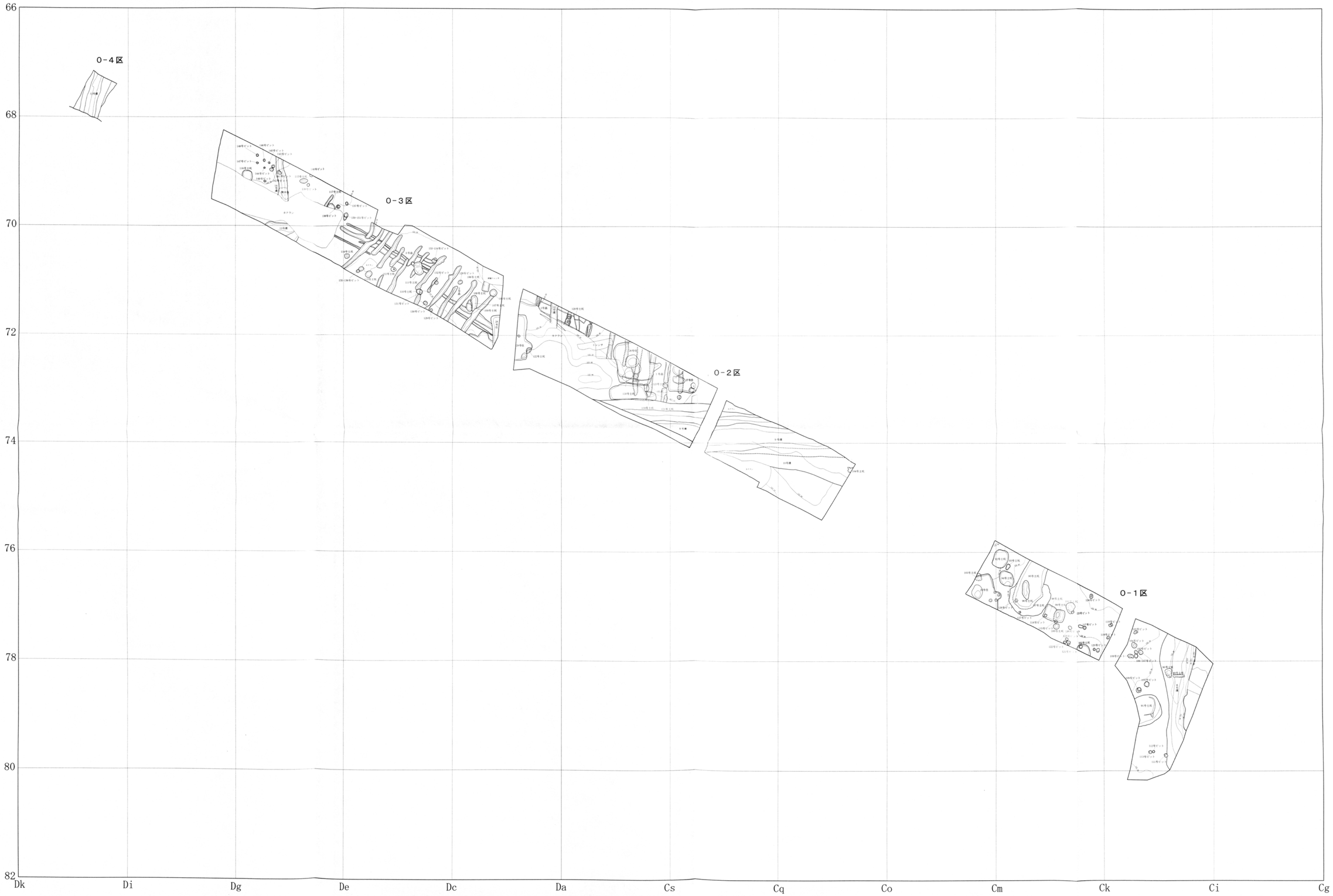
塚田中原遺跡　０−５・６区　全体図



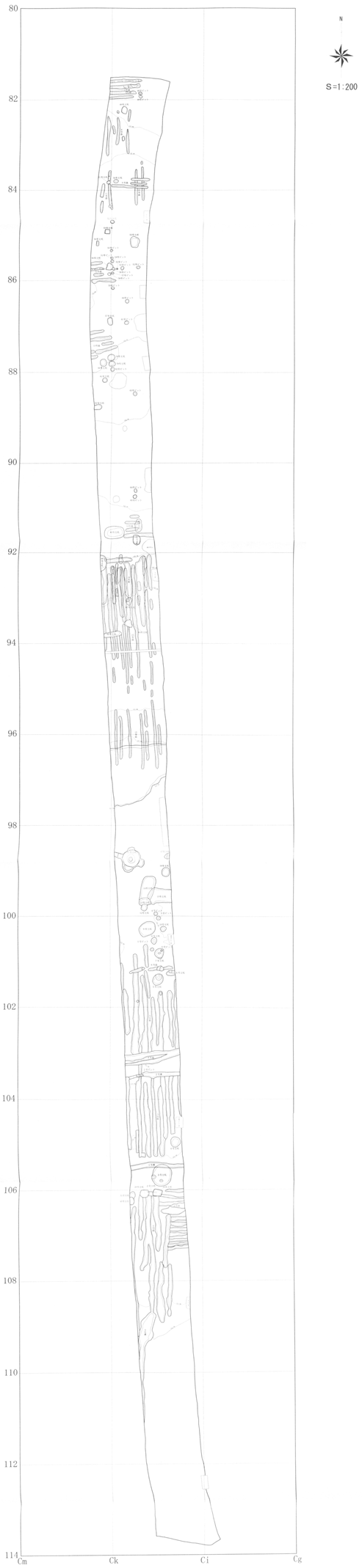
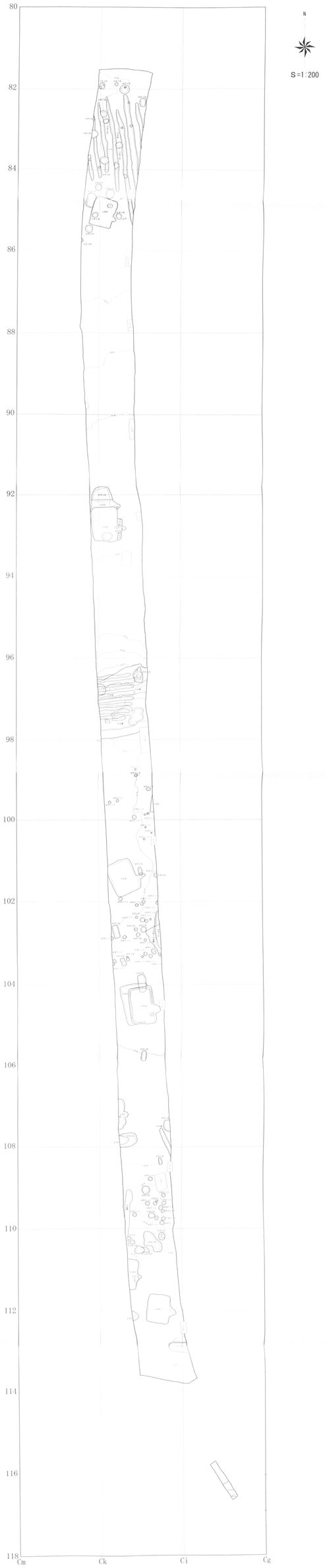
引間松葉遺跡　Ⅲ区　全体図



塚田中原遺跡　０－１～４区　全体図



塚田村東Ⅳ遺跡　中世・近世・近代面



塚田村東Ⅳ遺跡　古墳・奈良・平安面